



Jade

オーナーズマニュアル

クイックガイド

安全なドライブ

計器の見かた

各部の操作

オーディオ

運転

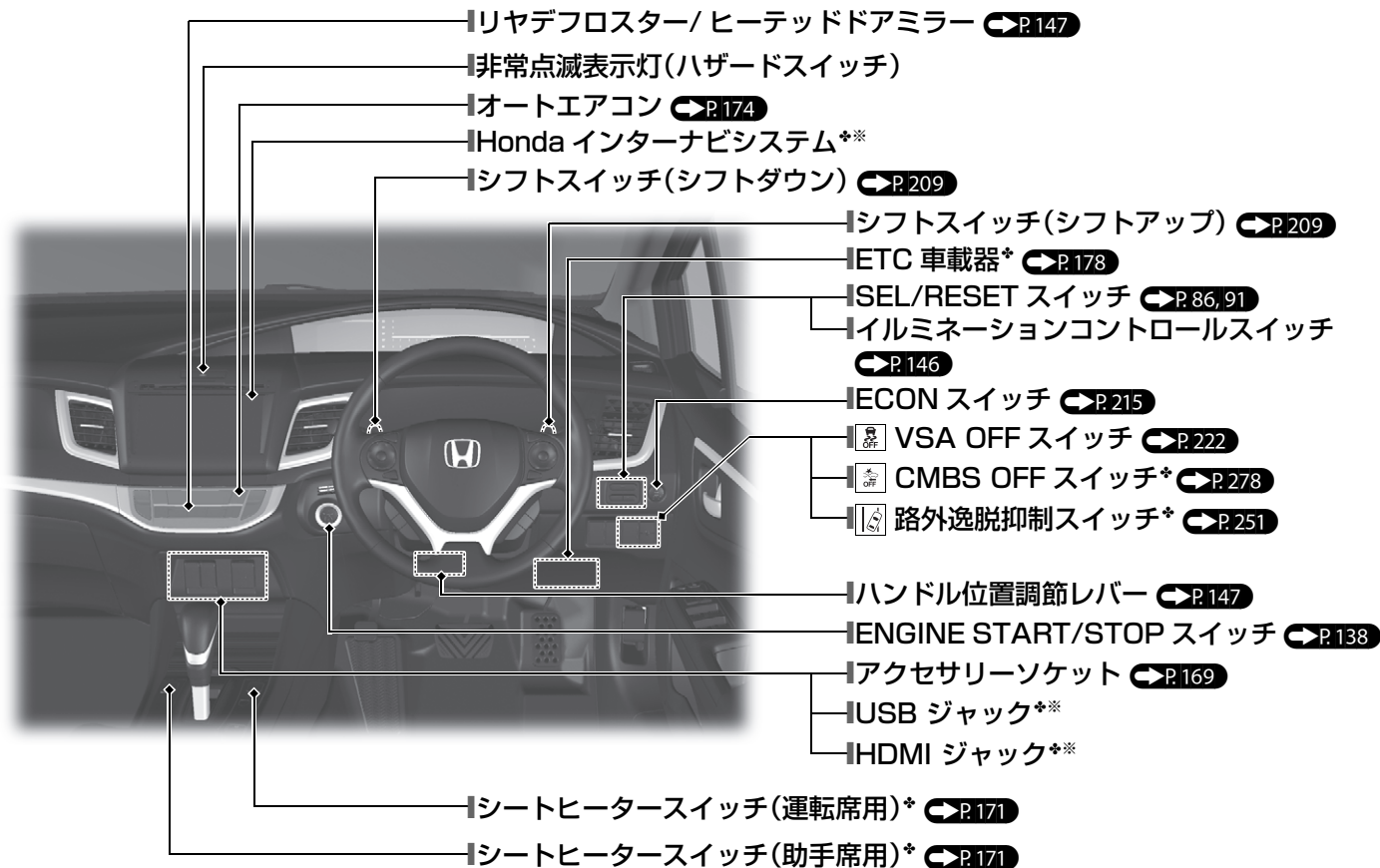
メンテナンス

万一の場合には

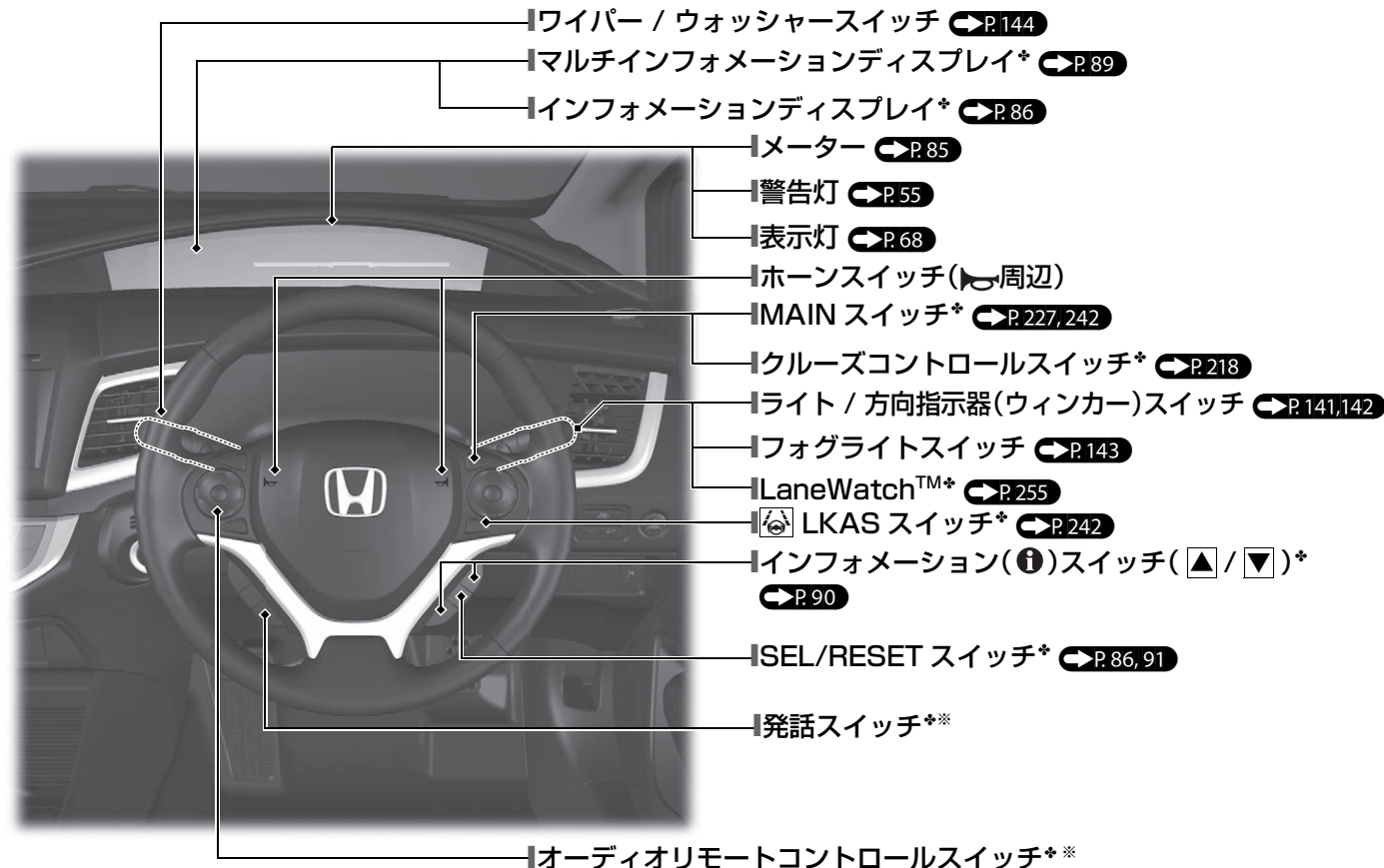
資料

索引

ビジュアル目次



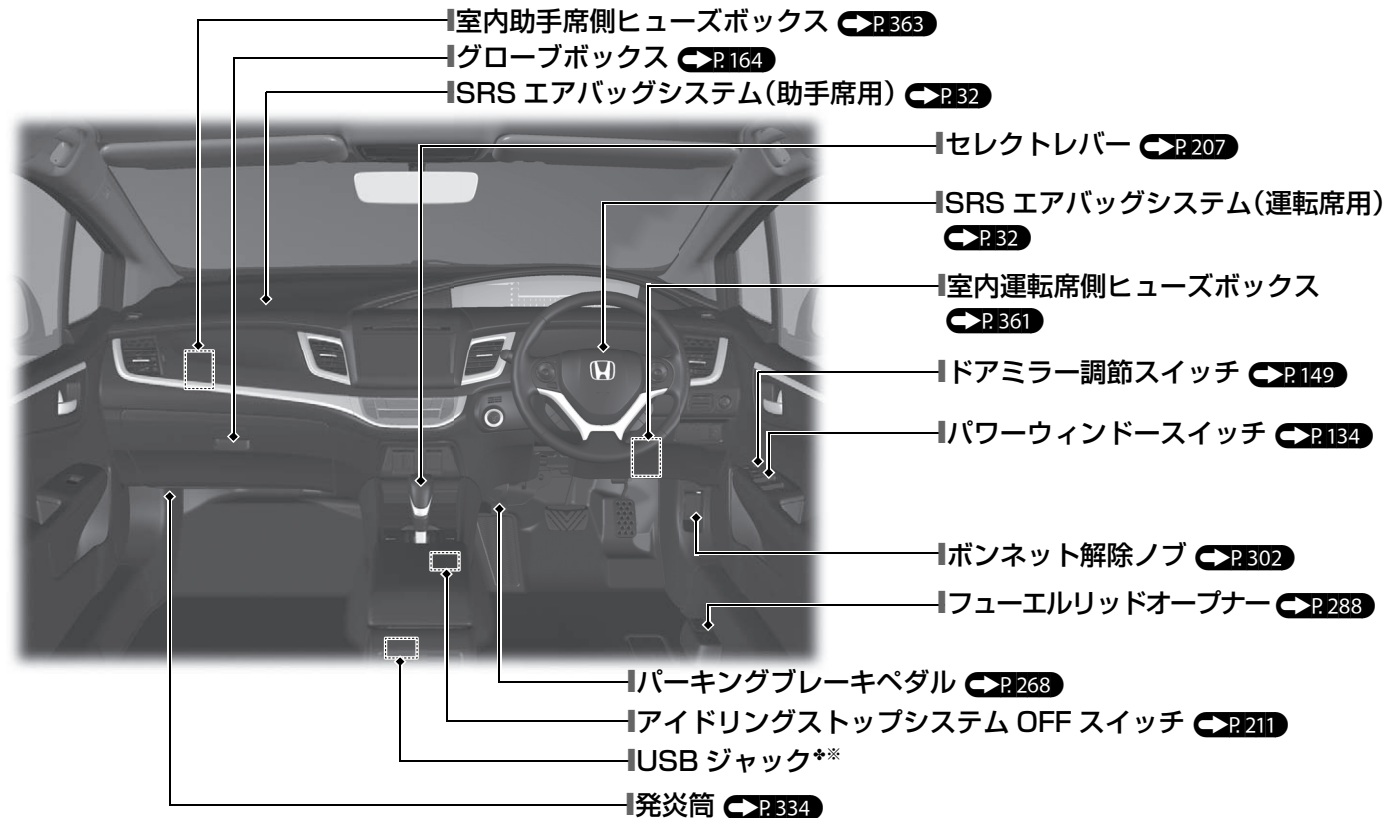
※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。



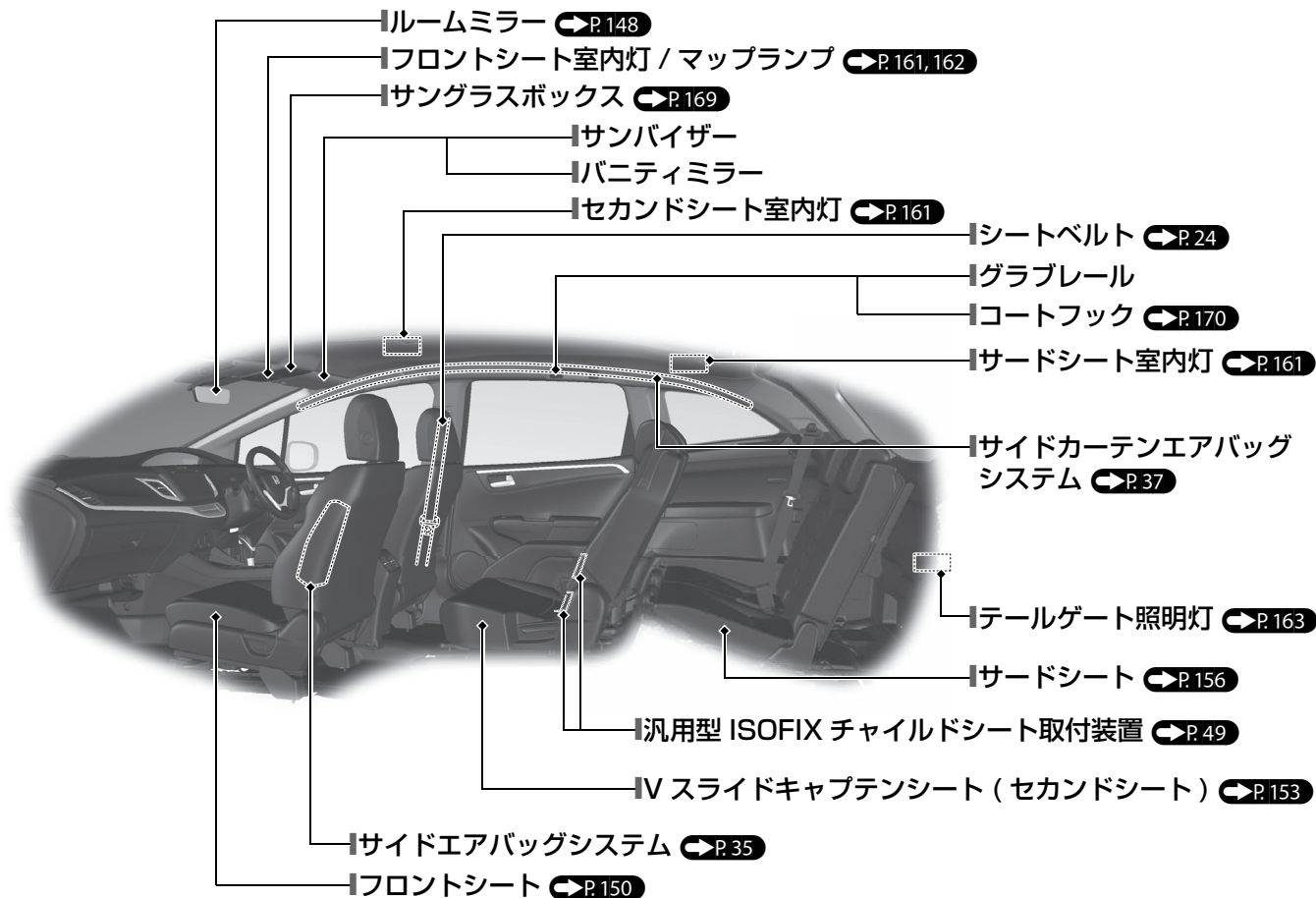
※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

この「*」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

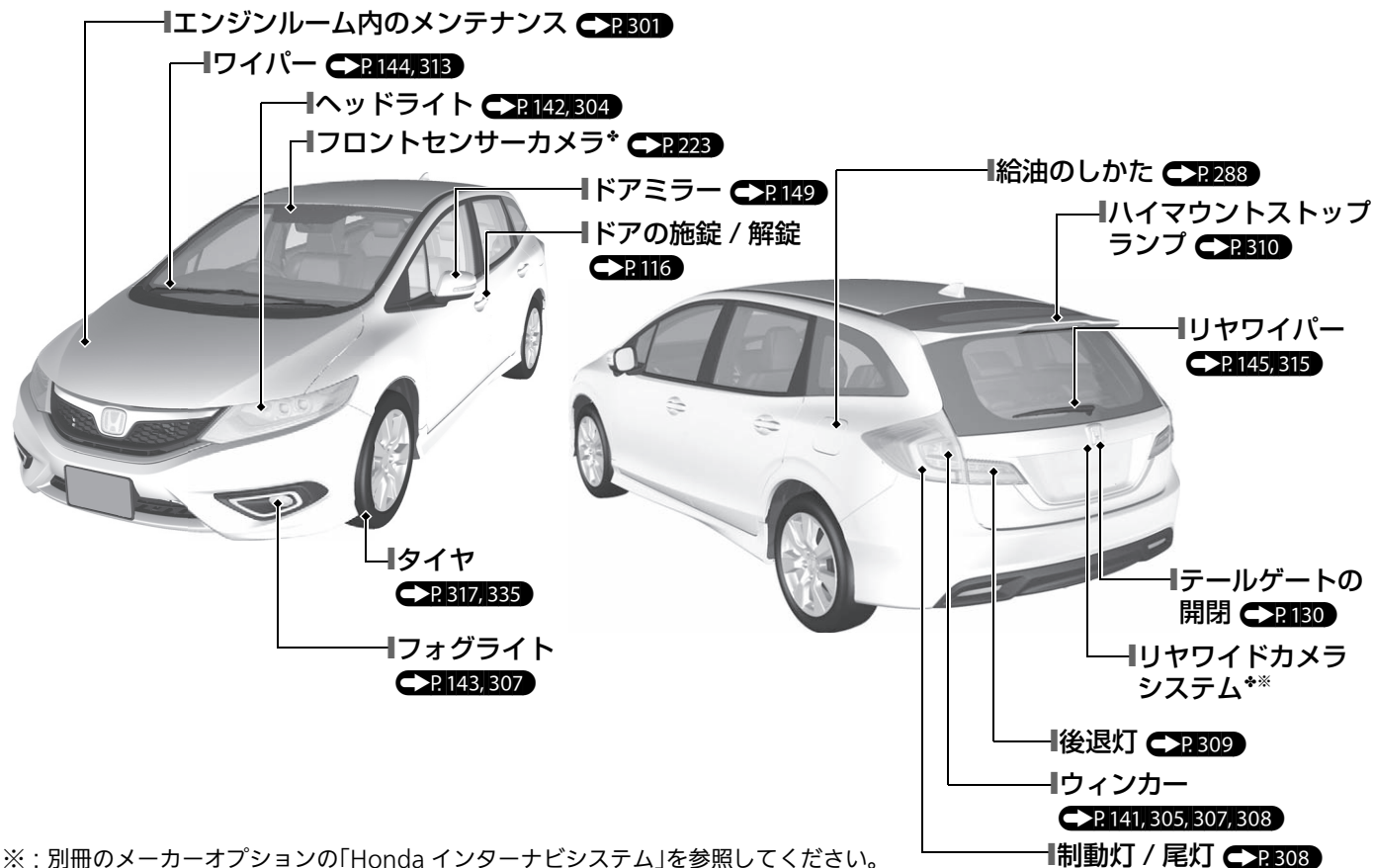


※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。



この「♣」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

ビジュアル目次

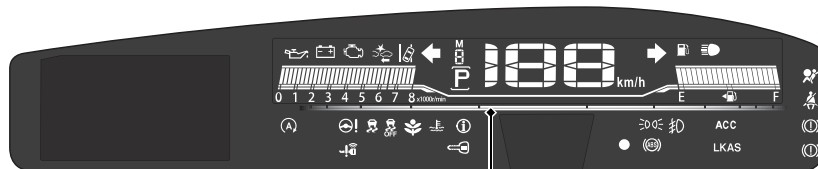


※：別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」を参照してください。

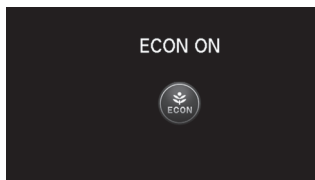
エコアシストシステム

アンビエントメーター

- 運転の状態を表示します。運転操作の状態に応じて、メーターの色が変化します。
 - メーターの色
 - 緑色：省燃費状態
 - 青緑色：ゆるやかな加減速状態
 - 青色：急加減速状態
- ブレーキペダル、アクセルペダルの操作方法により、メーターの色が変化します。



アンビエントメーター



マルチインフォメーション
ディスプレイ装備車

ECONスイッチを押すと、メッセージを
数秒間表示します。



ECON 表示灯

➡ P.70

ECONスイッチを押して、ECON
モードにすると点灯します。



ECON スイッチ

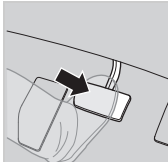
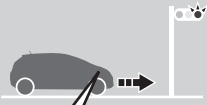
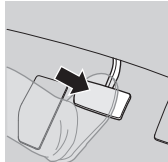
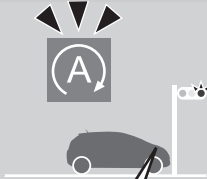
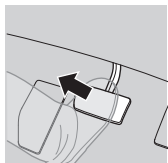
➡ P.215

省燃費運転をしやすいように
に制御します。

アイドリングストップシステム

燃費向上のために、下記の手順によりアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。

アイドリングストップしているときは、メーター内のアイドリングストップ表示灯(グリーン)が点灯します。 ➡ P.211

走行状態	操作	操作後のエンジンの状態
減速 ↓	停車してブレーキペダルを踏む。 	 エンジン作動中
停車 ↓	ブレーキペダルを踏み続ける。 	 アイドリングストップ中
発進 ↓	ブレーキペダルを離す。 	 エンジンが自動的に再始動

安全なドライブ

➡P.22

運転を始める前の確認 ➡P.23

- 運転前にフロントシートの位置、ヘッドレスト、ハンドルの位置、ミラー類の角度を調節します。

シートベルト ➡P.24



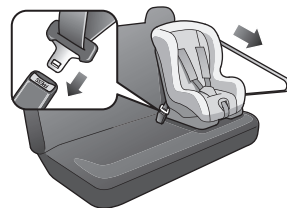
- 正しい運転姿勢でシートベルトを着用してください。
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用させます。
- 妊娠中のかたは腹部を圧迫しないようにシートベルトを着用してください。

排気ガスについて ➡P.53

- 車の排気ガスには有害な一酸化炭素が含まれているため、ガレージなどの密閉された場所ではエンジンを始動させないでください。

お子さまの安全 ➡P.41

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはセカンドシートまたはサードシートに取り付けてください。



エアバッグ ➡P.32

- 万一の衝突の際に、乗員への衝撃を緩和するために、エアバッグが装備されています。

計器の見かた ➡ P.54

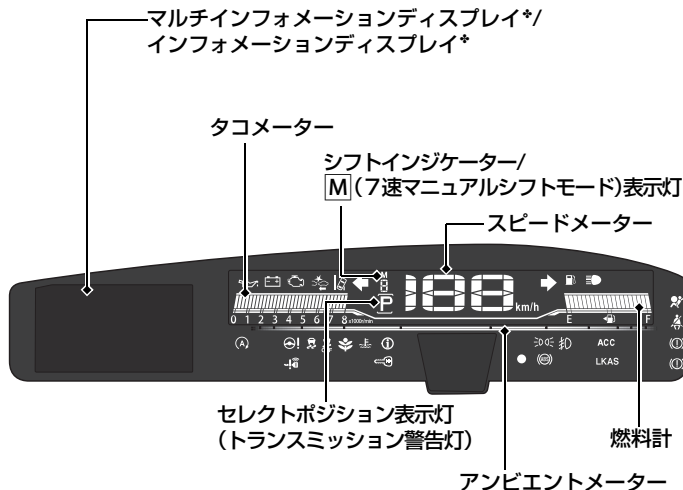
警告灯 ➡ P.55 表示灯 ➡ P.68 メーター ➡ P.85

インフォメーションディスプレイ* ➡ P.86

マルチインフォメーションディスプレイ* ➡ P.89

警告灯 / 表示灯

- EPS システム警告灯
- セキュリアラムシステム作動表示灯
- Honda スマートキーシステム警告灯
- VSA OFF 警告灯
- VSA 警告灯
- オートライトコントロール警告灯*
- ECON 表示灯
- PGM-FI 警告灯
- 低水温表示灯(ブルー)
- 高水温警告灯(レッド)
- 油圧警告灯
- 充電警告灯
- セレクトポジション P 移動警告灯*
- アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)
- アイドリングストップ表示灯(グリーン)



ライト表示灯

- ハイビーム表示灯
- フォグライト点灯表示灯
- ライト点灯表示灯

警告灯 / 表示灯

- ACC** ACC 警告灯 / 表示灯*
- LKAS** LKAS 警告灯 / 表示灯*
- 路外逸脱抑制機能警告灯*
- インフォメーション表示灯*
- CMBS 警告灯*

警告灯 / 表示灯

- 方向指示器 / 非常点滅表示灯
- クルーズメイン表示灯*
- クルーズコントロール表示灯*
- エアバッグシステム警告灯
- イモビライザーシステム表示灯
- シートベルト非着用警告灯
- ドア開閉警告灯*
- テールゲート開閉警告灯*
- 燃料残量警告灯
- ABS 警告灯
- ブレーキ警告灯(レッド)
- ブレーキシステム警告灯(オレンジ)
- KEY** Honda スマートキー電池消耗警告灯*
- NO KEY** Honda スマートキー持ち去り警告灯*
- ブレーキ踏み込み不足表示灯*
- ハンドル操作表示灯*
- スターターシステム警告灯*
- エンジンオイルメンテナンス表示灯*

各部の操作 ➡P.110

時刻を合わせる ➡P.112

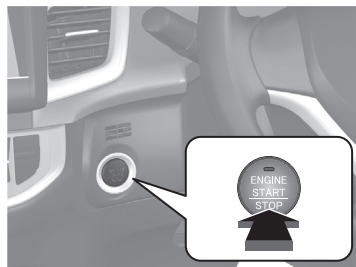


メーカーオプションの Honda
インターナビシステム装備車

Honda インターナビシステム装備車の時計は、人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。

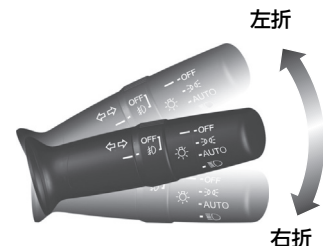
ENGINE START/STOP スイッチ ➡P.138

スイッチを押すと、パワーモードが切り換わります。



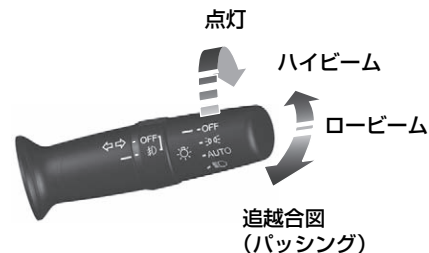
ウィンカー ➡P.141

方向指示器(ウィンカー)スイッチ



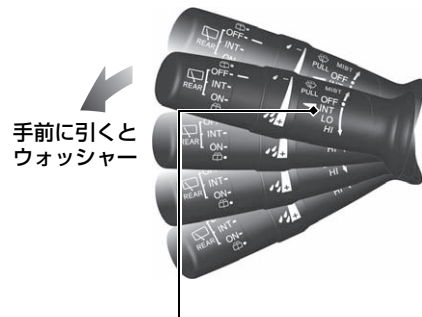
ライト ➡P.142

ライトスイッチ



ワイパー ➡ P.144

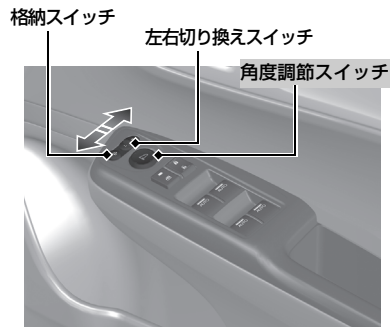
ワイパー/ウォッシャースイッチ



- MIST (レバーを操作している間作動)
- OFF 停止
- INT 間欠(雨量が少ないとき)
- LO 低速(普通の雨量のとき)
- HI 高速(雨量の多いとき)

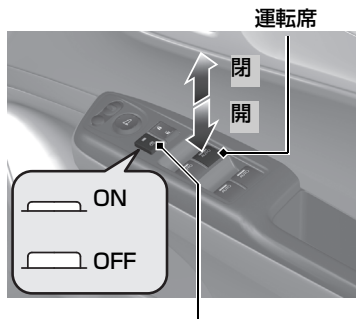
ドアミラー ➡ P.149

- パワーモードが ON モードのとき、ドアミラーの格納または角度の調節ができます。



パワーウィンドー ➡ P.134

- パワーモードが ON モードのとき、ウィンドーの開閉ができます。



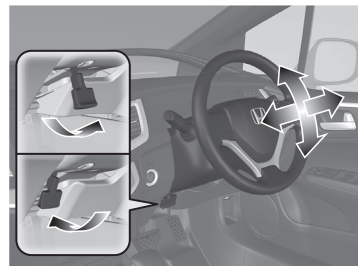
パワーウィンドーロックボタン

- ON 運転席以外のウィンドーが非作動
- OFF 全てのウィンドーが作動

ハンドル位置の調節

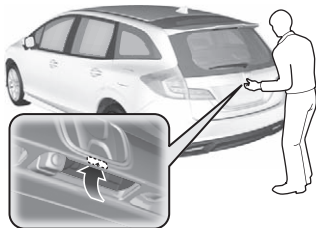
➡ P.147

- ハンドル位置調節レバーを引き上げ、ハンドルの位置を調節します。



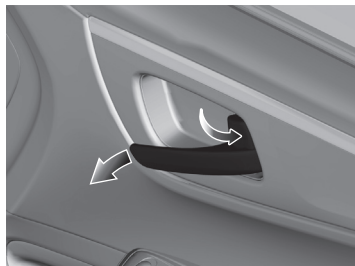
テールゲート ➡P.130

- テールゲートは、テールゲートオープンスイッチを押して開きます。



運転席ドアハンドルでの 解錠 ➡P.123

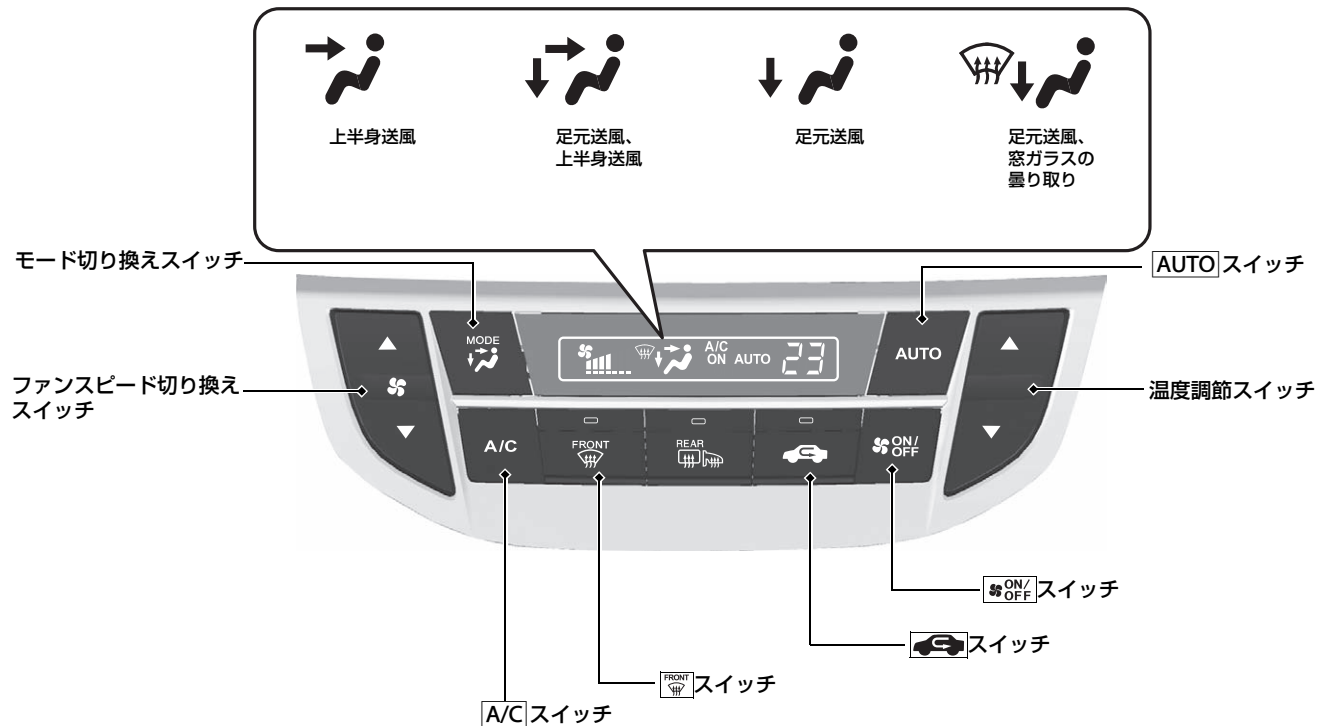
- 運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。



エアコン

➡ P.173

- **AUTO** を押すと、オートエアコンが作動します。
- **ON/OFF** を押すと、止まります。
- 前面ガラスの曇りを取るには、**FRONT** を押します。



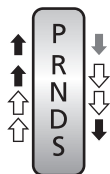
運転 ➡ P.197

無段変速オートマチック車 ➡ P.206

- セレクトレバーを「P」に入れ、ブレーキを踏みながらエンジンを始動します。

セレクトレバー

セレクトレバーの操作



- ↓ ブレーキペダルを右足で踏み、ボタンを押して操作
- ↕ ボタンを押さずそのまま操作
- ↕ ボタンを押して操作



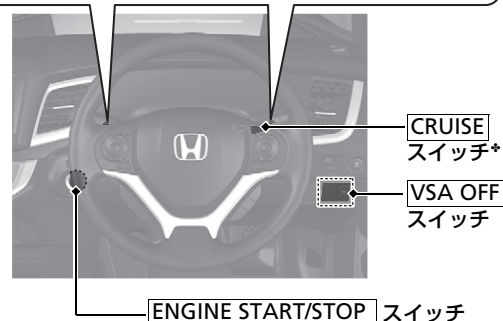
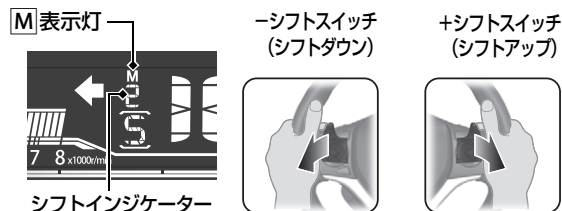
- P** パーキング
駐車またはエンジンの始動
- R** リバース
車を後退
- N** ニュートラル
アイドリング状態
- D** ドライブ
 - ・通常走行
 - ・一時的に 7 速マニュアルシフトモードにするととき
- S** ドライブ(S)
 - ・上り坂や下り坂を走行するとき
 - ・7 速マニュアルシフトモードにするととき

7 速マニュアルシフトモード

- ハンドルから手を放さずシフトスイッチを引いて、シフト操作ができます。
- セレクトレバーが「S」のとき
- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードになります。「M」(7 速マニュアルシフトモード)表示灯が点灯し、シフトインジケータにギヤ位置が表示されます。

セレクトレバーが「D」のとき

- ハンドルにあるシフトスイッチを引くと、一時的に 7 速マニュアルシフトモードになります。シフトインジケータにギヤ位置が表示されます。



この「※」はタイプやオプションなどにより、装備が異なる場合に付きます。

VSA OFF スイッチ P.222

- VSA とは、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。
- VSA を停止(OFF)状態にするには、を「ピー」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)するにはを「ピー」とブザーが鳴るまで押します。

CRUISE スイッチ* P.218

- クルーズコントロールは、高速道路などを定速で運転するとき、アクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つ装置です。
- クルーズコントロールを使用しないときは、安全のために **CRUISE** を押して OFF にしてください。

CMBS OFF スイッチ*

 P.278

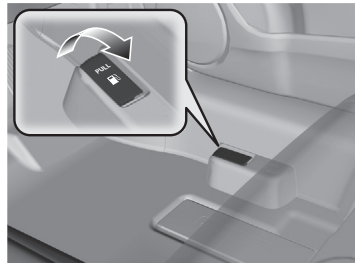
- CMBS は、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり追突の衝撃を軽減する装置です。
- CMBS を停止(OFF)状態にするには、を「ピー」とブザーが鳴るまで押します。再度、使用(ON)にするにはを「ピー」とブザーが鳴るまで押します。

ガソリンを入れる P.288

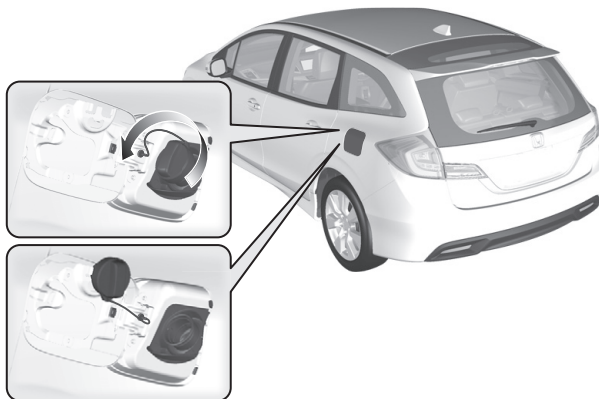
指定燃料： 無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

タンク容量： 47 リットル

- 1 フューエルリッドオープナーを引いて、フューエルリッドを開ける。



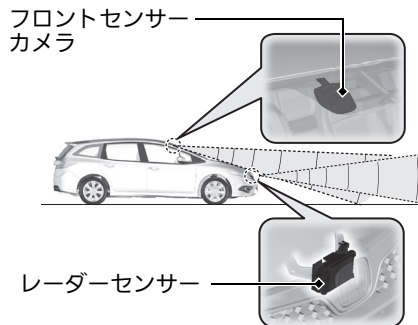
- 2 ツマミをゆっくり回してキャップを開ける。



- 3 キャップをホルダーにかける。

ホンダセンシング*

フロントグリル内に設置したレーダーセンサーと、フロントウインドウ内上部に設置したフロントセンサーカメラの、特性の異なる2種類のセンサーで構成された運転支援システムです。



ACC(アダプティブクルーズコントロール)*

➡P.225

先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

LKAS(車線維持支援システム)* ➡P.237

左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

路外逸脱抑制機能* ➡P.249

車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

標識認識機能* ➡P.257

走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

先行車発進お知らせ機能*

➡P.264

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者知らせるシステムです。

CMBS(衝突軽減ブレーキ)*

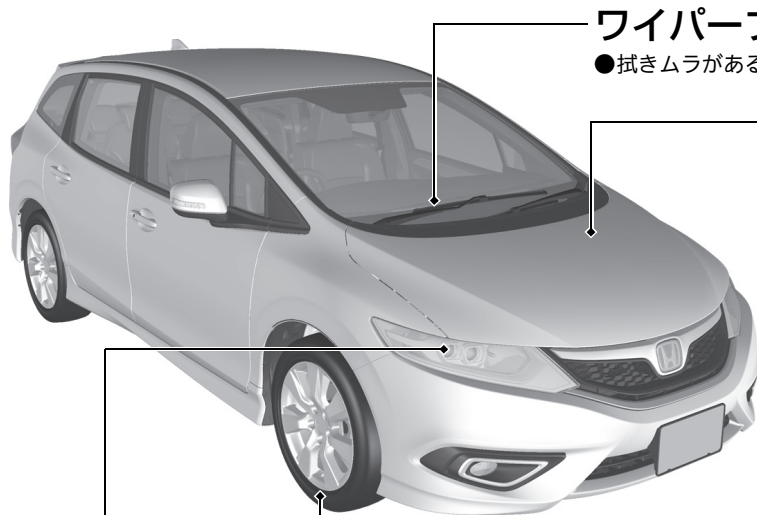
➡P.273

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

誤発進抑制機能* ➡P.280

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

メンテナンス ➡ P.293



ワイパーブレード ➡ P.313

- 拭きムラがある場合は、ワイパーブレードラバーを交換します。

エンジンルーム ➡ P.301

- 冷却水、ウォッシャー液の補給を行います。
- バッテリーを点検します。

タイヤ ➡ P.317

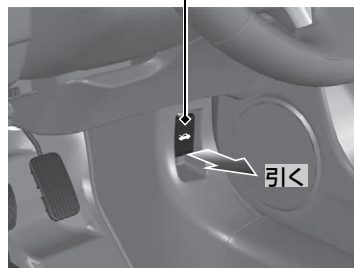
- タイヤ、ホイールを点検します。
- 降雪地域では、スノータイヤ、タイヤチェーンが必要です。

ライト ➡ P.304

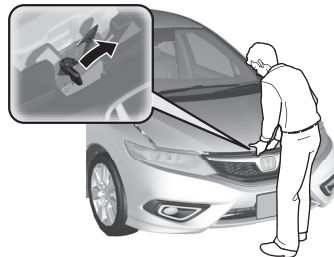
- ヘッドライト、フォグライト電球などの点検または交換を行います。
- 電球の交換については、「メンテナンス」を参照してください。
- ヒューズの交換については、「万が一の場合には」を参照してください。 ➡ P.358

- 1 運転席足元のボンネット解除ノブを引く。

ボンネット解除ノブ



- 2 レバーを押してボンネットを開ける。



万一の場合には ➡ P.333

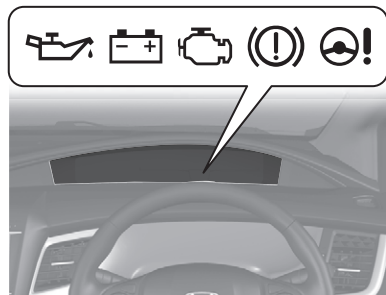
パンクした ➡ P.335

- 安全な場所に停車し、パンク修理キットで応急修理します。



警告灯が点灯した ➡ P.355

- 詳細を確認し、取扱説明書にしたがってください。



エンジンが始動しない

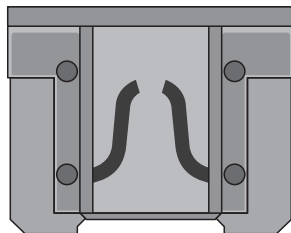
➡ P.348

- バッテリーあがりが考えられます。救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動します。



ヒューズが切れた ➡ P.358

- 室内とエンジンルーム内にヒューズボックスがあります。切れているヒューズを取り換えます。



オーバーヒートした ➡ P.354

- 安全な場所に停車し、蒸気が出ていなければボンネットを開けてください。



けん引してもらいたい

➡ P.365

- 必ず専門業者に依頼してください。やむをえず4輪を接地したままけん引される場合は、取扱説明書にしたがってください。



こんなときは

Q ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードからアクセサリモードにならない

A • ハンドルがロックされていませんか？
ハンドルを左右に回しながら、ENGINE START/STOP を押してください。



Q ENGINE START/STOP のパワーモードが OFF モードにならない

A • セレクトレバーが P 以外の位置になっていませんか？

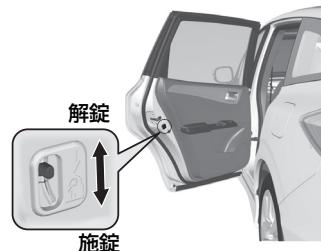


Q ブレーキペダルを踏んだらガタガタと振動した

A • ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。
これは ABS が作動しているときの現象で異常ではありません。
そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。

Q 後席ドアが車内から開けられない

A • チャイルドブルーフが施錠の位置になっていませんか？
後席ドアを外から開け、チャイルドブルーフのツマミを解錠の位置にしてください。



Q ドアを解錠したはずなのに施錠されている

A

- キーレスエントリーシステム、Honda スマートキーシステムで解錠してから、約 30 秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。



Q 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る

A

- パワーモードを OFF モード以外にしていますか？
- ライトを消し忘れていませんか？
- アイドリングストップ中に運転席ドアを開けると「ピーッピーッピーッ…」と鳴ります。

Q 走行するとブザーが鳴る

A

- 運転席および助手席シートベルトを着用していますか？
- パーキングブレーキを完全に戻していますか？

Q 走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

A

- ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。Honda 販売店で点検を受けてください。

Q レギュラーガソリン仕様車にプレミアム(ハイオク)ガソリンを使用しても大丈夫ですか？

A

- プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。



危険

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至るもの



警告

指示にしたがわないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの



注意

指示にしたがわないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

下記の表示を使って記載しています。

アドバイス

お車が故障や破損することを防ぐためのアドバイスや、環境への配慮のために守っていただきたいこと。

サービス診断記録装置について

この車には、システムを制御するためのコンピューターが搭載されており、次の内容をデータとして記録します。

- エアバッグシステムの故障診断情報
- エアバッグの作動に関する情報
- 動力伝達機構の状態
- 運転状態

Honda および Honda が委託した第三者は、記録されたデータを技術的な診断や Honda の車両の研究開発のために、取得、利用することがあります。

なお、会話等の音声や映像は記録されません。

データの開示について

Honda および Honda が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示、提供することはありません。

- お車の所有者または使用者の同意がある場合
- 裁判所命令等、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行う等、使用者や車が特定できないように加工したデータを、研究機関等に提供する場合

目次

安全なドライブ P.22

安全なドライブのために 23 シートベルト 24 エアバッグ 32 お子さまの安全 41
排気ガスの危険性 53

計器の見かた P.54

警告灯と表示灯 55 メーターとインフォメーションディスプレイ 85

各部の操作 P.110

時刻の設定 111 ドアロック 116 テールゲート 130 セキュリティシステム 132
ウィンドー 134 ハンドルまわりのスイッチ 138 ミラー類 148 シート 150
室内灯 / 室内装備品 161 エアコン 173 ETC について* 178 ETC の使いかた* 182

オーディオ P.195

オーディオ装置* 196

運転 P.197

運転の前に 198 運転 200 ブレーキ 268 駐停車 282
リヤワイドカメラシステム* 287 給油 288 ターボ車について 291 アクセサリーと改造 292

メンテナンス P.293

メンテナンスの前に 294 オイルモニターシステム 296 エンジンルーム内 301 電球 304
ワイパー 313 タイヤ 317 Honda スマートキー 322
エアコンのお手入れ 324 清掃 327

万ーの場合には P.333

工具、発炎筒 334 パンク 335 ジャッキ 346 エンジンが始動しない 348
ジャンプスタート 351 セレクトレバーが動かない 353 オーバーヒート 354
警告灯が点灯 / 点滅した 355 ヒューズ 358 けん引 365
テールゲートが開かない 368

資料 P.369

仕様 370

安全なドライブ P.22

計器の見かた P.54

各部の操作 P.110

オーディオ P.195

運転 P.197

メンテナンス P.293

万ーの場合には P.333

資料 P.369

索引 P.371

安全なドライブ

この章には、安全運転のために必要な重要情報が記載されています。
運転を始める前によくお読みいただき、運転者と同乗者の安全を確保してください。

安全なドライブのために 23

シートベルト

シートベルトについて 24

シートベルトの着用 27

シートベルトの点検 30

シートベルトのアンカーポイント 30

エアバッグ

エアバッグの種類 32

SRS エアバッグ 32

サイドエアバッグ 35

サイドカーテンエアバッグ 37

エアバッグシステム警告灯 39

エアバッグのお手入れ 40

お子さまの安全 41

乳幼児の安全 42

大きなお子さまの安全 51

排気ガスの危険性

一酸化炭素について 53

安全のための確認事項

安全なドライブのために、走行前に下記の項目を確認してください。

- ドア、テールゲートは完全に閉まっているか？
 - ▶ すべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認してください。
❏ 車内での施錠 / 解錠 P.123
- 運転しやすい姿勢にシート位置を調節しているか？
 - ▶ 正しい運転姿勢がとれるよう、シート位置やヘッドレストの調節をしてください。
❏ フロントシート P.150
- 同乗者のシートも、安全が保たれるよう調節しているか？
 - ▶ ダッシュボードからできるだけ離れた位置までシートを下げてください。
❏ フロントシート P.150
- 乗員全員が正しくシートベルトを着用しているか？
 - ▶ 運転者と乗員全員が正しくシートベルトを着用していることを確認してください。
❏ シートベルトの着用 P.27
- エアバッグシステム警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ エアバッグに関する説明をあらかじめお読みいただき、シートの位置などを調節してください。
❏ エアバッグ P.32
- お子さまの安全を守るために、チャイルドシートやシートベルトを着用しているか？
 - ▶ お子さまが同乗する場合は、お子さまの年齢や身長・体重に応じてチャイルドシートやシートベルトなどで安全を確保するようにしてください。
❏ お子さまの安全 P.41
- 坂道で駐車するときは、パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]にしているか？
 - ▶ さらにタイヤに輪止めをすると効果があります。
❏ シフト操作 P.207

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

❏安全のための確認事項

ドア開閉警告灯* / テールゲート開閉警告灯*が点灯している場合は、完全に閉まっていないドア、テールゲートがあります。

ドア、テールゲートをもう一度正しく閉め直してください。「ドア開閉警告灯* / テールゲート開閉警告灯*」は消灯し、正常な状態に戻ります。

❏ ドア開閉警告灯* P.61

❏ テールゲート開閉警告灯* P.61

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されます。

❏ マルチインフォメーションディスプレイ*のメッセージ P.75

シートベルトについて

シートベルトは、シートに体を固定することで安全を確保するための安全装置です。

■三点式シートベルト

体の動きに合わせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。
すべての席に三点式シートベルトが装備されています。

■シートベルトの着用

シートベルトの着用にあたっては、以下の点に注意してください。

- 運転者は正しい運転姿勢で、シートベルトを必ず着用
- 同乗者にも必ずシートベルトを着用
- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用
- 1本のシートベルトを2人以上で使用しない
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけない

※シートベルトについて



警告

シートベルトは乗員全員が必ず正しく着用する。

シートベルトを正しく着用しないと、エアバッグが装備されていても、衝突したときに重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

乗車中は正しい姿勢を保つ。

正しい姿勢ですわらないと、衝突したときに傷害を受ける危険性が高くなります。

シートベルトを着用した状態で事故にあったときは、Honda 販売店で点検を受け、ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。

シートベルトがロックした場合、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ベルトをゆっくり引き出してください。

■ シートベルトリマインダー



パワーモードを ON モードにしたときや、走行したとき、運転席および助手席のシートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、ブザーと警告灯でお知らせします。

マルチインフォメーションディスプレイ* にも警告が表示されます。

▶▶ シートベルトリマインダー

- 運転席または助手席シートベルトを着用せずに走行した場合、停車するとブザーは止まります。また、走行している場合でも一定時間を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを **[R]** に入れたときは後退位置警報装置のチャイムが鳴るため、シートベルト非着用の警告ブザーは鳴りません。
- 助手席シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅しブザーが鳴ることがあります。
- 助手席にお子様や小柄な方を乗せたりクッションなどを使用すると、センサーが乗員を検知せず正常に作動しないことがあります。

■シートベルトプリテンショナー

フロントシートにはシートベルトプリテンショナーを装備しています。
シートベルトプリテンショナーは、一定以上の前方向や側面からの衝撃を受けると自動的にシートベルトを引き込み、拘束します。



⚠シートベルトプリテンショナー



注意

シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしない。

誤作動や故障の原因となります。

シートベルトプリテンショナーは、一度作動すると使用できません。

衝突によりシートベルトプリテンショナーが作動するとエアバッグシステム警告灯が点灯します。

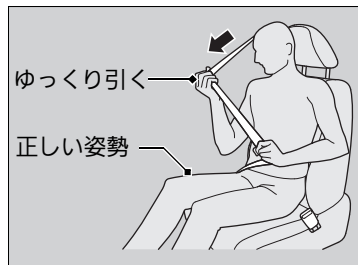
衝突したときは、Honda販売店で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーはかならずしも同時に作動しません。

側面からの衝突により、シートベルトプリテンショナーが作動します。

シートベルトの着用

■ 三点式シートベルト



1. 正しい姿勢でシートにすわる。
2. シートベルトをゆっくり引き出す。
3. タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、ベルトにねじれや引っかかりがないように注意します。
4. ベルトを、腰骨のできるだけ低い位置にかかるように合わせる。
5. ベルトを引っ張り、バックルが固定されていることを確認する。

※ シートベルトの着用

⚠ 警告

シートベルト着用時にアームレストに引っかけない。

万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

⚠ 注意

肩ベルトは腕の下に通したり、首の後ろに回さない。

シートベルトを正しく着用しないと、本来の機能を果たさず衝突時などに、けがをすることおそれがあります。

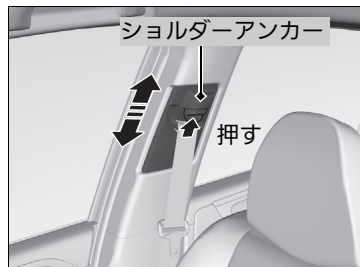
シートベルトを外すには、バックルの赤色の **PRESS** を押してください。

そのとき、ベルトが完全に収納されるようベルトに手を添えてください。

シートベルトを十分に機能させるため、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

シートベルトの分解、改造はしないでください。正常に作動しないおそれがあります。

■ ショルダーアンカーの高さ調節



フロントシートのシートベルトは、座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節してください。

1. ショルダーアンカーの解除ボタンを押しながらアンカーを上下に動かす。
2. 適切な高さで解除ボタンを離し、ショルダーアンカーを固定する。

※ ショルダーアンカーの高さ調節



注意

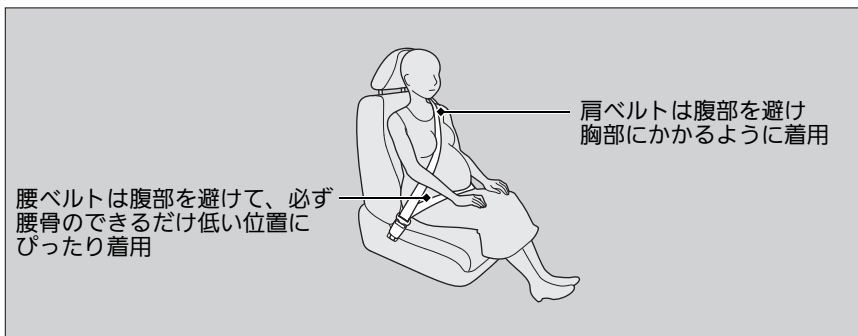
調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されているか確認する。

安全性を高めるため、肩ベルトが肩から胸にかかっていることを確認してください。

ベルトが首に当たるときは、下げて調節してください。

妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた

妊娠中のかたが運転または同乗するときは、ご自身と赤ちゃんを守るために、常に三点式シートベルトを着用してください。



妊娠中のかたのシートベルト着用のしかた



注意

妊娠中のシートベルト着用は、医師に確認する。

万一のとき、腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがあります。

妊娠中のかたは以下の点に注意してください。万一の衝突時にフロントエアバッグによって、ご自身と赤ちゃんが傷害を受ける危険性が軽減されます。

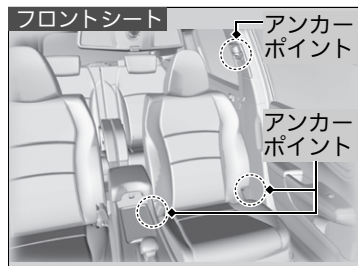
- 運転するときは上体を起こして、運転に支障のない範囲でシートをなるべく後ろに下げる
- 助手席にすわる場合も、シートはできるだけ後ろに下げる

シートベルトの点検

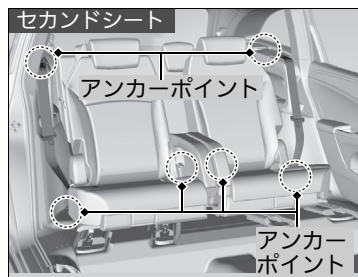
シートベルトを安全にお使いいただくために、定期的な点検を行ってください。点検の確認ポイントは下記のとおりです。

- すべてのベルトをいっぱいまで引き出し、ほつれ、破れ、焼けこげ、すり切れないか？
- バックルが確実に固定されるか？
- ベルトがスムーズに巻き取られるか？

シートベルトのアンカーポイント



シートベルトを交換する場合、図の中で示されるアンカーポイントを使用してください。フロントシートには三点式シートベルトが使われています。



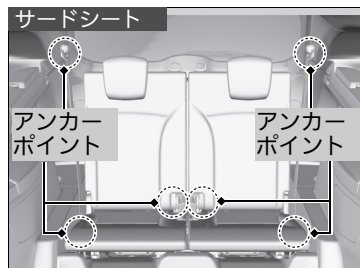
セカンドシートには三点式シートベルトが使われています。

■シートベルトの点検

ベルトがスムーズに巻き取られない場合、ベルトが汚れていないことを確認してください。

ベルトが汚れているとスムーズに巻き取られない場合があります。まず、ベルトに汚れがないか確認してください。汚れを落とすと動きが元に戻ることがあります。

ベルトが破損していたり、正しく作動しない場合は、ベルトを交換してください。



サードシートには三点式シートベルトが使われています。

エアバッグの種類

エアバッグは、パワーモードが ON モードのときに車体が衝突による衝撃を受けると膨らみ、運転者および同乗者の受ける衝撃を緩和させます。エアバッグには下記の種類があり、衝突の方向や条件などにより作動が異なります。

- **SRS エアバッグ**：フロントシートの前方向エアバッグ
- **サイドエアバッグ**：フロントシートの横方向エアバッグ
- **サイドカーテンエアバッグ**：窓側の天井部両側についたエアバッグ

SRS エアバッグ

運転席と助手席についています。前方向からの衝突により、SRS エアバッグが膨らんで運転者と助手席の同乗者の頭と胸部への衝撃を緩和します。

SRS：サプリメンタルレストRAINTシステム(Supplemental Restraint System)の略で、シートベルトの補助拘束の意味。

格納場所

運転席側はハンドルの中央、助手席側はダッシュボードに SRS エアバッグが格納されています。どちらも「SRS AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ

SRS エアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で前方向から衝突したときです。このとき、センサーが衝突による急激な減速を検知し、コントロールユニットのはたらきにより運転席と助手席の SRS エアバッグが膨らみます。

エアバッグの種類

⚠ 警告

エアバッグ装備車でもシートベルトは必ず使用する。

エアバッグは、衝撃を緩和するためのシステムで、シートベルトの補助拘束具です。エアバッグシステム装備車であっても、必ず正しくシートベルトを着用してください。シートベルトを着用しないと、衝突時にエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

⚠ 注意

エアバッグが膨らんだ直後は、構成部品に触れない。

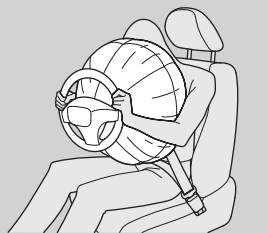
エアバッグの構成部品が熱くなっているため、やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

エアバッグは非常に速い速度で膨らみます。

エアバッグとの接触により、すり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。

SRS エアバッグの作動

作動時



前方向から衝突すると、シートベルトが乗員の下半身と胴体を拘束し、SRSエアバッグが頭と胸部を保護します。

運転者の視界を妨げたり、ハンドル操作の邪魔にならないように、SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼみます。

SRS エアバッグは、次のような場合に作動します。

- 20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき
 - 車両の前方左右約 30 度以内の方向から強い衝撃を受けたとき
- 衝撃を吸収できるもの(車やガードレールのように変形するもの)に衝突した場合、作動するときの車速は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、SRS エアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

■SRS エアバッグの作動

⚠ 警告

インストルメントパネルに手をついたり頭や胸を近づけた状態で乗車しない。

SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

ハンドルやインストルメントパネル上面に、ステッカーを貼ったり、ものを置いたりしない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなったり、エアバッグが膨らんだときに置いたものが飛んで運転者や同乗者がけがをする原因になります。

エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞うことがあります。

この粉は無害ですが、場合によっては一時的に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認後、ただちに車外に出てください。

次のような場合、SRS エアバッグが作動しないことがあります。

- 電柱、立ち木などへの衝突
- トラックなどへの潜り込み
- 部分的な衝突や斜め方向からの衝突

車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRS エアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 横方向からの衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、SRS エアバッグが作動することがあります。

※SRS エアバッグの作動



注意

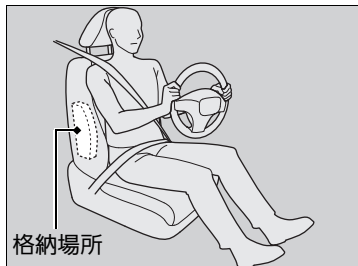
SRSエアバッグの分解、取り外しはしない。
不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因となります。

車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。

サイドエアバッグ

フロントシートの背もたれの外側にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、運転者と助手席の同乗者の胸部への衝撃を緩和します。

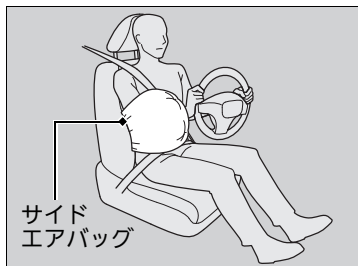
格納場所



運転席、助手席ともにシートの背もたれ外側に格納されています。

どちらも「SIDE AIRBAG」と表示されています。

作動のしくみ



サイドエアバッグは、約 30km/h 以上の速度で自車と同等の車が真横から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたときに運転席または助手席のサイドエアバッグが膨らみます。

車両側面に斜めから衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの車速は高くなります。

※サイドエアバッグ

⚠ 注意

ドアやその周辺にアクセサリなどを取り付けたり、ものを置いたりしない。

正常に作動しなかったり、作動時にこれらのものが飛ぶことがあります。

サイドエアバッグ収納部に衝撃や無理な力を加えない。

サイドエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

サイドエアバッグがシートカバーによって、正常に機能できなくなります。

フロントシートへのシートカバー装着にあたっては Honda 販売店にご相談ください。

■作動条件

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受け、サイドエアバッグが作動することがあります。

- 縁石や地面の突起物に衝突したとき
- 深い溝や穴に落ちたとき
- 高いところから落ちたとき

次のような場合、サイドエアバッグが作動しないことがあります。

- 乗員付近以外の側面への衝突

サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので、車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。

- 正面衝突
- 後部からの衝突
- 横転または転覆

事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

■サイドエアバッグ



注意

**ドアに寄りかからない。
サイドエアバッグの格納部に手や顔を必要
以上に近づけない。
後席の同乗者は、フロントシートの背もた
れを抱えない。**

サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を
受け傷害を受けるおそれがあります。

**サイドエアバッグの分解、取り外しはしな
い。**

不適切な取り扱いが故障や誤作動の原因と
なります。

**エアバッグが膨らむときに、空中に粉が舞う
ことがあります。**

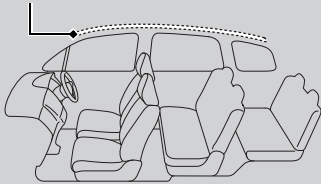
この粉は無害ですが、場合によっては一時的
に不快感をおぼえることがあります。
安全を確認したら、ただちに車外に出てくだ
さい。

サイドカーテンエアバッグ

窓側の天井部にあるエアバッグです。側面からの衝突により、エアバッグが膨らみ、乗員の頭部への衝撃を緩和します。

格納場所

サイドカーテンエアバッグ収納部



運転席側、助手席側ともに窓側の天井部に格納されています。

どちらも「SIDE CURTAIN AIRBAG」と表示されています。

※サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりすることがあるので、以下のことに注意する。

- フロントガラス、ドアガラス、フロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリなどを取り付けない
- グラブレルにものをかけない
- コートフックに重いものやとがったものをかけない

サイドカーテンエアバッグは衝撃を受けた側のみ作動します。

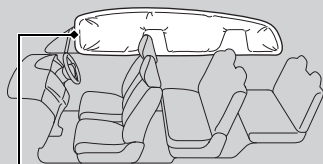
サイドカーテンエアバッグは側面からの衝突に対して作動するため、衝撃を受けた側のみ作動します。また、助手席側が衝撃を受けた場合は、助手席側に乗員がいないときでもサイドカーテンエアバッグが作動します。

サイドカーテンエアバッグは、シートベルトを着用し上体を起こしてシートに深く腰かけているときに保護効果を発揮します。

サイドカーテンエアバッグの保護効果を維持するために、シートベルトは正しく着用してください。

■作動のしくみ

作動時



サイドカーテンエアバッグ

サイドカーテンエアバッグが作動するのは、一定以上の衝撃で側面方向から衝突したときです。運転席側または助手席側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

■作動条件

サイドカーテンエアバッグの作動条件は、サイドエアバッグと同じ条件です。

🔍 作動条件 P.36

■前方向から衝突したときの作動

前方向からの衝突時、横方向に一定以上の力がかかると、SRS エアバッグが膨らんだあと必要な側のサイドカーテンエアバッグが膨らみます。

🔍 サイドカーテンエアバッグ

⚠ 注意

サイドカーテンエアバッグ収納部に衝撃を加えない。

収納部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、Honda 販売店で交換してください。

サイドカーテンエアバッグの分解、取り外しはしない。

不適切な取り扱いは故障や誤作動の原因となります。

エアバッグシステム警告灯

エアバッグやシートベルトプリテンショナーの異常などを、警告灯やマルチインフォメーションディスプレイ*で知らせます。

エアバッグシステム警告灯



■**パワーモードを ON モードにしたとき**
パワーモードを ON モードにすると、エアバッグシステム警告灯が数秒間点灯し、消灯すれば正常です。

■**異常が発生したとき**
エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常があるとき点灯します。

⚠ エアバッグシステム警告灯



エアバッグシステム警告灯を無視しない。
エアバッグシステム警告灯を無視すると、エアバッグシステム、プリテンショナーシステムが正しく機能せず、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。エアバッグシステム警告灯が点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグシステム警告灯が点灯状態のときは、Honda 販売店で点検を受けてください。パワーモードを ON モードにしたときにエアバッグシステム警告灯が点灯しない場合も、エアバッグシステムまたはプリテンショナーシステムに異常がある可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

エアバッグのお手入れ

エアバッグシステムは、メンテナンスを必要とせず、部品交換の必要もありません。ただし、以下の場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

一度作動したエアバッグは、コントロールユニットやその他の関連部品とともに必ず交換する必要があります。

また、シートベルトプリテンショナーも同様に、一度作動した場合は新品と交換する必要があります。

■エアバッグが作動し、膨らんだとき

エアバッグ関連部品の再利用はしないでください。

お子さまの安全を守るために

お子さまが乗車するときは、下記の注意点を確認し、お子さまの安全を確保してください。



- お子さまはセカンドシートまたはサードシートに乗せる
 - ▶ お子さまを助手席に乗せると、不意の動作が気になったり、スイッチ類をいたずらしたりするなど運転の妨げになるおそれがあります。
また、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃があります。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用させる
 - ▶ お子さまを抱えたり、ひざの上に乗せないでください。衝突したときに支えることができません。正しい着用方法でお子さまにもシートベルトをしてください。
- 乳幼児にはチャイルドシートを使用する
 - ▶ 乳幼児に乗せるときは、必ずチャイルドシートを使用します。
- 車外に手や顔、ものを出さない
 - ▶ 走行中や一時停止時などに、お子さまが車外に手や顔、ものなどを出さないようにしてください。思わぬ障害物により事故のおそれがあります。
- ドア、ウィンドー、シートなどの操作は必ず大人が行う
 - ▶ 思わぬけがの原因となりますので、お子さまにはドア、ウィンドー、シートなどの操作をさせないでください。
- 車を離れるときは、お子さまを連れて出る
 - ▶ お子さまだけを車内に残さないでください。特に、炎天下の車内は高温になります。また、お子さまのいたずらにより、車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

❏ お子さまの安全を守るために

⚠ 警告

チャイルドシートは後席に設置する。

助手席に設置するとSRSエアバッグが作動したときの衝撃で、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。

⚠ 警告



シート前方の作動可能なエアバッグで保護されたシートには、後ろ向きチャイルドシートを絶対に取り付けしないでください。

お子さまが死亡、または重大な傷害を受けおそれがあります。

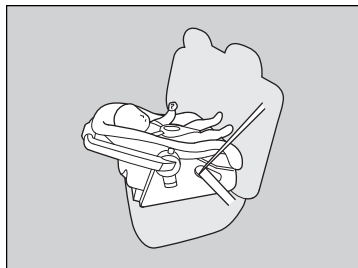
お子さまを助手席に乗せることをおすすめしない理由は下記の通りです。

- お子さまが助手席のシートに正しく乗車できないと、SRSエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある
- お子さまの体の一部がサイドエアバッグの作動範囲に入ると、サイドエアバッグが膨らんだときに重大な傷害を負うおそれがある

乳幼児の安全

■乳児のチャイルドシート

首のすわっていない乳児は、乳児用のチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■後ろ向きのチャイルドシートの設置場所

セカンドシートまたはサードシートに設置してください。

推奨するのは、助手席の真後ろの席への設置です。その場合、助手席には人を乗せず助手席のシートをできるだけ前に出してください。

※乳児のチャイルドシート



警告

後ろ向きのチャイルドシートを前向きにして使わない。

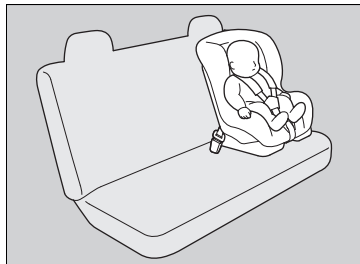
前向きにして使うと前方から衝突したときに、乳児が重大な傷害を負うおそれがあります。

後ろ向きのチャイルドシートは助手席に設置しない。

助手席の SRS エアバッグが膨らんだときに、チャイルドシートの背面にエアバッグが当たり、乳児が重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

■ 幼児のチャイルドシート

チャイルドシートメーカーが指定する範囲内の幼児は、前向きのチャイルドシートを正しく固定し、乗せてください。



■ 前向きのチャイルドシートの設置場所
セカンドシートまたはサードシートへの設置を推奨します。

⚠ 幼児のチャイルドシート

⚠ 警告

助手席に前向きのチャイルドシートを設置しない。

助手席に前向きのチャイルドシートを設置すると、助手席のシートが前に出すぎたり、衝突したときに幼児の頭が前に投げ出されるとSRSエアバッグで強い衝撃を受けるため、重大な傷害を負ったり死亡したりするおそれがあります。

やむをえず助手席に前向きのチャイルドシートを設置する場合は、助手席のシートをできるだけ後ろに下げて設置してください。

■チャイルドシートの選びかた

チャイルドシートを購入するときは、シートベルト固定タイプチャイルドシートまたは汎用型 ISOFIX チャイルドシートをお選びください。

シートベルト固定タイプチャイルドシートは、シートベルトを用いて座席に固定します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、セカンドシートに付属しているロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定するため取り付けが簡単です。

■チャイルドシート選択の条件

チャイルドシートが適切な保護効果を発揮するためには、以下の3つの条件を満たしている必要があります。

- チャイルドシートが一覧表に案内されているお子さまに合ったタイプとサイズであること

■ 選択の目安 P.45, 47

- チャイルドシートが取り付ける車の座席にあったものであること
- チャイルドシートが安全基準に適合したものであること
UN-ECE R44 に適合したチャイルドシートをお勧めします。

■チャイルドシートの選びかた

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けが簡単です。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは取り付けを簡単にすることで、不適切な取り付けが原因で起きる傷害を減らすために開発されたものです。

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

この車には様々なタイプのチャイルドシートが利用可能ですが、すべてのタイプが適当であるというわけではありません。
次の表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ベルト固定タイプ チャイルドシート 重量区分	座席位置				
	前席 助手席	二列目席 右側席	二列目席 左側席	三列目席 右側席	三列目席 左側席
グループ 0 ～ 10kg	X	U	U	U	U
グループ 0 + ～ 13kg	X	U	U	U	U
グループ I 9kg ～ 18kg	UF*	U	U	U	U
グループ II 15kg ～ 25kg	UF*	U	U	U	U
グループ III 22kg ～ 36kg	UF*	U	U	U	U

記号の説明

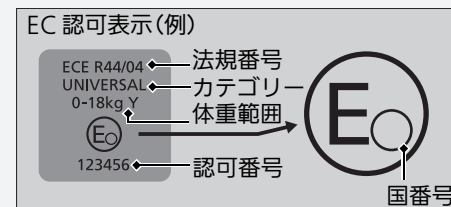
- U : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが取り付け可能です。
 UF : 汎用型(ユニバーサル)チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。
 X : チャイルドシートを取り付けできません。
 ※ : シートバックを最も前のロック位置に調節すること。

■シートベルトで固定するチャイルドシートについて

チャイルドシートに関する国連の安全基準である UN-ECE R44 に適合しているチャイルドシートには、シートベルトで固定する機構が付いています。

チャイルドシートをご購入する際は、重量グループに一致したものをお選びください。

チャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL(汎用)と案内されているものもあります。



シートの種類や取り付けの向きにより固定金具(ロッキングクリップ)が必要になる場合があります。

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

この車のセカンドシートには、汎用型 ISOFIX チャイルドシートを取り付けるためのロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジを装備しています。

次ページの表を参照して、それぞれの着席位置で、どのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

Honda 純正のチャイルドシートをご用意しています。ご購入、ご使用に際しては Honda 販売店にご相談ください。

■選択の目安

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

汎用型 ISOFIX チャイルドシート 重量区分	サイズ 等級	固定具	前席 助手席	座席位置	
				二列目席 左右側席	三列目席 左右側席
キャリコット	F G	ISO/L1 ISO/L2	— —	X X	— —
グループ 0 ～ 10kg	E	ISO/R1	—	X	—
グループ 0 + ～ 13kg	E	ISO/R1	—	IL ^{※1}	—
	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
グループ I 9kg ～ 18kg	D	ISO/R2	—	X	—
	C	ISO/R3	—	X	—
	B	ISO/F2	—	IUF, IL ^{※2}	—
	B1	ISO/F2X	—	IUF, IL ^{※2}	—
グループ II 15kg ～ 25kg	A	ISO/F3	—	IUF, IL ^{※2}	—
	—	—	—	X	—
グループ III 22kg ～ 36kg	—	—	—	X	—

記号の説明

IL^{※1} : Honda Baby ISOFIX、Honda ISOFIX Neo チャイルドシートを後ろ向きに取り付け可能です。

IL^{※2} : Honda ISOFIX Neo チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

IUF : 汎用型(ユニバーサル)ISOFIX チャイルドシートが前向きに取り付け可能です。

X : ISOFIX チャイルドシートを取り付けできません。

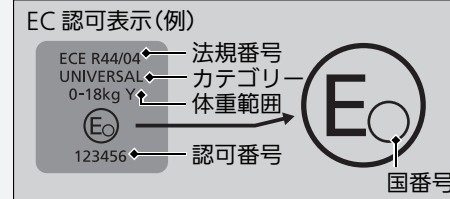
■汎用型 ISOFIX チャイルドシートについて

チャイルドシートをご購入する際は、ISOFIX サイズ等級に一致したものをお選びください。

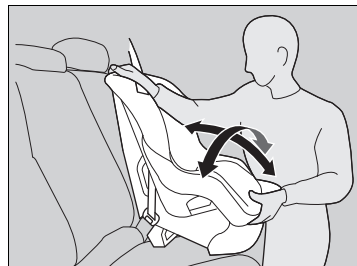
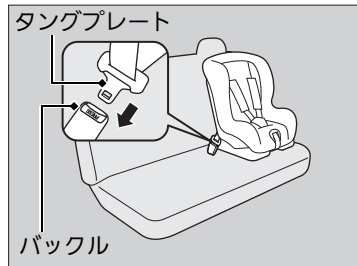
固定具	お子さま の大きさ	使用の 向き	形状、 大きさ
ISO/L1 ISO/L2 ISO/R1	乳児 乳児 乳児	左 右 後ろ	寝台式 寝台式 —
ISO/R2 ISO/R3	幼児 幼児	後ろ 後ろ	小型 大型
ISO/F2 ISO/F2X ISO/F3	幼児 幼児 幼児	前 前 前	低型 低型 全高

Honda 純正 Honda Baby ISOFIX または Honda ISOFIX Neo のご購入は Honda 販売店にご相談ください。

IUF のチャイルドシートには、UN-ECE R44 認可表示と取扱説明書に UNIVERSAL ISOFIX (汎用)と案内があります。



■シートベルトでの取り付け



1. チャイルドシートを座席に置く。
2. シートベルトをチャイルドシートに通し、タングプレートをバックルに差し込む。
▶ このとき、バックルが「カチッ」という音がするまできちんと差し込んでください。
3. チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付ける。
4. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

■チャイルドシートの取り外し

バックルを外し、シートベルトをチャイルドシートから引き抜きます。

※シートベルトでの取り付け



注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。

チャイルドシートの種類によりシートベルトの固定に固定金具(ロッキングクリップ)が必要になります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、セカンドシートに設置できます。チャイルドシートは、ロアアンカレッジとトップテザーアンカレッジで固定します。



1. 背もたれ調節レバーを引きながら、背もたれを倒す。
2. マークの下の子ートクッションと背もたれのすき間からロアアンカレッジを確認する。
▶ ロアアンカレッジを確認したら、背もたれの角度を戻します。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

セカンドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにシートといっしょにチャイルドシートが動き、傷害を受けるおそれがあります。

ロアアンカレッジ周辺に、異物やシートベルトのかみ込みがないか確認する。

異物やシートベルトをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。

チャイルドシートに付属の取扱説明書をよく読んでください。



3. チャイルドシートを座席に置き、チャイルドシートの取扱説明書にしたがってロアアンカレッジに取り付ける。

▶ 取り付けの際に、異物やシートベルトなどがロアアンカレッジにかみ込まないようにしてください。

4. ヘッドレストを調節して最上段で固定し、トップテザーストラップをヘッドレストの外側に通す。

▶ このときトップテザーストラップがねじれないように注意してください。

5. トップテザーストラップをトップテザーアンカレッジに引っ掛け、ストラップを締める。

6. チャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかり固定されていることを確認する。

汎用型 ISOFIX チャイルドシートの取り付け

⚠ 注意

チャイルドシートが確実に固定されているか確認する。

確実に固定されていないと、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートが飛び出し、傷害を受けるおそれがあります。

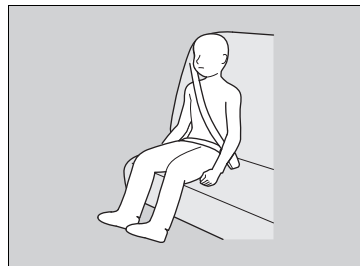
⚠ 注意

トップテザーアンカレッジシンボルが無いフックに、トップテザーストラップを使用しないでください。

大きなお子さまの安全

■ シートの使用について

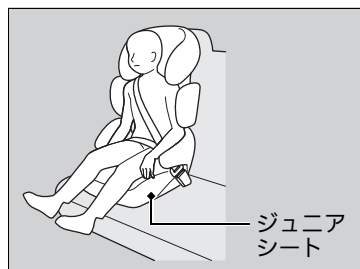
幼児用のチャイルドシートの使用条件を超えるお子さまは、セカンドシートまたはサードシートに乗せて三点式シートベルトを着用させてください。お子さまをシートに深くすわらせ、以下の確認項目でひとつでも適合しない場合、ジュニアシートの使用が必要です。



■ 確認項目

- お子さまのひざがシートの前端で無理なく曲がっているか？
- 肩ベルトがお子さまの首と腕の間にかかっているか？
- 腰ベルトが低い位置にあり、お子さまの太ももに触れているか？
- 乗車中、無理なくすわっていただけるか？

■ ジュニアシートについて



三点式シートベルトを使用できず、ジュニアシートを用いる必要があるお子さまは、ジュニアシートをセカンドシートまたはサードシートに設置して使用してください。

安全のため、お子さまがジュニアシートの使用に適した範囲に入っているか確認してください。

※ 大きなお子さまの安全



お子さまは助手席に乗せない。

お子さまを助手席に乗せると、SRS エアバッグが膨らんだときに、重大な傷害を負うおそれがあります。

やむをえず、助手席にお子さまを乗せる場合は、できるだけシートを後方に下げ、必要ならばジュニアシートを使用し、適切にシートベルトを着用してすわらせてください。

やむをえずお子さまを助手席に乗せる場合は、次ページの注意事項を厳守してください。

※ ジュニアシートについて

ジュニアシートの取り付けについては、ジュニアシートに付属の取扱説明書をよく読み、正しく取り付けてください。

ジュニアシートには、座高の高いものと低いものがあります。お子さまが適切にシートベルトを着用できるものを選択してください。

アームレストを取り外すことで、ジュニアシート使用の際、シートベルトが着用しやすくなります。

■ セカンドシートアームレスト P.160

■ やむをえず、お子さまを助手席に乗せる場合

正しい姿勢ですわる、走行中にシートベルトを着用するなどの規則をお子さまが守ることができ、お子さまを助手席に乗せても安全と判断した場合、下記の項目を守ってお子さまを乗車させてください。

- この取扱説明書をよく読み、シートベルトに関する指示と安全に関して十分に理解する
- 助手席を一番後ろまで下げる
- 上体を起こし、シートに深く腰かけるよう指示する
- お子さまのシートベルトが正しい位置で、しっかり固定されているか確認する

一酸化炭素について

車の排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車をきちんと保守していれば、一酸化炭素が車内に入ることはありません。

以下の場合、排気ガスのもれがないか Honda 販売店で点検を受けてください。

■点検が必要な場合

- 排気音に異常を感じたとき
- 車が衝突し、排気システムが損傷した可能性があるとき

❖一酸化炭素について



警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどして下さい。

ガレージなどの密閉された場所は、一酸化炭素が急に充満するおそれがあります。

ガレージのドアを閉めたままエンジンをかけないでください。ドアが開いている場合でも、ガレージから車を出す直前にエンジンを始動してください。

計器の見かた

この章では、運転中に使用するスイッチや警告灯・表示灯、メーター類に関する情報を記載しています。



警告灯と表示灯

警告灯 55

表示灯 68

マルチインフォメーションディスプレイ*
のメッセージ 74

メーターとインフォメーションディスプレイ

メーター 85

インフォメーションディスプレイ* 86

マルチインフォメーションディスプレイ*... 89

警告灯

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	ブレーキ警告灯 (レッド)	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯(パーキングブレーキをかけているときは点灯) • パーキングブレーキをかけると点灯 • ブレーキフルード量が低下したときに点灯 • ブレーキシステムが異常のときに点灯	• 走行中に点灯したりパーキングブレーキを解除しても点灯するときは、ブレーキフルードを点検し、下限より減っている場合はただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 • ABS 警告灯と同時に点灯した場合も、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 ☑ ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した P.356	パーキングブレーキを解除して下さい  ブレーキ液量低下  ブレーキシステム点検 
	油圧警告灯	• パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 • エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯	• 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、対処してください。 ☑ 油圧警告灯が点灯した P.355	エンジン油圧異常 

計器の見かた

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ブレーキに関係するシステムが異常の時に点灯	運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。	ブレーキシステム点検  ブレーキシステム点検 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	PGM-FI 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - エンジンを始動していないときは数十秒後消灯 - エンジンの排気ガス制御システムに異常があると点灯 - エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅	走行中に点灯＝高速走行を避けてただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 走行中に点滅＝枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分以上エンジンを止めて冷えるのを待ちください。 ■ PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した P.356	
	充電警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - バッテリーが充電されていないと点灯	走行中に点灯＝電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。 ■ 充電警告灯が点灯した P.355	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	トランスミッション警告灯	トランスミッションが異常のときに点滅	運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。	トランスミッション点検 
	シートベルト非着用警告灯	- 運転席および助手席のシートベルトを着用しないと点灯 - パワーモードをONモードにしたときや走行中、運転席または助手席のシートベルトを着用していないとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告灯が点滅	- シートベルトを正しく着用するとブザーがやみ、警告灯が消灯します。 - シートベルトを正しく着用していても警告灯が点灯する場合は、センサーの誤検知などの要因が考えられます。  シートベルトリマインダー P.25	シートベルトを着用して下さい  助手席シートベルトを着用して下さい 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	Honda スマートキーシステム警告灯	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • Honda スマートキーシステムが異常のときに点灯	• 下記のような場合、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 • 運転中に点灯した • エンジン始動後も消灯しない • パワーモードがOFFモードのときに数秒間点灯した • パワーモードをOFFモードにしたときに数秒間点灯した	
	燃料残量警告灯	• 燃料の残量が少なくなると点灯 点灯するのは、タンクに残っている残量がおよそ7.1リットルになったときです。 • 燃料計に異常があるときは点滅	• 点灯したら早めに給油してください。 • 点滅したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	ABS(アンチロックブレーキシステム)警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ABSが異常のときに点灯	点灯したときは、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。 ■ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.270	アンチロックブレーキ点検 
	エアバッグシステム警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - 下記の異常を検知すると点灯 - エアバッグシステムの異常 - プリテンショナーシステム異常	常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。	エアバッグシステム点検 
	VSA(ビークルスタビリティアシスト)警告灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSAが作動しているときは点滅 - ブレーキアシストシステム、ヒルスタートアシストシステム、発進補助ブレーキ機能、VSAシステムのいずれかが異常のときに点灯	運転中に点灯した時は、ただちにHonda販売店で点検を受けてください。なお、点灯の場合でも通常のブレーキ機能としての性能は確保されています。 ■ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.221	VSAシステム点検  ヒルスタートアシストシステム点検 

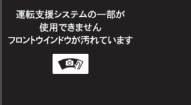
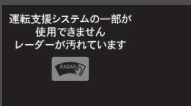
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	VSA OFF 警告灯	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - VSA を OFF にすると点灯	■ VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.221	—
	オートライト コントロール警告灯*	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - オートライトコントロールシステムが異常のとき点灯	運転中に点灯した場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	—
	ドア開閉警告灯*	- ドアが閉まっているときは、パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ドアが完全に閉まっていないとき点灯	ドアを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	—
	テールゲート開 閉警告灯*	- テールゲートが閉まっているときは、パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - テールゲートが完全に閉まっていないとき点灯	テールゲートを完全に閉めると、警告灯が消灯します。	—

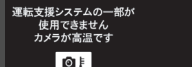
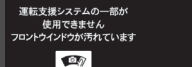
警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - EPSシステムの機能に異常があると点灯	常時点灯、あるいは全く点灯しない場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯が点灯した P.357	
	高水温警告灯(レッド)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - エンジンの冷却水の温度が上がると点滅し、さらに上がると点灯	- エンジン冷却水の温度が低いときは、消灯後ブルーで点灯します。 低水温表示灯(ブルー) P.68 走行中に点滅＝ゆっくり走行してください。 走行中に点灯＝ただちに安全な場所に車を停車し、エンジンを冷やしてください。 オーバーヒート P.354	 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	スターターシステム警告灯*	- パワーモードを ON モードにすると点灯し、エンジン始動で消灯 - スターターシステムが異常のときに点灯	ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまで約 15 秒間押し続けてください。消灯しないときや再び点灯した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)警告灯* (オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ACC システムが異常のときに点灯	運転中に点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)警告灯* (オレンジ)	- パワーモードを ON モードにすると数秒点灯したあと、消灯 - LKAS が異常のときに点灯	常時点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	

計器の見かた

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	CMBS (衝突軽減ブレーキ) 警告灯*	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • CMBSをOFFにしているとき点灯 • CMBS に異常があるとき点灯	• OFFにしていなのに点灯する場合は、いくつかの理由が考えられます。  CMBS (衝突軽減ブレーキ)* P.273	CMBS OFF  CMBSシステム点検 
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下るとシステムは復帰します。	運転支援システムの一部が 使用できません カメラが高温です 

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	CMBS (衝突軽減ブレーキ) 警告灯*	フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	- 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 - 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ フロントセンサーカメラ* P.223 ➡ CMBS (衝突軽減ブレーキ)* P.273	
		フロントグリルが汚れてレーダーセンサーが前の車両を検知しにくいとき点灯	- 安全な場所に停車してフロントグリルの汚れをふき取ってください。 - 汚れが落ちるとシステムは復帰します。 ➡ CMBS (衝突軽減ブレーキ)* P.273	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	路外逸脱抑制機能 警告灯*	• パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 • 路外逸脱抑制機能に異常があるとき点灯	• 点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ内部の温度が高温になると点灯	• エアコンで室内温度を下げるなどしてカメラ内部の温度を下げてください。温度が下がるとシステムは復帰します。	
		• フロントガラス上部にあるカメラ付近に汚れ、氷、霜などの遮蔽物があるとき点灯 雨、霧、雪など悪天候のときも点灯することがあります	• 走行中はウォッシャーとワイパーで汚れなどの遮蔽物を取り除いてください。 • 安全な場所に停車してカメラ付近のフロントガラスの汚れなどの遮蔽物をふき取ってください。 • 汚れが落ちるとシステムは復帰します。	

警告灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
KEY 	Honda スマートキー電池消耗警告灯*	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、ブザーと同時に点灯	電池交換のしかた P.322	—
	アイドリングストップシステム警告灯(オレンジ)	- パワーモードをONモードにする数秒点灯したあと、消灯 - アイドリングストップシステムに異常があるときに点灯	点灯したときは、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。	
	セレクトポジション[P]移動警告灯*	- セレクトレバーが[P]以外のときに、パワーモードがONモードからアクセサリモードになると点灯 - アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると点灯	- パワーモードをOFFモードにしたいときは、セレクトレバーを[P]にして、ブレーキを踏まずに ENGINE START/STOP を2回押してください。 - エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 エンジンの始動 P.200	—
NO KEY	Honda スマートキー持ち去り警告灯*	Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると消灯します。 Hondaスマートキー持ち去り警告 P.140	—

表示灯

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	方向指示器 / 非常点滅表示灯	- 方向指示器と対応し、左右どちらかが点滅 - 非常点滅表示灯スイッチを押すと、左右同時に点滅 - 高速で走行中に急ブレーキをかけると、左右同時に点滅	- 点滅しない / 点滅の周期が速いときは、方向指示器の電球が切れています。ただちに電球を交換してください。 ❑ 電球の交換 P.305, 307, 308 ❑ エマージェンシーストップシグナル P.272	—
	ハイビーム表示灯	ヘッドライトを上向きにしたときに点灯	—	—
	ライト点灯表示灯	ライトスイッチが OFF 以外のときに点灯 (AUTO のときは車幅灯点灯時に点灯)	ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。	—
	フォグライト点灯表示灯	フォグライトを点灯させると点灯	—	—
	低水温表示灯 (ブルー)	エンジン冷却水の温度が低いときに点灯	暖機を十分にした状態で、表示灯が点灯したままのときは、温度センサーなどの異常が考えられます。Honda 販売店で点検を受けてください。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	イモビライザーシステム表示灯	- パワーモードをONモードにする と一瞬点灯し、すぐに消灯 - イモビライザーシステムがキー の情報を認識できないと点滅	- 一瞬の点灯は異常ではありません。 - 点滅しているときは、エンジンを始動 することはできません。 パワーモードをいったんOFFモードに してから、もう一度ONモードにして ください。 - 頻繁に表示灯の点滅を繰り返す場合 は、システムの異常が考えられますの で Honda 販売店で点検を受けてくだ さい。 ENGINE START/STOP スイッチのそ ばに、別のキーや金属があるとイモビ ライザーシステムがキーの情報を読み 取れないことがあります。	—
 表示灯	セキュリティアラームシステム作動表示灯	セキュリティアラームシステム がセットされているときに点滅	 セキュリティアラームシステム P.132	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	クルーズメイン表示灯*	クルーズスイッチを押して、クルーズコントロールをONにすると点灯	 クルーズコントロール* P.218	—
	クルーズコントロール表示灯*	クルーズコントロールで自動定速走行しているときに点灯	 クルーズコントロール* P.218	—
ACC	ACC(アダプティブクルーズコントロール)表示灯*	MAIN スイッチを押して、ACC をON にするとグリーンで点灯	 ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225	—
LKAS	LKAS(車線維持支援システム)表示灯*	MAIN スイッチを押して、LKAS をON にするとグリーンで点灯	 LKAS(車線維持支援システム)* P.237	—
	ECON 表示灯	- パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯 - ECON スイッチを押して、ECON モードにすると点灯	 ECON スイッチ P.215	

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	セレクトポジション表示灯	現在のセレクトレバーのポジションを表示	外気温が低い場合には、セレクトポジションの表示が遅れます。 セレクトレバーの操作 P.208	—
	シフトインジケーター/ M (7速マニュアルシフトモード)表示灯*	- セレクトレバーがSで、7速マニュアルシフトモードのときM表示灯が点灯 7速マニュアルシフトモードのとき、ギヤ位置を表示	7速マニュアルシフトモードとは P.209	—
	アイドリングストップ表示灯(グリーン)	アイドリングストップシステムが作動し、アイドリングストップしたときに点灯	アイドリングストップシステム P.211	アイドリングストップしました 
	ブレーキ踏み込み不足表示灯*	ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに点灯	ブレーキペダルを踏み込んでください。	—
	ハンドル操作表示灯*	ハンドルのロックが解除されていないときに点灯	ENGINE START/STOP を押しながら、ハンドルを左右に動かします。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ マルチインフォメーション ディスプレイ装備車
	インフォメーション表示灯*	異常を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、同時に警告音も鳴り、点灯	- メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたときは、表示灯、警告灯の該当ページを参照して、必要な処置を行ってください。 - メッセージは警告が解除されるか、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すまで通常表示に戻りません。 - 点灯しているときにインフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押すと、メッセージを再表示させることができます。	—

表示灯	名称	点灯 / 点滅する状況	知識	メッセージ インフォメーション ディスプレイ装備車
	エンジンオイルメンテナンス表示灯*	パワーモードをONモードにすると数秒点灯したあと、消灯	エンジンオイルの交換までの目安をインフォメーションディスプレイで確認できます。	
		エンジンオイルの交換時期が近づくと点灯し、SEL/RESET を押すと消灯	- 早めのエンジンオイル交換をお奨めします。 - 残距離の表示が 0km になる前に交換してください。	
		エンジンオイルの交換時期を過ぎると常時点灯	ただちにエンジンオイルを交換してください。 オイルモニターシステム P.296	

マルチインフォメーションディスプレイ*のメッセージ

下記のメッセージはマルチインフォメーションディスプレイにのみ表示されます。
再表示させるときはインフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押してください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	パワーモードが ON モードのときに、外気温が 3℃以下になると 1 回のみ表示	—
	シートベルトを着用しないで、パワーモードを ON モードにすると表示	運転するときには、シートベルトを正しく着用してください。
	スターターシステムが異常のときに表示	ブレーキを踏んだまま、ENGINE START/STOP をエンジンが始動するまでおよそ 15 秒間押し続けてください。表示が消えないときや再び表示した場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

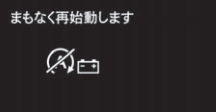
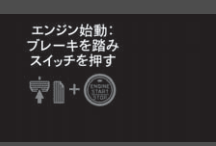
メッセージ	表示される状況	アドバイス
ドアが開いています 	• ドアが完全に閉まっていないときに表示 • 走行中、ドアを開けるとブザーが鳴り、ブザーが鳴っている間は警告メッセージが表示	• ドアを完全に閉めると、表示が消えます。
テールゲートが開いています 	• テールゲートが完全に閉まっていないときに表示	• テールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
ドアとテールゲートが開いています 	• ドアとテールゲートが完全に閉まっていないときに表示	• ドアとテールゲートを完全に閉めると、表示が消えます。
キーが見つかりません 	• パワーモードがON モードで、Honda スマートキーを車外に持ち出し、ドアを閉めたときに、警告音と同時に表示	• Honda スマートキーを車内に戻してドアを閉めると、警告が解除されます。 ■ Honda スマートキー持ち去り警告 P.140

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときに、警告音と同時に表示	電池交換のしかた P.322
	ロービームヘッドライトの機能に異常があると表示	運転中に表示された場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。
	オートライトコントロールシステムに異常があると表示	運転中に表示された場合は、ライトの点灯、消灯は手動で行い、Honda 販売店で点検を受けてください。 ライトスイッチ P.142
	セレクトレバーが[P]以外のとき、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ設定をする则表示	カスタマイズのしかた P.98
	ECON スイッチを押して、ECON モードをOFFにすると表示	ECON スイッチ P.215

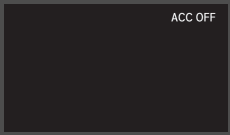
メッセージ	表示される状況	アドバイス
	メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車 ルート案内の際に、交差点案内表示が表示	📍 メーカーオプションの Honda インターナビシステム
スイッチを2回押して電源をOFFして下さい 	パワーモードがアクセサリモードのときに運転席のドアを開けると表示	ブレーキペダルを踏まずに ENGINE START/STOP を2回押して、パワーモードを OFF モードにしてください。 📍 ENGINE START/STOP スイッチ P.138
エンジン始動: ブレーキを踏み スイッチを押す 	パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに表示	📍 エンジンの始動 P.200
キーでスイッチに触れて下さい 	Honda スマートキーの電池残量が少なくなったときや Honda スマートキーが車内にいないときに ENGINE START/STOP スイッチを押すと、警告音と同時に表示	📍 Honda スマートキーの電池が切れたとき P.349

メッセージ	表示される状況	アドバイス
アクセサリモードです 	パワーモードがアクセサリモードのときに表示	—
充電システム点検 	- 充電システム関連の機能に異常があると表示 - バッテリーが充電されていないと表示	- ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。 バッテリー充電警告灯が同時に点灯しているとき = 電気の消費量を減らすため、エアコンやリヤデフロスターなどを OFF にし、対処してください。  充電警告灯が点灯した P.355
ボンネットが開いています 	ボンネットが完全に閉まっていないときに表示	ボンネットを完全に閉めてください。
アイドリングストップできません 	- 何らかの理由により、アイドリングストップできないときに表示 - エンジンが自動的に再始動したときに表示 - バッテリーの内部温度が 5℃以下のときに表示	 アイドリングストップシステム P.211

メッセージ	表示される状況	アドバイス
アイドリングストップ できません 	バッテリーの充電量が少ない状態でアイドリングストップできないときに表示	- バッテリーが完全に充電されていても表示されることがあります。しばらく走行すると表示が消えます。 - バッテリーの充電後や、ジャンプスタートを行った後にこの表示が出た場合には、バッテリーの⊖端子を外し、もう一度バッテリーの⊖端子にケーブルを接続し、数分の間運転してください。 📖 アイドリングストップシステム P.211
アイドリングストップ できません 	エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくて、アイドリングストップできないときに表示	📖 アイドリングストップシステム P.211
アイドリングストップ できません 	エンジン冷却水の水温が低いとき、または高くしてアイドリングストップできないときに表示	📖 アイドリングストップシステム P.211
ブレーキペダルを さらに踏んで下さい 	ブレーキペダルの踏み込みが足りないため、アイドリングストップしないときに表示	ブレーキペダルを踏み込んでください。

メッセージ	表示される状況	アドバイス
 セレクトレバーを パーキングにしてください	- セレクトレバーが[P]以外のときにエンジンが停止して、自動的に再始動しないときに表示 - アイドリングストップ中に、ボンネットなどを開けると点灯	- パワーモードを OFF モードにしたいときは、セレクトレバーを[P]にしてください。 - エンジンを始動させたいときは、通常のエンジンの始動操作をしてください。 🔧 エンジンの始動 P.200
 まもなく再始動します	- アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示 - バッテリーの充電量が少なくなったとき - バッテリーの内部温度が 5℃以下になったとき	数秒後にエンジンが自動的に再始動します。
 まもなく再始動します	- アイドリングストップ中に、以下の状態となったときに表示 - エアコン使用中で、設定温度と車内の温度差が大きい - 車内の湿度が高い	数秒後にエンジンが自動的に再始動します。
 エンジン始動： ブレーキを踏み スイッチを押す	- アイドリングストップ中に、以下の状態のためエンジンが自動的に再始動しないときに表示 - ボンネットが開いている - アイドリングストップを続けることができないシステムの異常	- ボンネットを閉めてください。 - エンジンを再始動してください。 🔧 エンジンの始動 P.200

メッセージ	表示される状況	アドバイス
スイッチを押し ハンドルを回して下さい 	ハンドルのロックが解除されていないときに表示	ハンドルを左右に動かしながら ENGINE START/STOP を押してください。
まもなくエンジンオイル 交換時期です A 	エンジンオイルの交換時期が近づくと表示	早めのエンジンオイル交換をお奨めします。
エンジンオイルを 交換して下さい A 	エンジンオイルの交換時期に表示	エンジンオイルを交換してください。 オイルモニターシステム P.296
エンジンオイル 交換時期を過ぎています A 	エンジンオイルの交換時期を過ぎると表示	ただちにエンジンオイルを交換してください。 オイルモニターシステム P.296

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	ACC の作動が自動的に解除されたとき	ACC が自動解除になった原因が解決された場合、[RES/+]を押すことにより、元の設定速度に戻すことができます。 ☒ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225
	衝突の可能性があるときブザーが断続的に鳴り警告が点滅	☒ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225
運転支援システムの一部が 使用できません レーダーが汚れています 	フロントグリルに遮蔽物があり前の車両等が検知しにくくなり、ACC が使用できなくなると表示	安全な場所でフロントグリルの遮蔽物を拭き取ってください。 ☒ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	車線を越えそうになると、ハンドルの振動による警告と同時に表示	ハンドル操作をして、車線の中央を走行してください。しばらくすると、警告メッセージが消えます。 ■ LKAS(車線維持支援システム)* P.237 ■ 路外逸脱抑制機能* P.249
	ハンドルから手を放したまま走行すると、警告音と同時に点滅	ハンドル操作をすると、警告メッセージが消えます。 ■ 路外逸脱抑制機能* P.249
	LKASシステムに異常が起こりLKASの作動が解除されたとき、またはLKASシステムに異常がある場合にLKASスイッチを押したときに警告音と同時に表示	VSA 警告灯、ABS 警告灯、ブレーキシステム警告灯と同時に点灯した場合は、ただちにHonda 販売店で点検を受けてください。 ■ LKAS(車線維持支援システム)* P.237

メッセージ	表示される状況	アドバイス
	フロントセンサーカメラの温度が異常に上がり、ACC、LKAS、標識認識機能が使用できなくなると表示	- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。 ☒ フロントセンサーカメラ* P.223 ☒ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225 ☒ LKAS(車線維持支援システム)* P.237 ☒ 標識認識機能* P.257
	フロントガラスに遮蔽物があるとき、ACC、LKAS、標識認識機能が使用できなくなると表示	- 安全な場所でフロントガラスの遮蔽物を取り除いてください。 ☒ フロントセンサーカメラ* P.223 ☒ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225 ☒ LKAS(車線維持支援システム)* P.237 ☒ 標識認識機能* P.257

メーターとインフォメーションディスプレイ

メーター

メーターには、スピードメーター、燃料計などの種類があります。
パワーモードが ON モードのとき表示されます。

スピードメーター

走行速度を km/h で表示します。

燃料計

燃料タンクに残っている、燃料の量を表示します。

タコメーター

1 分間あたりのエンジン回転数を表示します。

燃料計

アドバイス

燃料計が **E** に近づいたら、早めに給油してください。

燃料がなくなるとエンジンが点火しなくなり、触媒装置を損傷することがあります。

実際の燃料残量と、メーターに表示される量は異なる場合がありますので、ご注意ください。

タコメーター

アドバイス

エンジン故障の原因となりますので限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないよう運転してください。

特に、高速走行時にシフトダウンするときには、注意してください。

セレクトレバーが **R** のときや、空ぶかしをしたときは、エンジンの限界回転数より低い回転数でも、トランスミッション保護のため燃料供給が停止されます。

インフォメーションディスプレイ*

インフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示などが表示されます。

表示の切り換えかた

SEL/RESET を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。

表示の切り換えかた

メーカーオプションの Honda
インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる P.112



瞬間燃費表示、
時計、
オドメーター、
TRIP A、
外気温表示



瞬間燃費表示、
時計、
航続可能距離表示
(RANGE)、
TRIP A、
外気温表示



瞬間燃費表示、
時計、
平均燃費表示 A
(AVG)、
TRIP A、
外気温表示



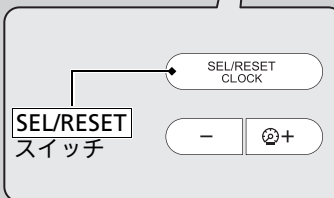
時計調節*



瞬間燃費表示、
時計、
オイルモニター
システム表示



瞬間燃費表示、
時計、
平均燃費表示 B
(AVG)、
TRIP B、
外気温表示



■ オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■ トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■ トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、**SEL/RESET** を押し続けてください。
トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■ 瞬間燃費表示

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

■ 平均燃費表示(AVG)

トリップメーターA、B と連動し、平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。
トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■ 航続可能距離表示(RANGE)

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

※ トリップメーター

トリップメーターA とトリップメーターB は、**SEL/RESET** を押して切り換えます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

※ 平均燃費表示(AVG)

表示される平均燃費は、実際に走行した燃費とは異なる場合があります。
停車時または低速走行中にリセットした場合は、走行を始めてから燃費の計算を開始します。

※ 航続可能距離表示(RANGE)

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

■ 外気温表示

外気温を測定し表示します。

■ 外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。

補正するには、**SEL/RESET** を押し続け、設定したい補正値が表示されたら指を離します。

■ オイルモニターシステム表示

エンジンオイルの交換時期の目安を表示します。

🔍 **オイルモニターシステム** P.296

🔍 外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。

また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

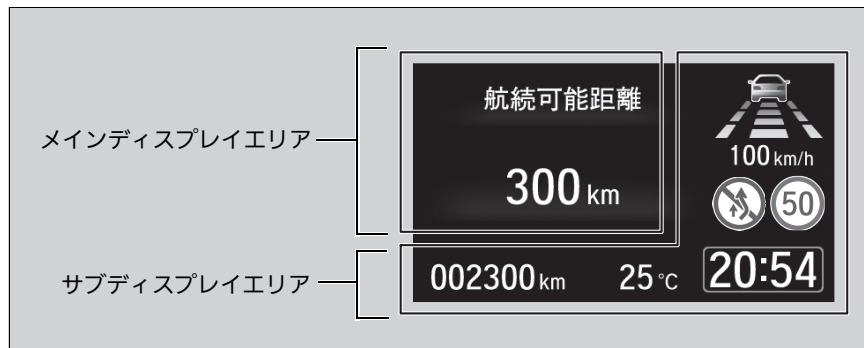
外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合は、外気温表示が数秒点滅します。

マルチインフォメーションディスプレイ*

マルチインフォメーションディスプレイには、オドメーター、トリップメーター、外気温表示、燃費情報などが表示されます。

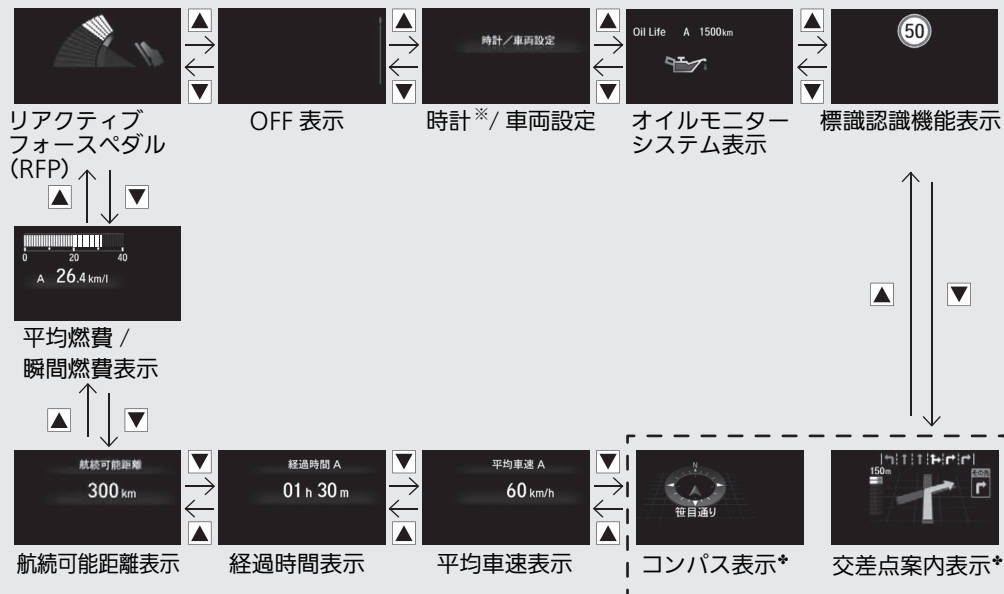
また、異常を検知すると警告メッセージが表示されます。



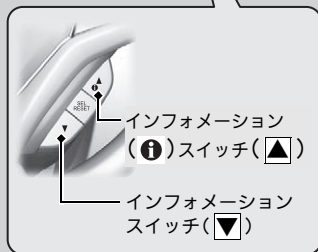
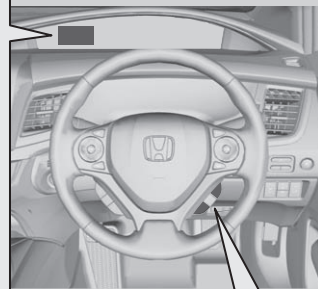
表示の切り換えかた

メインディスプレイエリア

インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を操作すると、表示が下記のように切り換わります。

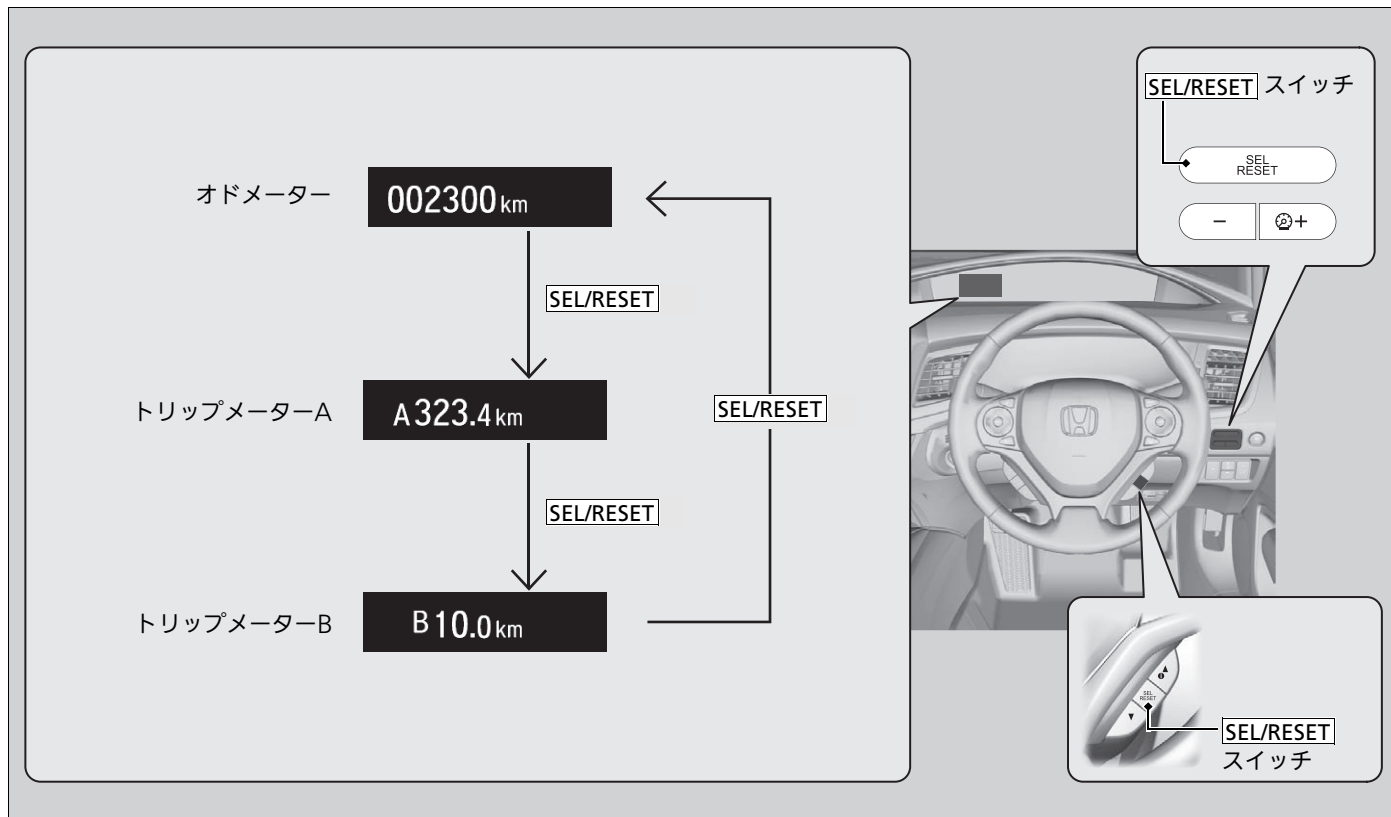


※：メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車



サブディスプレイエリア

SEL/RESET を押すごとに、表示が下記のように切り換わります。



■オドメーター

走行距離の累計を km で表示します。

■トリップメーター

リセットしてからの走行距離を km で表示します。
トリップメーターA と、トリップメーターB があり、それぞれ独立して計測するため 2 つの走行距離を知ることができます。

■トリップメーターをリセットするには

トリップメーターが表示されている状態で、**SEL/RESET** を押し続けてください。
トリップメーターが 0.0 にリセットされます。

■外気温表示

外気温を測定し表示します。

■外気温表示を補正するには

外気温とメーターの表示温度に差がある場合、 $\pm 3^{\circ}\text{C}$ の範囲で補正することができます。補正するには、マルチインフォメーションディスプレイのカスタマイズ機能を使用します。

❑ カスタマイズ機能 P.96

❑トリップメーター

トリップA とトリップB は、**SEL/RESET** を押して切り換えます。

トリップメーターは走行距離が 9999.9km を超えると、0.0km に戻ります。

❑外気温表示

温度センサーはフロントバンパー付近に付いています。

速度がおよそ 30km/h 以下のときは、表示される温度が、路面の熱、エンジンの熱、周囲の車の排気ガスの影響を受けることがあります。また、温度の読み取り値が安定するまで更新されないため、温度表示の更新に数分かかることがあります。

外気温表示の補正は、温度が安定してから行ってください。

パワーモードをONモードにしたとき、外気温が 3°C 以下の場合は、外気温低下メッセージが表示されます。

平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

■平均燃費

トリップメーターA、B と連動し、それぞれの平均燃費を一定時間ごとに更新して km/l で表示します。

トリップメーターをリセットすると、平均燃費表示も同時にリセットされます。

■瞬間燃費

瞬間燃費をバーグラフに km/l で表示します。

航続可能距離表示

燃料残量と平均燃費をもとに推定航続可能距離を km で表示します。

▶▶ 平均燃費表示 / 瞬間燃費表示

表示される平均燃費は実際に走行した燃費と異なる場合があります。

トリップメーターA、B と平均燃費表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

▶ カスタマイズ機能 P.96

▶▶ 航続可能距離表示

表示される航続可能距離は、実際に航続可能な距離とは異なる場合があります。

経過時間表示

トリップメーターA、B と連動し、エンジンを始動してから停止するまでの時間を表示します。

平均車速表示

トリップメーターA、B と連動し、それぞれのトリップメーターをリセットしてからの平均車速を km/h で表示します。

時計

時刻を表示します。

メーカーオプションの Honda
インターナビシステム非装備車

時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h)を変えたり時刻調整をすることができます。

🔧 時計の設定 P.113

経過時間表示

経過時間表示は99時間59分まで表示できます。

トリップメーターA、B と経過時間表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.96

平均車速表示

トリップメーターA、B と平均車速表示 A、B を給油と連動させて自動的にリセットさせることができます。

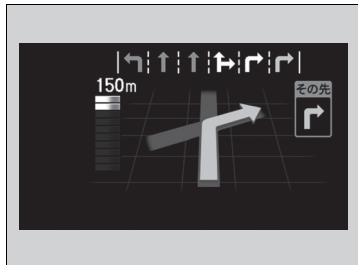
🔧 カスタマイズ機能 P.96

時計

メーカーオプションの Honda
インターナビシステム装備車

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

交差点案内表示 / コンパス表示*



ナビゲーションシステムによるルート案内の際に、交差点や分岐点などで進路案内を表示します。

■ メーカーオプションのHondaインターナビシステム

交差点案内表示 / コンパス表示*

交差点案内表示を選択しているとき、案内する項目がない場合はコンパスが表示されます。交差点案内表示の ON/OFF を選択することができます。

■ カスタマイズ機能 P.96

ACC(アダプティブクルーズコントロール)/LKAS 表示

ACC/LKAS の現在の状態を表示します。

■ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225

■ LKAS(車線維持支援システム)* P.237

標識認識機能表示

走行中に認識した最高速度、はみ出し通行禁止、一時停止、車両進入禁止の道路標識情報を表示します。

■ 標識認識機能* P.257

オイルモニターシステム表示

エンジンオイルの交換時期の目安を表示します。

■ オイルモニターシステム P.296

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイを使って、下表の機能をお好みに合わせてカスタマイズ(設定変更)することができます。

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
時計設定*	時刻調整	時間(00 ~ 23)、分(00 ~ 59)
	時計表示	24h、12h※、非表示
	運転支援システム設定	CMBS 警報距離
		Far、Normal※、Near
	ACC 先行車検知音	有り、無し※
	先行車発進お知らせ設定	標準※、早め、OFF
	路外逸脱抑制システム設定	アシストタイミング標準※、アシストタイミング遅め、操舵アシストなし警報のみ
	リアクティブフォースペダル(RFP)	強、弱、標準※
メーター設定	標識認識機能 常駐表示	ON※、OFF
	外気温表示補正	-3℃ ~ ±0℃※ ~ +3℃
	TRIP A 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	TRIP B 自動リセットタイミング	給油連動、IGN OFF 連動、手動のみ※
	アンビエントメーター照明色変化設定	ON※、OFF
	アイドリングストップ状態表示	ON※、OFF
	交差点案内表示*	ON※、OFF
	Honda スマートキーシステム設定	アンサーバックブザー音量
		大※、小
	ドアハンドル操作アンサーバックブザー	作動※、非作動

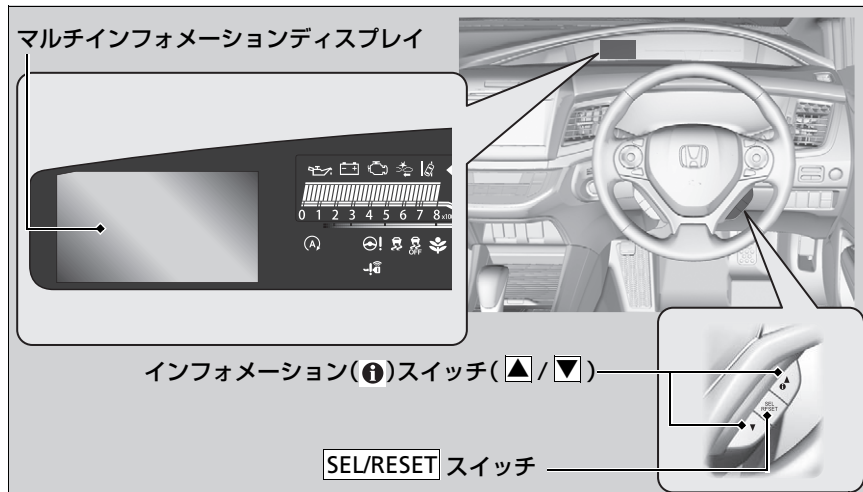
※：工場出荷時の設定

カスタマイズ機能		選択できる設定内容
ライティング設定	インテリアライト点灯時間	60 秒、30 秒※、15 秒
	オートライト感度	MAX、HIGH、MID※、LOW、MIN
ドア設定	自動ドアロック連動機能	車速連動※、シフト連動、非連動
	自動ドアアンロック連動機能	シフト連動※、IGN OFF 連動、非連動
	キーレスアンサーバック	作動※、非作動
	キーレスリロック時間	90 秒、60 秒、30 秒※
	セキュリティ機能	作動※、非作動
メンテナンス設定		キャンセル、リセット
工場出荷設定		中止、実行

※：工場出荷時の設定

■ カスタマイズのしかた

パワーモードが ON モードで、セレクトレバーが[P]のときに、インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押して「時計*/ 車両設定」を選択します。そして [SEL/RESET] を操作すると、カスタマイズを行なうことのできる「カスタマイズグループ」画面に切り換わります。



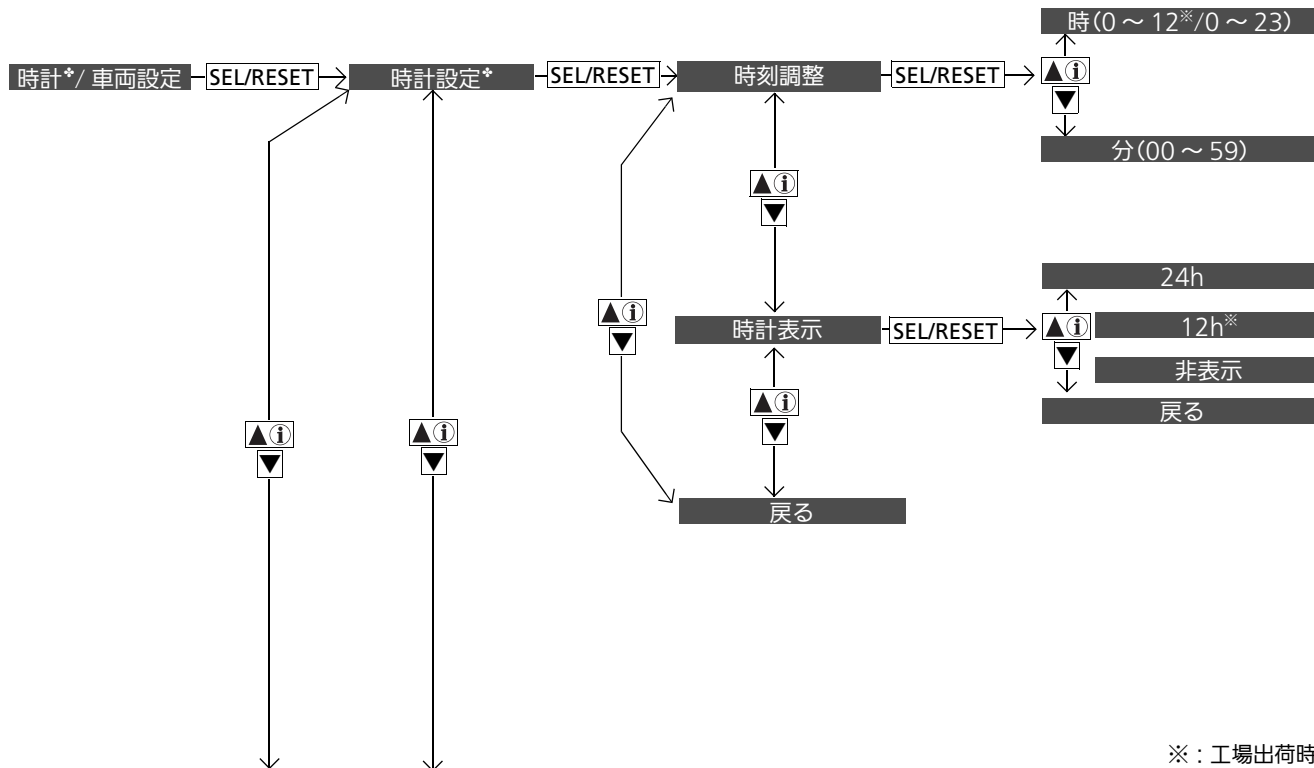
■ カスタマイズのしかた

❶ カスタマイズ操作一覧 P.99

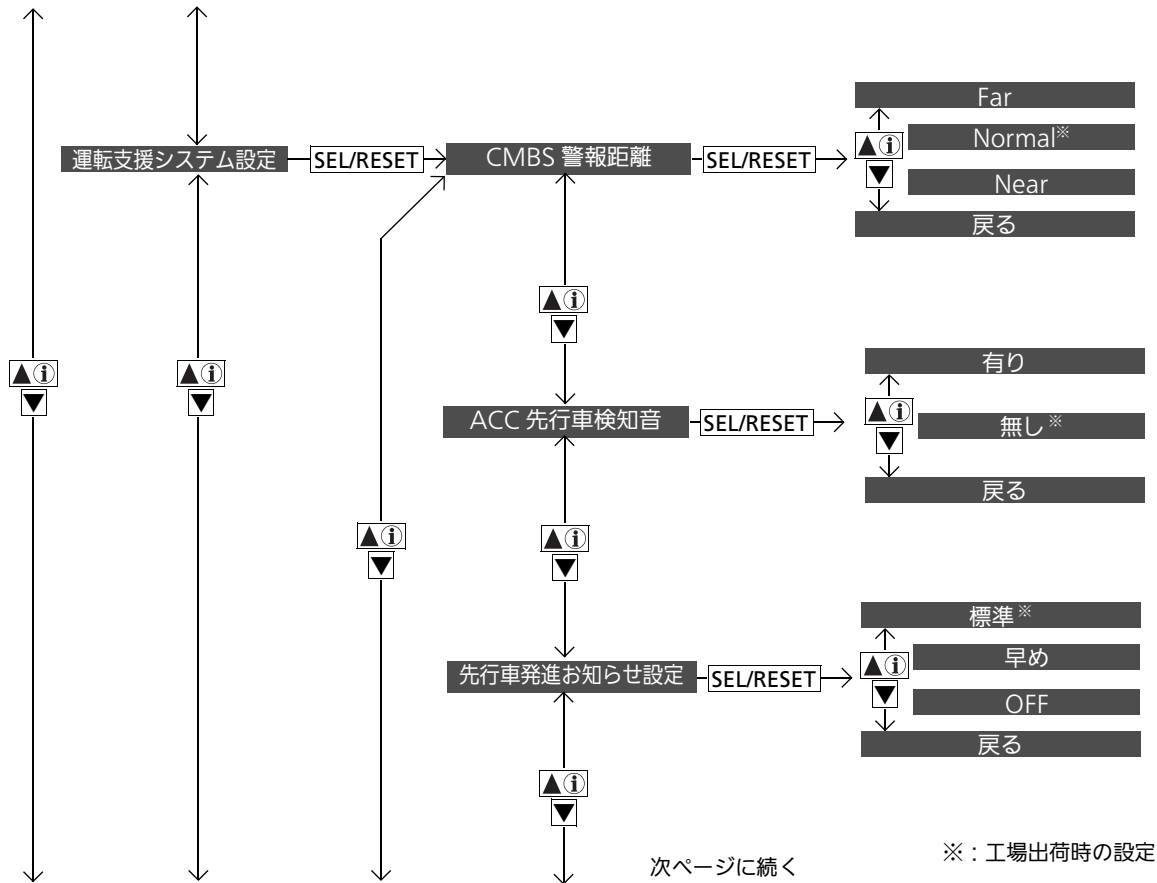
❷ カスタマイズ設定の例 P.107

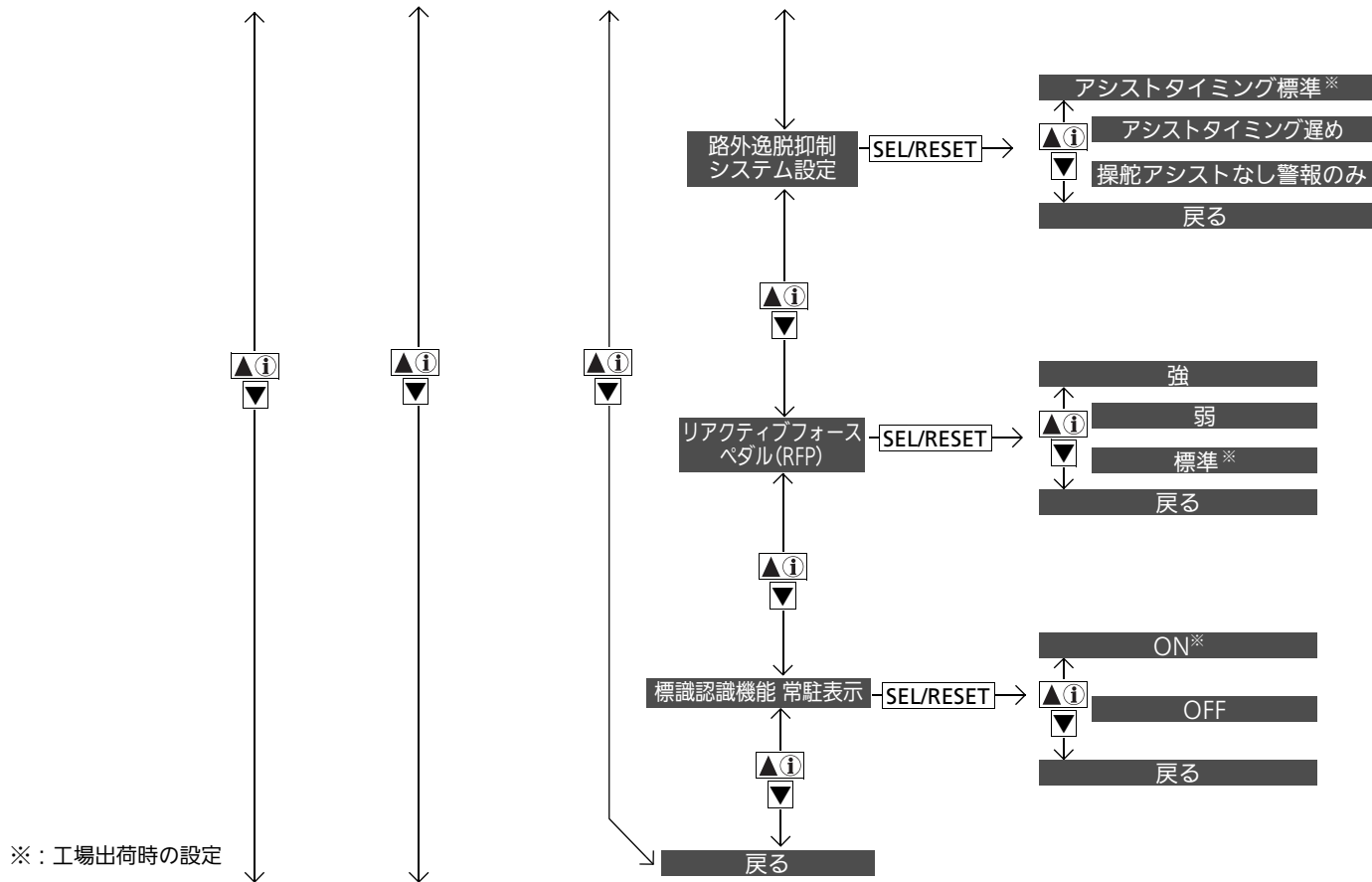
■カスタマイズ操作一覧

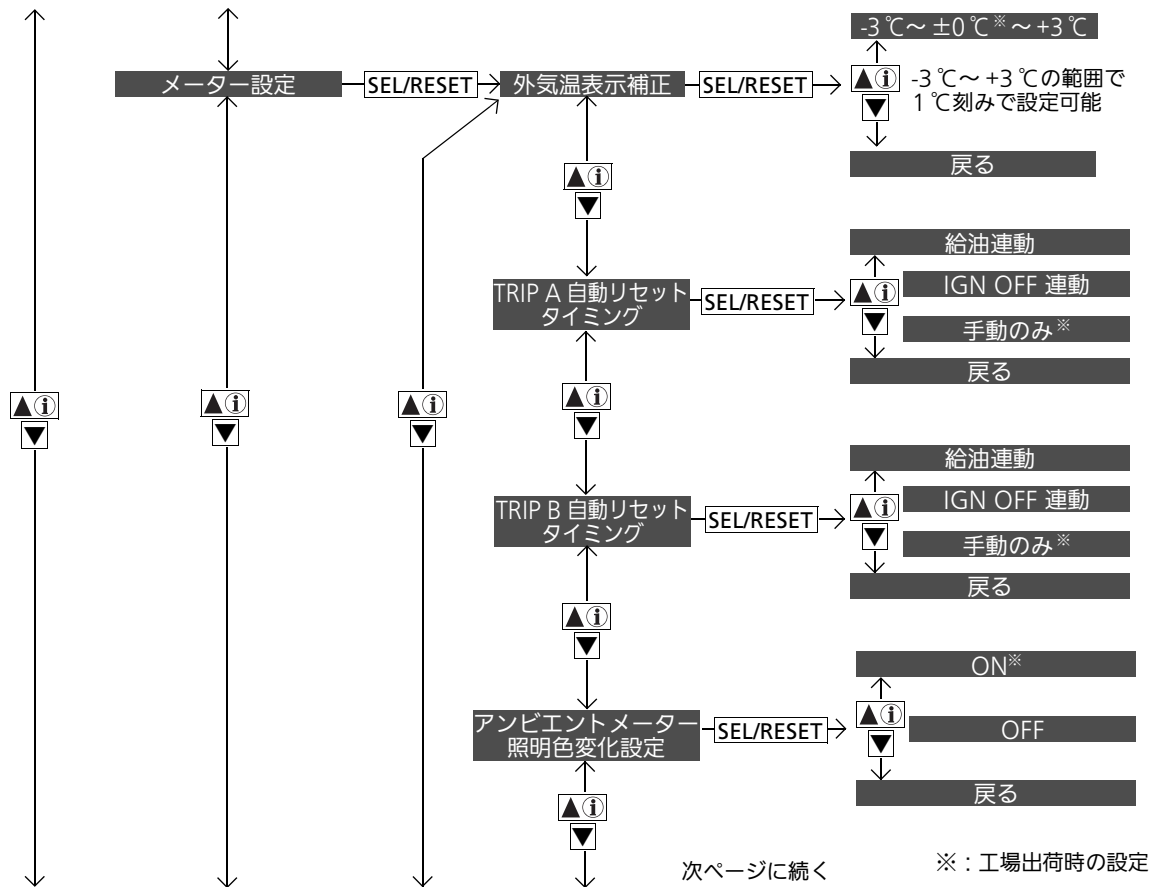
インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)でメニューまたは設定値を切り換え、**SEL/RESET** スイッチで決定します。



※：工場出荷時の設定

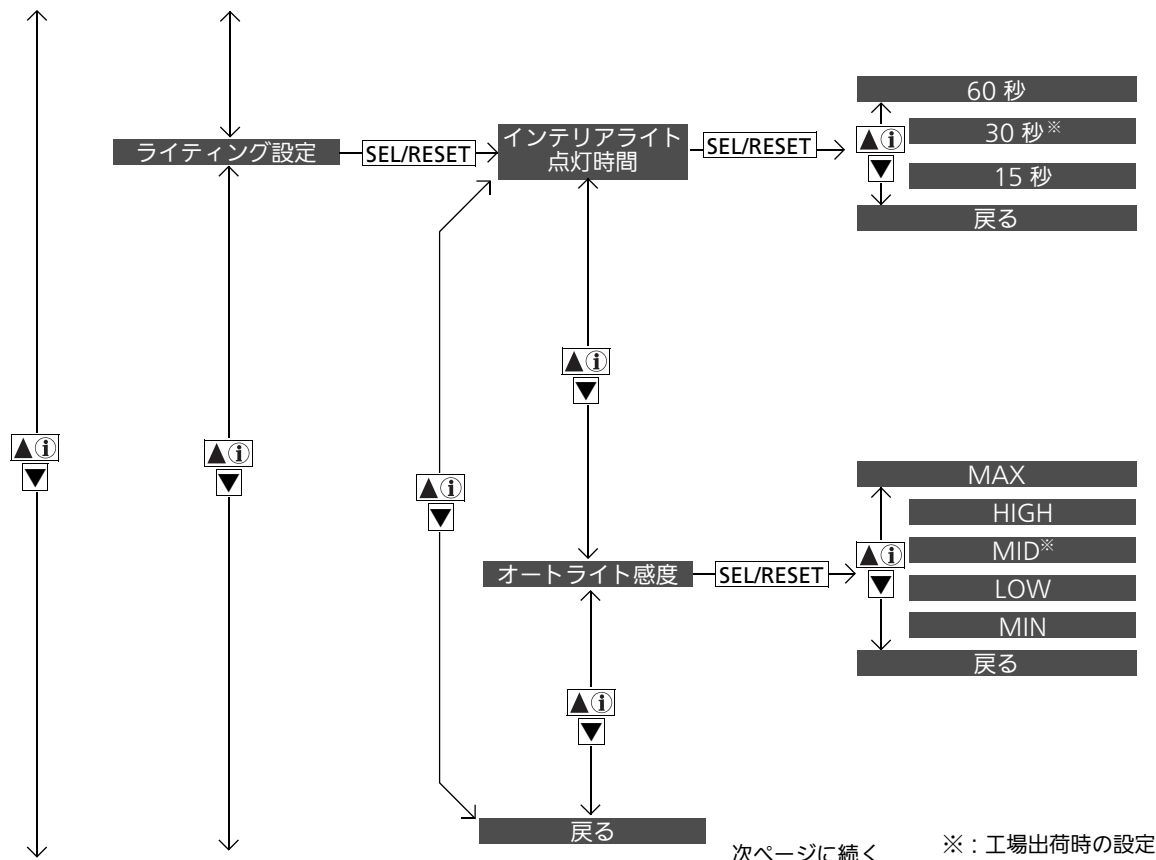


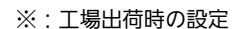


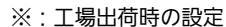




次ページに続く



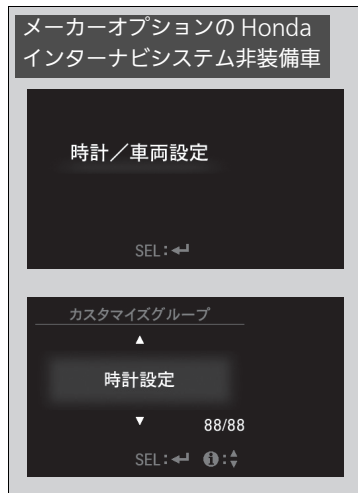




■カスタマイズ設定の例

例えば「TRIP A 自動リセットタイミング」を「給油連動」にする場合、下記の手順で設定します。

「TRIP A 自動リセットタイミング」は工場出荷時の設定では「手動のみ」になっています。



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計*/ 車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム非装備車

- ▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

- ▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「運転支援システム設定」が表示されます。

※カスタマイズのしかた

カスタマイズ操作の途中で以下の操作を行うと、設定は変更されず元の設定のままとなります。

- パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにする
- セレクトレバーを **P** 以外にする



2. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「メーター設定」を表示する。
3. **SEL/RESET** を操作する。
▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、最初に「外気温表示補正」が表示されます。



4. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「TRIP A 自動リセットタイミング」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「手動のみ」が表示されます。



5. インフォメーション(ℹ)スイッチ(▲/▼)を押し、「給油連動」を表示する。
6. 「給油連動」が選択されていることを確認し、**SEL/RESET** を操作する。
▶「給油連動に設定しました」という画面が表示された後、「カスタマイズメニュー」画面に戻ります。



7. インフォメーション(**i**)スイッチ(▲/▼)を押し、「戻る」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
8. 手順7の操作を通常画面に戻るまで繰り返す。

各部の操作

この章では、運転に必要な各部の操作方法について記載しています。

時刻の設定.....	111
ドアの施錠と解錠	
キーの種類と機能.....	116
車外でのドアの施錠 / 解錠.....	119
車内での施錠 / 解錠.....	123
チャイルドプーフ.....	129
テールゲートの開閉	130
セキュリティシステム	
イモビライザーシステム.....	132
セキュリティアラームシステム.....	132
ウィンドーの開閉	134

ハンドルまわりのスイッチ操作	
ENGINE START/STOP スイッチ.....	138
方向指示器(ウィンカースイッチ).....	141
ライトスイッチ.....	142
フォグライトスイッチ.....	143
ワイパー/ ウォッシャー.....	144
イルミネーションコントロール.....	146
リヤデフロスター/ ヒーテッドドアミラー.....	147
ハンドルの調節.....	147
ミラー類の調節	148

シートの調節	150
ヘッドレスト.....	158
アームレスト.....	160
室内灯 / 室内装備品	161
エアコン	
エアコンの吹き出し口.....	173
オートエアコンの使いかた.....	174
オートエアコンのセンサー.....	177
ETC について*	178
ETC の使いかた*	182

メーカーオプションの Honda インターナビシステム装備車

時計は人工衛星からの情報を利用していますので、時刻合わせは不要です。
メーターに表示されている時計もナビシステムの時計表示に連動します。

カスタマイズの詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

メーカーオプションの Honda
インターナビシステム非装備車

時計の時刻を合わせる

時計はマルチインフォメーションディスプレイ* またはインフォメーションディスプレイ* に表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車



1. **SEL/RESET/CLOCK** を押して、時計調節表示にする。
2. **SEL/RESET/CLOCK** を長押しする。
 - ▶ 長押しを繰り返すたびに、12H/24H/OFF に切り換わります。
 - ▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
 - ▶ 「OFF」を選択すると時計が非表示となります。
3. **+**/**-** スイッチを押して時刻を合わせる。
 - ▶ スイッチを 1 回押すと数字はひとつだけ進み(減り)、スイッチを押し続けると数字が進み(減り)続けます。
 - ▶ **+** スイッチを押して「分」が 59 から 00 に進むと同時に「時間」がひとつ進みます。 **-** スイッチを押して「分」が 00 から 59 に減ると同時に「時間」がひとつ減ります。
4. **SEL/RESET/CLOCK** を押す。
時間表示設定が完了し、画面に設定した時間が表示されます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車



時計は、マルチインフォメーションディスプレイで時計表示(24h/12h/ 非表示)を切り変えたり時刻調整をすることができます。



1. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. **SEL/RESET** を操作する。
▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。



3. **SEL/RESET** を操作する。
▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり、「時」の調整ができます。
4. インフォメーション(**i**)スイッチ(**▲**/**▼**)を押し、希望の数値が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「時」が設定され、「分」の調整ができます。
5. インフォメーション(**i**)スイッチ(**▲**/**▼**)を押し、希望の数値が表示されたら、**SEL/RESET** を操作する。
▶「分」が設定され、通常画面に戻ります。

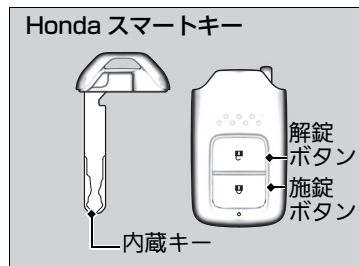
■時間表示の選択



1. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計 / 車両設定」が表示されたら、**[SEL/RESET]**を操作する。
 - ▶「カスタマイズグループ」画面に切り換わり、「時計設定」が表示されます。
2. **[SEL/RESET]**を操作する。
 - ▶「カスタマイズメニュー」画面に切り換わり、「時刻調整」が表示されます。
3. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押し、「時計表示」を表示する。
4. **[SEL/RESET]**を操作する。
 - ▶「カスタマイズセットアップ」画面に切り換わり時計表示設定ができます。
5. インフォメーション(❶)スイッチ(▲/▼)を押す。
 - ▶ 24h/12h/非表示に切り換えることができます。
 - ▶ 「12h」または「24h」を選択すると時計の時間表示が 12 時間または 24 時間に切り換わります。
 - ▶ 「非表示」を選択すると時計が非表示となります。
6. **[SEL/RESET]**を操作する。
 - ▶ 時計表示設定が完了し、通常画面に戻ります。

キーの種類と機能

この車には、以下のキーが付いています。



エンジンの始動、停止のほかに、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠に使用できます。

キーについているボタンで、すべてのドア、テールゲートの施錠 / 解錠の操作ができます。

■キーの種類と機能

キーには、イモビライザーシステムがついています。イモビライザーシステムは、車両を盗難から守るためのシステムです。

■イモビライザーシステム P.132

キーには、精密な電子部品が組み込まれています。

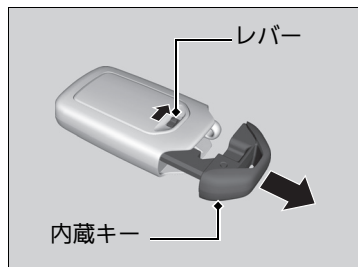
故障を防ぐため、下記の点をお守りください。

- 直射日光が当たる場所、高温、多湿の場所に置かない
- キーを落としたり、重いものをのせない
- キーに液体をかけない
- 分解をしない
- 火であぶらない
- テレビ、オーディオなど磁気を帯びた機器の近くに置いたりしない

キーの電子部品が故障すると、エンジンの始動やリモート発信が作動しなくなることがあります。

キーが正常に作動しなくなった場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ Honda スマートキー



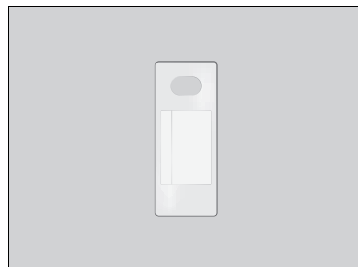
Honda スマートキーの電池が切れたときや車のバッテリーがあがったときは、内蔵キーを使用してください。

内蔵キーは、レバーを引きながら取り出します。

収納するときは、カチッと音がするまで差し込みます。

Honda スマートキーの電池の消耗や故障したときのことを考慮して、内蔵キーはHonda スマートキーに収納しておいてください。

■ キーナンバータグ



キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。

☒ Honda スマートキー

Honda スマートキーは、特定小電力無線設備の技術基準適合証明を受けています。以下のことをお守りください。

- 日本国内でのみ使用する
- 電池交換時以外は分解しない
- 改造しない
- キーの内部にある技術基準適合表示を故意に消去、改ざんしない

分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。

☒ Honda スマートキーの電池が切れたとき
P.349

☒ キーナンバータグ

キーナンバータグは、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。

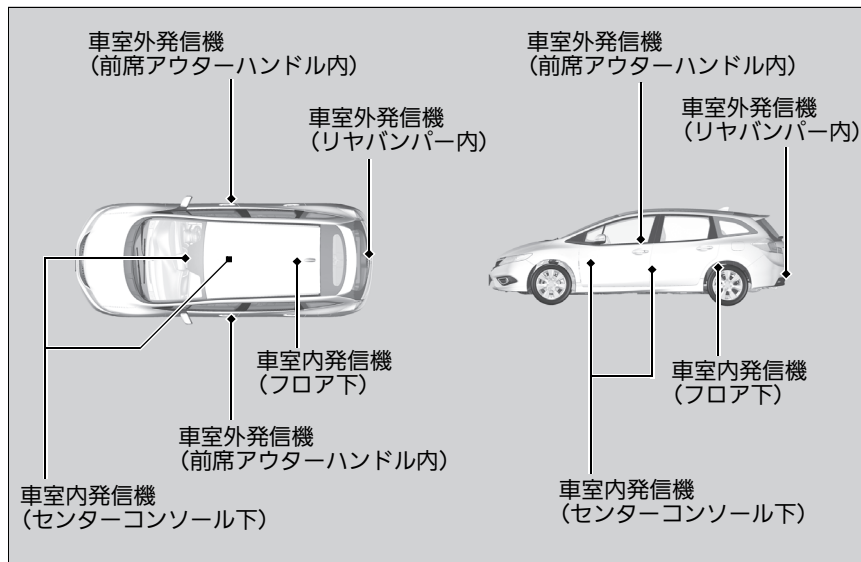
キーナンバータグには、キーを購入する際に必要となる番号が記載されています。キーと一緒に保管せず、車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときや、追加購入したいときは、Honda 販売店に依頼してください。

Honda スマートキーの微弱電波

Honda スマートキーを使用してドア、テールゲートの施錠 / 解錠操作をするときやエンジンを始動するとき、Honda スマートキーとの電子照合を行うために車両から電波が発信されます。

そのため、次のような場合正常に作動しなかったり、不安定な動作となったりすることがあります。

- 近くに強い電波を発する設備があるとき
- 携帯電話や無線機などの通信機器やノートパソコンと一緒に Honda スマートキーを携帯しているとき
- Honda スマートキーが金属物に触れていたり覆われていたりするとき



⚠Honda スマートキーの微弱電波



注意

植え込み型心臓ペースメーカおよび植え込み型除細動器を使用しているかたは、車両に搭載されている発信機から 22cm 以内に近づかない。

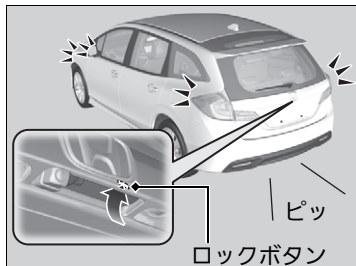
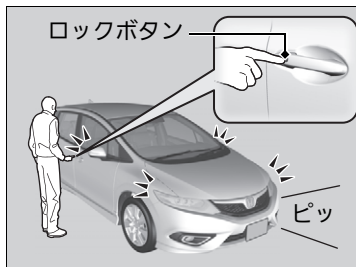
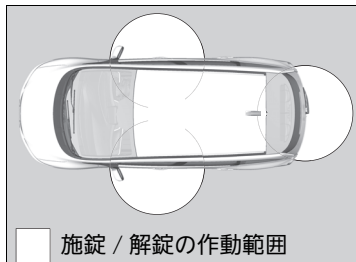
Honda スマートキーシステムで発信されている電波が、機器の作動に影響を与える可能性があります。医療用電子機器を使用しているかたは、医師や医療用機器製造者に影響を確認してからご使用ください。

Honda スマートキーは車両との通信のために常時受信動作をしているため、常に電池を消耗しています。電池寿命は、使用状況により異なりますが約 2 年間です。

また、強い電波を受信し続けると電池を著しく消耗することがあります。テレビやパソコンなどの電化製品の近くには置かないでください。

車外でのドアの施錠 / 解錠

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠



Honda スマートキーを携帯し、ロックボタン、ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチを操作することでドア、テールゲートの施錠や解錠を操作します。

ドア、テールゲートの施錠 / 解錠が作動するのは、運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートオープンスイッチから周囲約 80cm 以内です。

■施錠するには

運転席ドアハンドル、助手席ドアハンドル、テールゲートのロックボタンを押します。

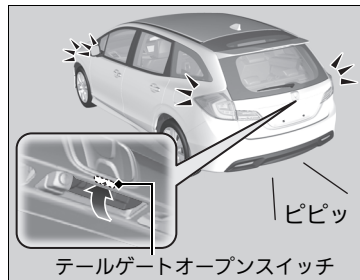
▶「ピッ」というアンサーバックが鳴り非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

※車外でのドアの施錠 / 解錠

パワーモードがOFFモード以外の場合はキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠はできません。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

- Honda スマートキーは運転者が携帯し、車内に残したまま降車しないでください。
- 同じ作動範囲に Honda スマートキーを携帯している人がいるときは、携帯していない人でもロックボタンやドアハンドル、テールゲートオープンスイッチで施錠 / 解錠操作ができます。
- 革製やスキー用の手袋などを着用しているときは、ドアハンドルでの解錠操作が遅れたりできなかったりすることがあります。
- 作動範囲内に Honda スマートキーがあるときは、大雨や洗車などで大量の水がドアハンドルにかかる、解錠されることがあります。
- 施錠後約 2 秒間は、ドアハンドルを握っても解錠操作はできません。
- ドアハンドルを握った直後に引くと、ドアが開かないことがあります。ドアハンドルを握りなおし、解錠されていることを確認してから引いてください。
- ドアハンドルまたはテールゲートオープンスイッチより約 80cm 以内の距離でも、Honda スマートキーが地面の近くや高い位置にあるときは作動しないことがあります。
- ドアやドアガラス、テールゲートに近づきすぎていると作動しないことがあります。



■解錠するには

運転席、助手席ドアハンドルを握るか、テールゲートオープンスイッチを押します。

▶「ピピッ」というアンサーバックが鳴り非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

※Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠

30 秒以内にドア、テールゲートを開けてください。

Hondaスマートキーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

カスタマイズ機能について

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーは、マルチインフォメーションディスプレイを使って音量を変えたりブザーが鳴らないようにすることができます。

▶ カスタマイズ機能 P.96

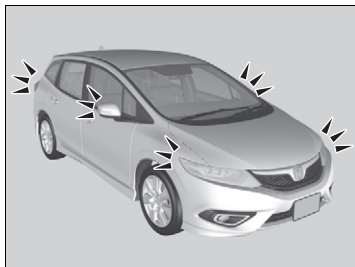
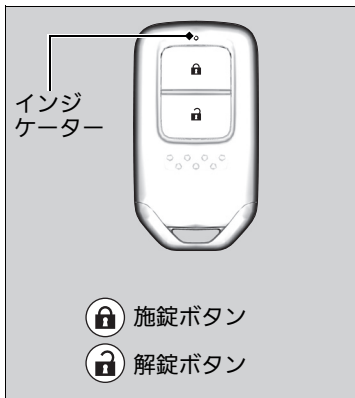
マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

施錠 / 解錠時に鳴るアンサーバックブザーの設定は、変更することができます。カスタマイズ機能の詳細は Honda 販売店にご相談ください。

カスタマイズ機能	選択できる設定内容
アンサーバックブザー音量	大※、小
アンサーバックブザー作動	作動※、非作動

※：工場出荷時の設定

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠



■施錠

施錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が1回点滅し、すべてのドア、テールゲートが施錠されます。

■解錠

解錠ボタンを押します。

- ▶ 非常点滅表示灯が2回点滅し、すべてのドア、テールゲートが解錠されます。

■キーレスエントリーシステムでの施錠 / 解錠

30秒以内にドア、テールゲートを開けてください。
キーレスエントリーシステムで解錠操作をした場合、30秒以内にドア、テールゲートを開けないと、再び自動的に施錠されます。

解錠ボタンを押すと、室内灯が点灯します。

室内灯のスイッチがドアと連動する位置にあるとき、解錠ボタンを押すと室内灯が点灯します。

約30秒点灯し、徐々に暗くなります。30秒以内にキーレスエントリーシステムで施錠すると、室内灯はただちに消灯します。

▶ 室内灯 P.161

キーレスエントリーシステムは微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。

ドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーシステムで施錠できません。

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケータが点灯しない場合は、電池切れです。

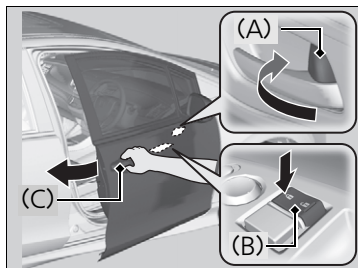
▶ 電池交換のしかた P.322

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠



内蔵キーを確実に差し込んで回します。

■キーを使わないでの施錠



■運転席のドアの施錠

ノブ(A)を押し込むか、マスタードアロックスイッチ(B)を施錠のほうに押し、外側のドアハンドル(C)を引いたままドアを閉めます。

■運転席以外のドアの施錠

ノブを押し込み、ドアを閉めます。

■キー閉じ込み防止装置

Honda スマートキーが車内の作動範囲内に置いてあると、施錠できません。

■キーを差し込んでの施錠 / 解錠

運転席ドアでのキー操作

運転席ドアに内蔵キーを差し込んで施錠/解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

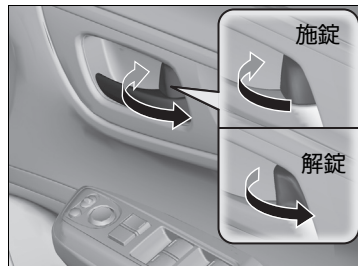
■キーを使わないでの施錠

運転席ドアで施錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠されます。

キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

車内での施錠 / 解錠

■ ノブでの施錠 / 解錠



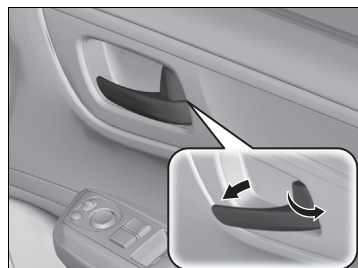
■ **施錠するには**
ノブを押し込みます。

■ **解錠するには**
ノブを引き出します。

※ ノブでの施錠 / 解錠

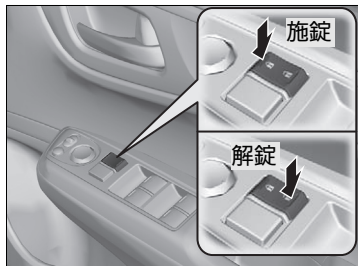
運転席ドアのノブで施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 運転席ドアハンドルでの解錠



運転席ドアは、内側のハンドルを引くと施錠していてもドアが開きます。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠



マスタードアロックスイッチを施錠 / 解錠の
ほうに押します。

衝撃感知ドアロック解除システム

車両に衝撃が加わったときに、自動的にすべてのドア、テールゲートを解錠するシステムです。

作動するのは以下の場合です。

- 正面からの衝撃：SRS エアバッグが作動したとき
- 側面からの衝撃：サイドエアバッグ / サイドカーテンエアバッグが作動したとき
- 後面からの衝撃：衝撃が大きいとき

いずれの場合も、安全性を考慮して衝撃を受けてから約 10 秒後に解錠します。

■ マスタードアロックスイッチでの施錠 / 解錠

運転席ドアのマスタードアロックスイッチで
施錠 / 解錠すると、ほかのすべてのドア、テールゲートも同時に施錠 / 解錠されます。

■ 衝撃感知ドアロック解除システム

衝撃の加わりかたや大きさによっては解錠しない場合があります。

オートドアロック / オートドアアンロック

■オートドアロック(車速連動)

オートドアロックとは、車速が約 15km/h 以上になるとすべてのドア、テールゲートが自動的に施錠される機能です。

■オートドアアンロック(セレクトレバー連動)

ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを[P]に入れると、すべてのドア、テールゲートが自動的に解錠される機能です。

※オートドアロック / オートドアアンロック

■マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

■カスタマイズ機能 P.96

■マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

マスタートドアロックスイッチを使ってオートドアロック / オートドアアンロックの条件をカスタマイズすることができます。

■オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ P.126

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ

オートドアロックとオートドアアンロックの設定を、カスタマイズ(設定変更)することができます。カスタマイズ操作は、マスタートドアロックスイッチで行います。

■オートドアロック / オートドアアンロックの設定内容

オートドアロックとオートドアアンロックの設定内容は、下表のとおりです。

■オートドアロック

設定	車速連動 (工場出荷時設定)	セレクトレバー連動	オートドアロック OFF(無し)
設定内容	車速が約 15km/h 以上になると、自動的に施錠する設定です。	セレクトレバーを[P]以外にすると、自動的に施錠する設定です。	自動的に施錠しない設定です。

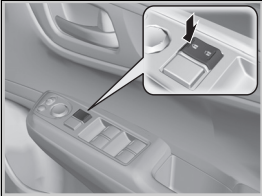
■オートドアアンロック

設定	セレクトレバー連動 (工場出荷時設定)	パワーモード連動	オートドアアンロック OFF(無し)
設定内容	ブレーキペダルを踏んでセレクトレバーを[P]にすると、自動的に解錠する設定です。	パワーモードをONモードからアクセサリモードまたはOFFモードにすると、自動的に解錠する設定です。	自動的に解錠しない設定です。

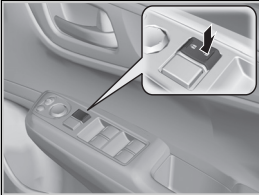
※オートドアロック / オートドアアンロック設定のカスタマイズ

その他の機能のカスタマイズについては、Honda 販売店にご相談ください。

■ オートドアロックのカスタマイズ操作

操作手順	車速連動(工場出荷時設定)	セレクトレバー連動	オートドアロック OFF(無し)
1. パーキングブレーキを	かける	かける	かける
2. 運転席ドアを	閉める	閉める	開ける
3. パワーモードを	ON モードにする	ON モードにする	ON モードにする
4. セレクトレバーを	P 以外にする	P にする	P にする
5. マスタードアロック スイッチの	施錠側を約 5 秒以上押し続け、ロック作動音がしたら手を離す		
			
6. パワーモードを	20 秒以内にアクセサリモードにする ▶ 設定が終了し、オートドアロックが設定した内容となります		

■ オートドアアンロックのカスタマイズ操作

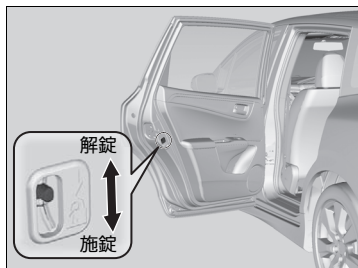
操作手順	セレクトレバー連動 (工場出荷時設定)	パワーモード連動	オートドアアンロック OFF(無し)
1. パーキングブレーキを	かける	かける	かける
2. 運転席ドアを	閉める	閉める	開ける
3. パワーモードを	ON モードにする	ON モードにする	ON モードにする
4. セレクトレバーを	P にする	P 以外にする	P にする
5. マスタードアロック スイッチの	解錠側を約 5 秒以上押し続け、ロック作動音がしたら手を離す		
			
6. パワーモードを	20 秒以内にアクセサリーモードにする ▶ 設定が終了し、オートドアアンロックが設定した内容となります		

チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフとは、走行中などにお子さまが車外に放り出されることを防止するため、ノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けることができないようにする機能です。

お子さまを後席に乗せるときなどにお使いください。

■チャイルドブルーフのセット



後席ドアについているツマミを、施錠の位置にしてドアを閉めます。

■ドアを開ける場合

外側のハンドルで開けます。

※チャイルドブルーフ

チャイルドブルーフセット時に車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ、窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

テールゲート開閉時の注意

テールゲートを開閉するときは、下記の点に注意してください。

■テールゲートを開けているとき

- テールゲートは上までしっかりと開ける。
 - ▶ 途中までしか開けていないと、自重で閉まることがあります。
- 風の強い日は、風にあおられて閉まらないように注意する。
- テールゲートを開けたまま走行しない。
 - ▶ 車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

■テールゲートを閉めるとき

- Honda スマートキーを、カーゴスペース内に置き忘れないように注意する。

⚠テールゲート開閉時の注意



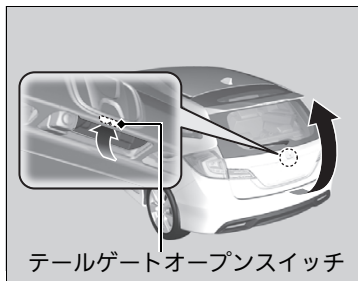
注意

テールゲートを閉めるときは、頭をぶついたり手をはさまないように注意する。

エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないようにする。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

テールゲートを開ける



解錠されているときに、テールゲートオープンスイッチを押して引き上げます。

※テールゲートを開ける

施錠されているときに Honda スマートキーを携帯してテールゲートオープンスイッチを押すと、解錠されますのでそのまま引き上げることができます。

■ Honda スマートキーシステムでの施錠 / 解錠 P.119

運転席ドアを施錠したあとに、テールゲートを閉めると施錠されます。

イモビライザーシステム

イモビライザーシステムとは、キーに信号を発信する電子部品が組み込まれてあり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

イモビライザーシステムでは、車両とキーの電子照合を行うときに微弱な電波を使用します。**ENGINE START/STOP** を押すときは、下記の点に注意してください。

- **ENGINE START/STOP** の近くに強い電波を発するものを近づけない
- キーを金属に触れさせたり、覆ったりしない
- ほかの車両のイモビライザーシステムのキーを近づけない
- 磁気を帯びたキーホルダーなどをキーと一緒に取り付けない

セキュリティアラームシステム

セキュリティアラームシステムは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムを使わずにドア、テールゲート、ボンネットを開けると、警報装置が作動するシステムです。

■作動すると

ホーンが断続的に鳴り、非常点滅表示灯がすべて点滅します。

■停止させるには

内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにしてください。システムが停止し、ホーンと点滅も停止します。

❗イモビライザーシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

❗セキュリティアラームシステム

システムの改造や追加をしないでください。
システムが故障するおそれがあります。

警報装置はセキュリティアラームシステムを停止させるまで、約 5 分間作動します。

ホーンおよび非常点滅表示灯は、1 回の作動につき約 30 秒間作動し、その警報作動が 10 回行われます。

状況によっては、5 分以上作動する場合があります。

■セットするには

セキュリティアラームシステムは、以下の条件が整うと自動的にセットされます。

- パワーモードが OFF モードになっている
- ボンネットが閉まっている
- 内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムですべてのドアとテールゲートが施錠されている

■セットされると

メーター内にある作動表示灯が点滅し、約 15 秒後に点滅間隔が長くなります。

■セットを解除するには

内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムで解錠するか、パワーモードを ON モードにすると解除されます。同時に作動表示灯が消灯します。

☒セキュリティアラームシステム

車内に人が乗っているときやウィンドーが開いているときでも、セキュリティアラームシステムは作動します。

警報装置の思わぬ作動を防ぐために、人が乗っていたりウィンドーが開いているときには、セキュリティアラームシステムをセットしないでください。

セキュリティアラームシステムをセットした後にバッテリーがあがり、バッテリーの充電、交換をすると、警報装置が作動することがあります。

そのときは、内蔵キー、キーレスエントリーシステムまたは Honda スマートキーシステムでドアを解錠し、セキュリティアラームシステムを解除してください。

ウィンドーの開閉

パワーウィンドーの開閉

パワーモードが ON モードのときに、パワーウィンドーの開閉操作を行うことができます。開閉はそれぞれのドアにあるスイッチで行います。運転席のスイッチでは、すべてのウィンドーの開閉操作を行うことができます。

運転席以外のウィンドーの開閉は、運転席のパワーウィンドーロックボタンを OFF にしてから行います。

パワーウィンドーロックボタンを OFF にすると、スイッチにある表示灯が消灯します。

パワーウィンドーロックボタンを ON (表示灯点灯) にしておくと、運転席以外のウィンドーは作動しません。お子さまを乗せているときなどは、パワーウィンドーロックボタンを ON にしておいてください。

❏ パワーウィンドーの開閉

警告

パワーウィンドーを閉めるときは、同乗者が窓から手や顔などを出していないことを確認する。

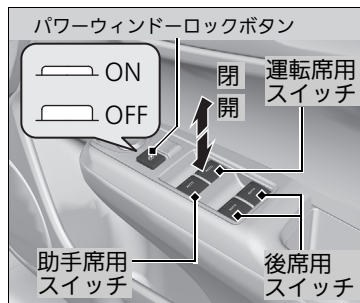
手や顔などをパワーウィンドーにはさむと、重大な傷害を負うおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

注意

指などをはさみ込まないように注意する。
確実に閉めるため、閉め切る直前の部分に、はさみ込みを検知しないエリアがあります。

お子さまだけを車内に残さない。
必ず Honda スマートキーを携帯し、ドアをロックしてお子さまと一緒に車外に出る。

■ ウィンドーの開閉



■ 手動開閉

開けるとき：スイッチを軽く押す

閉めるとき：スイッチを軽く引き上げる
希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

■ 自動開閉

開けるとき：スイッチを強く押す

閉めるとき：スイッチを強く引き上げる
自動的に全開/全閉します。途中で止めるには、スイッチを反対側に軽く上げ / 下げします。

▶▶ パワーウィンドーの開閉

パワーモードをOFFモードにしても、約10分間はキーオフオペレーションによりパワーウィンドーを開閉できます。

この場合、運転席のドアを開閉すると、ウィンドーの開閉はできなくなります。

パワーウィンドーを自動で閉めているときに障害物を検知すると、はさみ込み防止機構によりウィンドーの動きが逆転し止まります。

後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

■キーレスエントリーシステムでのウィンドーの開閉



 施錠ボタン

 解錠ボタン

キーレスエントリーシステムを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき：キーレスエントリーシステムで解錠後、10 秒以内に再度、解錠ボタンを押し続ける

閉めるとき：キーレスエントリーシステムで施錠後、10 秒以内に再度、施錠ボタンを押し続ける

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

■ キーシリンダーでのウィンドーの開閉



運転席ドアのキーシリンダーを使用してパワーウィンドーの開閉が行えます。

開けるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで解錠後、内蔵キーを戻してから10秒以内に再度、解錠側いっぱい以内蔵キーを回したままにする

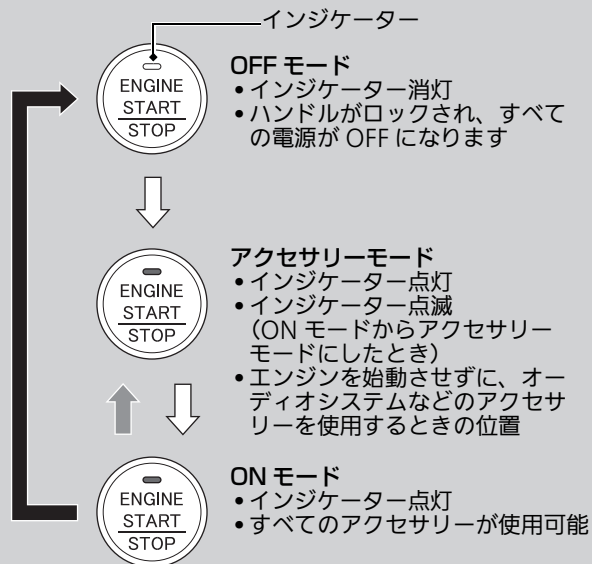
閉めるとき： 運転席ドアのキーシリンダーに内蔵キーを差し込んで施錠後、内蔵キーを戻してから10秒以内に再度、施錠側いっぱい以内蔵キーを回したままにする

希望の位置で手を離すことで、窓の開閉を調節します。

ウィンドーの開閉中に停止したときは、再度同じ操作を繰り返してください。

ENGINE START/STOP スイッチ

■パワーモードの切り換えかた

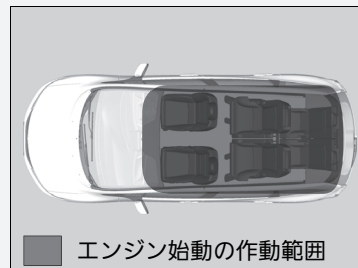


(ブレーキペダルを踏んでいない状態)

- スイッチを押す
- セレクトレバーが **P** 以外のときに、スイッチを押す
- セレクトレバーが **P** のときに、スイッチを押す

■ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーが車内にある場合エンジンを始動できます。エンジン始動の機能が作動する範囲は、インストルメントパネル上、カーゴスペースやグローブボックス、ドアポケットなどの各種小物入れを除く車内です。



Honda スマートキーが車外にあっても、ドアやドアガラスに近づきすぎていると、エンジンの始動ができることがあります。

ON モード：

エンジンが始動しているときは、インジケーターが消灯します。

パワーモードが OFF モードからアクセサリーモードに切り換わらないときは、ハンドルロックを解除します。

ハンドルを左右に回しながら、**ENGINE START/STOP** を押してください。ハンドルロックが解除されます。

■ パワーモードオートオフ機能

セレクトレバーが[P]でパワーモードがアクセサリモードのときに 30 分～ 60 分経過すると、バッテリー保護のため自動的にパワーモードが OFF モードと同様になります。

このときはハンドルはロックされません。またキーレスエントリーシステムおよび Honda スマートキーシステムによる施錠 / 解錠ができなくなります。

ENGINE START/STOP を押してパワーモードを再度 OFF モードに切り換えてください。

■ パワーモード警告ブザー

次の状態で車を離れようとして運転席ドアを開けた場合、警告ブザーが鳴ります。

- パワーモードがアクセサリモードのとき

⌘ ENGINE START/STOP スイッチ

Honda スマートキーの電池が消耗したときは、ブザーとともにマルチインフォメーションディスプレイ* またはインフォメーションディスプレイ* に警告が表示されます。

⌘ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.349

■ Honda スマートキー持ち去り警告

マルチインフォメーション
ディスプレイ非装備車



マルチインフォメーション
ディスプレイ装備車



警告ブザーには、車内警告ブザー（ピーッピーッピーッピーッ）と車外警告ブザー（ピピピピピピ）の 2 種類があります。警告状態が続くときは、Honda スマートキーの携帯位置を変更してください。

■パワーモードが ON モードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、メーター内に警告を表示するとともに、車内警告ブザーと車外警告ブザーが鳴ります。

■パワーモードがアクセサリーモードのとき

Honda スマートキーを車外に持ち出しドアを閉めると、車外警告ブザーが鳴ります。

■Honda スマートキー持ち去り警告

エンジン始動の作動範囲内に Honda スマートキーを戻してドアを閉めると、警告が解除されます。

Honda スマートキーを、インストルメントパネル、グローブボックスなどに置いた場合、電波状態により警告ブザーが鳴ることがあります。

Honda スマートキーを持ち出した状態で、パワーモードを OFF モードにすると、パワーモードの操作ができなくなります。

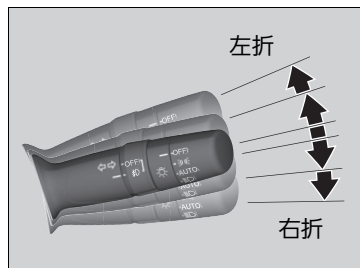
パワーモードを操作するときは、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

窓からの受け渡しでは、Honda スマートキー持ち去り警告は作動しません。

Honda スマートキーがエンジン始動の作動範囲内にあっても、周囲の環境や電波状態により Honda スマートキー持ち去り警告が行われることがあります。

故障ではありませんので、Honda スマートキーを持っていることを確認してください。

方向指示器(ウィンカースイッチ)

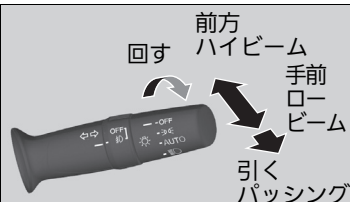


パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■ワンタッチターンシグナル

レバーを軽く押し下げ / 押し上げて離すと、方向指示器と方向指示器表示灯が3回点滅します。

ライトスイッチ



-  車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
-  ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯が点灯
-  **AUTO** パワーモードが ON モードのとき車外の明るさに応じて車幅灯、尾灯、番号灯、ヘッドライトが自動で点灯 / 消灯

スイッチを回すとパワーモードに関係なく、点灯 / 消灯します。

■ハイビーム

「カチッ」と音がするまでレバーを前方に押しします。

■ロービーム

ハイビームのときは、レバーを手前に引きます。

■追越合図(パッシング)

レバーを手前に引き、離します。

※ライトスイッチ

ライトを点灯したままパワーモードを OFF モードにすると、運転席のドアを開けたときにライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライト類が点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

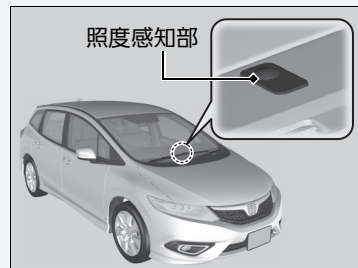
■表示灯 P.68

エンジンが止まっているときにライト類を点灯したままにしていると、バッテリーあがりの原因となります。

重い荷物の積載時など、車両の姿勢の変化に応じてヘッドライト光軸の上下方向を自動的に調整するオートレベリング機能が付いています。

ヘッドライト光軸の異常を感じたときは Honda 販売店で点検を受けてください。

照度感知部は、図の位置にあります。感知部の上にものを置かないでください。



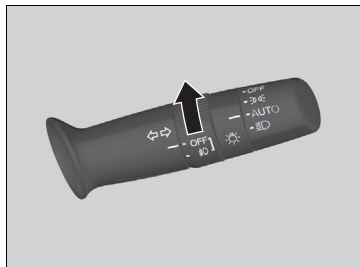
■ヘッドライトオートオフ機能

パワーモードを OFF モードにして、Honda スマートキーですべてのドア、テールゲートを施錠すると、ヘッドライト、車幅灯、尾灯、番号灯やインストルメントパネルの照明が消灯します。

▶ 運転席ドアを開けると再び点灯し、ライト消し忘れ警告ブザーが鳴ります。

ライトスイッチを **AUTO** にしているときはパワーモードを OFF モードにすると消灯します。

フォグライトスイッチ



ライトスイッチが**OFF**以外のとき(ライトスイッチを**AUTO**にしているときは、車幅灯が点灯しているとき)に、フォグライトスイッチを回して点灯することができます。

☒ フォグライトスイッチ

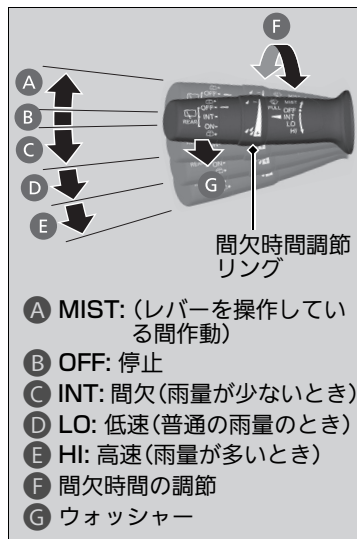
フォグライトが点灯すると、メーター内の表示灯が点灯します。

☒ 表示灯 P.68

ワイパー/ウォッシャー

パワーモードが ON モードのときに使用できます。

■フロントワイパー/ウォッシャー



■MIST

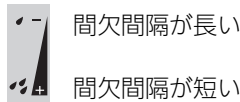
レバーを押しながら、作動します。
霧や小雨のときに使用します。

■ワイパーズスイッチ(OFF、INT、LO、HI)

雨量により適切な位置を選択して使用します。

■間欠時間の調節

リングを回して、ワイパーの間欠時間を調節します。



■ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くと、ウォッシャー液が噴射します。
レバーを1秒以上引くとワイパーが作動します。レバーを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

❏ワイパー/ウォッシャー

⚠注意

寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射させない。
ウォッシャー液が凍りついて視界の妨げとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

アドバイス

ウォッシャー液が出ないときは、スイッチを切ってください。
ポンプ故障の原因となります。

アドバイス

ワイパーを乾拭きさせないでください。
ガラスが傷付いたりブレードラバーを傷めたりします。

寒冷時、凍結によりワイパーブレードがガラスに張りつくことがあります。

ワイパー故障の原因となりますので、デフロスターでフロントガラスを暖めてから、ワイパーを作動させてください。

間欠作動中は、車速が速くなると間隔が停止時より数秒短くなります。また、発進時にワイパーが1回作動します。
間欠時間を短いほうにいったいに回している状態で車速が速くなると、ワイパーが間欠から低速作動に切り換わります。

■ リヤワイパー / ウォッシャー



パワーモードがONモードのときに使用できません。

■ リヤワイパースイッチ(OFF、INT、ON)

■ ウォッシャースイッチ

スイッチをまで回すと、ウォッシャー液が噴射します。

スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離すと数回ワイパーが作動して止まります。

■ リバース連動モード

フロントワイパー作動中にセレクトレバーをに入れるとリヤワイパーが作動します。

フロントワイパーのレバー位置と作動モード	リヤワイパーの作動モード
INT(間欠)	間欠作動
LO(低速)	連続作動
HI(高速)	

※ ワイパー / ウォッシャー

ワイパー作動中に雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してください。

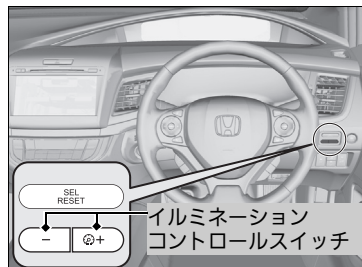
ワイパースイッチをOFF、パワーモードをアクセサリーモードまたはOFFモードにしてから、ワイパーが作動できるように障害物を取り除いてください。

ワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。

ワイパーモーターの負荷が大きい状態が続いたときなどは、ブレーカーが作動し一時的にワイパーが停止することがあります。

数分経過すると、ブレーカーが復帰し、通常通り使用できるようになります。

イルミネーションコントロール

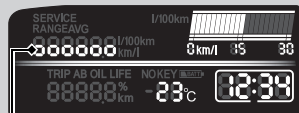


パワーモードが ON モードのとき、イルミネーションコントロールスイッチでインストルメントパネルの明るさを調節することができます。

明るくする：**+**を押す

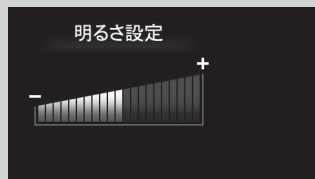
暗くする：**-**を押す

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車



明るさ調節表示

マルチインフォメーションディスプレイ装備車



明るさが最大 / 最小になると電子音が鳴ります。

また、明るさの調節後、数秒経過するとマルチインフォメーションディスプレイ* またはインフォメーションディスプレイ* が元の表示に戻ります。

■明るさ調節表示

+ / **-** を押すとマルチインフォメーションディスプレイ* またはインフォメーションディスプレイ* が明るさ調節表示に切り換わります。

目盛が右に増えていくほど、インストルメントパネル照明が明るくなります。

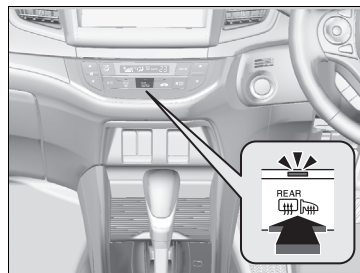
■イルミネーションコントロール

ライトスイッチが**OFF**以外で周囲が暗いとき、まぶしさを軽減するため、インストルメントパネル照明が減光します。

インストルメントパネル照明が減光しているときとしていないときで、それぞれ明るさが調節できます。

- インストルメントパネル照明が減光しているときに目盛が全て表示されるまで**+**を押すと、「ピッ」という音がして減光が解除されます。
- 車幅灯が消灯しているときに目盛が全て表示されなくなるまで**-**を押すと、明るさが最小になります。このとき走行したり、車幅灯を点灯させると明るさ最小の状態が解除され、元の明るさに戻ります。

リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー



パワーモードが ON モードのときにスイッチを押すと、リヤガラスとドアミラーを暖めて、曇りをとることができます。

外気温に応じて約 10 ～ 30 分経過すると、システムは自動的に停止します。ただし、外気温が 0℃ 以下のときは自動的に停止しません。

リヤデフロスター / ヒーテッドドアミラー

アドバイス

リヤガラスの内側を清掃するときは、電熱線を傷つけないよう注意してください。

必ず、デフロスターの電熱線に沿って左右方向に拭いてください。

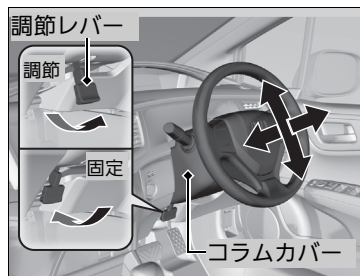
この装置は消費電力が大きいため、曇りが取れたら OFF にしてください。

また、エンジンの回転数が低いときに長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

パワーモードを ON モードにしたとき、外気温が 5℃ 以下の場合、ヒーテッドドアミラーのみ約 10 分間作動することがあります。

ハンドルの調節

適切な運転姿勢で無理なくハンドルを握れるように、ハンドルの位置を調節することができます。



1. ハンドル位置調節レバーを引き上げる。
▶ ハンドル位置調節レバーは、コラムカバーの下にあります。
2. ハンドルの位置を調節する。
▶ 調節した位置で、メーターや表示灯が見えることを確認してください。
3. ハンドル位置調節レバーを押し下げ、ハンドルを固定する。

ハンドルの調節

⚠ 注意

走行中にハンドル位置を調節しない。

走行中に調節すると、ハンドル位置が動き、正確なハンドル操作ができないことがあります。衝突して重大な傷害を負うおそれがあります。ハンドルの調節は、必ず停車中に行ってください。

位置調節後、ハンドルに上下前後方向の力を加え、ハンドルがしっかり固定されていることを確認してください。

ルームミラー

ルームミラーの角度は、正しい運転姿勢ですわった位置でミラーを調節してください。

自動式防眩ミラー



夜間走行時、後続車のヘッドライトの反射を自動的に弱くできます。

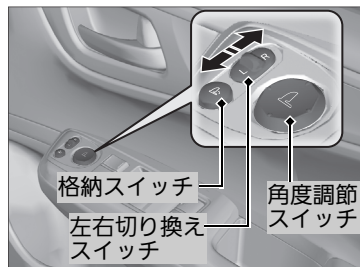
ミラー類の調節

ミラー類の調節は、走行前に行ってください。

自動式防眩ミラー

セレクトレバーを[R]に入れているときは、自動式防眩ミラーは解除されます。

ドアミラー



	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		

パワーモードがONモードのときに、ドアミラーの操作を行うことができます。

■角度調節

左右切り換えスイッチ：右か左を選択するスイッチです。角度調節後、中央の位置に戻します。

角度調節スイッチ：上下左右に鏡面を動かすスイッチです。

■格納

格納スイッチを押すごとに ON と OFF が切り換わります。

シートの調節

フロントシート

運転者は、正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。

正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくブレーキペダルを十分に踏み込め、ハンドル操作が楽にできる姿勢をいいます。

■フロントマニュアルシート*/ヘッドレストの動かし方

■ヘッドレストの調節

- 高くするときは、引き上げる
- 低くするときは、ノブを押しながら下げる

■高さの調節（運転席）

レバーを繰り返し引き上げ／引き下げし、高さを調節

■背もたれの角度調節

レバーを引き上げながら調節

■前後位置の調節

レバーを引き上げながら、前後位置を調節



※フロントマニュアルシート*/ヘッドレストの動かし方

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

フロントシートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシートは、エアバッグからなるべく離れた位置に調節してください。

同乗者もシートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。

フロントシートに純正以外のシートカバーを取り付けしないでください。

■フロントパワーシート*/ヘッドレストの動かし方



※フロントパワーシート*/ヘッドレストの動かし方

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節すると思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行ってください。

■フロントシートの調節

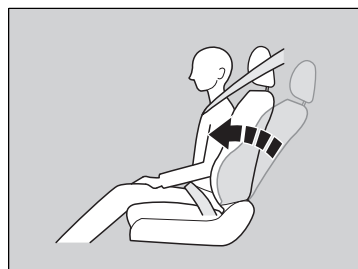


■シート位置の調節

運転者とハンドルとの間に十分な距離をとれるように、シートをできるだけ後ろに下げます。

助手席の同乗者のシートも同様に、ダッシュボードのSRSエアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げます。

シートの位置を調節したら、シートを前後に揺すり、固定されていることを確認します。



■背もたれ角度の調節

シートに深く腰かけ、楽な姿勢ですわれるように背もたれを起こし調節します。

助手席の同乗者のシートも同様に、楽な姿勢ですわれるように背もたれ角度を調節します。

■フロントシートの調節

⚠ 警告

SRS エアバッグからできるだけ離れた位置までシートを下げる。

ハンドルやダッシュボードに近づきすぎると、フロントエアバッグが膨らむ際に重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

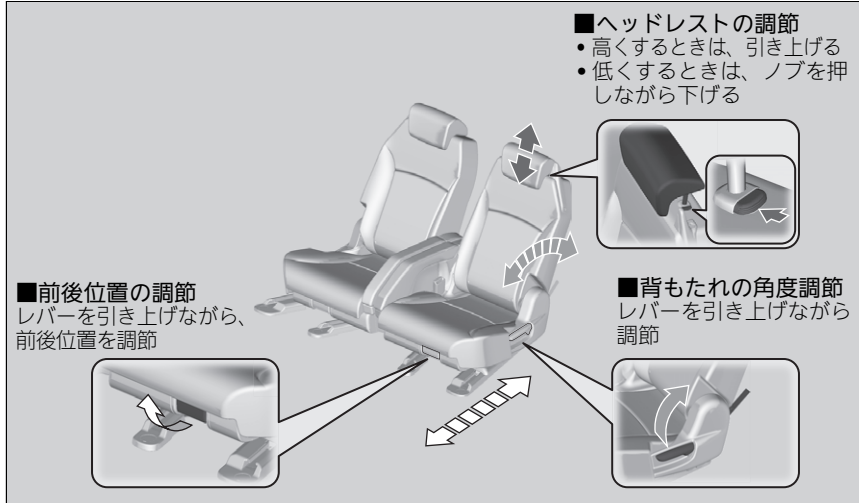
⚠ 注意

背もたれと背中の中にクッションなどを入れない。

正しい運転姿勢がとれません。また、シートベルトなどの効果が十分に発揮されません。

V スライドキャブテンシート(セカンドシート)

■セカンドシート / ヘッドレストの動かし方



■セカンドシート / ヘッドレストの動かし方

⚠ 警告

背もたれを必要以上に倒さない。

背もたれを必要以上に倒すと、衝突したときに重大な傷害を受けたり、死亡したりするおそれがあります。

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

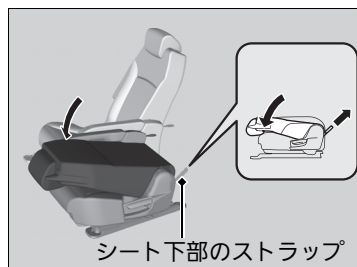
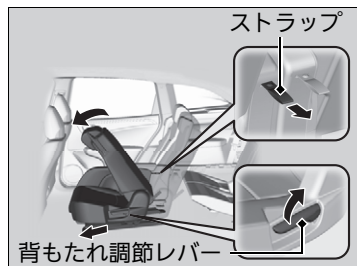
走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

シートの下に物を置かない。

物がはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■シートをはね上げるとき



1. ヘッドレストを一番下に下げる。

ウォークイン機構：

2. 背もたれ調節レバーを引き上げると、背もたれが前に倒れる。
▶ シート後部のストラップでも、操作できます。
3. そのままシートを前方に押す。
走行する前にシートを元に戻し、前後位置を調節してください。
4. シート下部のストラップを引くと、シートが前にはね上がる。

■シートをはね上げるとき

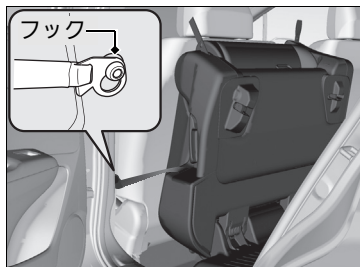


注意

操作するときは十分注意する。

背もたれが急に動いてシートがはね上がり、顔などにけがをしたり、手や足などをはさむおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

シートを操作したら、シートを前後にゆすって固定されていることを確認してください。



固定するとき：

5. 座面に収納されている固定ストラップを引き出す。
6. 固定ストラップをフックにかける。

※シートをはね上げるとき

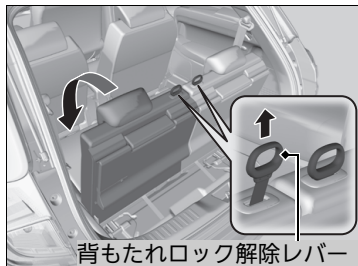
⚠ 注意

セカンドシートをはね上げた状態でサードシートに人を乗せない。

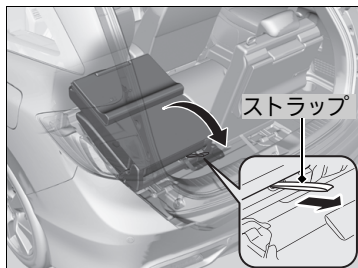
ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

サードシート

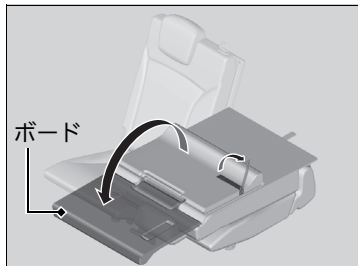
■ 収納のしかた



背もたれロック解除レバー



ストラップ



ボード

1. ヘッドレストを下げる。
2. 背もたれロック解除レバーを引き、前方に倒す。
3. 下部のストラップを引ながら、シート全体を後方に格納する。
4. 背もたれ後ろのボードを前方へ倒す。

■ サードシート

⚠ 注意

走行中にシートの調節はしない。

走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行前に行い、確実に固定されていることを確認してください。

シートを操作するときは、手や足などをはさまないように十分注意する。

エンジンをかけた状態でシートを操作するときは、排気管の後方に立たない。

やけどなどの思わぬけがをすることがあります。

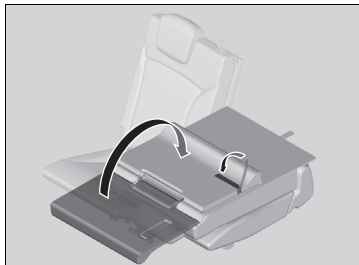
背もたれを起こすときは、固定されるまで手を添える。

背もたれが急に戻り、顔などにけがをすることがあります。

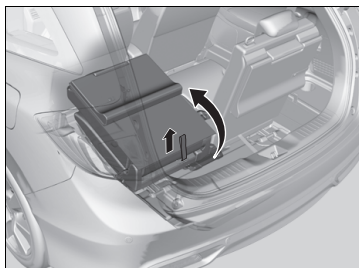
シートの下にものを置かない。

ものがはさまってシートが固定されず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

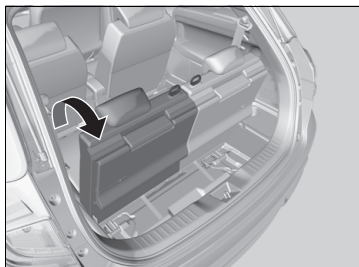
戻しかた



1. ボードを背もたれに固定する。



2. シート全体を前方に起こし、座面を固定する。

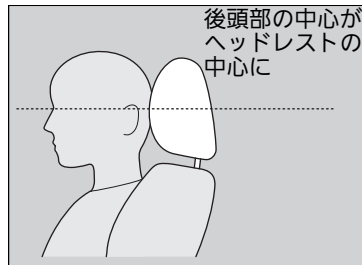


3. 背もたれを起こして固定する。

シートを元に戻したら、シートを前後にゆすり、固定されていることを確認します。

ヘッドレスト

■フロントシートヘッドレストの調節



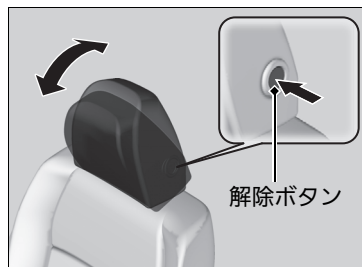
後頭部の中心が、ヘッドレストの中心にくるようにヘッドレストの高さを調節します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる

低くするとき：ノブを押しながら下げる

各部の
操作

■フロントシートヘッドレストの傾き調節



姿勢に合わせヘッドレストを後ろから前へ押して傾きを調節してください。

▶ 解除ボタンを押すと元の位置に戻ります。

■ヘッドレスト



警告

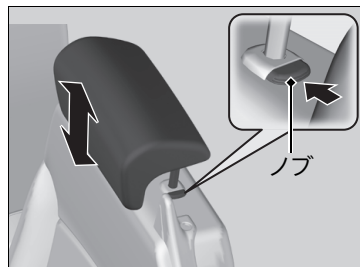
ヘッドレストは必ず正しい位置に調節する。

ヘッドレストの高さが適切でないと、ヘッドレストの効果が低くなり、衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

ヘッドレストを外した状態で走行しない。

衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ セカンドシート、サードシートヘッドレストの位置変更



乗車するときは、走行する前にヘッドレストを引き上げて、確実に固定します。

高くするとき：ヘッドレストを引き上げる

低くするとき：ノブを押しながら下げる

■ セカンドシート、サードシートヘッドレストの位置変更

⚠ 警告

ヘッドレストを下げた状態で走行しない。
衝突したときに重大な傷害を受けるおそれがあります。

■ ヘッドレストの取り外しと取り付け

ヘッドレストは、掃除や修理のために取り外すことができます。

ヘッドレストの取り外し：

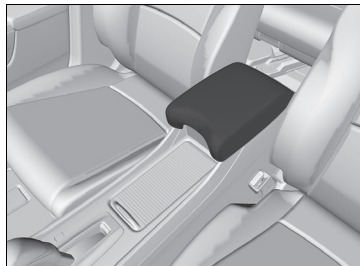
ヘッドレストを引き上げ、ノブを押して取り外します。

ヘッドレストの取り付け：

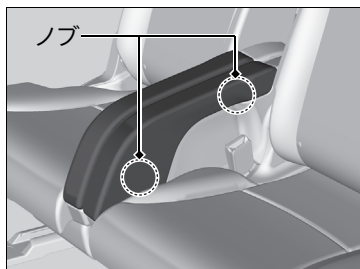
ヘッドレストの脚を元の位置に差し込んでください。ノブを押しながらヘッドレストの位置を適切な位置に合わせてください。ヘッドレストを軽く上下させ、確実に固定します。

アームレスト

■ フロントシートアームレスト



■ セカンドシートアームレスト



アームレストの取り外し：

前後のノブを押しながら、アームレストを引き上げ取り外します。

アームレストの取り付け：

アームレストの脚を元の位置に差し込んでください。

アームレストを軽く上下させ、固定されていることを確認します。

⚠ アームレスト



シートベルト着用時にアームレストに引っ掛けない。

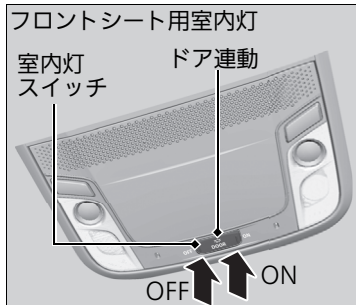
万一のときにシートベルトの機能が発揮できず、重大な傷害を負うおそれがあります。

アームレストに腰をかけたり荷物を載せるなどの大きな力を加えないでください。

アームレストが破損するおそれがあります。

室内灯

室内灯スイッチ



■ON

ドアの開閉に関係なく室内灯が点灯。

■ドア連動

以下のときに室内灯が点灯。

- いずれかのドアを開けたとき
- 運転席ドアを解錠したとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

■OFF

ドアの開閉に関係なく室内灯が消灯。

室内灯

ドア連動で室内灯が点灯している場合は、ドアを閉めると約 30 秒後に消灯します。

以下の場合も 30 秒後に消灯します。

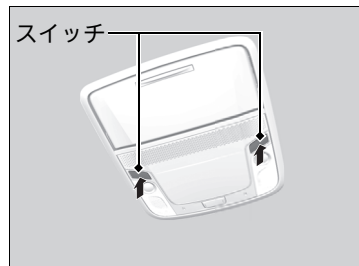
- 運転席ドアを解錠してドアを開けなかったとき
- パワーモードを OFF モードにしてドアを開けなかったとき

また、以下の操作を行うと室内灯はすぐに消灯します。

- 運転席のドアを施錠したとき
- パワーモードが OFF モード以外の状態でドアを閉めたとき
- パワーモードを ON モードにしたとき

パワーモードが OFF モードのときに、いずれかのドアを開けたままにすると、約 15 分後に消灯します。

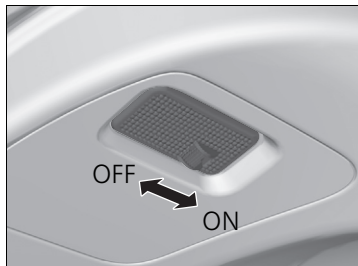
■ マップランプ



夜間、車を停めて地図を見るときなどに使用するライトです。

スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。

■ テールゲート照明灯



■ ON

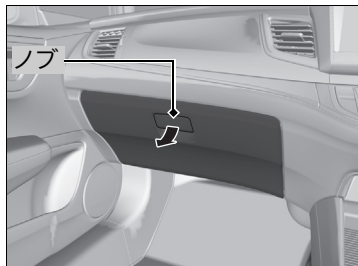
テールゲートを開けると点灯し、閉めると消灯。

■ OFF

テールゲートの開閉に関係なく消灯。

室内装備品

■グローブボックス



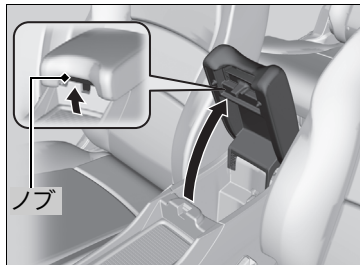
ノブを引くと開きます。

☒グローブボックス



走行中は必ずグローブボックスを閉める。
グローブボックスが開いていると、衝突したときに同乗者が重大な傷害を負うおそれがあります。

■ センターコンソールボックス

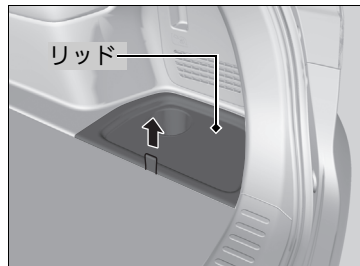


ノブを引くと開きます。



ノブを押してシャッターを開けます。

■ サイドコンソールボックス



カーゴスペース両側にあります。
リッドを外して使います。

▣ サイドコンソールボックス

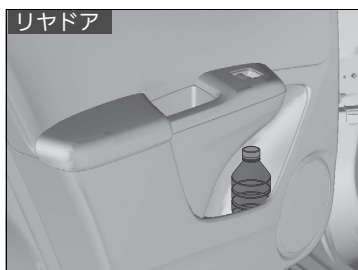
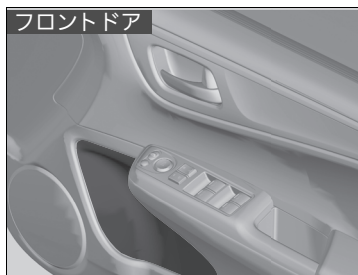
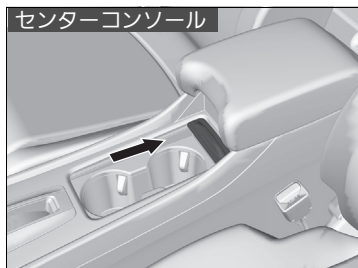


注意

走行中は荷物の出し入れをしない。

急ブレーキなどのときに思わぬ事故につながるおそれがあります。

■ドリンクホルダー



■フロントシート用ドリンクホルダー

ドアのドリンクホルダーは運転席側と助手席側にあります。

■セカンドシート用ドリンクホルダー

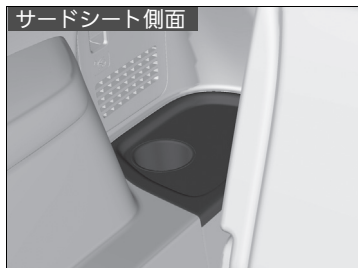
運転席側と助手席側にあります。

☒ドリンクホルダー

⚠注意

飲み物などを電装品にこぼさないように注意する。

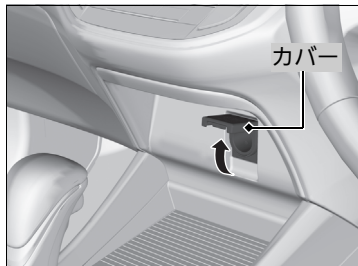
スイッチなどの電装品に飲み物がかかると故障の原因となったり車両火災につながったりするおそれがあります。



■サードシート用ドリンクホルダー

運転席側と助手席側にあります。

■ アクセサリーソケット



パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに使用できます。

カバーを開けて使います。

■ サングラスボックス



矢印部を押すと開きます。
もう一度押すと格納されます。

サングラスなどを入れることができます。

※ アクセサリーソケット

消費電力 180W(15A)以下のアクセサリーに、
直流 12V の電源を供給します。

バッテリーあがりを防ぐため、エンジンがかかっている状態でご使用ください。

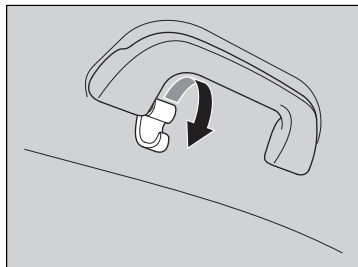
シガレットライターは差し込まないでください。
発熱するおそれがあります。

※ サングラスボックス

炎天下での駐車は高温になりますので、メガネなどを入れたままにしないでください。
レンズやフレームが、変形やひび割れを起すことがあります。

開閉は停車中に行い、走行中は必ず閉めておいてください。

■コートフック



セカンドシート右側のグラブレールに付いています。
回転させて使います。

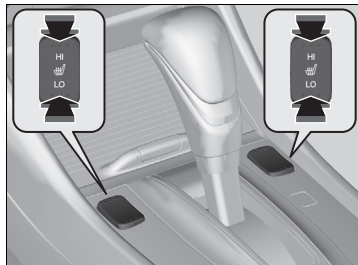
▣コートフック

⚠ 注意

グラブレールにものをかけたり、コートフックに重いものやとがったものをかけたりしない。

サイドカーテンエアバッグが正常に作動しなかったり、作動時にものが飛んだりしてけがをするおそれがあります。

シートヒーター*



パワーモードがONモードのときに使用できます。運転席、助手席のシートを暖めることができます。

スイッチを[HI]側か[LO]側に押します。シートを早く暖めたいときは[HI]側を押します。暖まったら[LO]側にしてください。作動中、押している側の表示灯が点灯します。スイッチを切るときは、反対側を軽く押し、表示灯を消します。

※シートヒーター*

⚠ 注意

低温やけどに注意する。

次のようなかたは、低温やけどに十分注意してください。

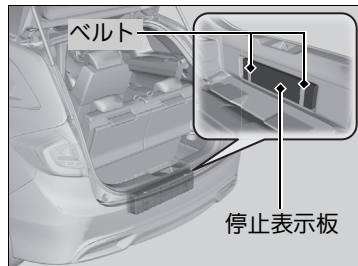
- 乳幼児、お年寄り、体の不自由なかた
- 皮膚の弱いのかた
- 疲労の激しいかた

また、毛布などの保温性の高いものをかけて使用すると低温やけどをすることがあります。

この装置は消費電力が大きいため、エンジンをかけた状態で使用してください。

エンジンが停止しているときに使用すると、バッテリーの容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。

■ 停止表示板入れ



カーゴスペースに停止表示板入れがあります。

- ▶ 停止表示板を収納するときは、ベルトで固定します。

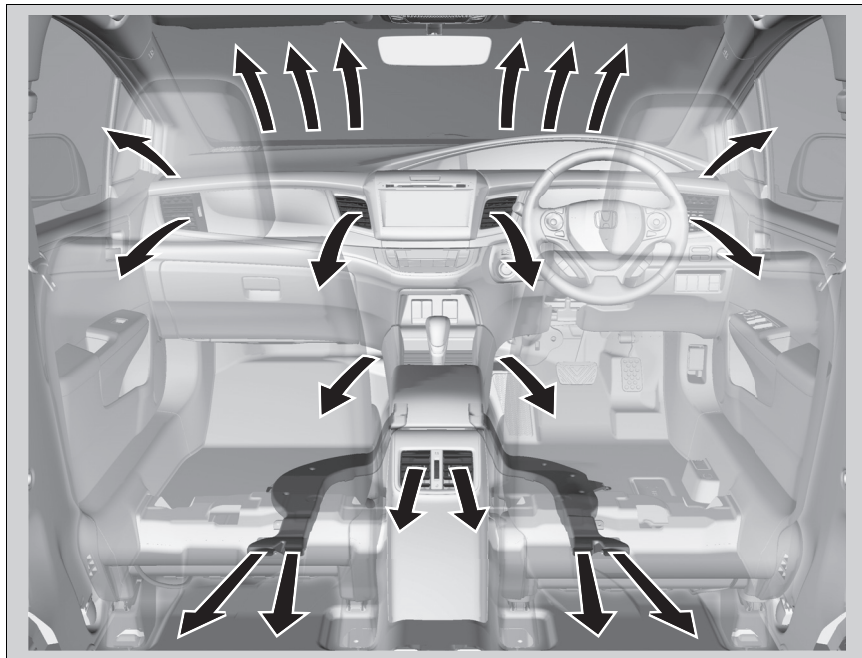
▣ 停止表示板入れ

収納可能な停止表示板のサイズは以下の通りです。

- 長さ ...427mm 以下
- 高さ ...116mm 以下
- 幅 ...48mm 以下

エアコン

エアコンの吹き出し口

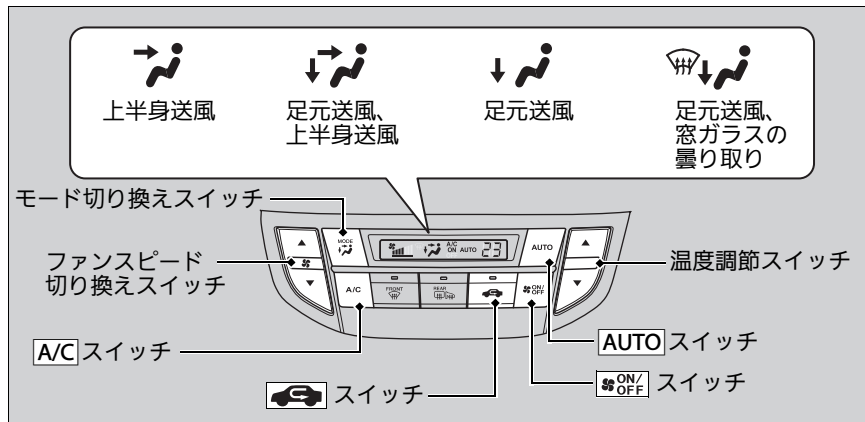


※エアコン

メーカーオプションの Honda
インターナビシステム装備車

音声操作の詳細は、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

オートエアコンの使いかた



エンジンを始動してから使用します。

1. **AUTO** を押す。
2. 温度調節スイッチを押して温度を調節する。
3. 停止するときは、**ON/OFF** を押す。

■オートエアコンの使いかた

オート (AUTO) で使用中いずれかのスイッチを押すと、押したスイッチの機能が優先されます。

このとき **AUTO** の表示灯は消灯しますが、押したスイッチ以外の機能は自動制御されます。

外気温が低いときは、冷風の吹き出しを防ぐため、**AUTO** を押してもすぐにファンが回転しないことがあります。

炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

設定温度表示で「Lo」は最大冷房を、「Hi」は最大暖房を示します。

■内気 / 外気の切り換え

状況に合わせてを押して、内気 / 外気を切り換えます。

- 内気(表示灯点灯)：トンネルや渋滞などで、汚れた空気を車内に入れたくない場合
- 外気(表示灯消灯)：換気を行う場合

■除湿暖房

暖房中にを押すと、除湿暖房となります。

※オートエアコンの使いかた

を押すたびに ON や OFF に切り換わります。ON すると OFF する前の状態に戻ります。

アイドリングストップ中は送風に切り換わります。

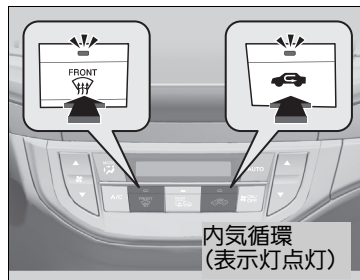
急な上り坂などでは、走行性能を優先させるため、エアコンが作動しないことがあります。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた



 を押すとエアコンが作動し、自動的に外気導入に切り換わります。

 をもう一度押すと曇り止めが停止し、前の状態に戻ります。



■ 急速に霜を取りたいとき

1.  を押す。
2.  を押す。

■ 前面・側面ガラスの曇り止め (デフロスター) の使いかた

設定温度を最大冷房付近にしないでください。

冷風が前面ガラスに当たると、ガラスの外側が曇ることがあります。

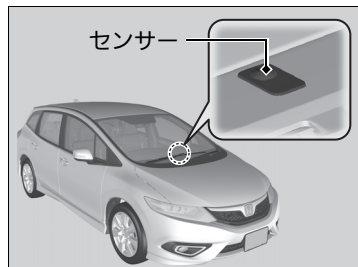
側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風が側面ガラスに当たるよう、側面吹き出し口を調節してください。

霜が取れたら、ただちに外気導入に切り換えてください。

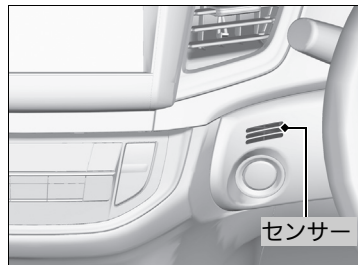
内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界の妨げになります。

アイドリングストップ中に  を押すと、エンジンが自動的に再始動します。

オートエアコンのセンサー



オートエアコンには、センサーが付いています。センサーの上にものを置いたり、水をかけたりしないでください。



ETC とは

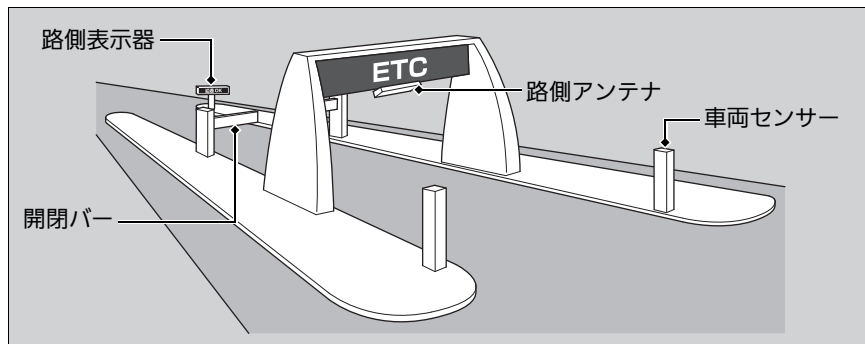
ETC (Electronic Toll Collection System) とは、自動料金収受システムのことです。

有料道路の料金所で行われている現金や回数券、カードの手渡しによる料金支払いに代わる新しい料金支払いシステムです。

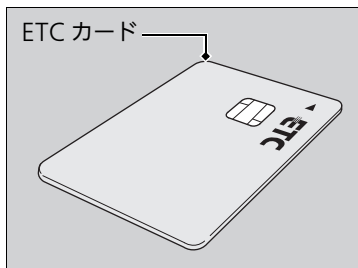
ETC® は一般財団法人 ITS サービス高度化機構(ITS-TEA)の登録商標です。

■ 自動料金収受システムのしくみ

料金所に設置されている路側アンテナと車に設置されている ETC 車載器との間で無線通信を行い、料金情報をやりとりします。支払いを自動的に行うため、料金所では車を停めることなくスムーズに通過することができます。



■ ETC をご利用いただくには



ETCは、ETC車載器のセットアップと事前にクレジット会社が発行するETCカードをご用意いただく必要があります。

ETCカードを所有している場合には、車種を問わずにご利用いただけます。ご用意いただいたETCカードをセットアップしたETC車載器に挿入することでご利用いただけます。

■ ETC カードの有効期限を確認

ETCカードの有効期限が切れていると、開閉バーが開きません。ETCカードを挿入する前に必ずETCカードに記載された有効期限を確認してください。

▶▶ETC をご利用いただくには

ETCカードの取り扱いについては、ETCカード発行会社の提示する注意事項に従ってください。

初めて ETC システムを使うときは、セットアップする必要があります。

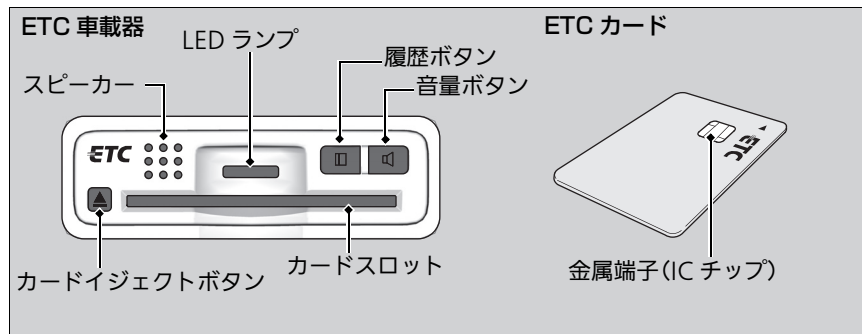
詳しくはHonda販売店にご相談ください。

ETCカードの有効期限切れは、音声でも確認できます。

ETCカードの有効期限は、ナビゲーション画面でも確認できます。

▶▶ETCカードの未挿入、抜き忘れ、有効期限案内 P.183

各部の名称



ナビゲーション画面の見かた



ETC アイコン :ETC カードが正常に読み込めない(カード未挿入など)ときは **ETC**、有効期限が切れているときには **ETC NG** を表示します。

ETCを利用する前に



安全のため、運転者は走行中に ETC カードの抜き差しおよび ETC 車載器の操作を行わない。

前方不注意などにより、思わぬ事故につながる恐れがあります。

ETC 車載器を取り外したり、分解したりしないでください。故障の原因となります。また、ETC 車載器を改造すると電波法により罰せられることがあります。

ETC 車載器に衝撃を与えないでください。ETC 車載器が故障・破損するおそれがあります。

ETC 車載器のアンテナ上に物を置かないでください。ETC のアンテナはインストルメントパネルの内部にあります。

ナンバープレートの変更や車検証の記載が変更になった場合は、ETC 車載器の変更手続きが必要となりますので Honda 販売店にご相談ください。

アドバイス

濡れた手でETC車載器に触れたり、水(液体など)を付着させないでください。

ETC 車載器の内部に水が入り、故障・破損するおそれがあります。

ETCを利用する前に

ETC 車載器を正しく使用していただくために、以下のことに注意してください。

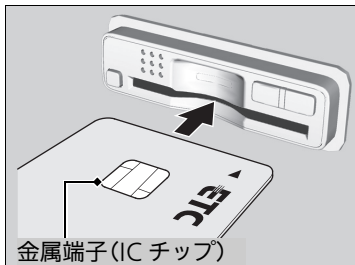
乗車前の注意と確認

ETC 車載器作動の確認

ETCカードをETC車載器に確実に挿入し、正常に作動することを確認してください。ETC車載器がETCカードを認証するまでには数秒かかります。料金所手前でETCカードを挿入した場合、エラーとなることがあります。

ETC カード

ETC カードを入れる



金属端子(ICチップ)が上になるように、「▲」マークの側から ETC カードを差し込む。



ETCカードの読み込みが正常に完了すると、「ピッ」と音が鳴り、ETC 車載器の LED ランプがグリーンになります。画面にメッセージを表示します。

ETC カードを入れる

ETC車載器の中に異物などを入れないでください。
ETC 車載器が故障するおそれがあります。

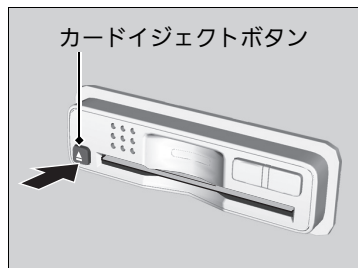
パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに使用できます。

ETC カードが正常に認証されなかった場合、「ピー」と音が鳴り、画面にエラーメッセージを表示します。

エラーコード P.193

画面左に **ETC** が表示されることで、正常に読み込みができていることを確認できます。
ETC カードが正常に読み込めない(カード未挿入など)ときは **ETC**、有効期限が切れているときには **ETC NG** を表示します。

ETC カードを取り出す



カードイジェクトボタンを押してETCカードを取り出す。

▶「ピッ」と音が鳴り、LEDランプがオレンジ色になり ETC カードが出てきます。

ETC カードの未挿入、抜き忘れ、有効期限案内

ETC カードの状態によって以下の案内をします。

また、モードを切り換えることによって ETC 車載器からの音声案内を設定することができます。

■ETC カードが未挿入のとき

パワーモードをアクセサリーモードまたはONモードにしたとき、ETC車載器にETCカードが挿入されていない場合、ETC車載器のスピーカーから「ピッ」と音が鳴り、「ETC カードが挿入されていません」と画面に表示されます。

■ETC カードを抜き忘れていたとき

ETC 車載器に、ETC カードが挿入されている状態で、パワーモードを OFF モードにすると、ETC車載器のスピーカーから「ピッ、ETCカードが残っています」と案内します。

ETC カードを取り出す

ETC カードはクレジットカードの一種ですので、車内に残したまま降車しないでください。

ETCカードを紛失してしまった場合は、すみやかにETCカード発行会社に連絡してください。

車から離れるときは、ETC カードを車内に放置しないでください。

故障、変形、盗難のおそれがあります。

■ETC カードの有効期限



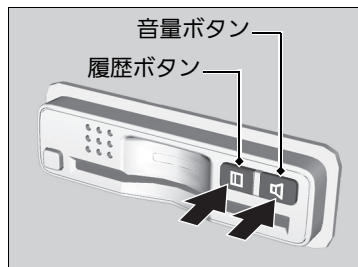
ETCカードの有効期限が近づいている場合や有効期限切れの場合、画面にテロップで表示されます。

ETCカードの有効期限を確認してください。

▶▶ETC カードの未挿入、抜き忘れ、有効期限案内

ETC カードが有効期限切れの場合は、「ETC カードの有効期限が切れているため ETC を利用できません」と音声案内します。

■モードの切り換え



1. パワーモードがアクセサリモードまたはONモードのときに、ETCカードが挿入されていない状態で履歴ボタンを押す。
▶「カード未挿入警告モード 音量ボタンで変更できます」と案内します。
2. 未挿入警告モードの ON/OFF を切り換える場合、音量ボタンを押す。別の設定をする場合、履歴ボタンを押す。
▶ 音量ボタンを押すと ON/OFF が切り換わり、「ONしました」/「OFFしました」と案内されます。
▶ 履歴ボタンを押すたびに「カード未挿入警告設定モード」、「カード抜き忘れ警告設定モード」、「カード有効期限モード」、「車載器管理番号」、「型式登録番号」、「型式」と切り換わります。
3. 同様に履歴ボタンと音量ボタンを使って、各モードの設定をする。

▶▶ETC カードの未挿入、抜き忘れ、有効期限内

⚠警告

走行中にモードの切り換え操作をしない。
前方不注意などにより、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

工場出荷時はすべてONに設定されています。
カード未挿入警告モードは、納車時に OFF 設定となっています。

「車載器管理番号」、「型式登録番号」、「型式」はそれぞれ車載器管理番号、型式登録番号、型式を確認するためのモードです。

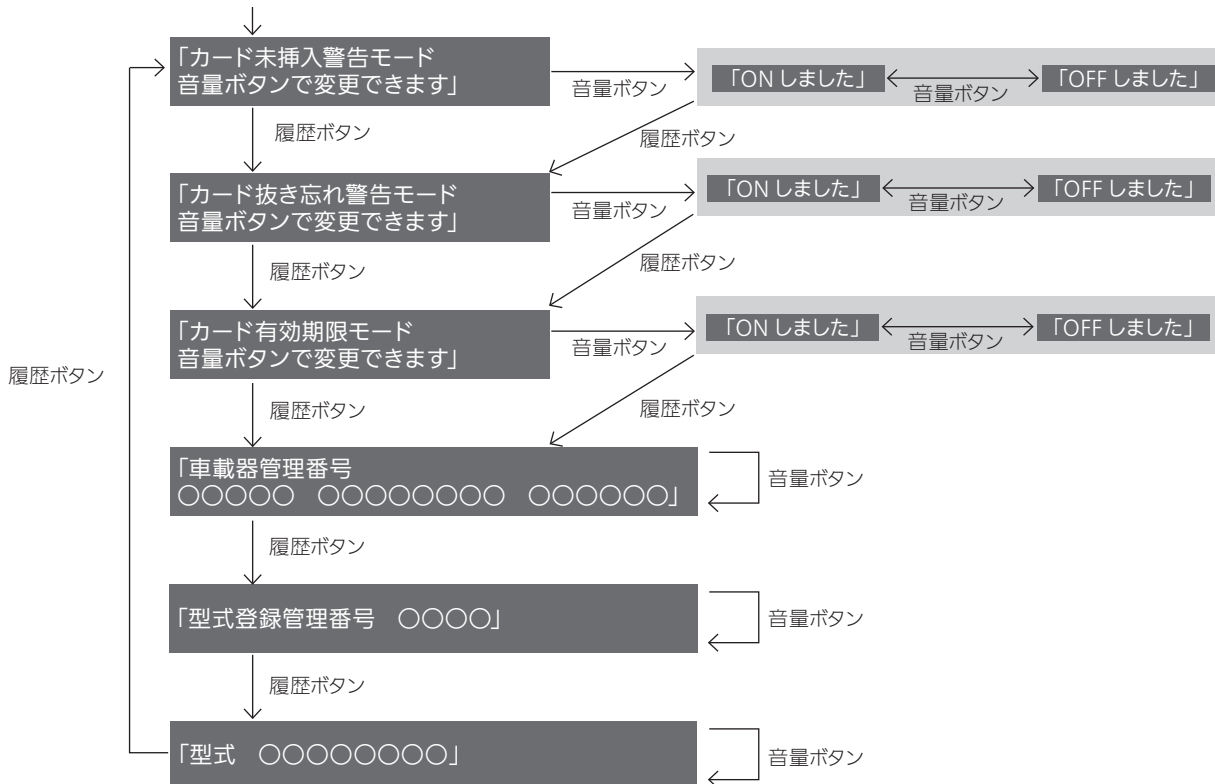
▶ **車載器管理番号の確認** P.192

「車載器管理番号」、「型式登録番号」、「型式」モードのとき音量ボタンを押すともう一度同じ項目が案内されます。

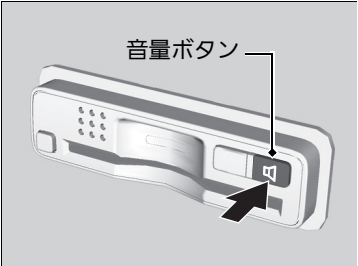
「カード未挿入警告」と「カード有効期限内」は、モード切り換えを行っても音声案内しません。
カード有効期限切れの場合のみ音声案内します。

■モードの切り換え操作一覧

(パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに、
ETC カードが挿入されていない状態で履歴ボタンを押す)



■スピーカーの音量調節



音声案内の音量を 4 段階で調節することができます。

パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに、音量ボタンを押す。

▶ 音量ボタンを押すたびに、音量が変わります。

このとき、調節した音量が音声で案内されます。

音量番号	音声案内	音量
0	音声案内を中止します	消音
1	音量 1 です	小
2	音量 2 です	中
3	音量 3 です	大

⚠ETC カードの未挿入、抜き忘れ、有効期限案内



警告

走行中に音量の調節をしない。

前方不注意などにより、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

工場出荷時の音量番号は「2 番」に設定されています。

例えば音量を 3 番から 2 番にする場合は、音量ボタンを 3 回押して、3 番→0 番→1 番→2 番の順番で切り換えます。

料金所の通過方法

■ ETC ゲート(入口)の通過

1. 時速 20km 以下の速度で、ETC レーンに進入する。
2. ETC ゲートの開閉バーが開いたら ETC ゲートを通過する。
▶「ピッ」と音が鳴ります。

■ ETC ゲート(出口)の通過

1. 時速 20km 以下の速度で、ETC レーンに進入する。
2. ETC ゲートの開閉バーが開いたら ETC ゲートを通過する。
▶「ピッ、利用料金は〇〇〇円です」と音声で案内されます。

音声案内の一例：

料金内容	音声案内
1000 円利用	ピッ、利用料金は 1000 円です
350 円払い戻し	ピッ、払い戻し料金は 350 円です
0 円利用	ピッ、利用料金は 0 円です

■料金所の通過方法



注意

ETC レーンへ進入するときは、十分な車間距離を取り、時速 20km 以下の安全な速度で通過する。

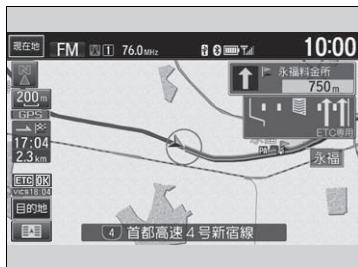
料金所を通過するときは、開閉バーの動作や前車の急停止に注意する。

ETC レーンに設置されている開閉バーは、ETC 車載器とアンテナ間の通信、もしくは、ETC 車載器と ETC カードとの通信が正常に行われなかったときなど、開閉バーが開かないことがあります。

ETC ゲート、料金所、予告アンテナ付近では、ETC カードを抜かないでください。
カード内のデータが破損するおそれがあります。

料金が不明の場合は、「料金は不定です」と音声案内があります。
画面に「- - - - -」が表示されます。

ナビゲーション画面での案内



■料金所通過のしかた

料金所に近づいてから、通過までの一例を説明します。

料金所から約 1.5km まで近づくと、料金および ETC レーンのある方向を案内します。

料金所のアンテナを通過すると、状態および利用料金を案内します。

■料金所の通過方法

料金所の手前には、予告アンテナという路側アンテナが設置されていることがあります。

予告アンテナとの無線通信により ETC カードが挿入されていない場合：

- 「ピー」と音が鳴ります。
 - ETC アイコンの横に NG と表示されます。
- 安全な場所に停車して ETC カードを挿入してください。

ETC ゲートの入口で使用した ETC カードで、ETC ゲートの出口を通過してください。

料金所では、「ETC 専用」または「ETC / 一般」と表示されているゲートに進入してください。

案内される通行料金は、割り引きなどにより実際と異なる場合があります。

ETC 未対応の料金所の場合は、入口で通行券を受け取り、出口では一般ゲートで通行券と ETC カードを料金所係員にお渡しください。

ETC 出口のみ未対応の料金所の場合は、出口で ETC カードを料金所の係員にお渡しください。

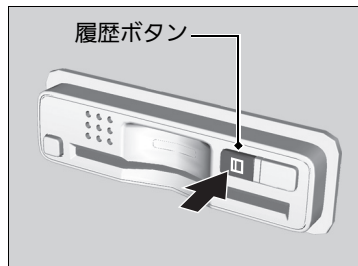
■マルチインフォメーションディスプレイ装備車

ETC の利用ができない場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイにも表示されます。

利用履歴の確認

履歴ボタンまたはナビゲーション画面から利用日と料金の履歴を確認することができます。

■履歴ボタンから確認する



パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに、確認したい ETC カードを挿入し、履歴ボタンを押す。

- ▶ 履歴ボタンを押すたびに、最近の履歴から古い履歴へと音声で確認することができます。

音声案内の一例：

履歴内容			音声	
4月3日	900円	履歴#	4月3日	利用料金は900円です。
4月3日	-100円	履歴#	4月3日	払い戻し料金は100円です。
4月3日	0円	履歴#	4月3日	利用料金は0円です。

利用履歴の確認



警告

走行中に利用履歴の確認操作をしない。

前方不注意などにより、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

ETC ゲート付近では、利用履歴の確認を行わないでください。

路側無線装置との通信ができなくなるおそれがあります。

音声案内のはじめに、履歴番号(#)が案内されます。最も古い履歴の案内後、さらに履歴ボタンを押すと「ピー、利用履歴はありません」と案内されます。

利用履歴は ETC カードに記録されるため、最大案内件数は挿入した ETC カードによって異なります。

■ナビゲーション画面から確認する



ETC料金履歴	10:00
14.08.31 14:40	7910 円
14.08.30 16:56	880 円
14.08.30 15:26	540 円
14.08.30 14:23	1930 円
14.08.30 11:50	1640 円
14.08.30 10:45	810 円
14.08.11 16:30	310 円

1. パワーモードがアクセサリモードまたは ON モードのときに、確認したい ETC カードを挿入し、→「情報」にタッチする。
2. →「ETC 情報」にタッチする。
3. 「料金履歴」にタッチする。
4. 確認したい料金履歴にタッチする。
▶ 利用履歴の詳細を確認できます。

車載器管理番号の確認

■車載器管理番号を確認する

パワーモードがアクセサリーモードまたは ON モードのときに ETC カードが挿入されていない状態で履歴ボタンを 4 回押す。

- ▶「車載器管理番号 〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇〇〇〇 〇〇〇〇〇〇」と音声で案内します。

音声案内終了後 10 秒以内に音量ボタンを押すともう一度案内されます。

■ナビゲーション画面で車載管理番号を確認する

セットアップする際に必要な情報を確認することができます。

1.  →「情報」にタッチする。
2.  →「ETC 情報」にタッチする。
3. 「ユーザー情報」にタッチする。
▶ 情報を表示します。

▶▶車載器管理番号の確認



警告

走行中に車載器管理番号の確認操作をしない。
前方不注意などにより、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車載器管理番号は、ETC 車載器を Honda 販売店でセットアップする際などに必要な情報です。

車載器管理番号は登録されている ETC 車載器ごとに異なります。

車載器管理番号は「ETC 車載器セットアップ申込書」でも確認することができます。

「ETC 車載器セットアップ申込書」は大切に保管してください。

履歴ボタンを押すごとに型式登録番号、型式の確認やカード未挿入、抜き忘れ、有効期限の案内設定ができます。

▶▶ETC カードの未挿入、抜き忘れ、有効期限案内 P.183

番号の確認は、安全な場所に停車して行ってください。

車を発進させると、ナビゲーション画面に「走行中は安全のため表示できません」が表示されます。

エラーコード

エラーが発生すると、LED ランプがオレンジ色に点滅するとともに、ピー音の後にエラーコードがナビゲーション画面に表示されます。

エラーコードを確認し、下表にしたがって処置してください。

エラーコード	タイミング	原因	処置
ETC カードが挿入されていません。	ETC ゲート 進入／通過時	ETC カードが未挿入で路側アンテナとの通信が行われた	ETC カードを正しく挿入してください。
ETC カードを確認できません。 コード(0 1)	ETC カード 挿入時	ETC カードの挿入異常	ETC カードを正しく挿入してください。
ETC カードを確認できません。 コード(0 2)	ETC カード 挿入時	ETC カードの金属端子(IC チップ)部分が汚れている	ETC カードの金属部分に汚れがないか確認してください。
ETC カードを確認できません。 コード(0 3)	ETC カード 挿入時	ETC カードの金属端子(IC チップ)部分が汚れている	ETC カードの金属部分に汚れがないか確認してください。
	カード 挿入時	ETC カードまたはセットアップカード以外のカードが挿入された	正しいETCカードまたはセットアップカードを挿入してください。
	ETC カード 挿入時	ETC カードが正しく挿入されていない(表裏が逆、前後が逆)	ETC カードを正しく挿入してください。
ETC 車載器が異常のため ETC を利用できません。コード(0 4)	ETC 車載器 故障時	ETC 車載器が故障している	Honda 販売店にご相談ください。

エラーコード	タイミング	原因	処置
ETC カードを確認できません。 コード(0 5)	ETC カード 挿入時	ETC カードの金属端子(IC チップ)部分が汚れている	ETC カードの金属部分に汚れがないか確認してください。
	カード 挿入時	ETCカードまたはセットアップカード以外のカードが挿入された	正しい ETC カードまたはセットアップカードを挿入してください。
ETC 車載器が異常のため ETC を利用できません。コード(0 6)	ETC ゲート 進入／通過時	アンテナ通過時に何らかの異常があった	Honda 販売店にご相談ください。
ETC 通信異常のため ETC を利用できません。コード(0 7)	ETC ゲート 進入／通過時	アンテナ通過時に何らかの異常があった	Honda 販売店にご相談ください。
ETC 車載器が異常のため ETC を利用できません。コード(0 9)	ETC ゲート 進入／通過時	車載器のメモリーに何らかの異常があった	Honda 販売店にご相談ください。
ETC 車載器が異常のため ETC を利用できません。コード(10)	ETC ゲート 進入／通過時	車載器(ETC-SAM)に何らかの異常があった	Honda 販売店にご相談ください。
ETC カードに書き込むことができません。コード(1 1)	ETC カード 認証時	ETCカードへの書き込み処理ができなかった	ETC カードを確認してください。
ETC カードが抜かれました。		ETC カードが抜き取られた	再度 ETC カードを正しく挿入してください。
セットアップされていません。	ETC 料金履歴確認時 / ETC ユーザー情報確認時	何らかの異常で、セットアップが正しく行われていなかった	再度セットアップカードを挿入し、セットアップを行ってください。同じエラーが繰り返されるときは、Honda 販売店にご相談ください。

オーディオ



オーディオ装置* 196

オーディオ装置*

オーディオ・テレビ・DVD の取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

運転

この章では、運転操作、給油、アクセサリなどについて記載しています。

運転の前に	198
運転操作	
エンジンの始動	200
走行時の注意点	203
無段変速オートマチックについて	206
シフト操作	207
アイドリングストップシステム	211
ECON スイッチ	215
リアアクティブフォースペダル	216
クルーズコントロール*	218
VSA(ピークルスタビリティアシスト)	221
アジャイルハンドリングアシスト	222

フロントセンサーカメラ*	223
ACC(アダプティブクルーズコントロール)*	225
LKAS(車線維持支援システム)*	237
路外逸脱抑制機能*	249
LaneWatch TM *	255
標識認識機能*	257
先行車発進お知らせ機能*	264
ブレーキ操作	
ブレーキシステム	268
ABS(アンチロックブレーキシステム)	270
電子制御ブレーキアシスト	271
エマージェンシーストップシグナル	272

CMBS(衝突軽減ブレーキ)*	273
駐停車操作	
駐車する	282
後退出庫サポート*	284
リヤワイドカメラシステム*	287
給油	
指定燃料について	288
給油のしかた	288
ターボ車について	
取り扱い	291
アクセサリと改造	292

※：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

運転の準備

運転を始める前に下記の項目を確認してください。

車外での確認項目

- 窓やミラーの視界、灯火器類の光をさえぎるものがないか？
 - ▶ 霜、雪、氷が付着している場合は取り除きます。
 - ▶ 屋根に雪が積もっている場合は、走行時に滑り落ちて視界をさえぎる可能性があるため取り除きます。
 - 氷結しているときは、氷が溶けてから取り除いてください。
 - ▶ 足回りに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないよう注意しながら取り除きます。
- ボンネットは完全に閉まっているか？
 - ▶ 走行中にボンネットが開くと、視界がさえぎられて危険です。
- タイヤは正常か？
 - ▶ 空気圧、亀裂、損傷や異常な摩耗がないか確認します。
 - **タイヤの点検と整備** P.317
- 車の周囲に子供はいないか？
車の周りに障害物はないか？
 - ▶ 運転席から見えない死角や、バックミラーでは確認できない死角がありますので、乗車する前に確認します。

車内での確認項目

- フロアマットがペダルに引っかかっているか？
- フロアマットが固定されているか？
- フロアマットを重ねていないか？
 - ▶ ブレーキやアクセルの操作が確実にできないおそれがあり危険です。
- フロントシートの足元にものを置いていないか？

車外での確認項目

アドバイス

ドアが凍結しているときは、無理にはがさずお湯をかけて溶かしてください。

無理にはがすと、ドアまわりのゴムがはがれます。お湯をかけた後は、凍結防止のため、水分をよく拭き取ってください。

ドアのキー穴部には、お湯をかけないでください。

凍結すると、キーが差し込めなくなります。

エンジンルーム内に可燃物の置き忘れや、燃えやすいものがないか確認してください。

車両を長期間使用しなかった場合や、メンテナンスの後、特に注意してください。火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

車内での確認項目

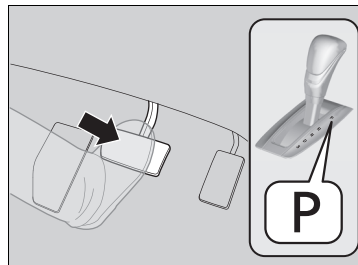
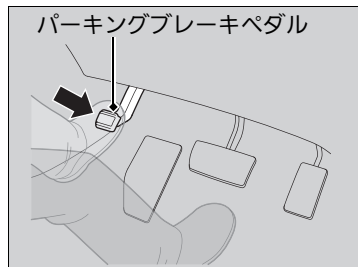
運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。

運転者が運転中にハンズフリー以外の携帯電話を使用することは、法律で禁止されています。運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

車に合ったフロアマットをお使いください。

- 積み込んだ荷物が適切に固定されているか？
 - ▶ 不適切な荷物の積み込みは、タイヤに負担をかけたり走行中のバランスを維持できず危険です。
- 荷物はシートの高さを越えていないか？
 - ▶ 後方視界を妨げたり急ブレーキのときに荷物が飛び出したりするおそれがあり危険です。
- 動物を乗せるときは、動きまわらないようにしているか？
 - ▶ 運転の妨げになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シート位置などが適切に調節されているか？
 - ▶ 不適切なシート位置での走行は危険です。
 - ❏ シートの調節 P.150
- ルームミラー、ドアミラー、ハンドルは適切に調節したか？
 - ▶ 正しい運転姿勢ですわり、それぞれ適切な位置に調節します。
 - ❏ ミラー類の調節 P.148
 - ❏ ハンドルの調節 P.147
- すべての乗員がシートベルトを締めているか？
 - ▶ すべての乗員は必ずシートベルトを着用します。
 - ❏ シートベルトの着用 P.27
- ドア、テールゲートが確実に閉まっているか？
 - ▶ 走行前にすべてのドア、テールゲートが完全に閉まり、正しく施錠されていることを確認します。
 - ❏ 車内での施錠 / 解錠 P.123
- エンジンかけたとき、メーターに異常を示す警告灯などが点灯していないか？
 - ▶ 異常を示す警告灯の異常を解決してから走行します。
 - ❏ 警告灯 P.55

エンジンの始動



1. パーキングブレーキをかける。

2. セレクトレバーが **P** であることを確認し、右足でブレーキペダルを踏む。

▶ **N** でも始動できますが、安全のため駆動輪が固定される **P** で行ってください。

⚡エンジンの始動

⚠警告

バッテリー液が不足しているときは、エンジンを始動しない。

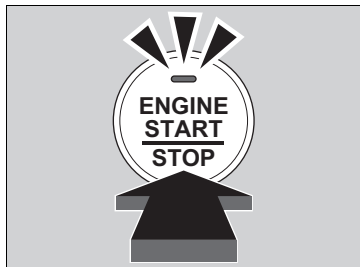
バッテリーが破裂するおそれがあります。

⚠注意

エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏む。

寒いときのエンジンの始動は、すべての電気アクセサリーを OFF にしてから行います。

寒いときのエンジンの始動は、バッテリーの消耗を防ぐためライト類、エアコン、リヤデフロスターなどの電気アクセサリーをすべて OFF にしてから行ってください。



エンジンの停止

車が完全に停止しているとき、エンジンを切ることができます。

1. セレクトレバーを **[P]** にする。
2. **[ENGINE START/STOP]** を押す。

3. アクセルペダルを踏まずに、**[ENGINE START/STOP]** を押す。

エンジンの始動

エンジンがかからない場合は、10秒以上待ってから操作してください。

排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えないときは、排気系や燃料系の異常が考えられます。

Honda 販売店で点検を受けてください。

車を盗難から守るため、イモビライザーシステムのキーを採用しています。

そのため、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができません。

■ イモビライザーシステム P.132

[ENGINE START/STOP] はエンジンが始動するまで押し続ける必要はありません。

Honda スマートキーの電池が切れたときは、キーで **[ENGINE START/STOP]** に触れてください。

■ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.349

■発進時の操作

1. 右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを[D]にする。
 - ▶ 後退する場合は[R]にします。
2. パーキングブレーキを解除する。
 - ▶ ブレーキ警告灯が消灯したことを確認してください。
■パーキングブレーキ P.268
3. ブレーキペダルを徐々に離し、アクセルペダルをゆっくりと踏んで発進する。

■ヒルスタートアシストシステム

急な坂道からの発進をするときに、ブレーキペダルから足を離した後、ブレーキ力を約1秒間保持することで車両の後退を緩和し、発進を容易にするシステムです。

※発進時の操作



注意

アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しない。

急発進して思わぬ事故の原因となります。

坂道での発進時は、必ずパーキングブレーキを併用してください。

車が後退しないよう、パーキングブレーキをかけたまま、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。

※ヒルスタートアシストシステム

緩やかな坂道ではシステムが作動しないことがあります。

走行時の注意点

霧が出たときは

霧が出たときは視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレール、前走車のテールランプなどを目安にして、速度を落として走行してください。

風が強いときは

風が強く車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、速度を徐々に落として進路を立て直します。

トンネルの出口、橋、土手の上、山を削った切り通しの走行時や大型トラックの追い越し時などには、特に横風の影響を受けやすいため、十分に注意してください。

※走行時の注意点

走行中はエンジンを停止しないでください。

下記のような状態になり危険です。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる

走行中はセレクトレバーを[N]にしないでください。

エンジンブレーキが全く効かず、思わぬ事故の原因となります。

車を移動するときは、必ずエンジンを始動してください。

下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故の原因となります。

1,000km走行するまでは、エンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け、控えめな運転をしてください。

■雨が降っているときは

雨天時は路面が滑りやすくなっているため、急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け通常より注意深く運転してください。

わだちなどの水のたまりやすい場所ではハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。エンジンや駆動系の破損、電装品の故障につながるおそれがあります。

☒雨が降っているときは

ハイドロプレーニング現象に注意してください。

ハイドロプレーニング現象とは、路面が水でおおわれているところを高速で走行したときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いてハンドルやブレーキが効かなくなる状態のことをいいます。

■ その他の注意点

走行中、床下に強い衝撃を受けたときは、思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してブレーキフルードや燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。

☒ その他の注意点

⚠ 注意

シフトダウンする際の車速には、十分注意する。

滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。

アドバイス

停車中や極低速のときハンドル操作を繰り返したり、ハンドルに力をかけ保持するなどして EPS(電動パワーステアリング)システムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。

システムの温度が下がると復帰しますが、システム保護がはたらくような使いかたを断続的に繰り返すと、システム破損の原因となります。

アドバイス

下記のような場合には、アンダースポイラーを損傷するおそれがあります。

- 平坦路から上り坂・下り坂および上り坂・下り坂からの平坦路への乗り入れ
- 路肩等段差のある場所への乗り降り
- 凹凸やわだちのある道路の走行
- くぼみ(穴)のある個所の通過
- 車止めのある場所への駐車
- 路肩に沿っての駐車

無段変速オートマチックについて

■クリーブ現象

エンジンがかかっているとき、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていると動力がつながった状態になり、クリーブ現象によりアクセルペダルを踏まなくても、車がゆっくり動き出します。

※クリーブ現象

エンジン回転が上がるとクリーブ現象が強くなります。

エンジン回転が上がったときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

上り坂での停車時、クリーブ現象による前進の力よりも、後退しようとする力のほうが大きくなり、車が後退する場合があります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。

■キックダウン

セレクトレバーが[D] [S]で走行中にアクセルペダルをいっぱい踏み込むと、自動的に変速比が変わりエンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。

※キックダウン

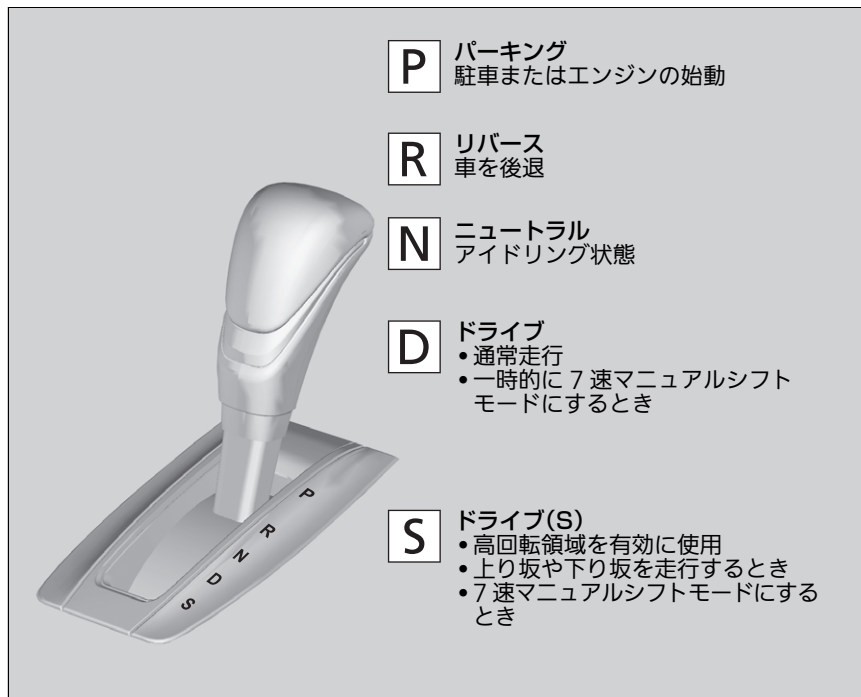
上り坂などでアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより急にエンジン回転が上がリ、速度が出すぎてしまうことがあります。

アクセルペダルは慎重に操作してください。滑りやすい路面やカーブでは、特に注意が必要です。

シフト操作

走行状態に応じてセレクトレバーで切り換えます。

■セレクトポジションの名称とはたらき



※シフト操作

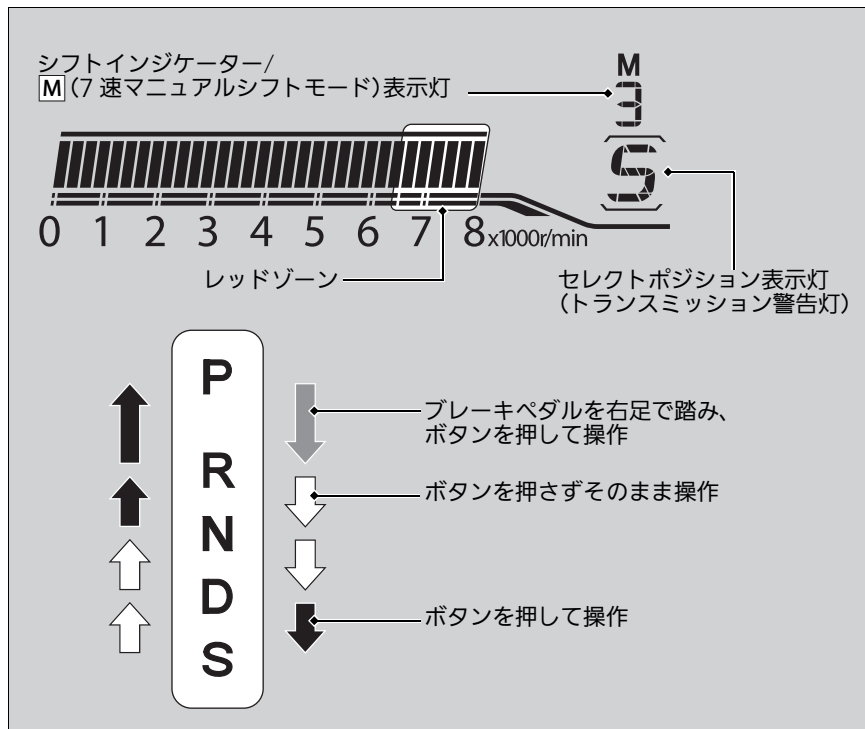
セレクトレバーが **P** 以外のときは、パワーモードが OFF モードになりません。

R のときは、チャイム音が鳴り運転者にセレクトレバーが **R** に入っていることを知らせます。

N のときでも、エンジンが冷えているときはトランスミッションフルードの粘性により、車がわずかに動き出すことがあります。
ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■セレクトレバーの操作

セレクトポジションは、メーター部にあるセレクトポジション表示灯と連動し、現在のポジションを表示灯の点灯で表示します。



■セレクトレバーの操作

アドバイス

前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。

車が完全に止まっていない状態でレバーを操作すると、トランスミッションを破損するおそれがあります。

車を発進させるときは、思い違いによる事故を防ぐためにセレクトポジション表示灯でもセレクトレバーの位置を確認してください。

走行中にトランスミッション警告灯が点滅しているときは、トランスミッションに異常があります。

急加速を避け、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーボタンを押したままブレーキペダルを踏んだ場合、セレクトレバーの操作ができないことがあります。

先にブレーキペダルを踏んでください。

外気温が非常に低い (マイナス 30 度以下) と
き、セレクトポジションの表示の切り替わり
が少し遅れることがあります。走行前は必ず
セレクトポジションを確認してください。

■ 7 速マニュアルシフトモードとは

ハンドルにあるシフトスイッチで、ハンドルから手を離さずに手動で1～7速まで変速することができます。走行中にシフトスイッチを引くと、7 速マニュアルシフトモードへ切り換わります。エンジンブレーキが必要なときにも、使用してください。

■ セレクトポジションが[D]のとき

一時的に7速マニュアルシフトモードとなり、シフトインジケーターが点灯します。

一定速走行や加速の状態になると、7 速マニュアルシフトモードは自動的に解除されます。また、**[+]**のシフトスイッチ(右側)を数秒間引き続けることでも解除することができます。

カーブの手前など、一時的に減速したいときに便利です。

■ セレクトポジションが[S]のとき

7 速マニュアルシフトモードとなり、**[M]**表示灯とシフトインジケーターが点灯します。

シフトスイッチを操作せずに車速が下がると、順次低速段に自動的にシフトダウンし、停止すると1速にシフトダウンします。

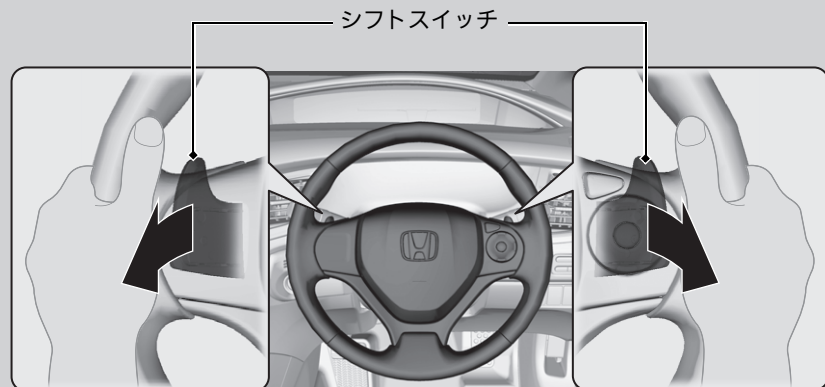
車速が上がりエンジン回転数が限界回転数(レッドゾーン)に近づくと、自動的に1段シフトアップします。

発進は1速でのみ行うことができます。

モードを解除する場合は、セレクトレバーを**[S]**から**[D]**に動かしてください。7 速マニュアルシフトモードが解除され、**[M]**表示灯とシフトインジケーターが消灯します。

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

1 回のシフトスイッチ操作で、ギヤは 1 段変速します。



－のシフトスイッチ(左側)
を引くと、シフトダウン
(低速ギヤに変速)

＋のシフトスイッチ(右側)
を引くと、シフトアップ
(高速ギヤに変速)

■ 7 速マニュアルシフトモードの操作

シフトスイッチを操作したとき、操作後のエンジン回転数が許容範囲外になる場合は、変速せず表示灯が点滅します。

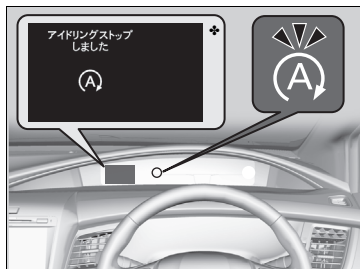
エンジン保護のために、自動的にシフトアップやシフトダウンすることがあります。

滑りやすい路面でシフトスイッチを操作したときに、タイヤがロックするような場合、7 速マニュアルシフトモードから通常走行に戻る場合があります。

低速時にシフトスイッチを操作したとき、トランスミッションを保護するため、変速せずに表示灯が点滅することがあります。

アイドリングストップシステム

燃費向上やアイドリング騒音低減のために、停車時にアイドリングストップしたり、エンジンが自動的に再始動するシステムです。アイドリングストップ中は、表示灯が点灯します。



表示灯が点灯しているときに運転席ドアを開けるとブザーがなり、アイドリングストップしていることを知らせます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

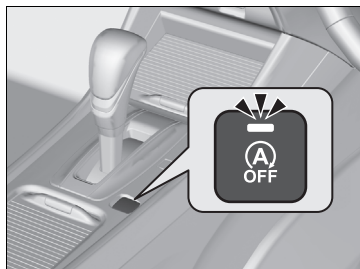
マルチインフォメーションディスプレイにアイドリングストップ状態のメッセージが表示されます。

❏ 警告灯 P.67

❏ 表示灯 P.71

❏ カスタマイズ機能 P.96

アイドリングストップシステム OFF スイッチ



アイドリングストップシステムをOFFにするには、を押してください。

スイッチ内の表示灯が点灯し、システムがOFFになります。

前回の走行時にOFFにした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的にONになります。

❏ アイドリングストップシステム

アイドリングストップシステム装備車に適合したバッテリーを使用しています。

指定されたバッテリー以外を使用すると、バッテリーの早期劣化やアイドリングストップが作動しにくくなる可能性があります。交換時は指定されたバッテリーを使用してください。

詳しくは Honda 販売店にご相談ください。

❏ 仕様 P.370

ECON スイッチを ON にしていると、エアコン使用中のアイドリングストップ時間が長くなります。

❏ ECON スイッチ P.215

❏ アイドリングストップシステム OFF スイッチ

アイドリングストップ中にを押すと、エンジンが再始動します。

■ アイドリングストップをする

停車時にブレーキペダルを踏んでいるとアイドリングストップします。

■ アイドリングストップしない条件

- 運転者がシートベルトを着用していないとき
- エンジン冷却水の水温が低いとき、または高いとき
- トランスミッションフルードの油温が低いとき、または高いとき
- エンジン始動後、5km/h に達しないまま停車したとき
- 急な坂道で停車したとき
- セレクトレバーを **[D]** 以外にしているとき
- ボンネットが開いている状態でエンジンを始動したとき
▶ ボンネットを閉めてからエンジンを再始動してください。
- バッテリーの充電量が少ないとき
- バッテリーの内部温度が 5℃ 以下のとき
- 外気温が -20℃ 以下または 40℃ 以上で、エアコンを使用しているとき
- エアコンの設定温度が Hi または Lo で、エアコンを使用しているとき
- **[PROMT]** が ON のとき

■ アイドリングストップをする

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

ボンネットを開けると、エンジンが自動で再始動しません。

ボンネットを開けたときは、セレクトレバーを **[P]** にして、**[ENGINE START/STOP]** でエンジンを再始動させてください。

■ エンジンの始動 P.200

アイドリングストップ中に、

[ENGINE START/STOP] を押すとアクセサリモードになり自動で再始動しません。通常のエンジンの始動操作をしてください。

■ エンジンの始動 P.200

■アイドリングストップしないことがある条件

- 急ブレーキをかけて停止したとき
- ハンドルを動かしているとき
- エアコン風量が多いとき
- 標高が高いとき
- 低車速で、加減速が繰り返されるとき
- エアコンを使用中で設定温度と車内の温度差が大きいとき
- エアコンを使用中で車内の湿度が高いとき

■エンジンが自動的に再始動する

ブレーキペダルを離すとエンジンが自動的に再始動します。

■ブレーキペダルを離さずに、エンジンが自動的に再始動する条件

- を押したとき
- ハンドルを動かしたとき
- セレクトレバーを 、にしたとき、または から に操作したとき
- 坂道で停車中に、ブレーキをゆるめて車が動いたとき
- ブレーキを繰り返し踏み込んだりゆるめたりしたとき
- バッテリーの放電量が多いとき
- アクセルペダルを踏んだとき
- 運転者がシートベルトを外したとき
- を押したとき
- エアコン使用中で設定温度と車内の温度差が大きくなったとき
- エアコン使用中で車内の湿度が高くなったとき

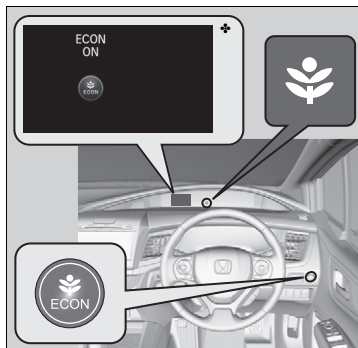
■発進補助ブレーキ機能

アイドリングストップからの発進はブレーキペダルから足を離しても一時的にブレーキ力を保持し、坂道で車を下がりやすくします。

⌘エンジンが自動的に再始動する

アイドリングストップからエンジンが再始動すると、使用している電子機器によっては、電源が一時的にオフになることがあります。

ECON スイッチ



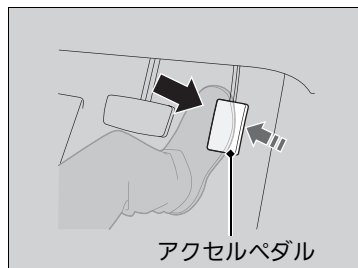
スイッチを押すとエンジン、トランスミッション、オートエアコン、クルーズコントロール* の作動を制御して、省燃費運転をしやすいように制御します。

パワーモードがON モードのときにスイッチを押すと、ECON モードが ON になりメーター内の表示灯が点灯し、運転の状況に応じて省燃費制御に切り換わります。

▶▶ECON スイッチ

ECON モードのときは、走行中にエアコンの効きが弱くなる場合があります。

リアクティブフォースペダル



アクセルペダルを踏み込んだときに、条件によりアクセルをやや重くすること(反力)で、運転を補助するシステムです。

アクセルペダルを踏み込んだときに、加速に応じてアクセルペダルに反力をかけることにより、踏みすぎを抑制することで、省燃費運転を手助けします。

凍結、積雪や雨(激しい降雨)など滑りやすい路面では、アクセルペダルの踏みすぎを抑制することで、タイヤの空転を防ぎ、スムーズな発進を手助けします。

■リアクティブフォースペダル

アクセルペダルの踏み込み操作を制限するシステムではありません。

CMBS(衝突軽減ブレーキ)*、誤発進抑制機能*、後退出庫サポート*が車両などの衝突のおそれのある障害物を検知したとき、アクセルペダルに断続的に反力を発生させます。

■ CMBS(衝突軽減ブレーキ)* P.273

■ 誤発進抑制機能* P.280

■ 後退出庫サポート* P.284

ECON モードが OFF のときは、反力の増加が少なくなります。

反力の強さを変更することができます。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

■ カスタマイズ機能 P.96

マルチインフォメーションディスプレイ非装備車

カスタマイズ機能については Honda 販売店にご相談ください。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

アクセルペダルの踏み込み状態がマルチインフォメーションディスプレイでも確認できます。

❑ マルチインフォメーションディスプレイ* P.89

雪道や凍結路でタイヤが滑り、システムが通常より早く反力を作動させる状態に切り換わると、雪マークが点灯します



アクセルペダルの
踏み込み量

停車時



踏む
→
←
戻す

アクセルペダルを
軽く踏み込んだとき



踏む
→
←
戻す

反力が始めているとき
(省燃費運転状態)



踏む
→
←
戻す

省燃費運転状態をこえて
アクセルペダルを踏み込んだとき



運
転

クルーズコントロール*

高速道路のような加速 / 減速操作の少ない自動車道などで、定速運転をするときアクセルペダルを踏まなくても車速を一定に保つための装置です。

こんなときに

■使用できるシフトポジション

D **S** のとき

■使用できる車速

約 30km/h ~ 100km/h の希望値

十分な車間距離がある



操作

■ハンドルの

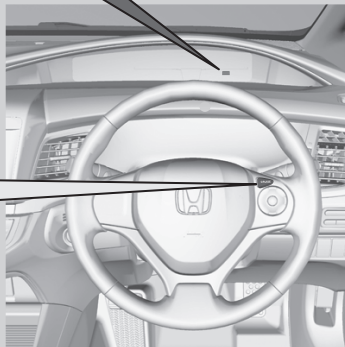
CRUISE スイッチ
を押す

CRUISE スイッチ



CRUISE MAIN
(点灯)

メーターの **CRUISE MAIN** が
点灯
クルーズコントロールが ON に
なります。



※クルーズコントロール*

⚠ 警告

下記のような道路で、クルーズコントロールを使用しない。

道路状況によっては、思わぬ事故につながります。

● 混んでいて、車間距離が十分にとれない道路

道路状況に合った速度で走行できません。

● 急な下り坂のある道路

エンジンブレーキが十分効かず、セットした速度を超えてしまうことがあります。

● 凍結や積雪などで滑りやすい道路

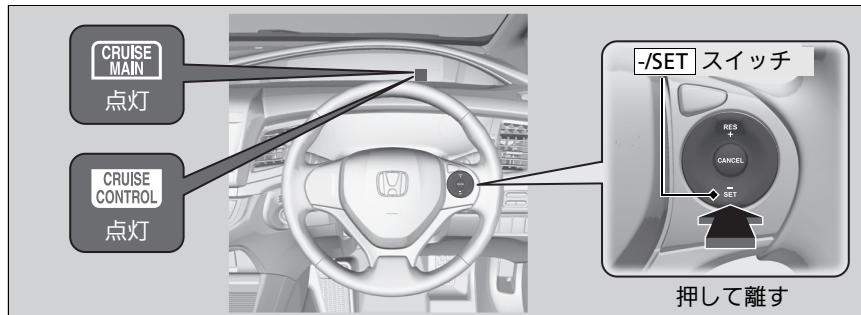
タイヤが空転し、車のコントロールを失うおそれがあります。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにするとクルーズコントロールは自動的に OFF になります。

上り坂や下り坂では、条件により一定速度を保てない場合があります。

ECON モードのときは、よりスムーズな加速となります。

車速をセットするには



希望の車速になったらペダルから足を離し、**[-/SET]**を押します。
[-/SET]を離すと、離れたときの車速にセットされ自動定速走行になります。
 同時に、**CRUISE CONTROL**表示灯が点灯します。

⚠車速をセットするには

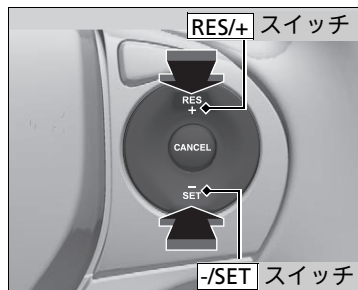
自動定速走行をしないとき

安全のため **[CRUISE]** を押して OFF にしてください。

パワーモードをアクセサリモードまたは OFF モードにすると、クルーズコントロールは自動的に OFF になります。

車速を調節するには

手元の **RES/+** と **-/SET** の操作で、車速を上げ / 下げすることができます。



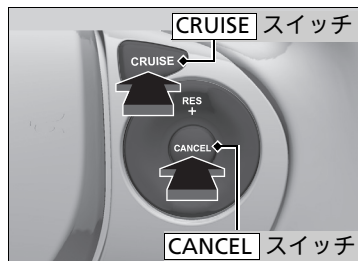
RES/+ スイッチ

- 1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が上がる
- 押し続けると車速が上がり、手を離れたときの車速に固定

-/SET スイッチ

- 1回押すごとに約1.5km/hずつ車速が下がる
- 押し続けると車速が下がり、手を離れたときの車速に固定

解除するには



次の操作をすると、自動定速走行が解除されます。同時に、**CRUISE CONTROL** 表示灯が消灯します。

- **CANCEL** を押す
- **CRUISE** を押す
- ブレーキペダルを踏む

解除するには

解除前の設定車速を復帰させる

自動定速走行を解除したあとでも、30km/h以上の車速で走行中に **RES/+** を押すことで、解除前の設定車速の自動定速走行に戻すことができます。



ただし、下記の場合は復帰できません。

- 解除後、車速が 30km/h 未満になったとき
- **CRUISE** で OFF 操作をしたとき

車速が 25km/h 以下になると

自動的に自動定速走行が解除になります。

VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA とは、ABS 機能、TCS 機能および横滑り抑制機能を総合的に制御し、急激な車両の挙動変化を抑制しようとする装置です。

■ABS(アンチロックブレーキシステム)機能 ▢ P.270

■TCS(トラクションコントロールシステム)機能

滑りやすい路面などでの駆動輪の無駄な空転を防止し、駆動力、操舵能力を確保しようとする機能です。

■横滑り抑制機能

急激なハンドル操作や滑りやすい路面などでの旋回時に、車輪の横滑りなどを抑制することで車両の安定性を確保しようとする機能です。

さらに、緊急制動時に運転者のブレーキ操作を補助する電子制御ブレーキアシストも装着しています。

▢ 電子制御ブレーキアシスト P.271

VSA の作動と警告灯



TCS 機能または横滑り抑制機能作動中は、VSA 警告灯が点滅します。

▢ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

VSA が作動した状態でも車両の安定性の確保には限界がありますので、無理な運転はしないでください。

- カーブ手前では十分に速度を落とす
- 雪道、凍結路を走行するときは、スノータイヤまたはタイヤチェーンを装着し控えめな速度で運転する

新雪やぬかるみから脱出したいときに、で VSA を OFF にすると TCS 機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなるので効果的な場合があります。

新雪やぬかるみから脱出した後は、すみやかに VSA を ON にしてください。
VSA を OFF にしたままでの走行は、お勧めしません。

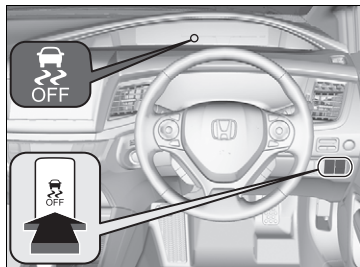
種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、VSA が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

VSA 警告灯が運転中に点灯するときはシステムの異常が考えられます。

通常の運転には支障はありませんが、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■ VSA OFF スイッチ



VSA 機能を部分的に停止(OFF)状態にするには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押してください。

TCS機能が制限され、低速で駆動輪が回転しやすくなり、VSA OFF 警告灯が点灯します。

再度使用(ON)するには、を「ピッ」とブザーが鳴るまで押します。

アジャイルハンドリングアシスト

運転者のハンドル操作に応じて、4 輪それぞれに軽いブレーキをかけることで、車両の動きを滑らかにし、安定感のあるコーナリングを可能とするシステムです。

■ VSA(ビークルスタビリティアシスト)

前回の走行時に OFF にした場合でも、再度エンジンを始動させると自動的に ON になります。

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■ アジャイルハンドリングアシスト

アジャイルハンドリングアシストはすべての走行条件で安定性を向上させるシステムではありません。

安全のために、カーブ走行時は状況に応じた適正な速度で、十分に車間距離をとって走行してください。

走行中に VSA 警告灯が点灯したままのときは、アジャイルハンドリングアシストが作動しません。

システム作動中に、エンジンルームから音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

フロントセンサーカメラ*

ACC、LKAS(車線維持支援システム)、路外逸脱抑制機能、CMBS(衝突軽減ブレーキ)、誤発進抑制機能、先行車発進お知らせ機能、標識認識機能に使用するカメラを装備しています。



カメラはフロントガラス上部に設置されています。

炎天下に駐車したときなど、室内温度が高温になり、カメラ機能が一時停止する場合があります。一時停止を防ぐため、駐車時は太陽光を避けて日陰に駐車することをおすすめします。反射サンシェードを使用する場合、カメラを覆わないでください。覆うとカメラに熱を集中させてしまう可能性があります。

※フロントセンサーカメラ*

フロントガラスにフィルムを貼ったり、カメラの視野を遮るものを取り付けしないでください。

カメラの視野内のフロントガラスにキズ、打痕、損傷があると、システムが正常に作動しなくなることがあります。この問題が発生した場合、フロントガラスの交換をお勧めします。Honda 純正品以外のフロントガラスを使用するとシステムが正常に作動しなくなる場合があります。フロントガラスの修理や交換をする場合はHonda 販売店にご相談ください。

カメラのレンズを汚したり傷つけたりしないでください。

■ 車内の清掃 P.327

インストルメントパネル上部に物を置かないでください。物がフロントガラスに反射してシステムが正常に作動しなくなる場合があります。

カメラを取り外さないでください。システムが正常に作動しなくなる場合があります。次の場合はHonda 販売店にご相談ください。

- カメラ及び周辺部に衝撃が加わったとき

フロントガラスが曇った場合は曇りをとってください。必要に応じてデフロスターを使用してください。

※フロントセンサーカメラ*

ボンネットやフロントグリルの上にカメラの視野を妨げるものを装着しないでください。カメラの視野を妨げシステムが正常に作動しない場合があります。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラが高温です」が表示される場合：

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。必要に応じてデフロスターを使用し、風がカメラに向かうようにしてください。
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、センサーカメラ周辺の温度を下げてください。

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません フロントウィンドウが汚れています」が表示される場合：

- 安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後でもメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ACC(アダプティブクルーズコントロール)*

ACCは、フロントグリルの奥に設置してあるレーダーセンサーとフロントガラス上部に設置してあるカメラが先行車との車間距離を測定して、高速道路走行時に設定した車間距離を保つように適切な加減速を行い、運転者がアクセルやブレーキを操作せずに追従または定速走行出来るよう支援するシステムです。

ACCによるブレーキが作動しているときは、制動灯が点灯します。

ACC を作動させるには：

ACC システムは、セレクトレバーが[D] [S]のときに使用することができます。

※ACC(アダプティブクルーズコントロール)*



警告

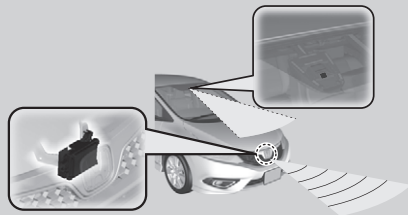
ACC の不適切な使用は事故につながります。取扱説明書の操作手順に従い操作してください。

高速道路や自動車専用道路でのみ使用してください。

■使用できるシフトポジション

D S のとき

フロントガラス上部にカメラを装備



フロントグリルの奥に、レーダーセンサーを装備

ブレーキペダルを操作しての減速中や、パーキングブレーキがかかっているときは、ACC は作動しません。
悪天候などで、レーダーセンサーが先行車との車間距離を測定できないときは、システムが作動しないことがあります。

※ACC(アダプティブクルーズコントロール)*

⚠ 警告

ACC は、補助システムとして使用してください。ACC は、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

使用上の注意：

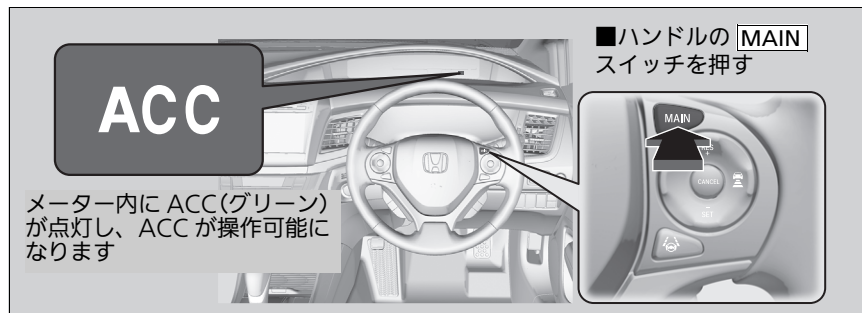
ACC は、運転者を支援するシステムです。天候や環境などによって機能しないことがあります。必要なときはブレーキペダルを使用し、常に安全な車間距離を保ってください。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをONモードにすると、ACC が作動しない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

■ フロントセンサーカメラ* P.223

■システムを作動させるには

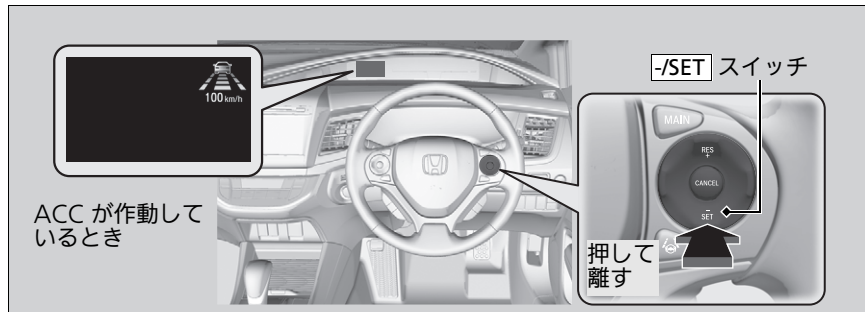


※システムを作動させるには

ACCに使用するレーダーセンサーはCMBS(衝突軽減ブレーキ)のレーダーセンサーと共有しています。

▶ CMBS(衝突軽減ブレーキ)* P.273

■ 車速をセットするには



車速が 30km/h 以上でブレーキペダルを操作していないときに **[-/SET]** スイッチを押して離すと現在の車速が設定車速とされ、ACC が作動し、マルチインフォメーションディスプレイにアイコンや設定車速が表示されます。



■ 車速をセットするには

MAIN スイッチを押すと、ACC と LKAS の両方が ON と OFF に切り換わります。

下記の状況のときは、ACC を使用しないでください。

- 交通量の多い道路や頻繁に加減速を繰り返すような交通状況では、交通状況にあった速度で走行できません。
- 急カーブのある道では道路状況にあった速度で走行できません。
- 急な下り坂では設定した車速を超えてしまう場合があります。このような場合は、ACC によるブレーキは作動しません。
- 高速道路などで、料金所、インターチェンジ、サービスエリア、パーキングエリアに進入するときは、自車の前から先行車がいなくなることでセットした車速まで加速を始めてしまいます。
- 悪天候(雨、霧、雪など)のときは先行車との車間距離を正確に測定できません。
- 凍結路や積雪路などの滑りやすい路面ではタイヤが空転して車のコントロールを失うおそれがあります。

■ ACC の作動

■ 先行車がいるとき

ACC は先行車がレーダーセンサーの検知範囲に入ると、先行車の車速変化に合わせ、セットした車速の範囲内で車間距離を保ちながら追従走行します。

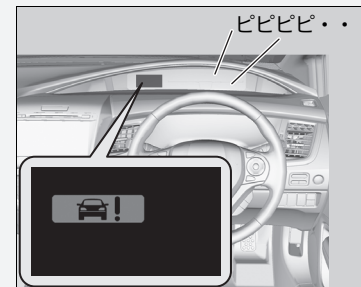


設定車速より遅い速度で走行する先行車や割り込み車が前方にあらわれた場合、システムは減速制御を行います。

☒ ACC の作動

先行車が急減速したり、遅い車両が割り込んできたときは、警告音が鳴りマルチインフォメーションディスプレイの警告で視覚への警告が表示されます。

ブレーキを踏み、適切な車間距離を保ってください。



先行車または割り込み車の車速が自車よりも速く、次第に離れていく場合、先行車との距離が短くても警報が出ず、そのまま追従することがあります。

マルチインフォメーションディスプレイを使って先行車検知音の有り / 無しを設定できます。

☒ カスタマイズ機能 P.96

■先行車がないとき



マルチインフォメーションディスプレイに車のアイコンが点線で表示されます。

先行車がない場合、設定した車速で定速走行します。

先行車が車線変更などでいなくなると、設定車速までゆるやかに加速したあと定速走行します。

■アクセルペダルを踏んだとき

- アクセルペダルを踏み込むと、ACC が一時的に解除され車速が上がります。このとき、ACC の警告範囲内に先行車がいっても警告音やマルチインフォメーションディスプレイの警告表示はできません。
- アクセルペダルを少しだけ踏むと、車速が低下する場合があります。
- アクセルペダルを離すと、ACC が復帰し追従走行または定速走行を再開します。

■ACC の作動

制限：

安全な車間距離を保つために、ACC を使用中でもブレーキペダルを使用しブレーキをかける必要があります。また、天候や環境などによりACC が適切に作動しないことがあります。

▶ **ACC の条件と制限** P.231

▶ **車間距離を設定するには** P.234

- 道路状況(カーブなど)や自車の状況(ハンドル操作や車線内の位置)によっては、一時的にとりの車線の車や周囲の物に対して車間距離制御を行う場合があります。
- 先行車がインターチェンジやサービスエリアなどに入る際、自車の前から先行車がいなくなるときは、車間距離制御が少しの間継続する場合があります。

■ ACC の条件と制限

一定の条件でシステムは自動解除し、ACC 警告灯が点灯する場合があります。
以下の条件では ACC の機能の一部を発揮できない場合があります。

📷 フロントセンサーカメラ* P.223

■ 自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■ 環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の撒き上げがあるとき

■ 道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■ 前方の車両の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

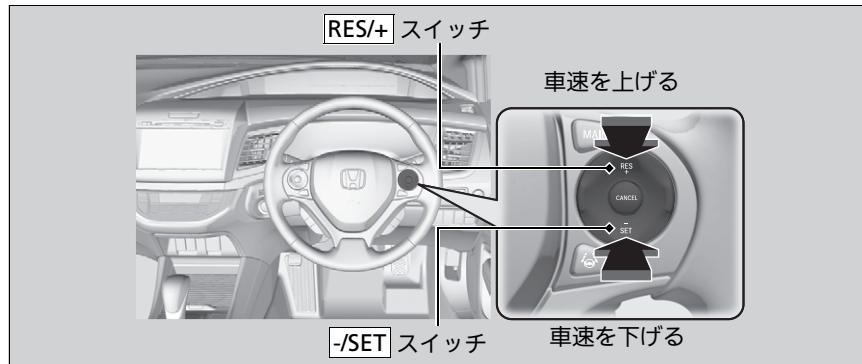
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 前方の車両との距離が極端に短いとき

■その他、システムが正しく作動しない事例

- 前方の車両が駐停車していたり、自車との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 前方の車両がパネルトラックや特殊な形状の車両のとき
- 自車または前方の車両が、車線の片側にかたよって走行しているとき
- 前方の車両が二輪車など幅の狭い車両のとき

設定車速を調整するには

手元の **RES/+** と **-/SET** の操作で、設定車速を上げ / 下げすることができます。



RES/+ スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が上がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が上がり、手を離したときの設定車速に固定

-/SET スイッチ

- 1 回押すごとに 1km/h ずつ設定車速が下がる
- 押し続けると 10km/h ずつ設定車速が下がり、手を離したときの設定車速に固定

設定車速を調整するには

検知した先行車の車速が自車が上げた設定車速よりも遅い場合は、自車の車速を加速させない場合があります。

これは設定した先行車との車間距離を維持するためです。

車間距離を設定するには



ディスタンススイッチを押し、車間距離を設定します。

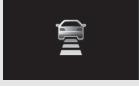
先行車との車間距離設定は、4 段階に切り換えることができます。

ディスタンススイッチを押すごとに、最長→長→中→短と切り換わります。

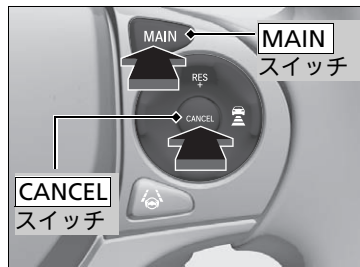
適切な車間距離の設定を決定してください。

車速が低くなるほど、車間距離は短くなります。車間距離の目安は以下の通りです。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、実際の交通状況に応じて車間距離を選択して、走行してください。

車間距離設定		車速 80km/h のとき	車速 100km/h のとき
短		約 25m	約 30m
中		約 33m	約 40m
長		約 47m	約 59m
最長		約 61m	約 78m

解除するには



以下のいずれかの操作をすると、ACC が解除されます。

- **CANCEL** を押す
- **MAIN** を押す
 - ▶ メーター内の ACC(グリーン)が消灯します。
- ブレーキペダルを踏む

■ACC の自動解除

次の場合は、マルチインフォメーションディスプレイに「ACC OFF」と表示され、「ピー」とブザーが鳴り、ACC が自動解除されます。

- 悪天候(雨、霧、雪など)のとき
- フロントグリルのエンブレムが汚れたとき
- 先行車を安定して検知できないとき
- タイヤの異常を検知したとき
- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ABS や VSA、または CMBS が作動したとき
- VSA 警告灯が点灯したとき
- パーキングブレーキをかけたとき
- 検知した先行車との車間距離が短すぎるとき
- 車速が 25km/h 未満になったとき
- 急加速したとき
- フロントガラス上部のカメラまたはカメラ付近が汚れているとき
- パワーモードを OFF モードにしたとき

解除するには

解除前の設定車速を復帰させるには：

ACC を解除したあとでも、**RES/+** スイッチを押すと解除前の設定で作動を開始することができます。

ただし、以下の場合は復帰しません。

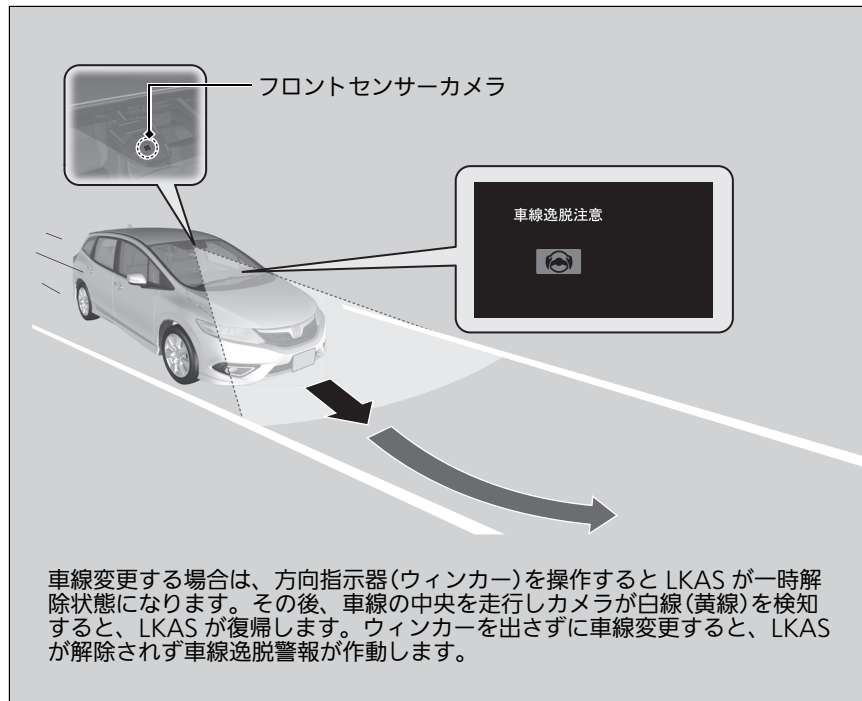
- **MAIN** スイッチを押して ACC を OFF した後
- 車速が 30km/h 未満のとき

設定速度の設定や復帰は、**MAIN** スイッチがオフの状態ではできません。

LKAS(車線維持支援システム)*

LKAS は、フロントガラス上部に設置してあるカメラによって、左右の白線(黄線)をとらえ、電動パワーステアリングの動きをアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

■システムの作動



❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

※LKAS(車線維持支援システム)*



警告

LKASは補助システムとして使用してください。LKASは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

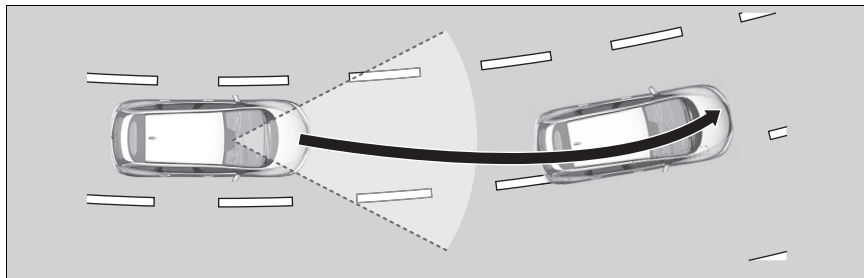
インストルメントパネル上部に物をおかないでください。物がフロントガラスに反射して車線を正確に検知できない場合があります。

LKASは方向指示器(ウィンカー)を出さずに車線変更を検知した時のみ警告します。LKASは、すべての車線区画線や車線逸脱を検出できない場合があります。また天候や速度、路面状況によっては、システムが機能しないことがあります。運転者が周囲の道路状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

LKASは、急なカーブや加速・減速の繰り返しが続く道路では、システムが正常に機能しないおそれがあります。LKASは、高速道路や自動車専用道路などを運転するときに使用してください。

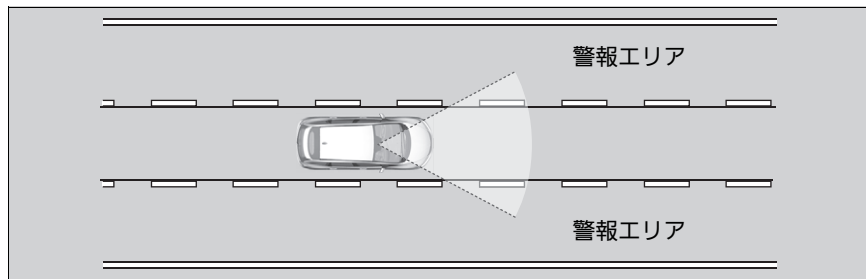
■車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線(黄線)に近づくとき電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。



■車線逸脱警告機能

車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動とディスプレイ表示で行います。



※LKAS(車線維持支援システム)*

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❏ フロントセンサーカメラ* P.223

LKASは条件により正常に作動しない場合があります。

❏ LKASの条件と制限 P.246

車線の検知に失敗すると一時的にシステムが解除されます。車線を検知するとシステムが自動復帰します。

■ワイパー作動時の LKAS 自動解除機能

ワイパースイッチを LO、HI または MIST で連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。

ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します。

ワイパーの作動が停止、もしくは間欠作動になると、LKAS は復帰します。

■車速による LKAS 自動解除機能

車速が 60km/h 以下になると、LKAS は自動解除します。

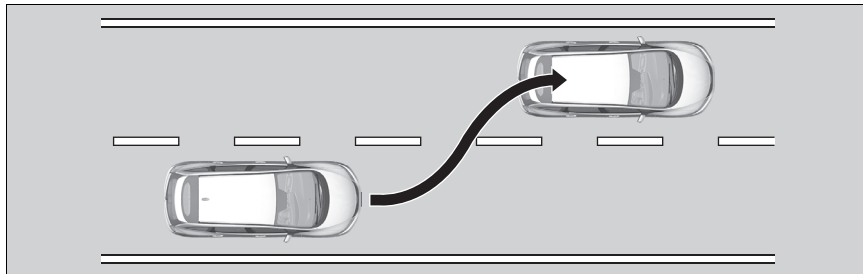
車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

■ブレーキ操作時の LKAS 自動解除機能

減速などでブレーキペダルを踏むと LKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線（黄線）を検知すると LKAS が自動で復帰し、車線維持走行を補助します。

■車線変更時の一時解除

車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカー）を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKASが復帰します。



方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

■ LKAS を作動させるには

LKAS は、以下の条件で作動します。

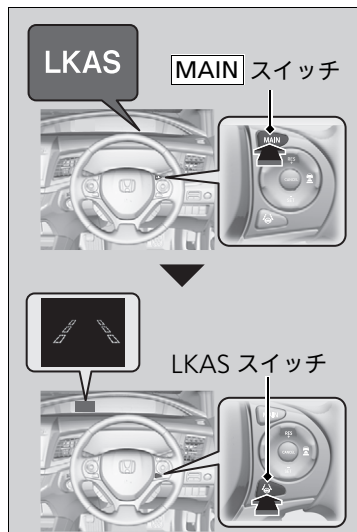
- 車速が約 65 ～ 100km/h で走行しているとき
- 左右に白線(黄線)が引かれている車線の中央付近を走行しているとき
- 直線または半径 230m 以上のゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- ワイパーを連続で作動させていないとき
- ブレーキペダルを踏んでいないとき
- 方向指示器(ウィンカー)を出していないとき

☒ LKAS を作動させるには

白線(黄線)を正しく検知できず走行位置を正しく設定できない場合があります。

☒ LKAS の条件と制限 P.246

■システムの作動方法



1. **MAIN** スイッチを押す
▶ LKAS が ON になり、メーター内に LKAS 表示灯(グリーン)が点灯します。

2. LKAS スイッチを押す
▶ LKAS が待機状態になります。マルチインフォメーションディスプレイに車線表示(点線)が点灯します。

3. 車線の中央付近を走行する
▶ 車線中央付近を走行中にカメラが両側の白線(黄線)を検知すると、LKAS が制御を開始します。

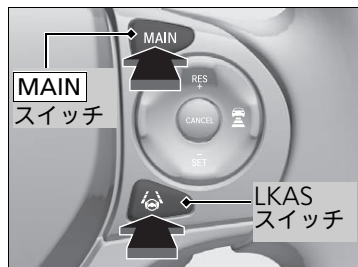
※LKAS を作動させるには

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- カメラ付近のガラスは常にきれいにしておく
- フロントガラスのお手入れをするときは、ガラスクリーナーなどがカメラのレンズに付着しないようにする
- カメラのレンズには触れない
- カメラ付近のガラスにステッカーを貼らない

サスペンションの改造は行わないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

解除するには



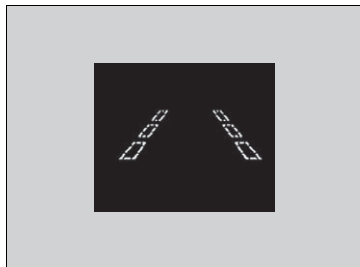
以下のいずれかの操作をすると、LKAS が解除されます。

- **MAIN** スイッチを押す
- LKAS スイッチを押す

前回走行時に LKAS が ON 状態でも、パワーモードを OFF モードにする度に LKAS は OFF になります。

解除するには

MAIN スイッチを押すと、LKAS と同時に ACC も解除されます。



■LKAS の自動解除

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線で表示され、LKAS が自動解除されます。

- ワイパーを連続作動したとき
 - ▶ ワイパースイッチをLO、HIまたはMISTで連続作動しているときは、LKAS は自動解除します。ワイパーを OFF にすると、LKAS は復帰します
- ブレーキ操作をしたとき
 - ▶ 減速などでブレーキペダルを踏むとLKAS が解除され、待機状態になります。ブレーキペダルから足を離し、システムが左右の白線(黄線)を検知するとLKAS が自動で復帰します。
- 車速が 60km/h 以下になったとき
 - ▶ 車速が 60km/h 以下になると、ブザーが鳴り、LKAS は自動解除します。車速が 65km/h 以上になると、LKAS は復帰します。

次の場合、マルチインフォメーションディスプレイに車線表示が点線が表示され、ブザーが鳴り、LKAS が自動解除される場合があります。

- 白線(黄線)を検知できないとき
- 急なハンドル操作をしたとき
- ハンドル操作をしていないとき
- 急なカーブを走行したとき
- 制限速度を超えた速度で走行したとき
- カメラ内部の温度が一定以上高温になったとき
- カメラまたはカメラ付近のフロントガラスが汚れているとき
- ABS、VSA が作動しているとき

■ LKAS の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、LKAS が正しく機能しない場合があります。

■環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

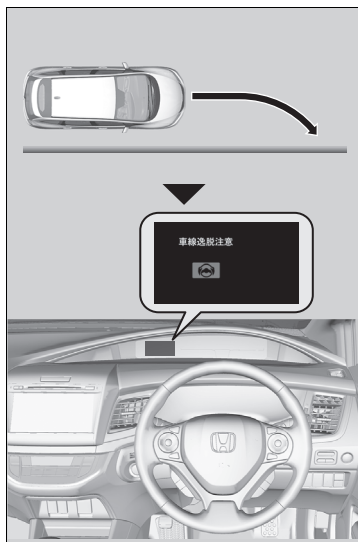
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着したり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

路外逸脱抑制機能*

路外逸脱抑制機能はシステムが車両の車線逸脱の可能性を検知すると、車線逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

システムの作動



このシステムは、フロントガラス上部に設置されたカメラによって左右の白線または黄色線を検知し、方向指示器(ウィンカー)を使用せずに白線(黄線)を逸脱したことを判断したとき、作動します。

マルチインフォメーションディスプレイにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。

また逸脱を回避するのに大きくハンドル操作が必要なときは、ハンドル操作の支援とともにブレーキ操作の支援も行います。ブレーキ操作の支援は、検知した線が実線のときのみ行われます。

路外逸脱抑制機能*



警告

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。

路外逸脱抑制機能は、方向指示器(ウィンカー)を使用しない車線逸脱を検知した時に警告します。

車線区画線(白線や黄線)や車線逸脱を検出できない場合があります。また、天候、速度や路面状況によっては、支援できない場合があります。

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

❑ フロントセンサーカメラ* P.223



システムの支援中に運転者が操作した場合は運転者の操作を優先します。
支援中に運転者が操作しなかった場合は左記の警告を表示します

路外逸脱抑制機能*

路外逸脱抑制機能は、正常に作動しないことがあります。

路外逸脱抑制機能の条件と制限 P.252

運転者による操作が行われているときや、路面の状況によっては支援が感じられないことがあります。

繰り返し左記の警告が表示されても、運転者の操作がない場合は、警報音が鳴り支援を中断します。

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は自動的に OFF になり、路外逸脱抑制機能警告灯が点灯する場合があります。

警告灯 P.66

下記の条件下では路外逸脱抑制機能を抑制しています。

- 車線内を走行していないとき
- カーブ内側に、はみ出して走行してしまっているとき
- 車線幅が狭いとき

システムの作動条件

路外逸脱抑制機能は、以下の条件を満たすとき、作動します。

- 車速が約 60 ～ 100km/h で走行しているとき
- 直線またはゆるやかなカーブの道路を走行しているとき
- 方向指示器(ウィンカー)を使用していないとき
- ワイパーが連続で作動していないとき
- システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

■ システムの ON と OFF



路外逸脱抑制スイッチを押して、システムの ON と OFF を切り替えてください。

- ▶ システムが ON の時は、路外逸脱抑制スイッチのインジケーターが点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

▣ システムの ON と OFF

マルチインフォメーションディスプレイを使ってシステムの設定をカスタマイズすることができます。

カスタマイズ機能で「操舵アシストなし 警報のみ」を選択した場合、システムはハンドル及びブレーキ制御を行いません。

▣ カスタマイズ機能 P.96

■路外逸脱抑制機能の条件と制限

以下の条件では、システムは白線(黄線)を検知できず、システムが正しく機能しない場合があります。

■環境の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 白線(黄線)と道路表面の区別ができないとき
- 天候(雨、霧、雪など)により、白線(黄線)が見えにくいとき
- 路面に雪が残っていたり湿っているとき
- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が道路に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 雨上がりなどで路面がぬれて光っているときや水たまりがあるとき
- 木々や建物の影を走行するとき
- ガードレールなどの影が、道路上に映っているとき

■道路の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 車線規制や仮設車線がある区間を走行するとき
- 道路の修復や古い白線(黄線)のため、かすれや重複、タイヤ痕、さまざまな白線(黄線)が道路にあるとき
- 交差点や横断歩道など車線の数が増減している区間や車線が複雑に交差している区間を走行するとき
- 車線の幅が極端に狭いときや広いとき、または変化しているとき
- 車両などが白線(黄線)の一部を隠しているとき
- 坂道や、丘の頂上に近づいているとき
- 段差などにより車両が大きく揺れたとき
- 路上のもの(縁石、ガードレール、パイロンなど)を白線(黄線)と認識したとき
- 道路がうねって車線がゆがんで見えるときや先が見通せないとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行するとき
- 車線が二重に描かれている道路を走行するとき
- 凍結路や積雪路など滑りやすい路面を走行するとき
- 分岐・合流路などを走行するとき

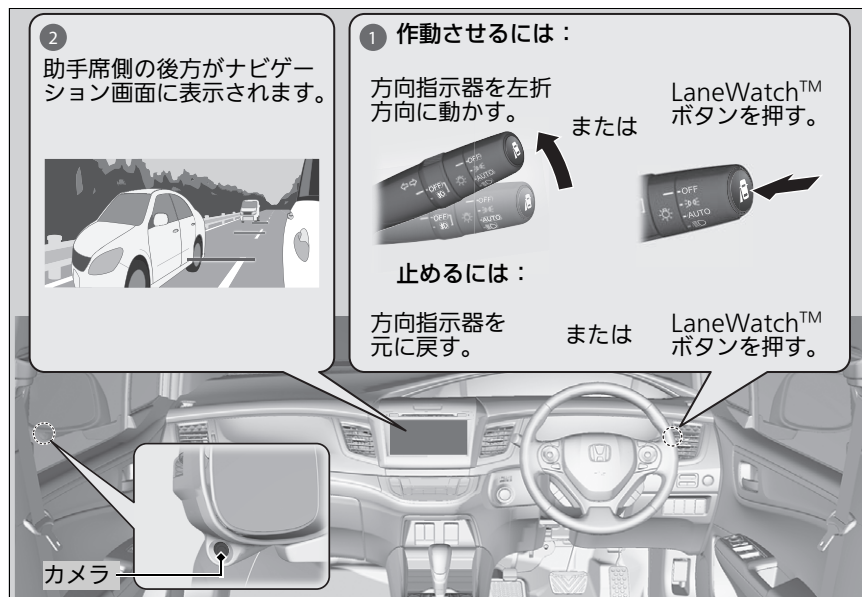
■自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで車両が傾いているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 先行車との車間距離が短いとき

LaneWatch™

LaneWatch™ は、助手席側の後方確認を支援するシステムです。方向指示器を左折方向に操作したとき、助手席側ドアミラーに装備されたカメラが助手席側の後方をナビゲーション画面に表示し、助手席側ドアミラーと目視確認に加えて助手席側の後方車両を確認することができます。また走行中は LaneWatch™ で画面を表示し続けることができます。

LaneWatch™ はあくまでも運転者をアシストするためのシステムです。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。



▶LaneWatch™

警告

LaneWatch™ は、補助システムとして使用してください。運転者をアシストするためのシステムです。

助手席側の後方を目視確認(あるいはミラー等による確認)を行う等の、十分な確認をせずに走行すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

使用上の注意：

LaneWatch™は天候、照明(ヘッドライト、太陽光を含む)、周囲の暗闇、カメラ状態および積載荷重の影響を受けることがあります。LaneWatch™ カメラは特殊なレンズを使用しているため、画面に表示される映像と実物とは異なります。

セレクトレバーが **R** のときは、LaneWatch™ は作動しません。

以下のような場合、LaneWatch™ の映像が適切に表示されない場合があります。

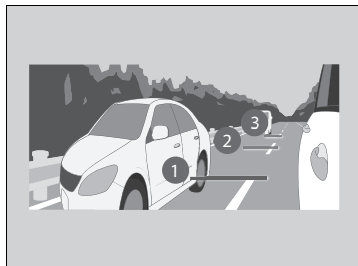
- サスペンションを改造し、車高を変えたとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤを装着しているとき

■カスタマイズ設定

ナビゲーション画面を使用して以下の項目をカスタマイズすることができます。

- **助手席ウインカー連動表示**：方向指示器を操作時に、LaneWatch™ モニターを起動するか選択できます。
- **ウインカー切後の継続表示**：方向指示器を戻した後に、2 秒間画面表示を継続するか選択できます。
- **目安ガイド線表示**：基準線をモニターに表示するか選択できます。
- **交差点拡大図と同時表示**：ナビゲーションの経路誘導中に、交差点拡大表示を LaneWatch™ 画面に割込み表示するか選択できます。
- **画面調整**：画面設定を調整できます。
▶ LaneWatch™ 画面を表示している時に「MENU」を押すと表示されます。

■距離の目安



画面に表示される 3 本の線は、自車から車両やものがどのくらい離れているかの目安になります。

基準線 1 (赤) に近ければ近いほど自車に近いことを示しています。

※LaneWatch™*

使用上の注意：

- カメラは助手席側のドアミラーに装備されています。常にカメラの周辺をきれいにしてください。カメラのレンズが汚れや湿気に覆われているときは、柔らかい湿った布を使用して掃除し、常にきれいな状態にしてください。
- ラベルやシールでカメラレンズをふさがないでください。
- カメラのレンズに触れないでください。

※距離の目安

基準線 1 (赤) の周辺は、リヤバンパー付近に非常に近い位置です。車線変更の前には目視で安全を確認してください。

基準線 1、2 と 3 の間の距離は、道路状況や車両の荷重に応じて変化します。例えば、自車後部により荷重がかかっているとき、画面上の基準線は実際の距離よりも近くに見えることがあります。

下記のような場合、Honda 販売店で点検を受けてください。

- 助手席側のドアミラー、又はその周囲に強い衝撃を受けてカメラの角度が変わった場合。
- LaneWatch™ の映像が画面に全く表示されない場合。

標識認識機能*

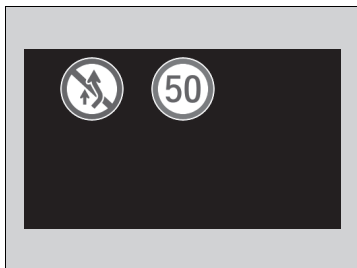
標識認識機能は走行中に認識した道路標識情報をマルチインフォメーションディスプレイに表示し、運転者にお知らせする機能です。

表示される道路標識は以下の4つです。

- 最高速度
- はみ出し通行禁止
- 一時停止
- 車両進入禁止

作動のしかた

走行中にフロントガラス上部にあるカメラで特定の道路標識を認識し、マルチインフォメーションディスプレイに道路標識情報を表示します。



標識認識機能*



警告

標識認識機能は補助機能として使用する。

標識認識機能は、あらゆる状況で作動する機能ではありません。あくまでも、運転者をアシストするための機能です。

常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ、走行してください。

この機能は、日本の道路標識を認識するように設計されていますが、すべての標識が表示されるわけではありません。

標識認識機能は以下の条件で作動します。

- 最高速度 / はみ出し通行禁止：速度に関係なく作動
- 一時停止 / 車両進入禁止：自車の速度が約 60km/h 以下のとき

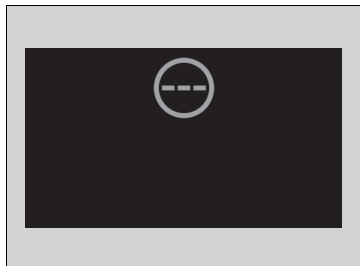
以下のときは、道路標識情報が別のものに切り替わります。

- 表示中の最高速度と異なる最高速度標識を認識したとき
- 一時停止標識または、車両進入禁止標識を認識したとき

以下のときは道路標識情報が消えます。

- 最高速度とはみ出し通行禁止は、標識を通過してから標識ごとに設定された距離(数百～千数百 m)を走行したとき
- 一時停止は、標識を通過したとき
- 車両進入禁止は、進入せず標識を通過したとき
- 交差点で方向指示器(ウィンカー)を出しながら右左折したとき

運転中に道路標識が認識されない場合や認識できない場合は以下の画面が表示されることがあります。



標識認識機能*

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

フロントセンサーカメラ* P.223

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません カメラが高温です」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

- エアコンを使用して車内の温度を下げてください。窓ガラスが曇った場合、必要に応じて、デフロスターを使用してください
- 車両を走行し、フロントガラスの温度を低下させ、カメラ周辺の温度を下げてください

マルチインフォメーションディスプレイに「運転支援システムの一部が使用できません フロントウィンドウが汚れています」が表示されるとき、標識認識機能が作動せず、が表示されます。

安全な場所に車を駐車し、フロントガラスの汚れを落としてください。フロントガラスの汚れを落とし、しばらく走行した後もメッセージが消えない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 標識認識機能の条件と制限

以下の場合などにおいては、標識の認識が遅れたり、認識できない場合があります。

■ 自車の状態によりカメラが正しく検知できない事例

- ヘッドライトのレンズが汚れて照射が弱いときや光軸がずれているとき
- フロントガラス外側が汚れ、泥、湿った雪などに覆われているとき
- フロントガラス内側が曇っているとき
- ワイパーの拭き残しがあるとき
- サイズや種類、構造の違うタイヤやホイールを装着していたり、タイヤ空気圧が適切でないとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき

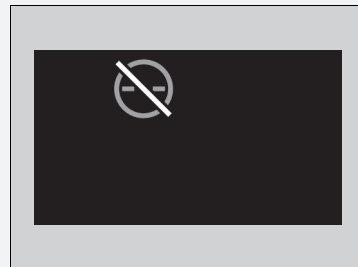
■ 環境によりカメラが正しく検知できない事例

- 夜明けや夕暮れ時の太陽に向かって走行するとき
- 強い光が路面に反射しているとき
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前走車による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■ 標識認識機能*

標識認識機能が故障した場合はマルチインフォメーションディスプレイにが表示されます。

のメッセージが消えないときは、Honda 販売店で点検を受けてください。



■標識の位置や状態によりカメラが正しく検知できない事例

- 標識の周囲が煩雑で標識を見つけにくい場合
- 自車から遠く離れた位置にある標識
- 自車のヘッドライトの光が届きにくい位置にある標識
- 曲がり角やカーブの先に設置された標識
- 色あせた標識や折れ曲がった標識
- 向きが変えられた標識や破損した標識
- 泥、雪、又は、霜で覆われた標識
- 一部が樹木などで隠れていたり、車両などの陰になった標識
- 標識の表面上に光(街灯など)や影が映り込んでいる場合
- 明るすぎたり、暗い標識(電光式標識)
- 小さいサイズの標識

■その他、カメラが正しく検知できない事例

- 高い速度で走行しているとき

以下の場合などにおいては、標識認識が正しく作動せず、自車の走路に対する規制内容とは異なる表示をしたり、実際には対象となる標識が無いのに表示したりすることがあります。

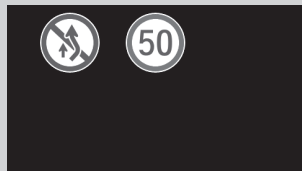
(最高速度標識においては、実際の規制速度よりも高い数値を表示したり、低い値を表示したりすることがあります。)

- 標識の上や下に、規制の地点(始まり、終りなど)や条件(曜日、時間帯など)を示す補助標識がある場合
- 数字の判別がつきにくい標識(電光式標識、数字がかすれた標識など)
- 自車の走路に対しての標識ではないが、自車の走路付近にあり、標識が自車の走路に向いている場合(側道が本線に合流する地点の一時停止標識など)
- 認識対象の標識の色、形、図形に似たものがある場合(類似の標識、電光揭示板、看板、のぼり旗、構造物など)

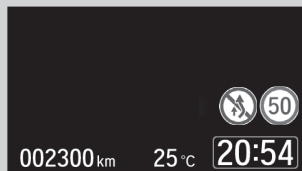
■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

同時に二つまで道路標識情報を表示します。ディスプレイの右側には最高速度または一時停止標識、左側にははみ出し通行禁止または車両進入禁止標識を表示します。

選択表示モードのときの表示例



常駐表示モードのときの表示例



左側は車両進入禁止、右側は一時停止を優先表示します。

■ マルチインフォメーションディスプレイの表示

車両進入禁止区域に進入すると車両進入禁止アイコンが点滅します。
約5秒間点滅したあと、車両進入禁止アイコンは消えます。

マルチインフォメーションディスプレイは、選択表示モードのほかに、常駐表示モードの選択ができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.96

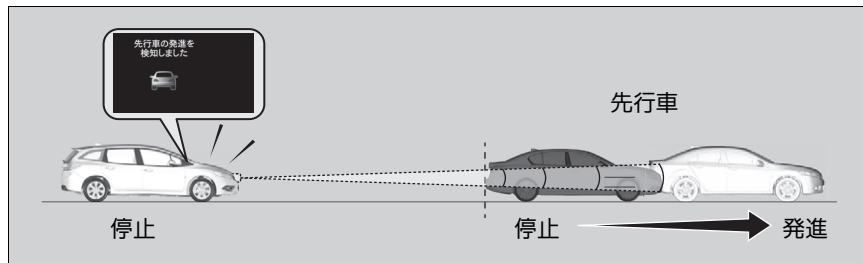
常駐表示モードの道路標識表示

常駐表示モード状態のときは、マルチインフォメーションディスプレイに縮小サイズの道路標識のアイコンを表示し続けることができます。

🔧 カスタマイズ機能 P.96

先行車発進お知らせ機能*

信号待ちなどで、先行車が発進したことに気づかず停止し続けたときに、音と表示で運転者に知らせるシステムです。



■システムの作動条件

先行車に続いて停車(停止状態での車間距離が約10m以内、かつ自車・先行車がしばらく停止)すると先行車を認識し続け、先行車の発進を検知しても自車が停止し続けたときに作動します。

■セレクトレバーが[D]、[S]の場合

ブレーキペダルを踏んでいる。

⚠ 先行車発進お知らせ機能*

⚠ 警告

先行車発進お知らせ機能は、運転者をアシストするための補助システムです。安全に発進できる状況を知らせるシステムではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

発進するときは、運転者が目視で周囲と前方の安全を十分に確認し、適切な車間距離を保ち運転してください。

他の運転支援システムと同様に、先行車発進お知らせ機能は、天候や環境などによって機能しないことがあります。

先行車発進お知らせ機能をOFFにすることができます。

▶ カスタマイズ機能 P.96

ACC 警告灯が点灯しているときは、先行車発進お知らせ機能は作動しません。

▶ ACC(アダプティブクルーズコントロール)* P.225

■セレクトレバーがNの場合

ブレーキペダルを踏んでいるまたはパーキングブレーキが作動している。

システムの作動タイミングを標準・早めの2段階から選択することができます。

■カスタマイズ機能 P.96

標準は先行車が停止状態から約 3m 以上進んだときに作動します。

早めは先行車の発進を検知したときに作動します。

■システムの作動状態



システムが作動すると、「ポーン」とブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■先行車発進お知らせ機能の条件と制限

次のような場合、先行車が発進していなくてもシステムが作動したり、先行車が発進していてもシステムが作動しないことがあります。

■自車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- フロントグリルが汚れているとき
- 自車の停車している時間が短いとき

■環境によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■先行車の状態によりレーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 先行車の停車している時間が短いとき
- 先行車との距離が極端に短いとき
- 先行車が極端に遅い速度で移動しているとき
- 先行車が右左折や急旋回したとき

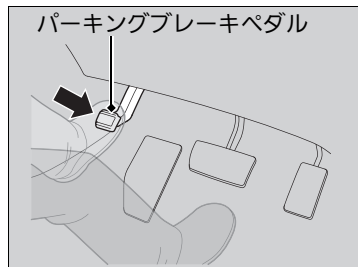
■その他、レーダーセンサーが正しく検知できない事例

- 歩行者や自転車、二輪車、特殊な形状の車両など
- 自車と先行車の間に別の車両や歩行者、自転車などが割り込んできたとき
- 先行車が自車の正面にいないとき

ブレーキシステム

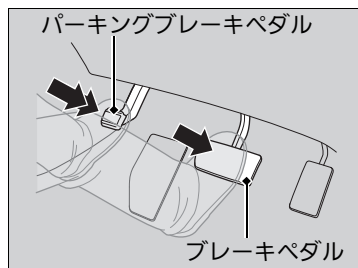
■ パーキングブレーキ

主に停車中や駐車時に使用するブレーキです。パーキングブレーキペダルにより操作します。



■ パーキングブレーキをかける

左足でパーキングブレーキペダルをいっばいに踏み込む。



■ パーキングブレーキを解除する

1. 右足でブレーキペダルを踏む。
2. 左足でパーキングブレーキペダルを踏み、ゆっくりと戻す。

▶ パーキングブレーキ

アドバイス

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、リヤブレーキと車軸が損傷するおそれがあります。

パーキングブレーキは完全に解除した状態で、走行してください。

パーキングブレーキが完全に解除されていない状態で走行すると、「パーキングブレーキ戻し忘れ警告ブザー」が鳴ります。

完全に解除すると、ブザーは止まります。停車したときも、ブザーは止まります。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイに「パーキングブレーキを解除して下さい」と表示が出ます。

駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

■ フットブレーキ

車の減速や停止をするためのメインのブレーキです。ブレーキペダルで操作します。

緊急制動時により大きな制動力を発生させる電子制御ブレーキアシストが装備されています。

❏ 電子制御ブレーキアシスト P.271

また、ブレーキのロックを防止する ABS(アンチロックブレーキシステム)で、安全性の向上を図っています。

❏ ABS(アンチロックブレーキシステム) P.270

❏ フットブレーキ

水たまりを走行したときは、ブレーキの効き具合を確認してください。

効きが悪いときは、効き具合が戻るまでブレーキペダルを何回か軽く踏んでください。

ブレーキを踏んでいる間、絶えず金属的な摩擦音が聞こえる場合はブレーキパッドを交換する必要があります。

Honda 販売店で点検を受けてください。

長い下り坂でブレーキペダルを踏み続けると、ブレーキが過熱し、ブレーキの効きが悪くなり危険です。

そのため、長い下り坂などではエンジンブレーキを使用します。

アクセルペダルから足を離し、ギヤを低速にシフトすると、エンジンの回転抵抗で速度が落ちます。

ABS(アンチロックブレーキシステム)

■ ABS とは

ABS(アンチロックブレーキシステム)とは、急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとするための装置です。

■ABS の作動と警告灯

ブレーキペダルを踏んだとき、ブレーキペダルが小刻みに動くことがあります。これは ABS の正常な動作です。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

なお、低速(車速約 10km/h 以下)ではABS は作動せず、通常のブレーキと同じ作動となります。



ABS 警告灯

パワーモードを ON モードにすると数秒間点灯し消灯するのが正常な状態。

※ABS(アンチロックブレーキシステム)

アドバイス

種類やサイズの異なるタイヤが混在していると、ABS が正常に機能しないことがあります。

タイヤは必ず、同一指定サイズ、同一種類のタイヤを指定空気圧で使用してください。

ABS 警告灯が運転中に点灯するときは、システムの異常が考えられます。

通常のブレーキ操作には支障はありませんが、ABS が作動していない可能性があります。ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ABS は、制動距離を短くするためのものではありません。

ABS を装備していない車両と同様に、路面が滑りやすいほど長い制動距離が必要になります。ABS が作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、過信せず安全運転に心がけてください。また、次のような場合、ABS の装着されていない車両に比べ、制動距離が長くなることがあります。

- 砂利道、深い新雪、凸凹路などの悪路
- 舗装の継ぎ目やマンホールなどの段差
- タイヤチェーン装着時

エンジン始動直後や走行中、システムチェックのためエンジンルームからモーター音が聞こえることがあります。異常ではありません。

電子制御ブレーキアシスト

■ 電子制御ブレーキアシストとは

緊急制動時に、より大きな力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。

■ 電子制御ブレーキアシストの作動

ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

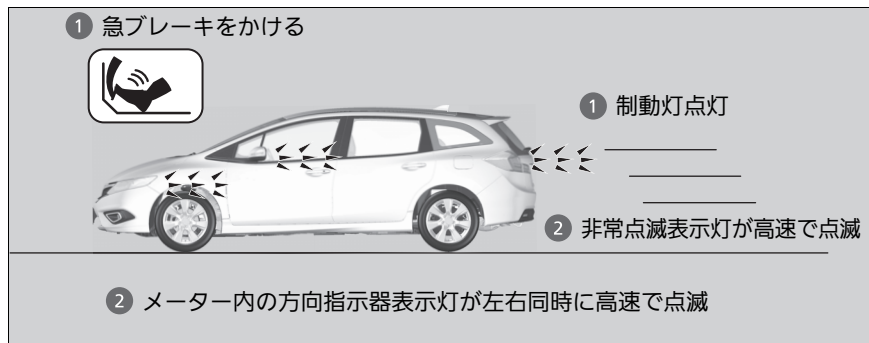
ブレーキアシストが作動すると、ペダルが小刻みに動いたり、作動音が聞こえたりすることがあります。これはブレーキアシストが作動しているときの現象で異常ではありません。そのままブレーキペダルを強く踏み続けてください。

🔍 VSA(ビークルスタビリティアシスト) P.221

エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、自車が急ブレーキをかけたことを非常点滅表示灯が自動的に高速で点滅して後続車に知らせ、追突される可能性を低減するシステムです。60km/h 以上で走行しているときに急ブレーキをかける と作動します。

■作動の仕組み



エマージェンシーストップシグナルは、以下の状態になると作動が停止します。

- ブレーキペダルを離したとき
- ABS が停止したとき
- 急減速でなくなったとき
- ハザードスイッチを ON にしたとき

❖エマージェンシーストップシグナル

エマージェンシーストップシグナルは、追突されるおそれを低減するシステムであり、追突を完全に防ぐものではありません。運転するときは不必要な急ブレーキを避け、安全運転を心がけてください。

ハザードスイッチがONのときは、エマージェンシーストップシグナルは作動しません。

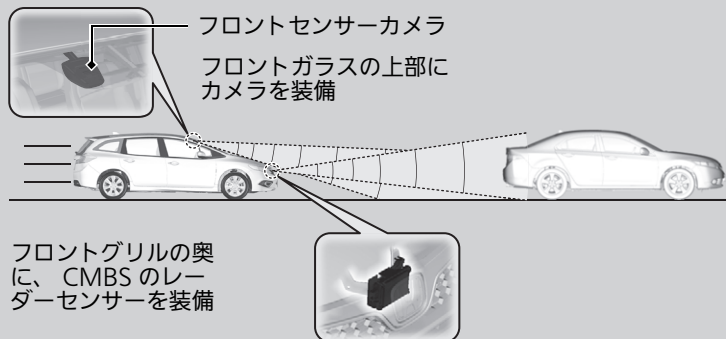
ABS が一定時間以上作動しないとき、システムが作動しない場合があります。

CMBS(衝突軽減ブレーキ)*

自車が、前方の車両のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車に正面から衝突するおそれがあるときおよび歩行者に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突を回避したり衝撃を軽減するシステムです。

■システムの作動

自車の車速が約 5km/h 以上になるとレーダーセンサーとカメラが前方の車両や歩行者の検知を開始。



自車との速度差が約 5km/h 以上ある車両および歩行者に対して衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
対向車および歩行者に対しては、自車が約 80km/h 以下で走行中に衝突のおそれがあるときに、CMBS が作動します。
さらに、約 30km/h ～ 80km/h で走行中に対向車に対して CMBS が作動する状況では、ステアリング振動による警告も作動します。
CMBS が作動し、停車した後または衝突のおそれがなくなったと判断した後に、自動ブレーキは解除されます。

⚠CMBS(衝突軽減ブレーキ)*



CMBS(衝突軽減ブレーキ)は、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。レーダーやカメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。

周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

運転

次のような場合、レーダーセンサーやカメラが車両、歩行者や路面状況を検知できず、CMBS が作動しない場合があります。

■自車の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- フロントグリルが汚れているとき
- フロントガラスの曇り、雨粒、シール等でカメラ前方が覆われているとき
- カーゴスペースやセカンドシート、サードシートに重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 適正なタイヤを使用していないとき
- タイヤチェーンを装着しているとき

■環境によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 雨、霧、雪などの悪天候
- 夜間やトンネル内等の暗いところ
- トンネルの出入り口や、木、建物の影などで明るさが変化したとき
- 逆光のとき
- 強い光が車両や歩行者、路面に反射しているとき
- 前方の車両による水しぶきや雪の巻上げがあるとき

■道路の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- カーブ、うねった道路、坂道などのとき
- 路面に水溜りや水膜があるとき
- 雪道や未舗装路などわだちのある道路のとき
- 狭い鉄橋を走行しているときなど、車両や歩行者の周囲に電波を強く反射する物があるとき

■前方の車両や対向車、歩行者の状態によりレーダーセンサーやカメラが正しく検知できない事例

- 前方の車両や歩行者との距離が極端に短いとき
- 自車の前方に車両が急に割り込んだとき
- 自車の前方に対向車や歩行者が飛び出したとき
- 歩行者の一部（頭や手足など）が荷物等によりかくれているとき
- 歩行者が背景に紛れて、カメラが歩行者を検知できないとき
- 歩行者が前かがみやしゃがんだ姿勢をとっているとき、手を挙げたり、走っているとき
- 歩行者の身長が約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
- 歩行者が集団になっているとき
- 暗がりや前方の車両が無灯火のとき

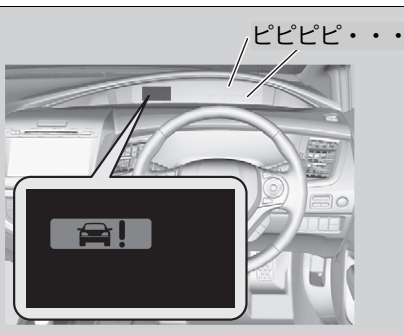
■その他、作動できない事例

- 衝突を回避しようとして、運転者がブレーキやハンドルを操作したとき
- 急加速やハンドル操作をしながら、前方の車両や対向車、歩行者に接近したとき
- 前方の車両や対向車、歩行者が自車の正面にいないとき
- 前方の車両や歩行者との速度差が大きいとき
- 前方の車両が急減速したとき
- 自転車や二輪車、車いす、特殊な形状の車両などのとき
- 交差点などで自車の前方に車両が飛び出したとき
- 歩行者のかたちとしてカメラが正しく検知できないとき

■CMBS の警告のしかた

以下の方法により、CMBS は衝突のおそれがあることを、運転者に知らせます。

- マルチインフォメーションディスプレイの警告表示や警告ブザーに加え、アクセルペダルに断続的な反力、ステアリング振動による警告が発生します



CMBS の警報距離を Far・Normal・Near の3段階から選択することができます。

🔘 カスタマイズ機能 P.96

Far は Normal に対して遠くで警告します。Near は Normal に対して近くで警告します。

■ステアリング振動による警告

対向車に対して衝突のおそれがあるときは、視覚への警告に加え、ハンドルに短時間の弱い振動で運転者に注意を喚起します。

- ▶ ブレーキやハンドルを操作するなどの適切な行動で衝突を回避してください。

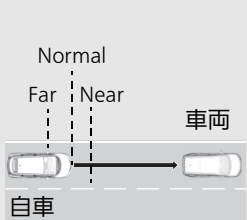
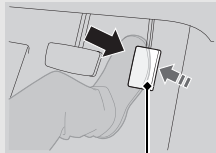
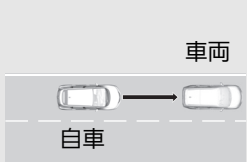
🔘CMBS(衝突軽減ブレーキ)*

EPS 警告灯が点灯しているときは、ステアリング振動による警告は作動しません。

🔘 EPS(電動パワーステアリング)システム警告灯 P.62

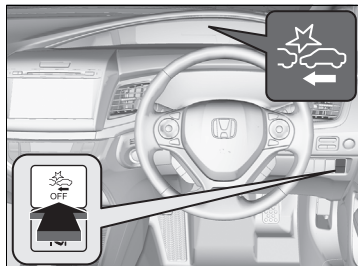
CMBS 作動の流れ

CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。しかし、状況によっては途中の段階から作動することがあります。

車両と自車の距離	状況	ブザーと表示による警告	ステアリング	リアクティブフォースペダル	ブレーキ
第1段階 	車両への衝突のおそれが出てきた状況	警告表示が2回点滅するさらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行う ▶ 衝突警報距離を変更することができます。 カスタマイズ機能 P.96	対向車の場合、ハンドルに短時間の弱い振動が発生	アクセルペダルに断続的な反力が発生する  アクセルペダル	—
第2段階 	衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況	警告表示およびブザーによる警報を行う	—	—	軽いブレーキ
第3段階 	回避が困難な状況				強いブレーキ

※：CMBSによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します

■ CMBS の ON と OFF



CMBS OFF スイッチを「ピーッ」とブザーが鳴るまで押すことで、システムのONとOFFを切り換えます。

CMBS がOFFに切り換わったときCMBS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにCMBS OFF とメッセージが表示されます。

CMBS を OFF にした状態でパワーモードをOFFにしても、再度パワーモードをONにしたときにCMBS はOFFとなっています。

■CMBS(衝突軽減ブレーキ)*

以下の場合、CMBS が自動的に停止し、警告灯が点灯することがあります。

- 山岳路や悪路を長時間走行したとき
 - パーキングブレーキをかけて走行したとき
 - 雨、霧、雪などの悪天候になったとき
 - カメラの温度が高温になっているとき
 - フロントグリルまたはフロントガラスがほこり、泥、落ち葉、湿った雪などで覆われているとき
 - タイヤの異常を検出したとき
- CMBS が作動できる状態になると、CMBS は自動復帰します。

パワーモードをONモードにするときは、車を静止させてください。駐車場のターンテーブル上など、車両が動いているときにパワーモードをON モードにすると、CMBS が作動しない場合があります。

車両の整備や検査の際に、シャシーダイナモやフリーローラーを使用するときはCMBS をOFF にしてください。

衝突の可能性のない場合の作動について

衝突の可能性がなくても、以下のとき、CMBS が作動することがあります。

- 左折、または右折している前方車両がいるとき
- 追い越し時に前方の車両や交差点などで対向車に接近して走行するとき
- 低いゲートや狭いゲートなどの間を規制速度を越えるような速度で通過しようとするとき
- 段差のある道路、線路、工事の鉄板などの上を走行するとき
- カーブ途中の道路脇に標識やガードレールなどがあるとき
- カーブ走行などで自車の正面に対向車がいるとき
- 駐車時など、停止している車両や壁に接近するとき

CMBS(衝突軽減ブレーキ)*

システムを正しく作動させるために、必ず次のことをお守りください。

- フロントグリルは常にきれいにしておく
- フロントグリルのお手入れにベンジン、シンナー類、クレンザーなどの磨き粉類を使わない
- フロントグリルにステッカーを貼らない
- フロントグリルを交換しない

フロントガラス上部に装備されているカメラの取り扱いについては下記を参照してください。

▶ フロントセンサーカメラ* P.223

次の場合は、Honda販売店にご相談ください。

- レーダーセンサーおよびカメラに衝撃が加わったとき
- フロントグリルやカメラ周辺の修理を行うとき

サスペンションの改造はしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを使用すると、システムが正常に作動しないおそれがあります。

誤発進抑制機能

停車時や約 10km/h 以下で走行しているとき、自車のほぼ真正面に車両などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを踏み込んだ場合に、エンジン出力を抑制し、急な発進を防止して衝突時の衝撃を軽減する機能です。

なお、急な坂道やセレクトレバーが **P**、**R**、**N** のときは、作動しません。

作動状態

機能作動中はブザー（ピピピ）がなり、マルチインフォメーションディスプレイの警告が点滅すると同時に、アクセルペダルに元にもどそうとする力（断続的な反力）が発生します。



アクセルペダルを踏む
アクセルペダルの踏み込み量が
少ないときは作動しません。

アクセルペダルを離す
安全のため、必要に応じてブレーキ
ペダルを踏んでください。

誤発進抑制機能



警告

あらゆる状況でアクセルペダルの踏み過ぎによる衝突を軽減したり防止できるものではありません。

運転者が常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行して下さい。

誤発進抑制機能は、CMBS と同じセンサーを使用しています。CMBS を OFF にしているときは、誤発進抑制機能は作動しません。また、誤発進抑制機能を正常に作動させるために守ること、正常な作動ができない状況、衝突の可能性のない場合の作動やレーダーセンサーの取り扱いなどは、CMBS と同じです。

踏切内に閉じ込められたときは、遮断機を障害物として検知することがあります。その時は、慌てずにアクセルペダルを踏み続けるか、CMBS を OFF にして遮断機を押し続けてください。

■作動解除の条件

- アクセルペダルを離したとき
- アクセルペダルを約 4 秒間踏み続けたとき
- ブレーキペダルを踏んだとき
- ハンドルを操作して、衝突を避けようとしたとき

駐車する

1. ブレーキペダルをしっかりと踏む。
2. ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
3. セレクトレバーを **P** に入れる。
4. エンジンを停止する。
 - ▶ 車から離れるときは必ず施錠してください。

坂道に駐車をするときは、かならずパーキングブレーキをかけてください。

駐停車操作



注意

停車中の空ぶかしはしない。

万一、セレクトレバーが **P** **N** 以外に入っていた場合、思わぬ急発進のもとになります。

枯れ草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには駐停車しないでください。

排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。

植え込みなどの近くに駐停車するときは、排気ガスが植え込みに当たらないように車の向きを決めてください。

アドバイス

アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。また、上り坂で **P** **N** 以外に入れた状態で、アクセルを調節しながら車を停車させたりしないでください。

トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

仮眠するときは、エンジンを停止してください。

無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

▶▶ 駐車する

⚠ 注意

駐車時はエンジンを止める。

万一、セレクトレバーが[P] [N]以外に入っていた場合、クリープ現象により車が動き出したり、乗り込む際に誤ってアクセルペダルを踏み、急発進するおそれがあります。

アドバイス

車が完全に止まらないうちに[P]に入れないでください。

トランスミッション破損の原因となります。

車内の見えるところに貴重品などを置かないでください。

車内にライターや炭酸飲料缶を放置しないでください。

車内温度上昇によりライターなどの可燃物が自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。

積雪時は、ワイパーアームを起こしてください。

雪の重みでアームの取り付け部が破損することがあります。

寒冷時に、パーキングブレーキをかけると、凍結することがあります。

パーキングブレーキをかけずに、石など輪留めをしてください。

後退出庫サポート*

駐車場などから後退で出庫するときに、リヤカメラの画像をもとに車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、運転者に知らせる機能です。

⚠後退出庫サポート*

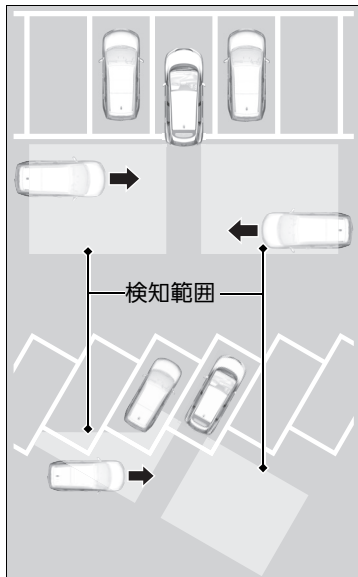
⚠ 警告

このシステムは出庫時の後方確認などをサポートするためのものであり、衝突を防止するためのシステムではありません。

後退時は、必ず目視やミラーなどで後方および周囲の安全を直接確認して運転してください。

状況によっては、検知のできない可能性があるため、ブザーや画面の表示やアクセルペダル反力のみを頼って後退すると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

作動条件と作動タイミング



パワーモードがON モードでセレクトレバーが[R]のときにシステムをON にしていると、車両後方の左右から接近する他の車両を検知し、ブザーと画面表示とアクセルペダルの反力でお知らせします。

自車の真後ろから接近する他の車両は検知しません。また、検知している他の車両が自車の真後ろまで到達した時点でお知らせを停止します。

自車から離れていく車両に対しては検知をしません。また接近する歩行者、自転車、バイクなどに対して検知する場合があります。

後退出庫サポート*

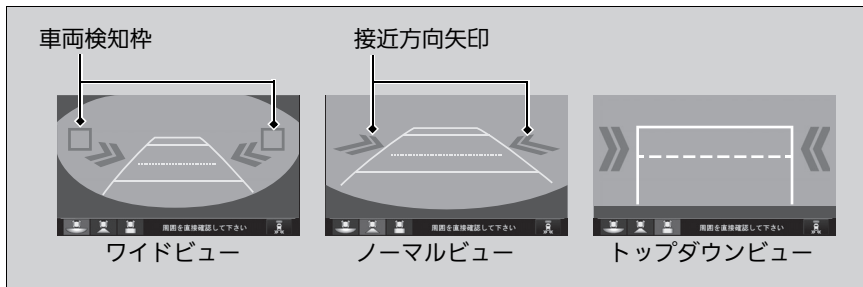
以下のような状況では、接近する車両を検知できなかったり、検知が遅くなったり、接近する車両がいらないのに検知したりする場合があります。

- 隣に他の車両などがあり、接近する車両が遮られて見えないとき
- 自車の車速が約 5km/h を越えているとき
- 接近する他の車両の車速が約 10～25km/h 以外するとき
- リヤカメラのレンズが汚れていたり、水滴や雪などが付着したりしているとき
- 夜間に無灯火の車両などが接近しているとき
- 夜間にヘッドライトがハイビームになっているような車両が接近しているとき
- 周囲の明るさが極端に異なる場所に移動した直後
- 逆光や霧などの環境によって、接近する他の車両が見えにくいとき
- テールゲートが開いているとき
- タイヤが指定空気圧に調節されていないとき
- 坂道またはカーゴスペースや座席に重い荷物を積んで、車が傾いているとき
- 壁、ポール、他の車両などに近付くように後退したとき
- 周囲に旗など、動くものがあるとき
- リヤカメラに荷重がかかるなどして正しい位置から傾いてしまったとき

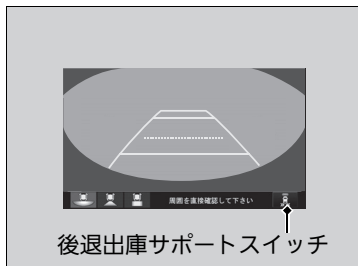
▶ Honda 販売店で点検を受けてください。

■ 画面表示について

接近してくる車両を検知している間は、接近方向矢印および車両検知枠(ワイドビューのみ)が表示されます。



■ 後退出庫サポートの ON と OFF



後退出庫サポートスイッチを押して、システムの ON/OFF を切り換えます。

ON にすると、スイッチの表示灯(グリーン)が点灯します。

また、カスタマイズ機能を使用して、システムの ON/OFF を切り換えることができます。

▼ メーカーオプションのHondaインターナビシステム

※ 後退出庫サポート*

システムを正しく作動させるために、リヤカメラのレンズは常にきれいにしておいてください。

汚れていたり、水滴が付着したりしているときは、湿ったやわらかい布で拭き取ってください。

※ 画面表示について

画面右下のアイコンが から (オレンジ) に変わったときは、システムに異常がありますので、システムを使用せず、Honda 販売店で点検を受けてください。

セレクトレバーを **[R]** にしても画面が切り換わらないときは、カメラシステムに異常があります。このとき、後退出庫サポートも正常に作動できなくなります。

▶ Honda 販売店で点検を受けてください。

リヤワイドカメラシステム*

リヤワイドカメラの取り扱いについては、別冊のメーカーオプションの「Honda インターナビシステム」取扱説明書をご覧ください。

指定燃料について

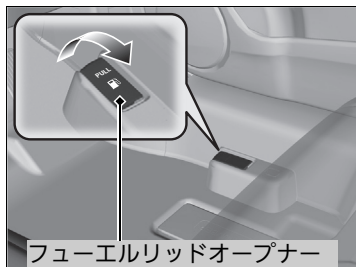
■指定燃料

無鉛レギュラーガソリン
レギュラーバイオ混合ガソリン(E10/ETBE22)

■タンク容量

47 リットル

給油のしかた



1. 助手席側にガソリンスタンドの給油機がくように車を停める。
2. エンジンを停止させる。
3. 運転席足元にあるフューエルリッドオープナーを引いてリッドを開ける。

■指定燃料について

アドバイス

指定燃料以外の燃料(粗悪ガソリン、軽油、灯油等)を補給したり、不適切な燃料添加剤を使用しないでください。

以下のような状態になるおそれがあります。

- 触媒装置などの損傷
- エンジンや燃料系などの損傷
- エンジンなどへの悪影響

プレミアムガソリンをお使いになることもできますが、この場合、本来のエンジン性能が大きく変わることはありません。

■給油のしかた

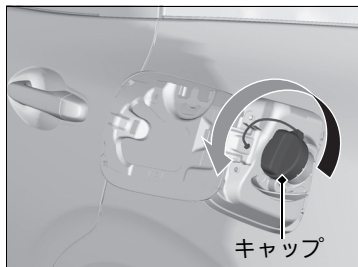
⚠ 警告

燃料補給時は火気厳禁。

燃料や燃料蒸気は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。燃料を扱っているときは下記の項目を厳守してください。

- エンジンは常に止める
- 炎、火花を近づけない
- たばこを吸わない
- 燃料の取り扱い屋外で行う
- こぼれた燃料はすみやかに拭き取る

ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。



4. ツマミをゆっくり回し、フューエルキャップを開ける。

給油のしかた

警告

燃料補給作業は、フューエルキャップを開ける前に車体などの金属に触れて身体の静電気を除去してから行う。

静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

注意

キャップはゆっくり開ける。

急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

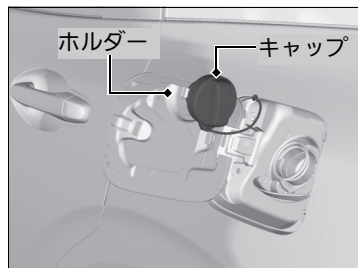
「シュー」という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。

燃料補給は、静電気を放電した人のみで行ってください。

燃料補給中に車内に戻ると、再び帯電することがあります。再度、静電気を放電してください。

燃料蒸気を吸わないでください。

燃料成分には有害物質を含んでいる場合があります。



5. キャップをホルダーにかける。
6. 給油ノズルを奥まで差し込み、給油する。
 - ▶ 満タンになると、給油ノズルの自動停止がはたらき、給油が停止します。
7. 給油後、「カチッ」という音が1回以上するまでキャップを締め付ける。
 - ▶ フューエルリッドは、手で押さえ付けて閉めます。

給油のしかた

⚠ 注意

給油ノズルの自動停止後は、追加補給しない。

気温などの変化により燃料があふれ、火災になるおそれがあります。

キャップが確実に閉まっていることを確認する。

閉まっていないと燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

Honda 純正以外のキャップを使わないください。

純正品を使用しないと、火災などを起こすおそれがあります。

気温などの変化により燃料があふれないように、タンク容量に達すると燃料タンクに空間を残して給油ノズルの自動停止がはたらくようになっています。

自動停止後に追加補給をすると、燃料が満タン容量以上に入ることがあります。

取り扱い

ターボ装置は、排気ガスの圧力でタービンを回してエンジンに大量の空気を圧縮して送り込み、より大きな馬力を引き出す非常に精密に作られた装置です。

ターボ装置の故障を防ぐため、必ず以下の点をお守りください。

- エンジン始動直後のエンジンが冷えているときは、空ぶかしや急加速はしない
- エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期を必ず守る

タービンは毎分 10 万回転以上の高回転で回り、かつ 700 °C 以上の高温になります。その潤滑と冷却はエンジンオイルにより行われます。したがって、定められた距離または期間でエンジンオイル、オイルフィルターの交換を行わないと、劣化したエンジンオイルによりタービン軸受部の固着や異音の発生など、故障の原因になります。

ターボ車について

エンジンオイル、オイルフィルターの交換時期は、インフォメーションディスプレイ*/ マルチインフォメーションディスプレイ* に表示されます。表示にしたがって交換を行ってください。

■ オイルモニターシステム P.296

■ 推奨エンジンオイル P.370

高速走行や山道走行などの高負荷で走行したあと、エンジンを再始動すると高水温警告灯が点滅または点灯することがありますが、機能的に問題はありません。

約 1 分間アイドリング運転を行うか、走行すると警告灯は消灯します。

アクセサリー

アクセサリーを取り付ける場合は、下記の項目を確認してください。

- アクセサリーをフロントガラスに取り付けていないか？
 - ▶ アクセサリーの揺れる動きが車外の状況認識を遅らせることがあります。
また、吸盤がレンズのはたらきをして、火災につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ドアガラスやフロント、センター、リヤの各ピラーまわりにアクセサリーを取り付けていないか？
 - ▶ サイドカーテンエアバッグの作動の妨げになるので、上記の場所にはアクセサリーを取り付けしないでください。

車の改造

Honda 純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。

- 適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりします。
- Honda が国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。
- 車の改造はしないでください。不正改造は、法律に触れることはもちろん、思わぬ事故を起こす場合があります。

無線装置などの取り付けの際には、必ず Honda 販売店にご相談ください。
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

車の改造

車の性能、品質を維持するために、Honda 車に最も適した Honda 純正部品をお使いください。

純正部品には下記のマークが付いています。

HONDA

GENUINE PARTS

お求め、装着に際しては、Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンス

この章では、基本的なメンテナンスについて記載しています。



メンテナンスの前に	
点検整備について	294
メンテナンスを安全に行うために	295
メンテナンスに関する注意事項	295
オイルモニターシステム	
オイルモニターシステムの表示	296
エンジンルーム内のメンテナンス	
エンジンルーム内のメンテナンス項目	301
ボンネットを開ける	302
推奨エンジンオイル	303
ウィンドウォッシャー液の補給	303
電球の交換	304
ワイパーブレードラバーの点検と整備	313

タイヤの点検と整備	
タイヤの点検	317
タイヤとホイールの交換	319
タイヤのローテーション	320
冬期のタイヤ	321
Honda スマートキー	
Honda スマートキーの取り扱いと電池交換	322
エアコンのお手入れ	
エアクリーンフィルター	324

清掃	
日常のお手入れ	327
車内の清掃	327
車外の清掃	329

点検整備について

道路運送車両法により、法定点検と日常点検が義務づけられています。正しい点検整備で、車を安全・快適にお使いください。

普段と違う点(音、におい、ブレーキフルードの不足、地面に油のあとが残っているなど)に気づいたら、Honda 販売店で点検を受けてください。

点検整備の詳細については、別冊のメンテナンスノートも併せてご覧ください。

点検整備の種類

■日常点検

長距離走行前や洗車・給油時などに、お客様自身の判断で行う点検です。

■定期点検

12か月および24か月ごとに実施する点検です。法律で定められているものと、Honda が指定するものがあります。

■その他

新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。

点検整備について

作業に不慣れな場合や難しい場合は Honda 販売店にご相談ください。

メンテナンスを安全に行うために

メンテナンスを行う際は、メンテナンスノートと下記の安全に関する注意事項をよくお読みのうえ、安全を確保して行ってください。

お客さま自身でメンテナンスを実施したときは、メンテナンス点検整備記録簿のメンテナンスレコードに記録してください。

メンテナンスを行う場所や備品についての安全事項

- 火災や爆発防止のため、タバコの火、火花、炎を引火性の液体やガスから遠ざける。

車についての安全事項

- エンジンの排気ガスに含まれる一酸化炭素の毒作用に注意する。
 - ▶ エンジンをかけるときは必ず十分な換気を行ってください。
- 熱くなった部品によるやけどに注意する。
 - ▶ 部品に触れる前に、エンジンと排気システムを十分に冷やしてください。
- 可動部品によるけがに注意する。
 - ▶ 指示されたとき以外は、エンジンをかけないでください。
 - ▶ アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。
- エンジンルーム内の、タオルや可燃物の置き忘れに注意する。
 - ▶ 火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。

メンテナンスに関する注意事項

メンテナンスサービスで使用する部品やオイル

メンテナンスサービスを受けるときは、Honda 純正部品やオイル類を使用することをおすすめします。Honda 純正部品は、車で使われている部品と同じ高品質の基準に基づいて製造されているため、性能と耐久性の面で安心です。

⚠メンテナンスを安全に行うために



警告

適切なメンテナンスを行い、走行前に故障がないようにする。

走行時に故障がある状態や、適切なメンテナンスがなされていないと、重大な傷害や死亡に至る事故を引き起こす可能性があります。

必ず、この取扱説明書に記載されている点検とメンテナンスに関する注意事項や別冊のメンテナンスノートに記載の点検時期を守ってください。

メンテナンスは、指示と注意事項を守って行う。

メンテナンスの指示と注意事項を守らないと重大な傷害や死亡のおそれがあります。必ず、この取扱説明書に記載されている手順と注意事項を守ってください。

オイルモニターシステム

メンテナンスが必要な場合は、パワーモードをONモードにするたびにオイルモニターシステムのメッセージがマルチインフォメーションディスプレイ*に表示されたり、メーター内の表示灯*が点灯します。メッセージが表示されたり、表示灯が点灯したときは、Honda 販売店でメンテナンスを受けてください。

オイルモニターシステムの表示

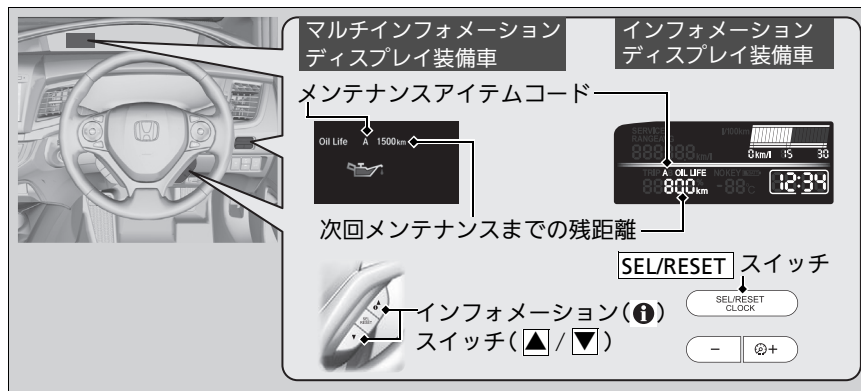
1. パワーモードをONモードにする

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

2. マルチインフォメーションディスプレイにオイルモニターシステム画面が表示されるまで、インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押す。

インフォメーションディスプレイ装備車

2. インフォメーションディスプレイにオイルモニターシステム画面が表示されるまで、SEL/RESET を押す。



オイルモニターシステムの表示

エンジンの運転状態とエンジンオイルの状態をもとに、次のメンテナンス時期までの残距離を計算しています。

走行条件によっては、表示された残距離より実際の走行距離は短くなる場合があります。

メンテナンスアイテムコードは、以下の項目についてのメンテナンスを指しています。

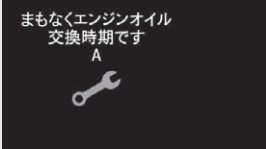
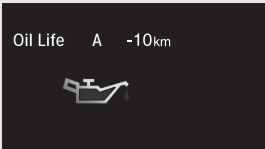
A : エンジンオイル交換

B : エンジンオイル、オイルフィルター交換

残距離表示が十分残っていても前回のオイル交換から1年が経過していたらメンテナンスを実施してください。詳しくはメンテナンスノートを確認してください。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車

マルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージと
オイルモニターシステム情報

警告メッセージ	オイルモニターシステム情報	説明	情報
		メンテナンス時期までの走行距離が 1,500km 未満になったとき	メンテナンス時期が近くなっています。
		メンテナンス時期までの走行距離が 500km 未満になったとき	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
		メンテナンス時期を過ぎている項目があるとき	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

インフォメーションディスプレイ装備車

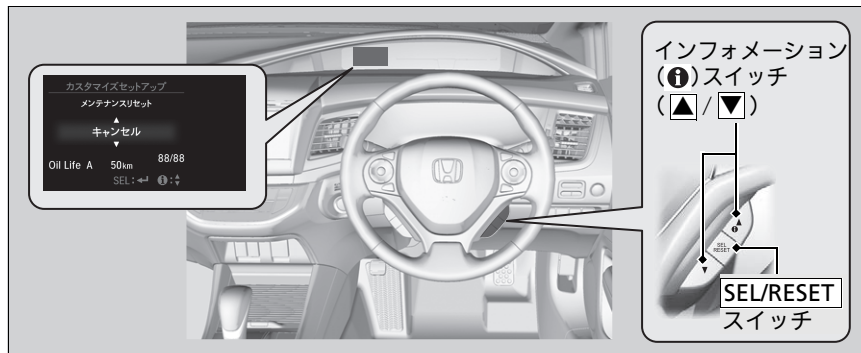
インフォメーションディスプレイのオイルモニターシステム情報

表示灯	オイルモニターシステム情報	説明	情報
 パワーモードを ON モードにすると点灯し、 SEL/RESET を押すと消灯		メンテナンス時期までの走行距離が 1,500km 未満になったとき	メンテナンス時期が近くなっています。
		メンテナンス時期までの走行距離が 500km 未満になったとき	できるだけ早めにメンテナンスを受けてください。
 パワーモードを ON モードにすると常時点灯	 表示が点滅	メンテナンス時期を過ぎている項目があるとき	メンテナンス時期を過ぎています。メンテナンスを受けたら、オイルモニターシステムをリセットしてください。

■リセットのしかた

メンテナンスを行った後は、オイルモニターシステムの表示をリセットします。

マルチインフォメーションディスプレイ装備車



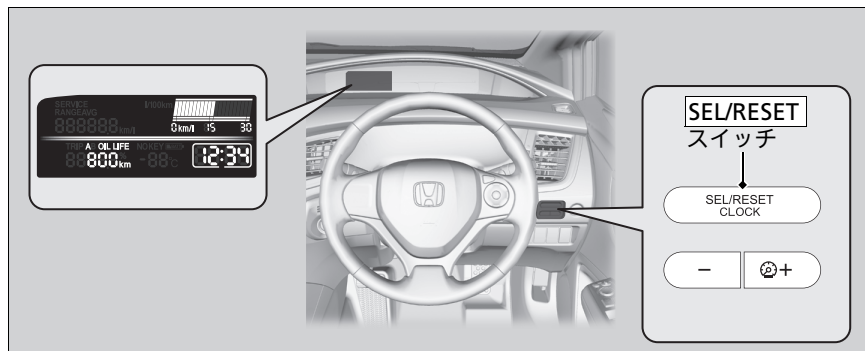
1. パワーモードを ON モードにする。
2. カスタマイズ機能の中からメンテナンス設定を選択する。
▼ カスタマイズ機能 P.96
3. インフォメーション(ⓘ)スイッチ(▲/▼)を押してリセットを選択する。
4. リセットが選択された状態で **SEL/RESET** スイッチを押すと、リセットされます。
5. マルチインフォメーションディスプレイにメンテナンスリセットが完了した文章が表示される。

※リセットのしかた

アドバイス

メンテナンス後にオイルモニターシステムをリセットしないと、メンテナンス時期を正しくお知らせできないため、故障につながる可能性があります。

インフォメーションディスプレイ装備車



1. パワーモードを ON モードにする。
2. インフォメーションディスプレイにオイルモニターシステム画面が表示されるまで、**SEL/RESET** を押す。
3. **SEL/RESET** を 10 秒以上押す。
▶ オイルモニターシステム画面が点滅します。
4. **SEL/RESET** を 5 秒以上押す。
▶ 通常のインフォメーション画面に戻ります。

リセットのしかた

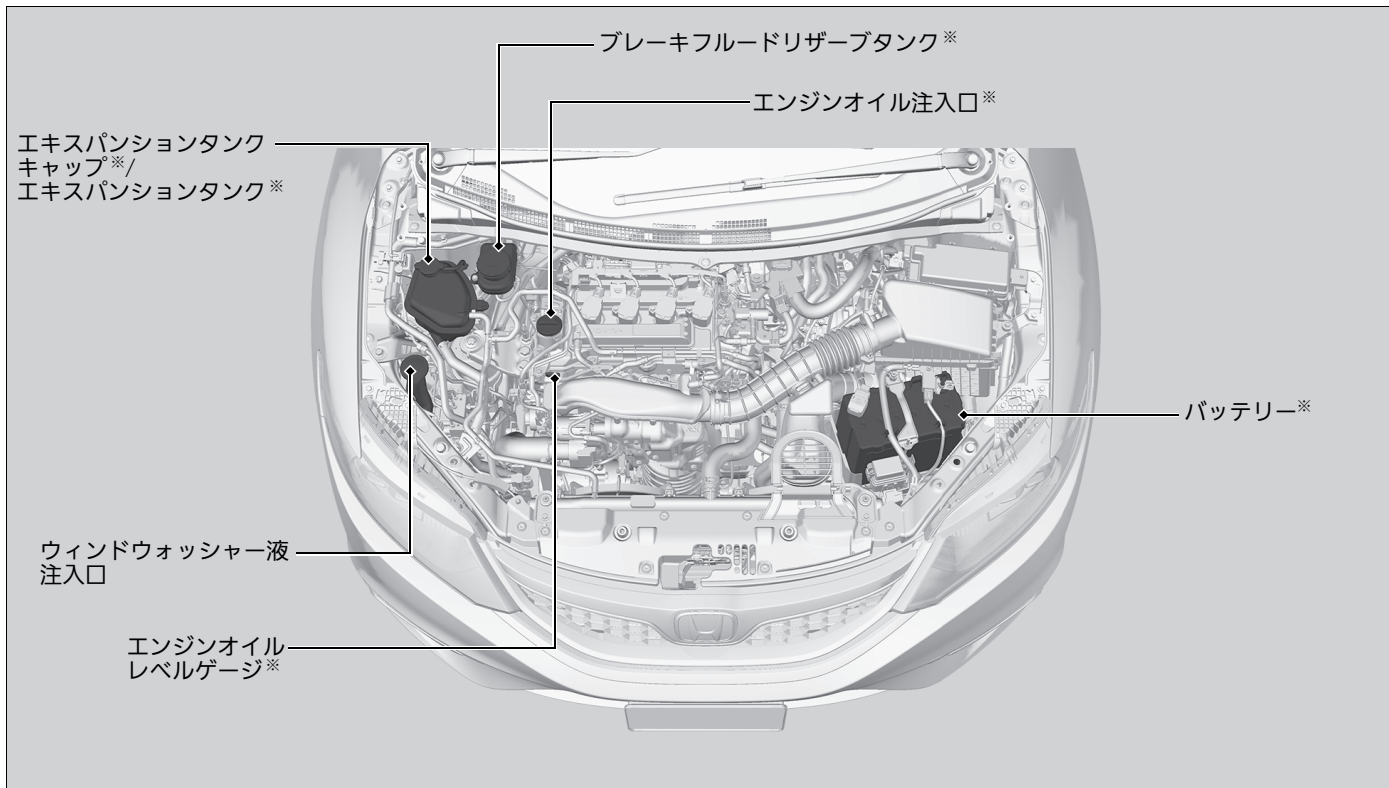
インフォメーションディスプレイ装備車

オイルモニターシステム画面が点滅したときに、以下のいずれかの方法でオイルモニターシステムのリセットを中止することができます。

- 30 秒間何も操作しない
- エンジンを OFF にする

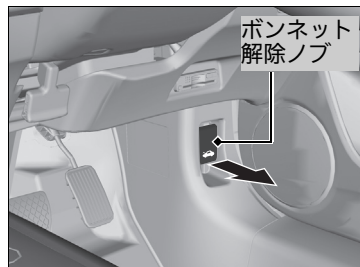
エンジンルーム内のメンテナンス

エンジンルーム内のメンテナンス項目

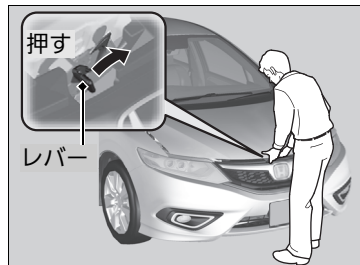


※：点検整備については、別冊の「メンテナンスノート点検整備について」をご覧ください。

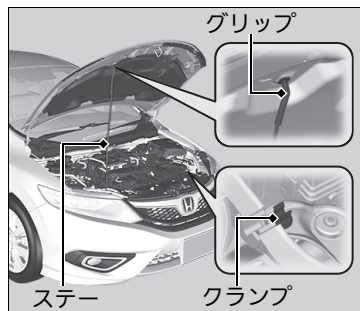
ボンネットを開ける



1. 車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. 運転席足元にある、ボンネット解除ノブを引く。
▶ ボンネットが少し浮き上がります。



3. ボンネット中央のレバーを押してロック機構を解除し、ボンネットを開ける。



4. グリップを持ってステーをクランプから取り外し、ステーをボンネットにかける。

閉めるときは、ステーを外しクランプに納めてからボンネットを静かに下げて、約30cmの高さから手を離します。

▶▶ ボンネットを開ける



注意

ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意する。

アドバイス

ワイパーアームを起こした状態で、ボンネットを開けないでください。

ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷することがあります。

ボンネットを閉めたときは、ボンネットが確実にロックされていることを確認してください。

アイドリングストップ中は、ボンネットを開けないでください。

推奨エンジンオイル

エンジンオイルは、量が少なかったり劣化したものを使用していると、エンジンの不調や破損につながる場合があります。



推奨エンジンオイル：

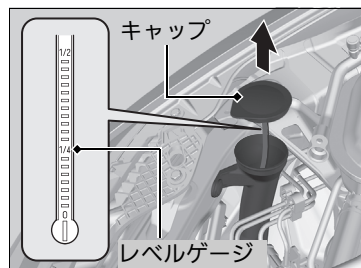
Honda 純正エンジンオイル

■ Honda 純正エンジンオイル P.370

API SM または SN 以上かオイル缶に API CERTIFICATION(エーピーアイサーティフィケーション)マークの入ったエンジンオイル

ウィンドウォッシャー液の補給

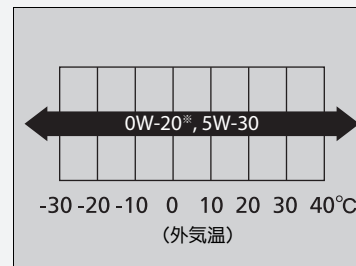
ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



減っていた場合は、ウォッシャー液キャップを外し、ウォッシャータンクに補給します。

■推奨エンジンオイル

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。



※：最も省燃費性に優れた Honda 純正オイルです。Honda 販売店でお求めください。

冬期はエンジンオイルの劣化が激しくなります。冬期に主として短距離、市街地を運転する場合、早めに交換してください。

■ウィンドウォッシャー液の補給

ウォッシャー液以外の液体を、タンクに入れないでください。

冬期はウォッシャー液の凍結を防ぐため、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

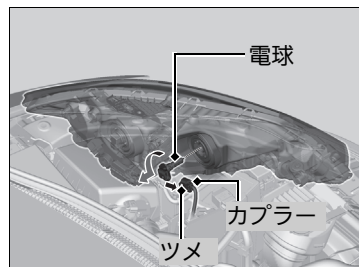
ヘッドライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

ハイビームヘッドライト : 12V-60W

ロービームヘッドライト : LED

■ハイビームヘッドライト



1. カプラーを外す。
▶ カプラーはツメを押しながら外します。
2. 古い電球を左に回して抜き取る。
3. 新しい電球を右に回して固定する。
4. カプラーを押し込み、取り付ける。

■ロービームヘッドライト

ロービームヘッドライトはLEDを使用しています。点検、交換は、Honda 販売店に依頼してください。

■ハイビームヘッドライト

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

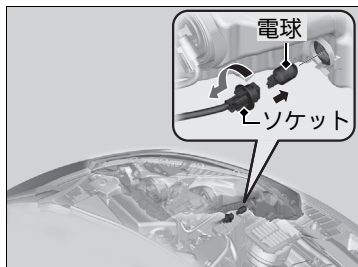
扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯：12V-21W(橙色)

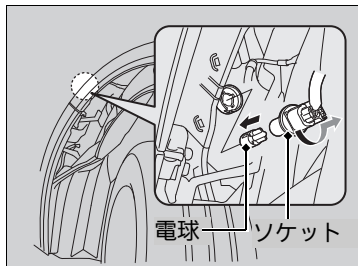
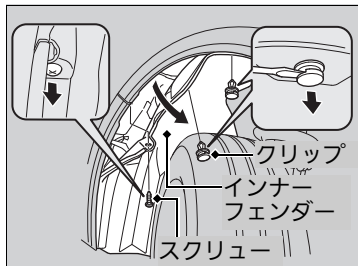


1. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
2. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

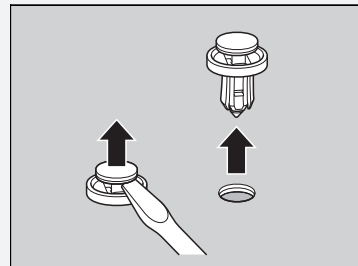
車幅灯：12V-5W



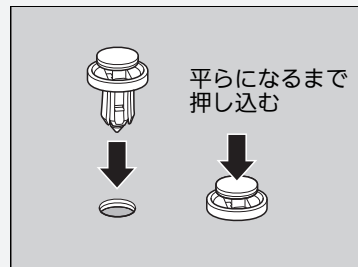
1. 交換する側と反対にハンドルをいっぱい
に切る。
右側：ハンドルを左に切る
左側：ハンドルを右に切る
2. スクリューとクリップを外し、インナー
フェンダーをめくる。
3. ソケットを左に回して外し、古い電球を
抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

車幅灯電球

クリップを外すときは、マイナスドライバー
を差し込んで、中央部のピンを起こして取り
外します。



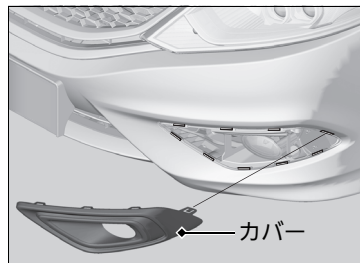
クリップを取り付けるときは、クリップ中央
部のピンを起こしたまま差し込み、ピンを平
らになるまで押してください。



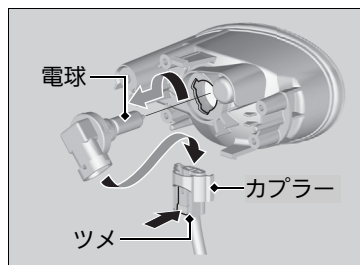
フォグライト電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

フォグライト：12V-35W



1. カバーを外す。



2. カプラーを外す。

▶ カプラーはツメを押しながら外します。

3. 古い電球を左に回して抜き取る。

4. 新しい電球を右に回して固定する。

5. カプラーを押し込み、取り付け。

※フォグライト電球

アドバイス

ハロゲン球は非常に熱くなります。取り扱うときは、熱が冷めてから行ってください。

また、ガラスに油、汗、傷がつくと、電球が過熱し割れるおそれがあります。

扱うときは口金の部分を持ち、ガラスが肌や固いものに触れないようにしてください。

ガラスに汚れがついたときは、中性洗剤の薄い水溶液を含ませたきれいな布で拭いてください。

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯電球

側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯は LED を使用しています。点検、交換は Honda 販売店に依頼してください。

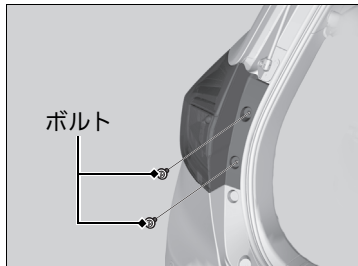
制動灯 / 尾灯電球

制動灯 / 尾灯はLEDを使用しています。点検、交換はHonda販売店に依頼してください。

後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

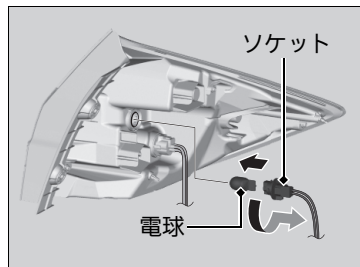
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯 : 12V-21W(橙色)



1. ボルトを外す。



2. ランプ本体を矢印の方向に引き抜いて取り外す。



3. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
4. 新しい電球を差し込む。

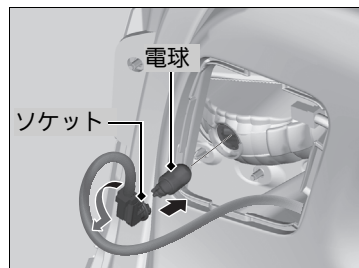
後退灯電球

交換する場合は、下記の電球をご使用ください。

後退灯 : 12V-16W



1. カバーの切り欠き部にマイナスドライバーの先端を差し込み、カバーを取り外す。
▶ カバーが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ソケットを左に回して外し、古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

番号灯電球

番号灯はLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

ハイマウントストップランプ電球

ハイマウントストップランプはLED を使用しています。点検、交換はHonda 販売店に依頼してください。

その他の電球

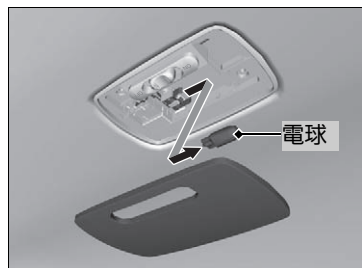
■ セカンドシート、サードシート 室内灯電球

下記の電球をご使用ください。

室内灯：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

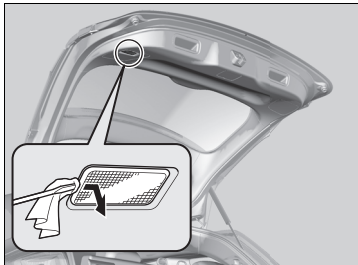


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

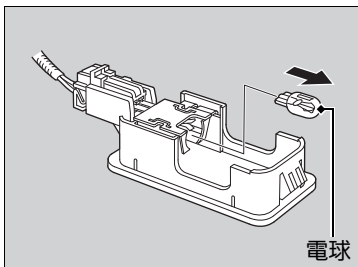
■ テールゲート照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

テールゲート照明灯：12V-8W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

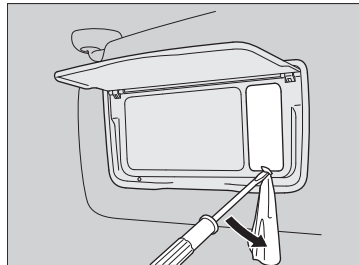


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

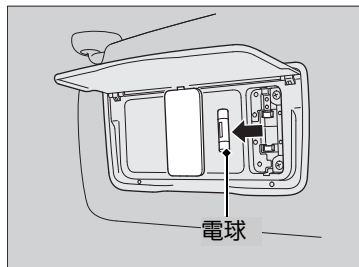
■ バニティミラー照明灯電球

下記の電球をご使用ください。

バニティミラー照明灯：12V-2W



1. ランプ本体にマイナスドライバーの先端を差し込み、押し開ける。
▶ ランプが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。

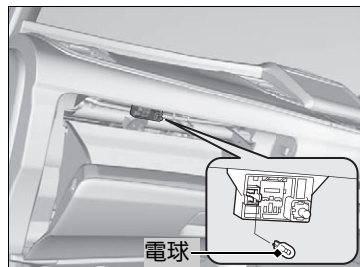


2. 古い電球を抜き取る。
3. 新しい電球を差し込む。

■グローブボックスライト電球

下記の電球をご使用ください。

グローブボックスライト：12V-3.4W

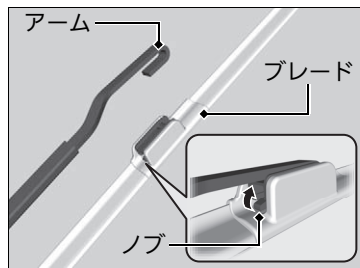
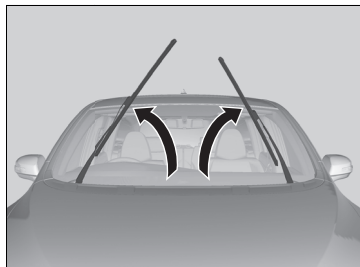


1. グローブボックスを開ける。
2. 古い電球を手前に抜き取り、新しい電球を差し込む。

ワイパーブレードラバーの点検

ワイパーブレードラバーが傷んでいると、拭きムラになったり、ウィンドーガラスを傷つけたりします。定期的にワイパーブレードラバーの状態を点検し、傷んでいる場合は交換してください。

フロントワイパーブレードラバーの交換



1. ワイパーアームを起こす。

2. ノブを押し上げながら、アームからブレードをスライドさせて外す。

※フロントワイパーブレードラバーの交換

アドバイス

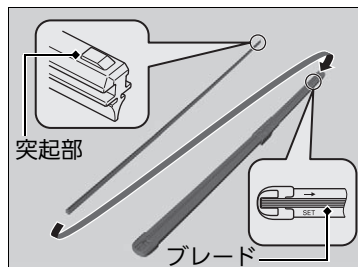
ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けたりワイパーを作動させたりすると、ボンネットとワイパーアームを損傷します。

アドバイス

ブレードを外した状態でワイパーアームが倒れると、ガラスが損傷するおそれがあります。



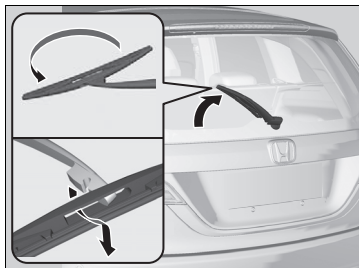
3. ラバーのストッパーがブレードのツメから外れるまで引き、そのままラバーをブレードから引き抜く。



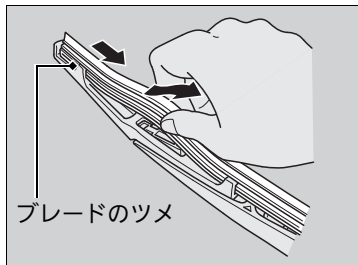
4. ラバーを突起部のない側を下にしてブレードに沿って差し込む。

- ▶ ブレードをワイパーアームに取り付け、ラバーの突起部がブレード先端の溝に挿入されるまで差し込み、確実に固定します。

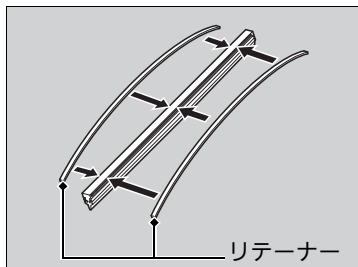
リヤワイパーブレードラバーの交換



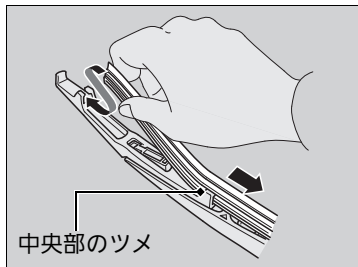
1. ワイパーアームを起こす。
2. ワイパーブレードの底部を回転させ、アームから取り外す。



3. ラバーを引いて先端部をブレードのツメから外す。
4. ラバーをブレードから引き抜く。



5. 引き抜いたラバーからリテーナーを外し、新しいラバーに取り付ける。
▶ リテーナーには反りがあります。リテーナーを図の向きでラバーに取り付けてください。



6. ブレード中央部のツメからラバーを挿入し、ブレード両端のツメにラバーを通す。

タイヤの点検

■タイヤの点検について

タイヤが摩耗・損傷していたり、適正な空気圧でないと、安全な走行ができな
いばかりか乗り心地も損なわれます。

安全な走行のために求められるタイヤの条件は下記のとおりです。

- 種類とサイズが適正であること
- 接地面の状態が良好であること
- 空気圧が適正であること
- 摩耗、傷、亀裂、異物などがないこと

これらの条件を満たすために下記の点検を行い、常にタイヤを最適な状態に
保ってください。

■日常的な点検

乗車前に必ず行う点検です。下記の項目を確認し、状況によってはメンテナ
ンスをしてください。

- タイヤがつぶれているように見えないか？
▶ つぶれているように見えたら、すぐに空気圧をチェックしてください。
- 激しい摩耗、傷、亀裂、異物はないか？
▶ 状況に応じて、タイヤを交換してください。

■タイヤの点検について



警告

**摩耗が激しいタイヤ、空気圧が適正でない
タイヤを使用しない。**

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害
や死亡に至る事故につながるおそれがあり
ます。

指定空気圧は、運転席横の車体に貼ってある
ラベルにも記載されています。

この取扱説明書が手元がない場合は、車のラ
ベルをご覧ください。

■空気圧測定器による点検

すべてのタイヤの空気圧を測定してください。空気圧が下がっている場合は、パンクを入念に調べます。

タイヤの指定空気圧は、巻末の資料を参照してください。

🔧 仕様 P.370

■損傷、異物、摩耗の点検

下記の項目を点検してください。

- タイヤの接地面と側面の突起、膨らみが正常か？
 - ▶ 異常が見られた場合は、タイヤを交換する必要があります。
- タイヤ側面に、裂け目、亀裂がないか？
 - ▶ 裂け目や亀裂がある場合は、タイヤを交換する必要があります。
- 接地面とウェアインジケーターが同じ高さになっていないか？

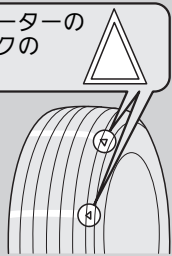
🔍 タイヤの点検について

タイヤの空気圧は、タイヤ温度が低いときに測定してください。

必要な場合は、指定空気圧になるまで空気を注入または排出してください。

タイヤが高温のときに空気圧を測っても、低温のときより高めになるため正しく測定できません。

ウェアインジケーターの
位置を示すマークの
代表例



ウェアインジケーター(摩耗限界表示)

ウェアインジケーターはタイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mm浅くなっています。

接地面が摩耗して、ウェアインジケーターと同じ高さになったら、タイヤを交換してください。

タイヤとホイールの交換

タイヤは、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを使用すると、運転に関わるシステムが正常に機能しなくなったり、動力伝達装置に悪影響を与えたりします。

同時にすべての4つのタイヤを交換することをお奨めします。それができない場合は、前輪または後輪タイヤの左右を一緒に交換してください。

■タイヤとホイールの交換



警告

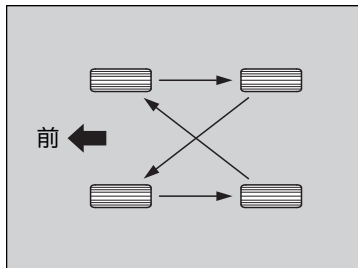
必ず、サイズと種類が適切なタイヤを使用する。

不適切なタイヤを使用すると、重大な傷害や死亡に至る事故につながるおそれがあります。

タイヤのローテーション

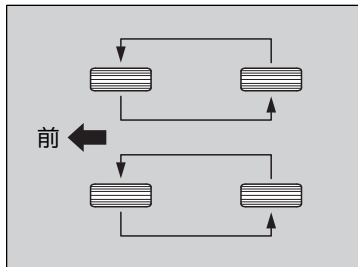
5,000km 走行したごとにタイヤローテーションをしてください。
タイヤローテーションを行うのは、特定のタイヤが摩耗するのを防ぐためです。

■回転指示マークがないタイヤの場合



図のように、タイヤをローテーションさせます。

■回転指示マークがあるタイヤの場合

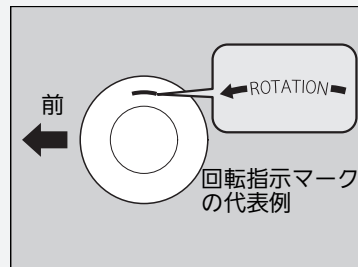


図のように、タイヤをローテーションさせます。

※タイヤのローテーション

タイヤ回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ回転指示マークがあります。

図のように回転指示マークが前へ向くように取り付けてください。



締め付けトルク

108 N・m (11 kgf・m)

冬期のタイヤ

雪道や凍結した道路を走行する場合は、スノータイヤやタイヤチェーンを装着し、速度を落として十分に車間距離をとって運転してください。

また、横滑りの原因となりますのでハンドルやブレーキの操作は、特に慎重に行ってください。

タイヤチェーンおよびスノータイヤは、走行条件や法令により装着が必要とされた場合に使用します。

装着する場合は、下記のポイントを参照してください。

スノータイヤ

- 四輪とも同じ種類、指定サイズのタイヤを選ぶ
- 四輪すべてにスノータイヤを装着する

タイヤチェーン

- Honda 純正スチールチェーンを、付属の取扱説明書にしたがって前輪に装着する
- タイヤサイズに適合したチェーンを装着する
- ブレーキラインやサスペンションと接触していないか確認する
- ゆっくり走行する

❏冬期のタイヤ

アドバイス

サイズが不適切なチェーンを装着したり、装着のしかたが不適切だと、車のブレーキライン、サスペンション、ボディー、ホイールを損傷するおそれがあります。

チェーンが車のどこかに当たる場合、ただちに走行をやめてください。

タイヤチェーンは前輪に装着します。

後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。

タイヤチェーンを装着したときは、30km/h以下の速度で走行してください。

なお、乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したまま走行するのは避けてください。タイヤチェーンの摩耗を早めます。

Honda スマートキーの取り扱いと電池交換

■ 取り扱いについて

Honda スマートキーの取扱いは、下記の点に注意してください。

- 発信機を落としたり投げたりしない
- 温度が極端に高い / 低い場所に置かない
- 液体にひたさない

■ 電池交換のしかた

作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられます。

ボタンを押したときにインジケーターが点灯しない場合は、電池切れです。電池を交換してください。

※ 取り扱いについて

Honda スマートキーをなくした場合は、Honda 販売店へご連絡ください。

※ 電池交換のしかた

注意

電池および取り外した部品は、お子さまが飲み込まないように注意する。

飲み込むと傷害を受けるおそれがあります。

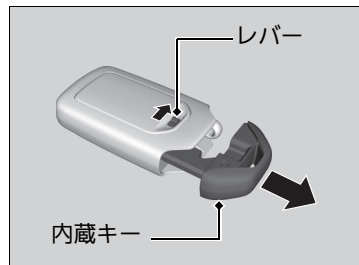
電池交換の際は、破損などのおそれがあるため、Honda販売店で交換をおすすめします。

電池交換の際は、カバーを確実に取り付けてください。

確実に取り付けられていないと、耐水性能の低下や故障の原因となります。

電池は Honda 販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

■Honda スマートキー



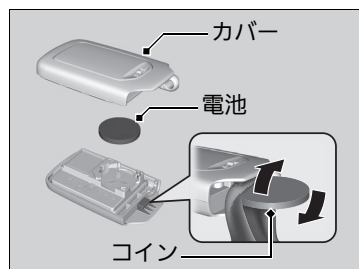
ボタン電池 CR2032

1. レバーを引きながら、内蔵キーを取り出す。

2. カバーを外す。

▶ カバーに傷が付かないように、コインに布などを巻いてカバーを取り外します。

3. ⊕ と ⊖ を間違えないよう、電池を交換する。



エアークリーンフィルター

■エアークリーンフィルターの交換時期

エアークリーンフィルターは、通常 1 年または 15,000km ごとに交換してください。

粉じんなどの多い場所で使用される場合は、早めの交換をおすすめします。

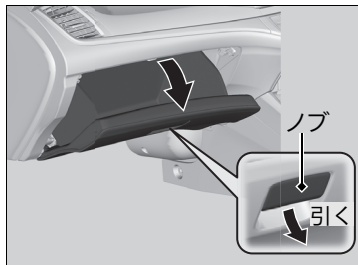
■エアークリーンフィルター

芳香剤を使用すると脱臭効果が弱くなり、脱臭寿命が短くなることがあります。

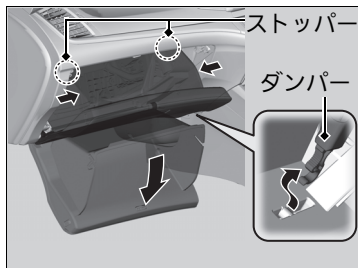
エアコンの風量が著しく減少したり、ガラスが曇りやすくなったときは、フィルターの目詰まりが考えられます。フィルターを交換してください。

アレルフリー高性能脱臭フィルターは、空気中の花粉、粉じんを集じんし、アレルゲンを処理、排気ガス臭も低減します。

■ エアクリーンフィルターの交換

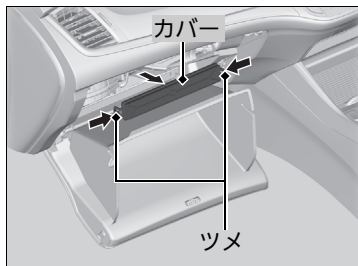


1. グローブボックスを開ける。

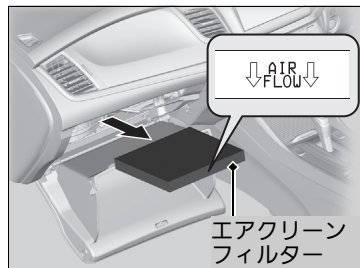


2. ダンパーを外す。

3. グローブボックスの両側に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。



4. 左右にあるツメを押しながら、カバーを外す。



5. エアクリーンフィルターを取り出す。

6. 新品と交換する。

▶ 「AIR FLOW」マークの矢印が、下向きになるように取り付けます。

日常のお手入れ

走行後のお手入れ

走行後は、塗装面に付着したほこりなどを毛はたきなどで払い落としてください。飛び石などによる塗装面の傷は錆の原因になります。見つけたら早めに補修してください。

洗車について

月に一度は洗車をするようにしてください。

以下の場合、必ず洗車をしてください。

- ・凍結防止剤を散布した道路を走行したとき
- ・海岸地帯を走行したとき
- ・コールトール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などが付いたとき

車内の清掃

内装の清掃は、掃除機で塵や埃を取り除いてから汚れを落としてください。

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものを柔らかい布に軽く含ませ、固く絞って汚れを落とします。その後、真水を含ませたきれいな布で、洗剤分をきれいに落としてください。

シートベルトの清掃

ぬるま湯に中性洗剤を溶かしたものをブラシにつけて清掃し、その後空気乾燥させます。

※洗車について

凍結防止剤を散布した道路や、海岸地帯を走行したときの洗車は、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。

※車内の清掃

室内に水をかけないでください。

オーディオやスイッチなどの電装品に水がかかると故障の原因となります。

オーディオ、スイッチなどの電装品にシリコン系のスプレーを塗布しないでください。故障や車両火災の原因となるおそれがあります。万一、電装品にシリコン系のスプレーを塗布したときは、Honda 販売店にご相談ください。

ケミカル類、液体芳香剤は成分により、樹脂部品、布材の変色、しみ、ひび割れなどを起こすことがあります。

ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤、酸、アルカリ性の溶剤は使用しないでください。

ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。使用した布をそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。

液体芳香剤は、こぼさないよう確実に固定してください。

■ 本革のお手入れ

本革巻ハンドルなどは、ウール用中性洗剤の 10% 水溶液を柔らかい布に軽く含ませ汚れを落とします。その後、真水を含ませた柔らかい布で洗剤分を拭き取り、風通しをよくして乾燥させます。

汚れが付着したらすぐに拭き取ってください。

■ ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■ スーパーUV カットガラスのお手入れ

前席ウィンドー(ドアガラス)の車内側に UV カット膜コーティングしてあります。水またはぬるま湯を含ませた布などで汚れを拭き取ってください。

☒ ガラスのお手入れ

リヤガラスは、ガラスの内側に電熱線が装着されています。傷付けないように、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

UV カット膜を長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない

■ フロントセンサーカメラ装備車

フロントセンサーカメラのカバーや周辺に水やガラスクリーナーなどの液体がかからないようにしてください。

☒ フロントセンサーカメラ* P.223

車外の清掃

洗車は、十分に水をかけながら、下回り、足回りの汚れを落とします。塗装面は、屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム革のような柔らかいもので洗います。

汚れがひどい場合は、中性洗剤で洗い、水で完全に洗剤を落としてから水が乾かないうちに拭き取ります。

自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納する

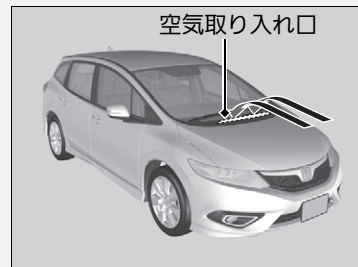
高圧洗浄機を使うとき

- 洗車ノズルと車体の距離を十分に離す
- ウィンドーまわりは、近づけすぎると室内に水が入ることがあるため、特に注意して行う
- エンジンルームには水をかけない

車外の清掃

故意に空気取り入れ口や、エンジンルームに水をかけないでください。

故障の原因になります。



■ワックスをかけるとき

ワックスは、月に1回程度または水をはじかなくなったときにかけてください。洗車した後や、車体表面が体温以下に下がっているときにかけるようにしてください。

■バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品に、ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着するとしみや塗膜はがれの原因となります。付着した場合は、すぐに柔らかい布で拭き取ってください。

☒ワックスをかけるとき

アドバイス

みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは、使わないでください。塗装面に細かい傷が残ることがあります。

ワックスは Honda 純正ケミカル用品をお使いください。

☒バンパーなどの樹脂塗装部品のお手入れ

樹脂塗装部品の補修をする場合は、Honda 販売店にご相談ください。

不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

■ガラスのお手入れ

ガラスクリーナーなどで拭いてください。

■はっ水ガラスについて

前席ウィンドー(ドアガラス)にははっ水膜がコーティングしてあり、水滴をはじきます。水洗いするか、柔らかい湿った布などで拭き取ってください。

ガラスクリーナーを使うと一時的に水はじきが悪くなることがありますが、水洗いをすれば元に戻ります。水はじきが悪くなったときは、Honda 販売店にご相談ください。

☒ガラスのお手入れ

水滴をはじく効果の持続時間には限りがあります。長持ちさせるために次のことをお守りください。

- 泥などの汚れがひどいときは、開閉をなるべく行わない
- みがき粉(コンパウンド)入りガラスクリーナーやワックス、洗剤等は使わない
- 金属製のもので霜取り等を行わない
- 自動洗車機を使うときは、先に泥などの汚れを落とす

■アルミホイールのお手入れ

アルミは塩分や汚れを嫌います。道路凍結防止剤や海水が付いたときは、スポンジに中性洗剤を含ませ汚れを早めに落としてください。

■ヘッドライト、制動灯の曇り

ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ面が一時的に曇ることがあります。また、ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面が結露することもあります。

これは雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の自然現象で、機能上の問題ではありません。

また、ランプの構造上、レンズの縁に水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。但し、ランプ内に水がたまっている場合や大粒の水 droplet が付いている場合は Honda 販売店で点検を受けてください。

■親水ミラーのお手入れ

雨天時の視認性向上のため、ミラー表面に付着した雨滴を膜のように広げる親水効果を持つコーティングを施しています。

■親水効果の回復

ミラー表面に汚れなどが付着して親水効果が低くなったときは、以下の手順を行うことにより効果が回復します。

1. ミラー表面を水洗いし、汚れを落とす。
2. 水を含ませたきれいな布で拭き取る。
 - ▶ 汚れが落ちない場合は純正ガラスクリーナーや家庭用中性洗剤を使用して洗浄後、十分な水で洗い流してください。
3. 5 ～ 9 時間ほどミラー表面に太陽光を当てる。

※アルミホイールのお手入れ

この車専用のホイールをお使いください。

専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換は、Honda 販売店にご相談ください。

硬いブラシやコンパウンド(研磨剤)の入った洗剤などは使わない。

変色やしみの原因になったり、傷をつけるおそれがあります。

※親水ミラーのお手入れ

アドバイス

ミラーの親水効果が失われますので、以下の点にご注意ください。

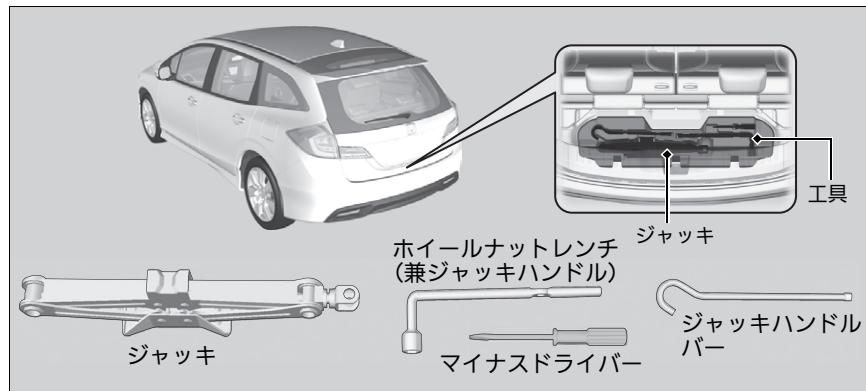
- ミラー表面に撥水剤やワックスを付着させない
- 砂の付いた布や油膜取り剤(コンパウンドなど)でミラー表面をこすらない

万一の場合には

この章では、万一の場合の対応方法について記載しています。

工具、発炎筒.....	334	ジャンプスタート.....	351
パンクしたとき.....	335	セレクトレバーが動かない.....	353
パンクしたタイヤの応急修理.....	335	オーバーヒート.....	354
ジャッキの取り扱い.....	346	警告灯の点灯 / 点滅.....	355
ジャッキのかけかた.....	346	ヒューズ.....	
エンジンが始動しない.....		ヒューズの設置場所.....	358
エンジン状態の確認.....	348	ヒューズの点検と交換.....	364
Honda スマートキーの電池が切れたとき.....	349	けん引.....	365
緊急時のエンジン停止方法.....	350	テールゲートが開かないとき.....	368

工具の種類



発炎筒

高速道路や踏切などの危険な場所で故障したときに使います。

発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

- 使いかた
- 使用上の注意
- 発炎時間
- 有効期限

➡ 発炎筒 P.2

工具の種類

工具類はカーゴスペース内に収納されています。

発炎筒

⚠ 警告

ガソリンなどの燃えやすいもののそばで使わない。

火災や爆発のおそれがあります。

⚠ 注意

発炎筒を使うときは、以下のことに注意する。

- お子さまにさわらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 顔や身体に向けないでください。思わぬ事故ややけどの原因になります。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

パンクしたタイヤの応急修理

タイヤの損傷が激しい場合は、乗り物をけん引する必要があります。

単にタイヤに小さな穴がある場合、永久的な修理をするために最寄りの販売店へ運転することができるよう、損傷を一時的に補修するタイヤパンク応急修理キットで応急修理ができます。

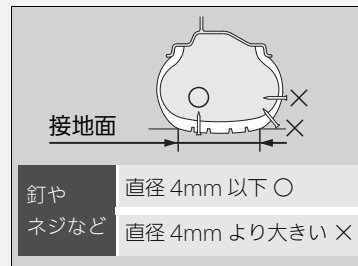
パンクしたときは、ハンドルをしっかり握り徐々にブレーキをかけてスピードを落とし安全な場所に停車してください。

1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を止め、パーキングブレーキをかける。
2. セレクトレバーを **[P]** に入れる。
3. 非常点滅表示灯を点滅させ、パワーモードを OFF モードにする。

※パンクしたタイヤの応急修理

以下のような場合、**タイヤパンク応急修理キットは使用できません。Honda 販売店またはロードサービスにご連絡ください。**

- 応急修理剤の有効期限が切れているとき
- タイヤが2本以上パンクしているとき
- 約4mm以上の切り傷や刺し傷によるパンクのとき
- 路面接地部以外が損傷を受けパンクしたとき

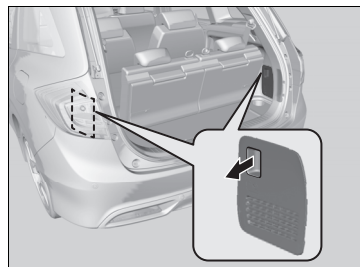
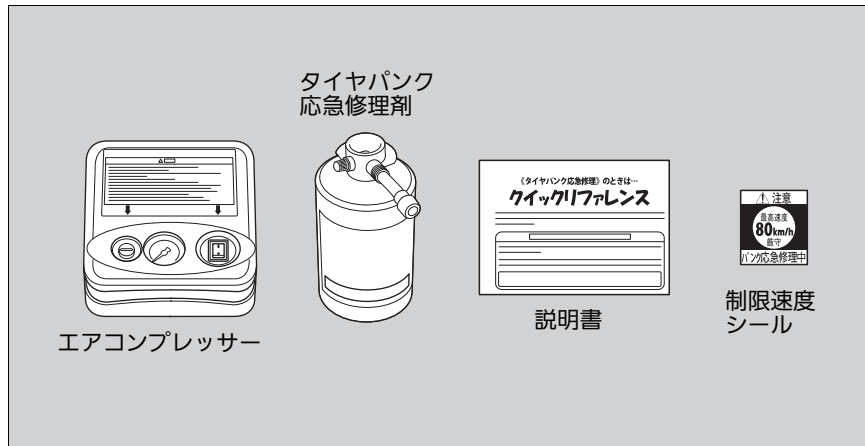


- ほとんど空気が抜けた状態で走行したとき
- タイヤがホイールから外れているとき
- ホイールが破損しているとき

タイヤに刺さったクギなどは抜かないでください。

抜いてしまうと、タイヤパンクの応急修理キットでは応急修理が不可能になる場合があります。

■タイヤ応急修理の準備

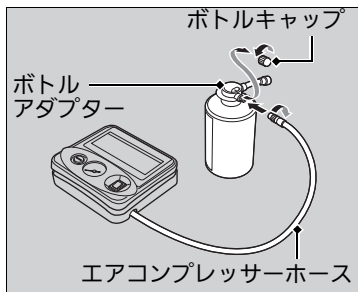
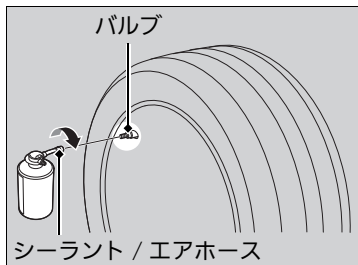
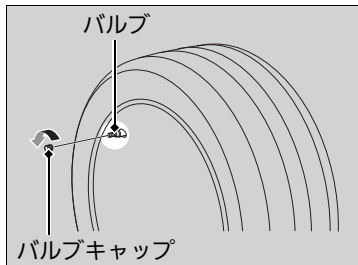


1. カーゴスペース左右のリッドを開ける。
2. タイヤパンク応急修理キットを取り出す。
3. 交通から遠ざけ、パンクしたタイヤ付近にキットを水平に置く。

■タイヤ応急修理の準備

応急修理をスムーズに行うため、タイヤパンク応急修理キットに付属の説明書をお読みください。

応急修理剤とエアの注入



1. バルブからバルブキャップを取り外す。
2. 応急修理剤のボトルをよく振る。
3. タイヤのバルブにシーラント / エアホースをきつく締め付ける。
▶ シーラントがすべてタイヤに流れ込むようにボトルを垂直にする。
4. ボトルアダプターからボトルキャップを外す。
5. ボトルアダプターにエアコンプレッサーのエアホースをきつく締め付ける。

応急修理剤とエアの注入



警告

応急用修理剤は、飲用すると有害で、致命的になりうる物質を含んでいます。

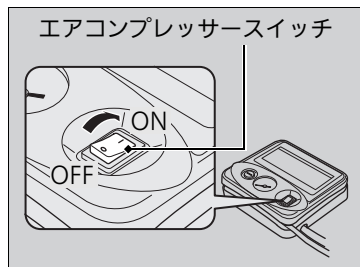
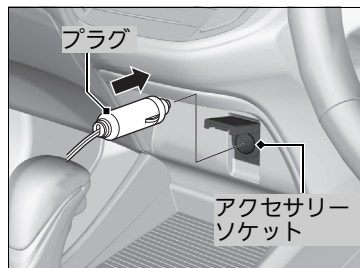
誤って飲用した場合、

- できるだけたくさん水を飲んでください。
 - ただちに医師の診察を受けてください。
- 目に入ったり皮膚に付いた場合
- 水でよく洗い流してください。
 - 異常を感じたときはただちに医師の診察を受けてください。

お子さまが誤って手を触れないよう、保管、取り扱いに注意してください。
ボトル・キャップを外した後、ボトルを振らないでください。修理剤がホースから飛び出するおそれがあります。

外気温が氷点以下のときはシーラントは容易に流れないかもしれません。使用前に約5分間暖めてください。

応急修理剤が衣類などに付着すると、落ちないおそれがありますのでご注意ください。



6. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

▶ アクセサリソケット P.169

7. エンジンを始動する。

▶ 一酸化炭素について P.53

8. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定の空気圧まで高める。

指定空気圧：

前輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

▶ コンプレッサーはタイヤにシーラントと空気を注入し始めます。

9. 指定の空気圧に達したら、エアコンプレッサーの電源を OFF にする。

▶ エアコンプレッサーの空気圧計を確認してください。

▶▶応急修理剤とエアの注入

⚠ 警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

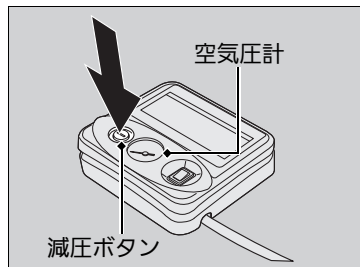
周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

アドバイス

15分以上コンプレッサーを使用しないでください。

エアコンプレッサーは過熱し、破損するおそれがあります。



10. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットから外す。
11. エンジンを停止する。
12. タイヤバルブからシーラント/エアホースを外しバルブキャップを取り付ける。
13. 減圧ボタンを押して、空気圧計が0kPaになるまで空気を抜く。

❏ 応急修理剤とエアの注入

シーラントが注入されている間、圧力は一時的に高くなります。注入が完了すると圧力は落ちますが、再度上昇します。これは正常です。正しい空気圧を測定するためには、シーラントが注入された後にコンプレッサーの電源をOFFにしてください。

10分以内に指定空気圧にならないときは、応急修理剤による応急修理はできません。
Honda 販売店やロードサービスに連絡してください。

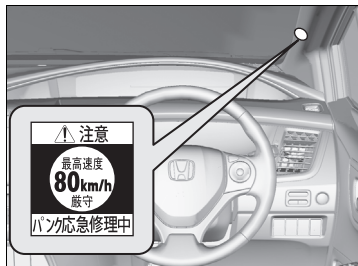
Honda 販売店やロードサービスにタイヤ交換または修理を依頼する際には、タイヤパンク応急修理剤を使用したことを知らせてください。

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

空きボトルは元の位置にもどしてください。タイヤパンク応急修理剤の購入および空きボトルの適切な処分については販売店にお尋ねください。

点検走行



1. 速度制限シールを、運転者のよく見える位置に貼る。
2. 点検走行を開始する。
 - ▶ 法定速度を守ってください。高速道路では 80 km/h 以下を厳守してください。
3. 10分または5 km走行したあと安全な場所に車を停める。

点検走行

警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

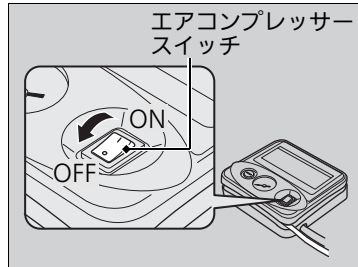
注意

ハンドルのパッドにシールを貼らない。

SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。

警告灯やスピードメーターが見えない位置に貼らない。

安全運転の妨げとなります。



4. エアコンプレッサーに付属の空気圧計で空気圧を点検する。

▶ エアコンプレッサーの電源をONにしないでください。

- 空気圧が 130 kPa (1.3 kgf/cm²) 未満の場合：

応急修理剤では修理はできません。

運転を中止して Honda 販売店またはロードサービスに連絡してください。

- 空気圧が指定空気圧の場合、応急修理は完了です。

指定空気圧：

前輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

点検走行

走行前に、エアコンプレッサー、空ボトルなどの積み忘れがないか、しっかりと確認してください。

- 空気圧が130 kPa(1.3 kgf/cm²)以上、指定空気圧以下の場合はエアコンプレッサーを使って指定空気圧まで高めてください。

指定空気圧：

前輪：220 kPa(2.2 kgf/cm²)

後輪：220 kPa(2.2 kgf/cm²)

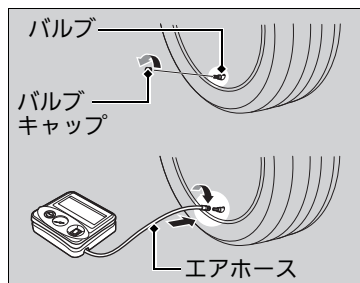
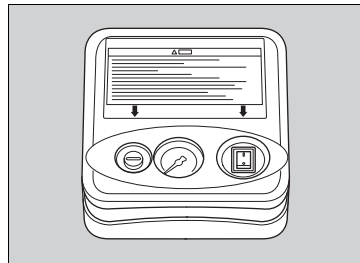
Honda 販売店または専門修理工場に到着するまで、ステップ 2 から 4 までを繰り返す。

- ▶ 高速道路では 80 km/h 以下で、法定速度を守って指定の Honda 販売店または専門修理工場でのタイヤの修理、交換を行ってください。

5. エアコンプレッサーなどをカーゴスペースに収納する。

■タイヤ空気圧の補充

装備されているエアコンプレッサーを使用して、パンクしていないタイヤの空気圧を補充することができます。



1. エアコンプレッサーを準備する。
2. 交通から遠ざけ、空気を補充するタイヤ付近にキットを水平に置く。
3. バルブからバルブキャップを取り外す。
4. エアコンプレッサーのエアホースをタイヤのバルブにきつく締め付ける。

■タイヤ空気圧の補充

⚠警告

一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業を避ける。

一酸化炭素は有毒です。一酸化炭素を吸い込むと意識不明になったり、死亡したりするおそれがあります。

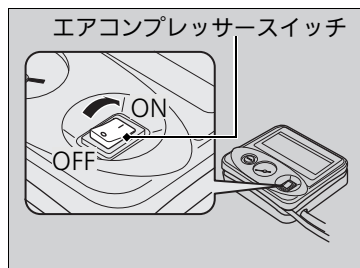
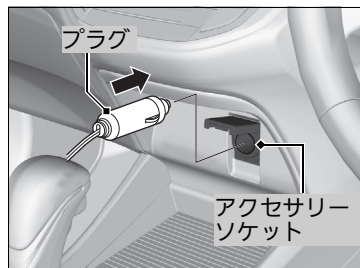
密閉された場所での作業や、一酸化炭素を吸い込む危険性のある作業はしないでください。

降雪時や積雪のある場所では、エンジンをかけたままにしない。

周囲に積もった雪により排気ガスが滞留し車内に入ってくると、重大な傷害や死亡にいたるおそれがあります。

エンジンが始動している場合は、車両の周囲の雪を取り除くなどしてください。

エアコンプレッサーの電源をONにすると、振動して音が聞こえますが、故障ではありません。



5. エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリソケットに差し込む。

▶ ドアや窓にコードをはさまないように注意してください。

■ アクセサリソケット P.169

6. エンジンを開始する。

■ 一酸化炭素について P.53

7. エアコンプレッサーのスイッチを ON にして、指定空気圧まで高める。

指定空気圧：

前輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

後輪：220 kPa (2.2 kgf/cm²)

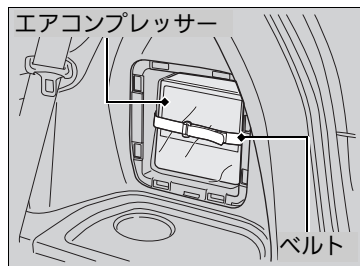
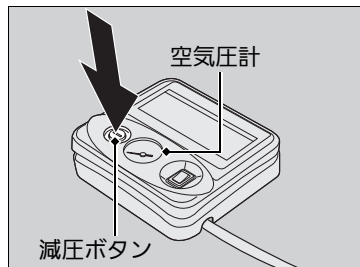
▶ コンプレッサーはタイヤに空気を注入し始めます。

■ タイヤ空気圧の補充

備え付けのコンプレッサーは、乗用車タイプの空気充填用です。取り扱いの際には、以下の点にご注意ください。

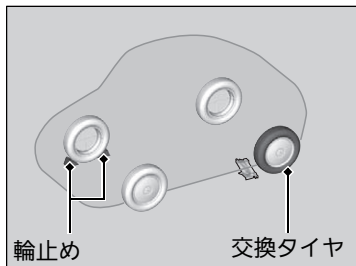
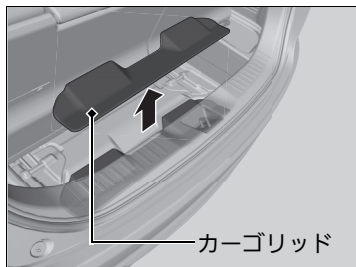
- エアコンプレッサーの電源は自動車用12V専用です。他の電源は使用しないでください。
- 使用中、エアコンプレッサーの表面が熱くなります。15 分以上は連続して使用しないでください。また、再使用する場合は、エアコンプレッサーが冷えてからお使いください。

タイヤの空気圧を空気圧計で確認するときは、エアコンプレッサーの電源を OFF にしてください。



8. エアコンプレッサーの電源をOFFにする。
 - ▶ エアコンプレッサーに付属の空気圧計で、空気圧を確認します。
 - ▶ もし空気圧が高ければ、減圧ボタンを押して減圧します。
9. エンジンを止め、エアコンプレッサーの電源コードのプラグを、アクセサリースOCKETから外す。
10. エアコンプレッサーホースを外す。
11. 減圧ボタンを押して空気圧計が 0kPa になるまで空気を抜く。
12. エアコンプレッサーをカーゴスペース右側に収納する。
 - ▶ エアコンプレッサーを収納するときは、図のようにベルトで固定します。

ジャッキのかけかた



1. 地面が固く、滑らない、水平なところに車を停める。
2. セレクトレバーを **P** に入れる。
3. パーキングブレーキをかける。
4. パワーモードを OFF モードにする。
5. カーゴリッドを開けて、ジャッキ、ジャッキハンドルバー、ジャッキハンドルを取り出す。
6. 交換するタイヤの対角線上にあるタイヤの前後に、石などで輪止めをする。
7. 交換するタイヤに最も近いジャッキポイントの下にジャッキを置く。

※ジャッキのかけかた

⚠ 警告

車がジャッキだけで支えられているときは、車の下に入らない。

車がジャッキから外れて、車の下にいる人が重大な傷害を負うおそれがあります。

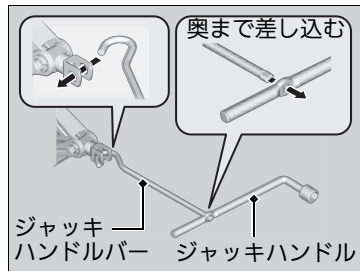
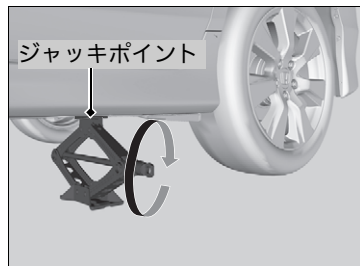
⚠ 注意

ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守る。

- エンジンをかけたままにしない
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない
- ジャッキポイント以外にかけない
- 人や荷物を乗せたままにしない
- ジャッキ使用中に車内に入らない
- ジャッキの上や下にもものを入れたりしない

この車に搭載されているジャッキをお使いください。

他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。



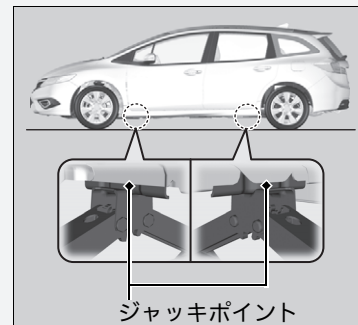
8. ジャッキの上部がジャッキポイントに接触するまで図の部分を実印の方向に回す。

▶ ジャッキの溝にジャッキポイントがはまったことを確認します。

9. ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤが地面から離れるまで車体を上げる。

❏ ジャッキのかけかた

ジャッキポイントは、下記の通りです。



エンジンが始動しない

エンジン状態の確認

エンジンが始動しない場合、スターターの状態を確認してください。

エンジン状態の確認

すぐに車を動かす必要がある場合は、ブースターバッテリーを利用してジャンプスタートさせます。

➡ ジャンプスタートの方法 P.351

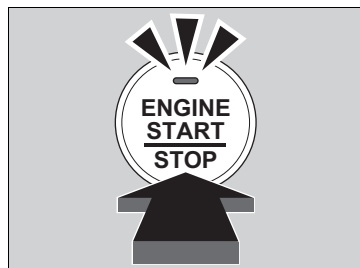
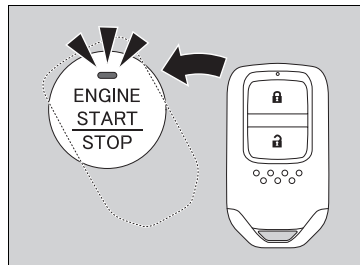
スターターの状態	確認項目
スターターが全く回らない！ スターターの回転が非常に遅い！ バッテリーがあがっていることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	マルチインフォメーションディスプレイ*の表示を確認する 「キーでスイッチに触れて下さい」のメッセージが表示されているとき ➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.349 - エンジン始動の作動範囲を確認します。 ➡ ENGINE START/STOP スイッチ P.138 - ボタンを押してもキーのインジケーターが点灯しないときは ➡ Honda スマートキーの電池が切れたとき P.349 室内灯などの明るさを確認する 室内灯などを点灯し、明るさを確認します。 - 室内灯などが非常に暗い、または全く点灯しない場合 - 室内灯などの明るさに問題がない場合 ➡ ヒューズの点検と交換 P.364
スターターは正常に回るが… ヒューズに問題があることなどが考えられます。右記の項目をチェックして適切な対応をしてください。	エンジン始動の手順を実行する もう一度、正しいエンジン始動操作をしてみてください。 ➡ エンジンの始動 P.200 イモビライザーシステム表示灯を確認する イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときは、エンジンの始動ができません。 ➡ イモビライザーシステム P.132 燃料の量を点検する 燃料が入っているか確認してください。 ➡ 燃料計 P.85 ヒューズを点検する 全てのヒューズを確認してください。 ➡ ヒューズの点検と交換 P.364

以上の確認をしてもエンジンが始動しない場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

*：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

Honda スマートキーの電池が切れたとき

ENGINE START/STOP によるパワーモードの操作やエンジンの始動ができない場合、以下の手順を行ってください。



1. **ENGINE START/STOP** を押す。
▶ 「ピーピーピーピーピーピー」とブザーが鳴り、インジケーターが約 30 秒間点滅します。
2. インジケーターが点滅している間に、Honda スマートキーの Honda エンブレムをスイッチに接触させる。
▶ 「ピッ」とブザーが鳴り、インジケーターが約 10 秒間点灯します。
3. インジケーターが点灯している間に、右足でブレーキペダルを踏みながら、**ENGINE START/STOP** を押す。
▶ ブレーキペダルを踏んでいないときは、アクセサリーモードになります。

緊急時のエンジン停止方法

ENGINE START/STOP は走行中、緊急事態の場合にエンジンを停止するために使用することができます。

エンジンを停止しなければならない場合は、次のいずれかを行ってください：

- **ENGINE START/STOP** を約 2 秒間押す。
- **ENGINE START/STOP** を連続して 2 回押す。

このとき、ハンドルロックはされていません。

エンジンが停止すると、パワーモードはアクセサリモードになります。
パワーモードを OFF にするには、車両が完全に停止後に以下の操作を行ってください：

1. セレクトレバーを **P** に入れる。
2. ブレーキペダルを踏まずに **ENGINE START/STOP** を 2 回連続して押す。

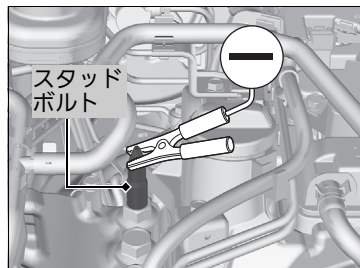
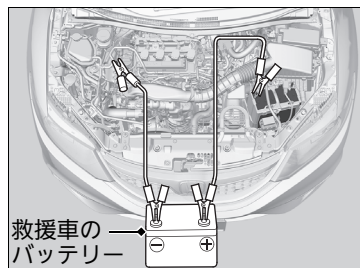
緊急時のエンジン停止方法

緊急時など必要な場合以外は、走行中に **ENGINE START/STOP** を押さないでください。

ジャンプスタートの方法

処置のしかた

まず、ボンネットを開け、バッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。次に、オーディオやライトなどの電源を OFF にしてください。ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。



1. 自車と救援車のパワーモードを OFF モード / エンジンスイッチを **0** にする。
2. ブースターケーブルを、自車のバッテリーの **+** 端子に接続する。
3. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの **+** 端子に接続する。
 - ▶ 救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。
 - ▶ 自動車用充電器を使用する場合は、電圧を 15V 以下に設定してください。
4. もう1本のブースターケーブルを、救援車のバッテリーの **-** 端子に接続する。
5. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのスタッドボルトに接続する。
6. 救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにする。
7. 自車のエンジンを始動する。

ジャンプスタートの方法

警告

ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
ジャンプスタートの操作を間違えると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けるおそれがあります。
タバコの火、火花、炎をバッテリーから遠ざけ、正しい手順で行ってください。

アドバイス

気温が極端に低い場所にバッテリーを長時間にわたって置くと、内部のバッテリー液が凍結するおそれがあります。

バッテリー液が凍結したバッテリーでジャンプスタートすると、バッテリーが壊れることがあります。

寒冷時は、バッテリーの性能が低下します。エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

金属どうしがきちんと接続されているか確認してください。
ケーブルをエンジンのスタッドボルト以外に接続しないでください。

バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化が進むおそれがあります。

■エンジン始動後の作業

自車のエンジンが始動したら、下記の手順でブースターケーブルを取り外します。

1. 自車のエンジンのスタッドボルトからケーブルを外す。
2. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊖端子から外す。
3. 自車のバッテリーの⊕端子からケーブルを外す。
4. ケーブルの反対側を、救援車のバッテリーの⊕端子から外す。

Honda 販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

■エンジン始動後の作業

⚠警告

バッテリーを扱うときは、火気を近づけない。

バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると、バッテリーが爆発し、重大な傷害を受けたり死亡したりするおそれがあります。

バッテリーを扱うときは、保護衣・保護面を着用するか、Honda販売店でバッテリーのメンテナンスを受けてください。

バッテリー液の取り扱いに注意する。

バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに付くとその部分が侵されますので十分注意してください。

- 万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも5分間以上洗浄する
- 飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲む

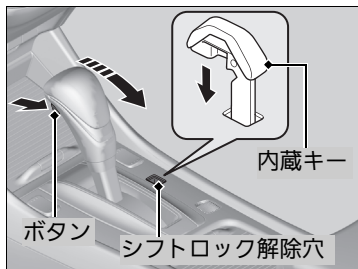
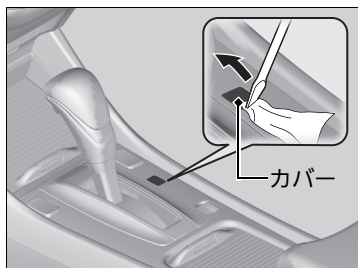
応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

ブースターケーブルの端子どうしが接触しないよう注意してください。

セレクトレバーが動かない

セレクトレバーが、**[P]**の位置でロックされて動かなくなったら、下記の方法で解除してください。

■ロックを解除する



1. パーキングブレーキをかける。
2. パワーモードを OFF モードにする。
3. 細いマイナスドライバーの先端に布を巻き、シフトロック解除穴のカバーを外す。
▶ マイナスドライバーの先端を、図のように切り欠きに入れて外します。
4. シフトロック解除穴に内蔵キーを差し込む。
5. キーを押しながらセレクトレバーのボタンを押し、セレクトレバーを**[N]**に入れる。
▶ ロックが解除されました。Honda 販売店で、早めに点検を受けてください。

オーバーヒートしたときの対処方法

次のようなときは、オーバーヒートです。

- 高水温警告灯(レッド)が点灯したり、エンジンの力が急に落ちる
- エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

■最初にする事

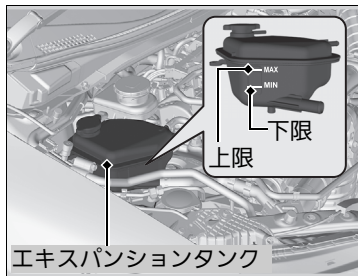
1. ただちに車を安全な場所に停める。

- ▶ セレクトレバーを[P]に入れ、パーキングブレーキをかけます。すべてのアクセサリーの電源を切り、非常点滅表示灯を点滅させます。

2. 蒸気が出ていない場合：エンジンをかけたままボンネットを開ける。

蒸気が出ている場合：エンジンを止め、蒸気が出なくなってからボンネットを開ける。

■次にすること



1. 冷却ファンの作動を確認し、高水温警告灯が消灯してからエンジンを止める。

- ▶ 冷却ファンが作動していない場合は、すぐにエンジンを止めます。

2. エンジンが冷えてから冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検する。

- ▶ 冷却水量が不足していたら、エキスパンションタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

■最後にすること

- 十分にエンジンが冷えたら、エンジンを始動し高水温警告灯を確認する。警告灯が消灯している場合は、運転を再開します。点灯しているときは、Honda 販売店に修理を依頼します。

☒オーバーヒートしたときの対処方法

⚠警告

蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けない。

エキスパンションタンクから噴き出る蒸気や熱湯に触れると、重大な傷害を受けるおそれがあります。

エンジンが熱いうちにエキスパンションタンクキャップを外さない。

冷却水が噴き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずエキスパンションタンクが十分に冷えてからキャップを外してください。

アドバイス

高水温警告灯が点灯した状態で運転すると、エンジンを著しく損傷するおそれがあります。

冷却水がもれている場合は、Honda 販売店に修理を依頼してください。

油圧警告灯が点灯した



■点灯の理由

エンジン内部を潤滑しているオイルの油圧が低下すると点灯します。

■点灯したらすぐにすること

1. ただちに車を水平で安全な場所に停車する。
2. 非常点滅表示灯を点滅させる。

■車を停車してからすること

1. エンジンを止め、3 分間ほど放置する。
2. ボンネットを開け、エンジンオイルの量を確認する。
 - ▶ 必要に応じて、エンジンオイルを補給してください。
3. エンジンを始動し、油圧警告灯を確認する。
 - ▶ 消灯した：運転を再開してください。
 - ▶ 10 秒以内に消灯しない：エンジンを止めて、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

充電警告灯が点灯した



■点灯の理由

バッテリーが充電されていないと点灯します。

■点灯したらすること

電気の消費を減らすため、エアコン、リヤデフロスターなどを OFF にして、ただちに Honda 販売店に修理を依頼してください。

※油圧警告灯が点灯した

アドバイス

油圧が低い状態でエンジンを回転させると、エンジンが破損するおそれがあります。

※充電警告灯が点灯した

一時的に停車する場合は、エンジンを止めないでください。

エンジンを始動すると、バッテリーが急速に放電します。

PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した



■点灯 / 点滅の理由

エンジンの排気ガス制御システムが異常のとき点灯します。エンジン各気筒の失火状態を検知したときに点滅します。

■点灯したときは

高速走行を避けて、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

■点滅したときは

枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10 分以上エンジンを止めて冷えるまでお待ちください。

※PGM-FI 警告灯が点灯 / 点滅した

アドバイス

PGM-FI 警告灯が点灯したまま運転すると、排気ガス制御システムとエンジンを損傷する場合があります。

エンジン再始動後、警告灯が再び点滅するときは、50km/h 以下の速度で最寄りの Honda 販売店まで走行し点検を受けてください。

ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した



■点灯の理由

- ブレーキフルードが減っているときに点灯します。
- ブレーキ配分機能が異常のときに点灯します。

■走行中に点灯したらすること

- ブレーキペダルを軽く踏んで、ペダルの圧力を確認する。
- ブレーキフルード量を確認する。

※ブレーキ警告灯(レッド)が点灯した

ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

ブレーキフルードが減っている状態で運転することは危険です。

ブレーキペダルに抵抗がない場合は、ただちに安全な場所に車を停めてください。必要に応じて、ギヤを落とします。

ABS警告灯と同時に点灯した場合は、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けてください。ただちに、Honda 販売店に修理を依頼してください。

EPS（電動パワーステアリング）システム警告灯が点灯した



■点灯の理由

- EPS が異常のときに点灯します。
- 停車中にエンジンの空ぶかしを行うと点灯し、ハンドルが重くなる場合があります。

■点灯したらすること

- 安全な場所に停車し、エンジンを再始動する

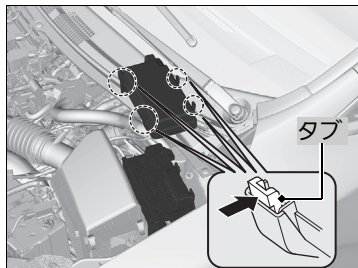
その後も走行中に点灯する場合は、ただちに Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズ

ヒューズの設置場所

電気装置が作動しない場合、パワーモードを OFF モードにして、ヒューズが切れていないか確認します。ヒューズは、エンジンルームと室内のヒューズボックスに入っています。

■エンジンルーム内のヒューズボックス



■ヒューズボックス A

エンジンルーム内の助手席側にあります。
タブを押して開けてください。

※エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックス A

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

表示	装備	容量
1 	バッテリーメイン	125A
	EPS	70A
—	—	—
—	—	—
2 	イグニッション(メイン1)	30A
	インジェクション	20A
	冷却ファン	30A
	サブファン	30A
3	ヘッドライト	30A
	ロービームメイン	30A
	ST MG	30A
	イグニッション(メイン2)	30A
	ワイパー	30A
4 	FI MAIN	15A
5 	ドライブバイワイヤー	15A
6 	制動灯	10A
7 	MG クラッチ	7.5A
8 —	—	—
9 	イグニッションコイル	15A
10 	TCU	15A

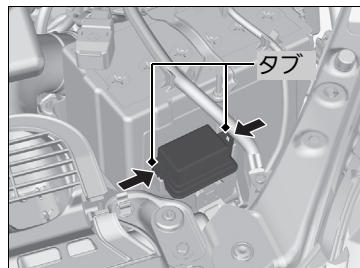
表示	装備	容量
11 	OPTION 1	30A
	F/B MAIN 1	60A
—	—	—
	F/B MAIN 2	60A
	ABS/VSA MTR	40A
	助手席パワーシート* (スライド)	(20A)
12 	VST 1	30A
	ヘッドライト	30A
	ハイビームメイン	30A
	ABS/VSA FSR	30A
	助手席パワーシート* (リクライニング)	(20A)
	VST 2	30A
13 	リヤデフロスター	30A
14 	ヒーターモーター	40A
15 	ホーン	10A
16 —	—	—
17 	バッテリーセンサー	7.5A
18 	スモールライト	20A
19 	室内灯	7.5A
20 	フォグライト	(15A)
21 	VBU	10A
22 	バックアップ	10A
23 	バックアップ2	10A

表示	装備	容量
24 	右側ヘッドライト ロービーム	10A
25 	左側ヘッドライト ロービーム	10A
26 	IGPS	7.5A

❖：タイプやオプションなどにより、装備が異なります。

次ページに続く

万
一
の
場
合
に
は



■ヒューズボックス B

エンジンルーム内の助手席側に付いている、バッテリーの手前にあります。
タブを押して開けてください。

■各ヒューズの装備と容量

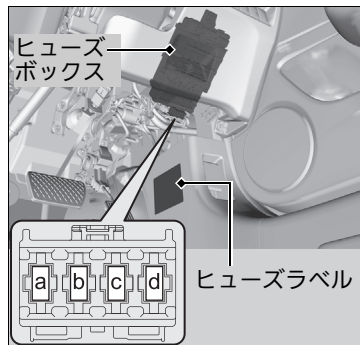
	表示	装備	容量
1		VBACT	10A
2		INJ	20A
3		IG1_MON	7.5A

※エンジンルーム内のヒューズボックス

ヒューズボックス B

ヒューズボックスのフタに、ヒューズの場所が表示してあります。
ヒューズ番号とフタの表示で、該当するヒューズの位置を確認してください。

室内運転席側のヒューズボックス



ハンドル右側のインストルメントパネルの奥にあります。

▶ 下から確認できます。

室内運転席側のヒューズボックス

ヒューズボックス下のサイドパネルに貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示されています。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

■各ヒューズの装備と容量

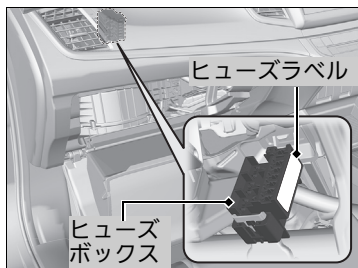
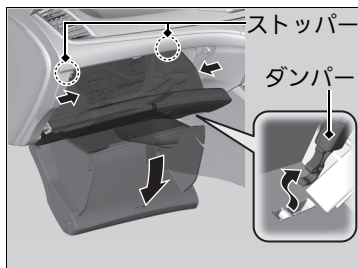
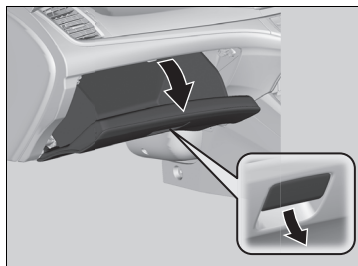
容量に()がついているヒューズは、装備が無い場合でもヒューズが入っている場合があります。

	表示	装備	容量
1		A/C	7.5A
2	—	—	—
3		STARTER CUT	7.5A
4		リヤワイパー	10A
5		IG1 RELAY	7.5A
6		RFP	10A
7		OPTION	7.5A
8		MISS SOL	10A
9		フューエルポンプ	15A
10		IG1 RELAY2	7.5A
11	—	—	—
12		ワイパー	7.5A
13		ACG	10A
14		IDAS	(7.5A)
15		運転席パワーシート* (リクライニング)	(20A)
16	—	—	—
17		シートヒーター*	(20A)
18	—	—	—

	表示	装備	容量
19		右側ドアロック (アンロック)	10A
20		左側ドアロック (アンロック)	10A
21	—	—	—
22		右側ドアロック (ロック)	10A
23	—	—	—
24		SRS エアバッグ	10A
25		室内イルミネーション	10A
26		ACC (MICU)	7.5A
27		車幅灯	10A
28	—	—	—
29		右側ヘッドライト ハイビーム	10A
30		ウォッシュャー	15A
31		SMART	10A
32		運転席パワーウィンドー	20A
33		助手席パワーウィンドー	20A
34		助手席側リヤ パワーウィンドー	20A
35		運転席側リヤ パワーウィンドー	20A
36		運転席パワーシート* (前後スライド)	(20A)

	表示	装備	容量
37		ACC	7.5A
38	—	—	—
39		左側ヘッドライト ハイビーム	10A
40		フロントアクセサリ ソケット	20A
41		左側ドアロック(ロック)	10A
42		ドアロック	20A
a		—	(20A)
b		非常点滅表示灯	15A
c		SMART	10A
d		IGPS LAF	10A

室内助手席側のヒューズボックス



1. グローブボックスを開ける。

2. ダンパーを外す

3. グローブボックスの両端に付いているストッパーを内側に押し込み、グローブボックスを下ろす。

▶ エアコンフィルターの上にあります。

■各ヒューズの装備と容量

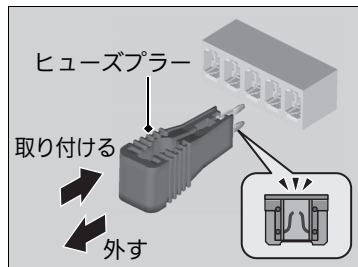
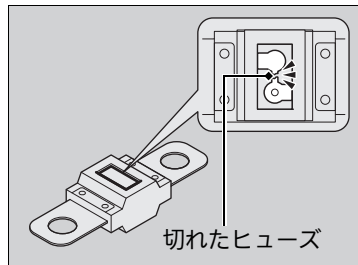
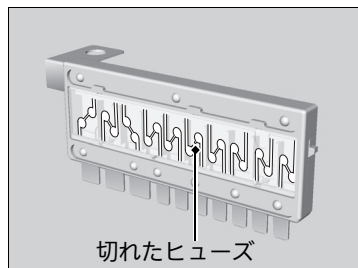
	表示	装備	容量
1	—	—	—
2		IG1-2	7.5A
3		EOP	(10A)
4	—	—	—
5		IG1-1	7.5A
6		ACC	7.5A
7		バックアップ2	15A

※室内助手席側のヒューズボックス

ヒューズボックス側面に貼ってあるラベルに、ヒューズの場所が表示してあります。

ヒューズ番号とラベルの番号で、該当するヒューズの位置を確認してください。

ヒューズの点検と交換



1. パワーモードを OFF モードにし、ヘッドライトとすべてのアクセサリーを OFF にする。

2. エンジンルーム内のヒューズボックスAのフタを取り外し、大きいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、プラスドライバーでネジを外し、新しいものと交換してください。

3. エンジンルーム内と、室内の小さいヒューズを点検する。

▶ 切れているヒューズがあったら、ヒューズプラーで引き抜き、新しいものと交換してください。

❏ ヒューズの点検と交換

アドバイス

規定容量より大きいヒューズに交換すると、電気系統を損傷する危険性が高くなります。

交換したあと、すぐにヒューズが切れるような場合は、Honda 販売店で点検を受けてください。

ヒューズは同じ規定容量のヒューズと交換してください。

❏ 各ヒューズの装備と容量 P.359, 360, 362, 363

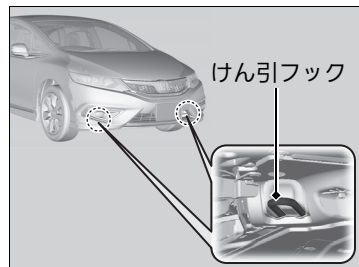
エンジンルーム内のヒューズボックスAには、フタの裏にヒューズプラーがついています。ヒューズプラーは、切れている小さいヒューズを引き抜くときに使います。

非常時のけん引

けん引は、専門業者に依頼して四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

■ やむをえずけん引される場合

やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合、次の方法で行ってください。



1. エンジンルームの下からトランスミッションフルード(オイル)などが漏れていないことを確認する。
▶ 異常がある場合は、四輪または前輪を接地させてのけん引は行わないでください。
2. ロープをけん引フックにかける。

※非常時のけん引

車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

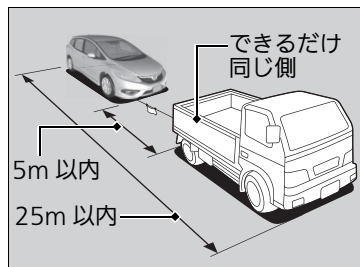
アドバイス

バンパーで車を持ち上げたり、けん引すると、バンパーがいちじるしく損傷します。

バンパーは車の重量を支えるようにはできていません。

ロープやチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。

そのままけん引されると、車体に傷が付くことがあります。



3. ロープ中央部に白い布(0.3m 平方以上)を付ける。
4. エンジンをかけてセレクトレバーを[D]にし、約 5 秒間保持する。
 - ▶ エンジンが始動しないときは、パワーモードをアクセサリモードまたは ON モードにします。
5. セレクトレバーを[N] (ニュートラル) にする。
6. パーキングブレーキを解除する。
7. けん引する。
 - ▶ けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。
 - ▶ 速度 30km/h 以下、走行距離 80km 以内でけん引してください。

⚠非常時のけん引

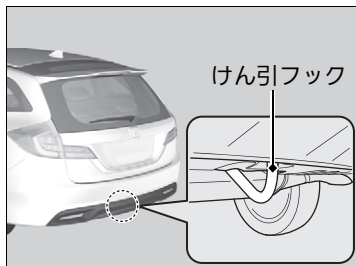
長い下り坂では、ブレーキの温度が上がりブレーキが効かなくなるおそれがありますので、レッカー車にけん引してもらってください。

アドバイス

エンジンが停止している状態でのけん引は、以下のことに注意してください。

- ブレーキの倍力装置が作動しないため、ブレーキの効きが悪くなる
- パワーステアリングのパワー装置が作動しないためハンドル操作が重くなる
- 無段変速オートマチック車はトランスミッションが破損するおそれがある

■ やむをえず他車をけん引する場合



やむをえず他車のけん引を行う場合、リヤバンパー下にあるけん引フックにロープをかけてください。

※ やむをえず他車をけん引する場合

アドバイス

けん引フック以外のところにロープをかけないでください。

車体が破損、変形する場合があります。

ロープやチェーンなどを使ってけん引するときは、車体に当たる部分に布を巻いてください。そのままけん引すると、車体に傷が付くことがあります。

自車より重い車のけん引は避けてください。

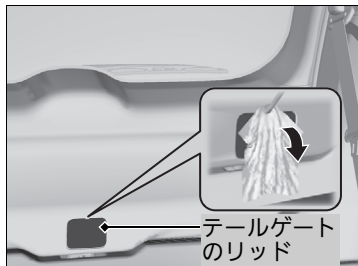
アイドリングストップシステムを OFF にしてください。

■ アイドリングストップシステム OFF スイッチ
P.211

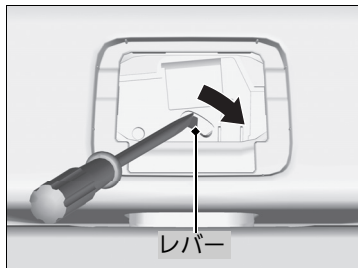
テールゲートが開かないとき

開かないときの対処方法

万一、テールゲートを開けることができなくなったときは、応急処置として次の方法で開けてください。



1. テールゲートのリッドに、マイナスドライバーの先端を差し込み、取り外す。
▶ リッドが傷付かないよう、ドライバーに布などを巻き付けてください。



2. ドライバーを使ってレバーを右に動かしたままの状態、テールゲートを押し開ける。

開かないときの対処方法

⚠ 注意

テールゲートを内側から開けるときは、周囲の安全と車の上方や後方に十分なスペースがあることを確認する。

人やものにぶつかり思わぬけがをするおそれがあります。

応急処置後は、Honda 販売店で点検を受けてください。

資料

この章には、仕様に関する情報が記載されています。

仕様	370
----------	-----

仕様

仕様

名称	JADE
排気量	1,496 cm ³
車体形状	4 ドアステーションワゴン
乗車定員	6 名

調節



点火プラグ	NGK	ILZKAR8H8S
電極のすき間	基準値	0.7-0.8mm

点火プラグは、イリジウムプラグを使用しています。
交換時期は「メンテナンスノート」をご覧ください。

確認

ブレーキペダル	遊び	3.8 ~ 9.3mm
	床板とのすき間	128mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
パーキング ブレーキ	カーペットとの すき間 (参考値)	102mm 以上 [約 196N (20kgf) の力]
	踏みしろ	5 ~ 6 ノッチ [約 294N (30kgf) の力]

燃料

燃料種類	無鉛レギュラーガソリン レギュラーバイオ混合ガソリン (E10/ETBE22)
燃料タンク容量	47 ℓ

エアクリーナーエレメント

タイプ	湿式
-----	----

バッテリー

容量 / タイプ	40AH(5)/N-65
----------	--------------

ウォッシャー液

タンク容量	2.5 ℓ
-------	-------

電球

ヘッドライト	ロービーム	LED
	ハイビーム	12V-60W
前面方向指示器 / 前面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)	
車幅灯	12V-5W	
フォグライト	12V-35W	
側面方向指示器 / 側面非常点滅表示灯	LED	
制動灯 / 尾灯	LED	
後面方向指示器 / 後面非常点滅表示灯	12V-21W (橙色)	
	後退灯	12V-16W
ハイマウントストップランプ	LED	
番号灯	LED	
テールゲート照明灯	12V-8W	
フロントシート室内灯 / マップランプ	LED	
セカンド、サードシート室内灯	12V-8W	
パニティミラー照明灯	12V-2W	
グローブボックスライト	12V-3.4W	

ブレーキフルード

指定液	Honda 純正ブレーキフルード DOT3 または DOT4	
-----	-----------------------------------	--

トランスミッションフルード

指定液	Honda 純正ウルトラ HCF-2	3.7 ℓ (交換時)
-----	-----------------------	-------------

推奨エンジンオイル

Honda 純正 エンジン オイル	ULTRA LEO	API SN 以上 SAE 0W-20 ^{※1}
	ULTRA LTD	API SN 以上 SAE 5W-30
規定量	オイル交換時	3.2 ℓ
	オイル、オイルフィルター同時交換時	3.5 ℓ

※1 : 最も省燃費性に優れたオイルです。

冷却水

指定液	Honda 純正ウルトラ e クーラント	
規定濃度	50%	
規定量	5.57 ℓ (交換時 : エキスパンションタンク 0.56 ℓ 含む)	

タイヤ

サイズ	215/50R17 91V	
空気圧 (kPa[kgf/cm ²])	前輪 220[2.2] / 後輪 220[2.2]	
リムサイズ	17×7J	

数字

7速マニュアルシフトモード	209
シフトインジケーター/[M] (7速マニュアルシフトモード)表示灯	71, 208

A

A/C(エアコン)	173, 324
ABS(アンチロックブレーキシステム)	270
ABS警告灯	60, 270
ACC	225
ACC警告灯	63
ACC表示灯	70
AVG(平均燃費表示)	87

C

CMBS(衝突軽減ブレーキ)	273
CMBS警告灯	64, 65
CRUISE CONTROL	
(クルーズコントロール)	218

E

ECONスイッチ	215
ECON表示灯	70
ENGINE START/STOPスイッチ	138
パワーモードの切り換えかた	138
EPS(電動パワーステアリング)システム	
警告灯	62, 357

ETC車載器	178
--------	-----

H

Hondaインターナビシステム	別冊
Hondaスマートキー	117, 118
Hondaスマートキーシステム警告灯	59
Hondaスマートキー電池消耗警告灯	67
Hondaスマートキー持ち去り警告灯	67
緊急時のエンジン停止方法	350
電池交換のしかた	322

I

ISOFIX	49
--------	----

L

LaneWatch™	255
LKAS(車線維持支援システム)	237
LKAS警告灯	63
LKAS表示灯	70

M

[M] (7速マニュアルシフトモード)	
表示灯	71, 208
MIST	144

P

PGM-FI警告灯	57, 356
-----------	---------

R

RANGE(航続可能距離表示)	87
-----------------	----

S

SEL/RESETスイッチ	86, 91
SRSエアバッグ	32
エアバッグシステム警告灯	39, 60

V

VSA(ビークルスタビリティアシスト)	221
VSA OFF警告灯	61
VSA警告灯	60, 221

W

W(ワット)数	370
---------	-----

ア

アームレスト	160
セカンドシート	160
フロントシート	160
アイドリングストップシステム	211
アイドリングストップシステム警告灯	67

アイドリングストップ表示灯	71
アクセサリ	292
アクセサリソケット	169, 338, 344
アジャイルハンドリングアシスト	222
アダプティブクルーズコントロール (ACC)	225
ACC警告灯	63
ACC表示灯	70
安全なドライブのために	23
安全に関する表示	20
安全のための確認事項	23
アンチロックブレーキシステム(ABS) ABS警告灯	60, 270

イ

一酸化炭素の危険性	53
イモビライザーシステム	132
イモビライザーシステム表示灯	69
イルミネーションコントロール	146
インフォメーションスイッチ	90
インフォメーションディスプレイ	86

ウ

ウィンカースイッチ(方向指示器)	141
ウィンドウォッシャー ウィンドウォッシャー液の補給	303
ウィンドウォッシャースイッチ	144
ウィンドウの開閉	134
ウェアインジケータ	318
運転 エンジンの始動	200
クルーズコントロール	218
シフト操作	207
ブレーキ操作	268

エ

エアクリーナーエレメント	370
エアコン	173, 324
エアクリーンフィルター	324
オートエアコンの使いかた	174
窓の曇りや霜の取りかた	176
エアバッグ	32
SRSエアバッグ	32
エアバッグシステム警告灯	39
エアバッグシステム故障診断記録装置	20
エアバッグのお手入れ	40
サイドエアバッグ	35
サイドカーテンエアバッグ	37
エキスパンションタンク	301, 354
エキスパンションタンクキャップ	301, 354

エマージェンシーストップシグナル	272
エンジンオイル	303
推奨エンジンオイル	303, 370
油圧警告灯	55, 355
エンジンの始動	200
エンジンが始動しない	348
ジャンプスタート	351
エンジンルーム内のメンテナンス	301
ウィンドウォッシャー液の補給	303
エンジンルーム内のメンテナンス項目 ...	301
推奨エンジンオイル	303
ボンネットを開ける	302
冷却水の点検と補給	354
エンジン冷却水	370

オ

追越合図(パッシング)	142
応急修理剤(タイヤパンク)	335
オーディオ装置	196
オートエアコン	174
オートドアロック/オートドア アンロック	125
カスタマイズ	126
オートライトコントロール警告灯	61
オーバーヒート	354
オドメーター	87, 92
音声案内(スピーカー)の音量調節	187

カ

外気温表示	88, 92
鍵(かぎ)	116
カスタマイズ機能	96
ガソリン	288, 370

キ

キー

Hondaスマートキー	117, 118
Hondaスマートキーの電池が 切れたとき	349
キー閉じ込み防止装置	122
キーナンバータグ	117
キーの種類と機能	116
キーレスエントリー	121
後席ドアが開かない	18
電池交換のしかた	322
ドアが開かない	19
内蔵キー	116
キー閉じ込み防止装置	122
キーナンバータグ	117
キーレスエントリー	121
キックダウン	206
給油	288
給油のしかた	288
指定燃料	288, 370
燃料計	85
燃料残量警告灯	59

ク

空気圧	370
空気圧測定器による点検	318
グラブレール	3
クリープ現象	206
クルーズコントロール	218
クルーズコントロール表示灯	70
クルーズメイン表示灯	70
車の改造	292
グローブボックス	164

ケ

経過時間表示	90, 94
計器	54
警告灯	55
ABS警告灯	60, 270
ACC警告灯	63
CMBS警告灯	64, 65
EPSシステム警告灯	62, 357
Hondaスマートキーシステム警告灯	59
Hondaスマートキー電池消耗警告灯	67
Hondaスマートキー持ち去り警告灯	67
LKAS警告灯	63
PGM-FI警告灯	57, 356
VSA OFF警告灯	61
VSA警告灯	60
アイドリングストップシステム警告灯	67
エアバッグシステム警告灯	60

オートライトコントロール警告灯	61
高水温警告灯	62
シートベルト非着用警告灯	58
充電警告灯	57, 355
スターターシステム警告灯	63
セレクトポジション[P]移動警告灯	67
テールゲート開閉警告灯	61
ドア開閉警告灯	61
トランスミッション警告灯	58
燃料残量警告灯	59
ブレーキ警告灯(レッド)	55, 356
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	56
油圧警告灯	55, 355
路外逸脱抑制システム警告灯	66
警告灯の点灯/点滅	355
けん引	365

コ

交換

グローブボックスライト電球	312
後退灯電球	309
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球	308
室内灯電球	311
車幅灯電球	306
制動灯/尾灯電球	308
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	305

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯電球	307
テールゲート照明灯電球	311
ハイマウントストップランプ電球	310
パニティミラー照明灯電球	311
番号灯電球	310
フォグライト電球	307
ヘッドライト電球	304
ワイパーブレードラバー	313, 315
工具	334
交差点案内表示	95
高水温警告灯	62
航続可能距離表示	87, 90, 93
後退出庫サポート	284
後退灯	309
後面方向指示器/後面非常点滅表示灯	308
コートフック	170
コンソールボックス	
センターコンソールボックス	165

サ

サードシート	156
ヘッドレスト	159
サービス診断記録装置について	20
サイドエアバッグ	35
サイドカーテンエアバッグ	37
サイドコンソールボックス	166
サンバイザー	3

シ

シートの調節	150
アームレスト	160
サードシート	156
セカンドシート	153
フロントシート	150
ヘッドレスト	158
シートヒーター	171
シートベルト	24
アンカーポイント	30
シートベルトの着用	27
シートベルトの点検	30
シートベルト非着用警告灯	58
シートベルトプリテンショナー	26
シートベルトリマインダー	25
妊娠中のかたのシートベルト着用	29
時刻の設定	111
室内装備品	164
室内灯	161
指定燃料	288, 370
シフトインジケーター	208
シフトインジケーター/M	
(7速マニュアルシフトモード)表示灯	71, 208
シフトスイッチ	210
シフト操作	207
車外の清掃	329

車線維持支援システム(LKAS)	237
LKAS警告灯	63
LKAS表示灯	70
ジャッキ	334, 346
ジャッキハンドルバー	334
ジャッキハンドル	
(ホイールナットレンチ)	334
車内の清掃	327
車幅灯	306
ジャンプスタート	351
充電警告灯	57, 355
瞬間燃費表示	86, 87, 90, 93
仕様	370
衝撃感知ドアロック解除システム	124
ショルダーアンカー	28
親水ミラー	332

ス

スイッチ

ECONスイッチ	215
ENGINE START/STOPスイッチ	138
イルミネーションコントロール	146
フォグライトスイッチ	143
方向指示器(ウィンカースイッチ)	141
ライトスイッチ	142
リヤデフロスタースイッチ	147
ワイパー/ウォッシャー	144
スターターシステム警告灯	63

ステアリング	147
スノータイヤ	321
スパークプラグ	370
スピードメーター	85

セ

清掃	327
制動灯	308
セカンドシート	153
アームレスト	160
セキュリティシステム	132
イモビライザーシステム	132
セキュリティアラームシステム	132
セレクトポジション	207
セレクトポジション表示灯	71, 208
セレクトポジション [P] 移動警告灯	67
セレクトレバー	
セレクトレバーが動かない	353
セレクトレバーの操作	208
先発車発進お知らせ機能	264
センターコンソールボックス	165
前面方向指示器/前面非常点滅表示灯	305

ソ

側面方向指示器/側面非常点滅表示灯	307
-------------------------	-----

タ

ターボ車	291
タイヤ	317
ウェアインジケーター	318
指定空気圧	370
タイヤの点検	317
タイヤのローテーション	320
タイヤパンク応急修理キット	335
冬期のタイヤ	321
パンク	335
タイヤチェーン	321
タコメーター	85

チ

チェーン	321
チャイルドシート	41
ジュニアシート	51
乳児のチャイルドシート	42
幼児のチャイルドシート	43
チャイルドブルーフ	129
駐停車操作	282

テ

停止表示板入れ	172
低水温表示灯	68
データの開示について	20
テールゲート照明灯	163

電球の交換	311
テールゲートの開閉	130
テールゲートが開かないとき	368
テールゲート開閉警告灯	61
ドア/テールゲート開閉警告	75
デフロスター	176
リヤデフロスター	147
点火プラグ	370
電子制御ブレーキアシスト	271
電池交換	322

ト

ドアの施錠と解錠	116
キー閉じ込み防止装置	122
キーナンバータグ	117
キーの種類と機能	116
キーレスエントリー	121
後席ドアが開かない	18
車外でのドアの施錠/解錠	119
車内での施錠/解錠	123
衝撃感知ドアロック解除システム	124
チャイルドブルーフ	129
テールゲート開閉警告灯	61
ドア/テールゲート開閉警告	75
ドアが開かない	19
ドア開閉警告灯	61
ドアミラー	149

冬のタイヤ	321
タイヤチェーン	321
時計	111
時計の表示	94
トップテザーアンカレッジ	50
トップテザーストラップ	50
ドライバー	334
トラブルシューティング	
運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	19
エンジンが動かない	348
オーバーヒートした	354
警告灯が点灯/点滅した	355
けん引してもらいたい	365
後席ドアが開かない	18
ジャンプスタートしたい	351
セレクトレバーが動かない	353
走行するとブザーが鳴る	19
ドアが開かない	19
ハイオクガソリンは使える？	19
パンクした	335
ヒューズが切れた	358
ブレーキを踏むと音がする	19
ブレーキを踏むと振動する	18
トランスミッション警告灯	58
トランスミッションフルード	370
トリップメーター	87, 92
ドリンクホルダー	167

ナ	
内蔵キー	116
ナビゲーションシステム	別冊

ネ	
燃料	288, 370
燃料計	85
燃料残量警告灯	59

ハ	
パーキングブレーキ	268
排気ガスの危険性	53
ハイビーム	142
電球の交換	304
ハイビーム表示灯	68
ハイマウントストップランプ	4, 310
ハザードスイッチ	表紙ウラ
発炎筒	2, 334
バッシング	142
発進補助ブレーキ機能	214
バッテリー	
ジャンプスタート	351
充電警告灯	57, 355
容量/タイプ	370
発話スイッチ	1
バニティミラー	3
パワーウィンドウの開閉	134

パワーモード	
パワーモードオートオフ機能	139
パワーモード警告ブザー	139
パワーモードの切り換えかた	138
バンク	335
番号灯	310
ハンドル	147
ハンドル位置調整レバー	147
ハンドル操作表示灯	71
汎用型ISOFIXチャイルドシート	46

ヒ	
ヒータードアミラー	147
非常点滅表示灯スイッチ	表紙ウラ
尾灯	308
ヒューズ	358
ヒューズの設置場所	358
ヒューズの点検と交換	364
標識認識機能	257
表示灯	68
ACC表示灯	70
ECON表示灯	70
LKAS表示灯	70
アイドリングストップ表示灯	71
イモビライザーシステム表示灯	69
インフォメーション表示灯	72
エンジンオイルメンテナンス表示灯	73
クルーズコントロール表示灯	70

クルーズメイン表示灯	70
シフトインジケーター/[M] (7速マニュアルシフトモード) 表示灯	71, 208
セキュリティアラームシステム 作動表示灯	69
セレクトポジション表示灯	71, 208
低水温表示灯	68
ハイビーム表示灯	68
ハンドル操作表示灯	71
フォグライト点灯表示灯	68
ブレーキ踏み込み不足表示灯	71
方向指示器/非常点滅表示灯	68
ライト点灯表示灯	68

フ

ブースターケーブル	351
フォグライト	307
フォグライトスイッチ	143
ブザー 運転席ドアを開けるとブザーが鳴る	19
走行するとブザーが鳴る	19
フューエルリッドの開けかた	288
ブレーキ警告灯(レッド)	55, 356
ブレーキシステム	268
ABS(アンチロックブレーキシステム) ...	270
エマージェンシーストップシグナル	272
電子制御ブレーキアシスト	271

パーキングブレーキ	268
フットブレーキ	269
ブレーキ警告灯(レッド)	55, 356
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	56
ブレーキを踏むと音がする	19
ブレーキを踏むと振動する	18
ブレーキシステム警告灯(オレンジ)	56
ブレーキ踏み込み不足表示灯	71
ブレーキフルード	370
ブレーキ警告灯(レッド)	55, 356
フロントシート	150
アームレスト	160
フロントシートヘッドレスト	151
ヘッドレスト	158
フロントセンサーカメラ	223

へ

平均車速表示	90, 94
平均燃費表示	86, 87, 90, 93
ヘッドライト	142, 332
追越合図(パッシング)	142
電球の交換	304
ハイビーム	142
ハイビーム表示灯	68
ライト点灯表示灯	68
ロービーム	142
ヘッドライトオートオフ機能	142

ヘッドレスト	158
サードシート	159
セカンドシート	153, 159
フロントシート	151, 158

ホ

ホイールサイズ	370
ホイールナットレンチ (ジャッキハンドル)	334
方向指示器(ウィンカースイッチ)	141
方向指示器/非常点滅表示灯	68
ホーンスイッチ	1

マ

マイナスイライバー	334
マスタードアロックスイッチ	124
マップランプ	162
マルチインフォメーションディスプレイ	89
メッセージ	74

ミ

ミラー	148
自動式防眩ミラー	148
ドアミラー	149
パニティミラー	3
ルームミラー	148

ム

無段変速オートマチックトランス ミッション	206
--------------------------	-----

メ

メーター	8, 85
インフォメーションディスプレイ	86
スピードメーター	85
タコメーター	85
燃料計	85
マルチインフォメーション ディスプレイ	89
メンテナンス	293
Hondaスマートキー	322
エアコンのお手入れ	324
エンジンルーム内のメンテナンス	301
清掃	327
タイヤの点検と整備	317
メンテナンスに関する注意事項	295
メンテナンスを安全に行うために	295
ライト類の点検と整備	304
ワイパーブレードラバーの点検と整備	313

ユ

油圧警告灯	55, 355
-------	---------

ラ

ライトスイッチ	142
追越合図(バッシング)	142
ハイビーム	142
ハイビーム表示灯	68
フォグライト点灯表示灯	68
ライト点灯表示灯	68
ロービーム	142
ライト類の点検と整備	304
グローブボックスライト電球	312
後退灯電球	309
後面方向指示器/ 後面非常点滅表示灯電球	308
室内灯電球	311
車幅灯電球	306
制動灯/尾灯電球	308
前面方向指示器/ 前面非常点滅表示灯電球	305
側面方向指示器/ 側面非常点滅表示灯電球	307
テールゲート照明灯電球	311
ハイマウントストップランプ電球	310
パニティミラー照明灯電球	311
番号灯電球	310
フォグライト電球	307
ヘッドライト電球	304

リ

リアアクティブフォースペダル	216
リムサイズ	370
リヤデフロスタースイッチ	147
リヤワイドカメラシステム	287

ル

ルームミラー	148
--------	-----

レ

冷却水	354, 370
オーバーヒート	354
高水温警告灯	62
低水温表示灯	68
補給	354

ロ

ロアアンカレッジ	49, 50
ロービーム	142
電球の交換	304
路外逸脱抑制機能	249
路外逸脱抑制機能警告灯	66

ワ

ワイパー/ウォッシャー	144
ワイパーブレードラバー	313

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず Honda 販売店にお気軽にご相談ください。
下記アドレスより最新の Honda 販売店を検索することが可能です。

Honda ホームページ <http://www.honda.co.jp/>

(Honda ホームページにある検索ボックスに『販売店』と入力してください)

携帯電話からは、携帯電話用 Honda ホームページをご覧ください。

<http://dream.honda.co.jp/dealerlocator/>

※：QR コード読み取り機能付きの携帯電話をお持ちの場合は、右の QR コードをご利用ください。

ご利用にあたっては、お持ちの携帯電話取扱説明書をご確認ください。

QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。



お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客 様 相 談 セ ン タ ー
でもお受け致します。

本田技研工業株式会社 お客様相談センター

フリーダイヤル 0120-112010

受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00

〒351-0188 埼玉県和光市本町8-1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速に対応させていただくために、
あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談
ください。

- ① 車検証記載事項：車両型式、車台番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
- ② 車種名、タイプ名、走行距離 ③ ご購入年月日 ④ 販売店名